仙台市文化財調査報告書第481集

京ノ中遺跡第2次調査

―医療施設建設工事に伴う発掘調査報告書―

2020年 3 月

仙 台 市 教 育 委 員 会

一般財団法人　広南会　広南病院

SI7 全景（西から）

SI7 炭化材出土状況（西から）

編物材出土状況（東から）

序　　文

仙台市の文化財保護行政に対しまして、日ごろからご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。

市内には、旧石器時代から近世にいたるまで数多くの埋蔵文化財が残されております。当教育委員会といたしましても、先人たちの残してきた貴重な文化遺産を保護し、保存・活用を図りながら、次の世代に引き継いでいくことは、市民協働による仙台の住みよい街づくりに欠かせない大切なことと考えております。

本報告書は、地下鉄南北線富沢駅の西側で街区整備が進められている、「仙台市富沢駅西土地区画整理事業」地内にある京ノ中遺跡の第２次発掘調査成果をまとめたものです。

京ノ中遺跡は、平成25年に行われた区画整理事業に伴う試掘調査により、その所在が明らかになり登録された遺跡です。翌年の第１次調査では、平安時代の竪穴住居跡３軒や古代～中世の溝跡などが確認されました。

今回の発掘調査では、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡15軒のほか、平安時代から中世頃の、木柵と溝で区画された屋敷跡の一部と考えられる掘立柱建物跡７棟や井戸跡等が確認されました。

また希少な調査例として、火災により焼失した状態で遺棄された竪穴住居跡が確認されました。炭化して焼け落ちた柱や梁等の構造材や壁材の一部が出土したことから、当時の人々が竪穴住居を造るために用いた用材や、上屋や内部構造を考える上で貴重な調査となりました。

ここに報告する調査成果が、地域の歴史を解き明かしていくための貴重な資料となり、広く活用され、文化財に対するご理解と保護の一助になれば幸いです。

また、発掘調査及び調査報告書の刊行に際しまして、特に事業者である一般財団法人広南会様には、発掘調査の重要性をご理解いただき、ご協力いただきました。

最後になりましたが、発掘調査及び調査報告書の刊行にあたり、多くの方々のご協力、ご助言をいただきましたことを深く感謝申し上げ、刊行の序といたします。

令和２年３月

仙台市教育委員会
教育長　佐々木　洋

例　　言

1．本書は、医療施設建設工事に伴い仙台市教育委員会が実施した、京ノ中遺跡第２次発掘調査の成果を収録したものである。

2．発掘調査及び本書の作成業務は、仙台市教育委員会の委託を受け、株式会社シン技術コンサルが実施した。

3．本書の作成は、仙台市教育委員会生涯学習部文化財課、工藤 信一郎、澤目 雄大、三浦 一樹の監理の下、遺物整理から本書の編集に至るまでの作業を株式会社シン技術コンサルが担当した。

4．本書の執筆は、第１章第１・３節、第７章第４節を工藤 信一郎、第１章第２節・第２章～第５章第１節（1）・（2）・第２節（1）・（4）・第７章第１～３節を吉澤 学（株式会社シン技術コンサル）、第５章第１節（3）～（8）・第２節（2）・（3）を竹越 亜希子（株式会社シン技術コンサル）が担当した。編集は吉澤のほか、大和 尚子（株式会社シン技術コンサル）の協力を得た。なお、第６章の自然科学分析については、第１節に株式会社加速器分析研究所、第２節にパリノ・サーヴェイ株式会社の報告書を掲載した。

5．石器・石製品の石材の鑑定については、吉澤・小川 長導（株式会社シン技術コンサル）が肉眼観察を行った。

6．発掘調査及び報告書の作成にあたり、一般財団法人 広南会 広南病院にご配慮・ご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。

7．調査・整理に関する全ての資料は、仙台市教育委員会が保管している。

凡　　例

1．第１図については、仙台市富沢駅西土地区画整理組合から提供された計画図面を使用している。また、第４図の地形図については、国土地理院発行「仙台」1：25,000を使用した。

2．遺構図中の座標値は、世界測地系「平面直角座標第Ｘ系」を基準としている。図中及び本文記載の方位北は全て座標北を基準としている。

3．本書中の土色の記載には『新版 標準土色帖』2005年版（農林水産省農林水産技術会議事務局監修）を使用した。

4．断面図中の数値は、海抜高度（T・P）を示す。

5．調査において検出された遺構については以下の遺構記号を使用し、遺構ごとに番号を付した。

SA：木柵跡　SB：掘立柱建物跡　SD：溝跡　SI：竪穴遺構・竪穴住居跡　SK：土坑　SM：小溝状遺構
Pit：ピット

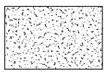
6．竪穴住居跡における主軸方位の算出及び壁面呼称の基準については、『西台畑遺跡第１・２次調査』（仙台市教育委員会2010）に準じた。

7．遺構図に使用したスクリーントーンは以下の通りである。これ以外ついては、個別に凡例を図中に示した。

柱痕跡

柱穴底面の変色範囲

焼土範囲


炭化物範囲（平面図）

炭化物範囲（断面図）

8．出土遺物の登録には以下の遺物記号を使用し、種別ごとにアラビア数字を付した。ただし、石器については分類にあたりKのあとに小文字アルファベットを付し、その分類種別を使用している。

C：土師器（非ロクロ調整）　D：土師器（ロクロ調整）　E：須恵器　Kc：礫石器　Kd：石製品

O：自然遺物　P：土製品

9．遺物実測図の縮尺は1/3を基本としているが、これと異なる場合もあり、全ての図中にスケールを付した。

10. 土器類の器種・部位呼称、計測位置については、『西台畑遺跡第１・２次調査』（前掲）に準じた。

11. 石器・石製品の実測図における計測位置は、『西台畑遺跡第１・２次調査』（前掲）に準じた。

12. 土器の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。これ以外のトーンについては、個別に凡例を図中に付した。

黒色範囲　自然釉付着範囲

13. 石器・石製品の実測図に使用したスクリーントーンは、以下の通りである。

節理面　磨面　被熱範囲

敲打痕（強）　敲打痕（中）　敲打痕（弱）

14. 土器・石器・石製品を除く遺物実測図に使用したスクリーントーンについては、そのつど図中に示した。

15. 遺構・遺物の観察表内における（　）付きの計測値は、土器類の径については推定値、そのほかについては残存値を示す。

16. 掲載した遺物写真の縮尺は、遺物実測図に準じた。

17. 本書で用いた時期区分は、『鍛冶屋敷Ａ遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』（仙台市教育委員会2018）に準じたが、Ａ期（９世紀前半以前～９世紀前半）については時間幅があるため、本書ではこれを２期に細分した。以下、第２次調査で遺構・遺物が検出された時期を記す。

A1期：８世紀後半～８世紀末頃

A2期：９世紀前半

B期：９世紀中頃～９世紀後半

C期：10世紀前半～10世紀前半以降

18. 本文中の「灰白色火山灰」（山田・庄子1980）は、これまでの仙台市域の調査報告や東北中北部の研究から、「十和田ａ火山灰（To-a）」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

山田一郎・庄子貞雄 1980「宮城県に分布する灰白色火山灰について」『宮城県多賀城調査研究所 年報1979』

早田 勉 2000「第５章　自然科学分析　第１節　沼向遺跡、中野高柳遺跡におけるテフラ分析」『沼向遺跡第１～３次調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史 2003「古代東北の広域テフラをめぐる問題－十和田ａと白頭山（長白山）を中心に－」『日本律令の展開』吉川弘文館

目　　次

巻頭写真
序　文
例　言
凡　例
第１章　調査に至る経過 …… 1
第１節　調査事由 …… 1
第２節　調査要項 …… 1
第３節　試掘調査 …… 2
第２章　遺跡の位置と環境 …… 5
第１節　京ノ中遺跡の立地と地形 …… 5
第２節　周辺の遺跡と歴史的環境 …… 5
第３章　調査の方法と概要 …… 8
第１節　調査区と区割の設定 …… 8
第２節　調査概要 …… 9
第４章　基本層序 …… 10
第１節　基本層序 …… 10
第５章　検出遺構と出土遺物 …… 13
第１節　平安時代～中世の遺構と遺物 …… 13
(1) 竪穴遺構 …… 13
(2) 掘立柱建物跡 …… 24
(3) 木柵跡 …… 39
(4) 小溝状遺構群 …… 41
(5) 溝跡 …… 42
(6) 井戸跡 …… 45
(7) 土坑 …… 46
(8) ピット …… 46
第２節　奈良～平安時代の遺構と遺物 …… 70
(1) 竪穴住居跡 …… 70
(2) 溝跡 …… 122
(3) 土坑 …… 123
(4) 遺構外出土遺物 …… 126
第６章　自然科学分析 …… 127
第１節　京ノ中遺跡第２次発掘調査における放射性炭素年代（AMS測定） …… 127
第２節　京ノ中遺跡第２次発掘調査出土炭化材樹種同定 …… 129
第７章　総括 …… 133
第１節　平安時代～中世の遺構について …… 133
(1) 遺構の変遷 …… 133

(2) 掘立柱建物跡について …… 135
(3) 竪穴遺構について …… 137
第２節　奈良～平安時代の出土土器について …… 138
(1) 時期設定 …… 138
(2) 各期の様相 …… 138
第３節　奈良～平安時代の遺構について …… 143
(1) 遺構の変遷 …… 143
(2) 竪穴住居跡について …… 146
第４節　まとめ …… 150
引用・参考文献
写真図版
報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図　京ノ中遺跡位置図 …… 2
第 2 図　試掘調査トレンチ配置図 …… 3
第 3 図　第４・５・９・13トレンチ遺構検出状況 4
第 4 図　京ノ中遺跡と周辺の遺跡 …… 7
第 5 図　第２次調査区区割配置図 …… 8
第 6 図　基本層序 …… 11・12
第 7 図　平安時代～中世遺構配置図 …… 14
第 8 図　SI3竪穴遺構（1） …… 15
第 9 図　SI3竪穴遺構（2） …… 16
第10図　SI3竪穴遺構（3）・出土遺物 …… 17
第11図　SI3竪穴遺構付属柱穴列１・２（1） …… 19
第12図　SI3竪穴遺構付属柱穴列１・２（2） …… 20
第13図　SI4竪穴遺構 …… 22
第14図　SI5竪穴遺構 …… 23
第15図　SB1掘立柱建物跡 …… 25
第16図　SB2掘立柱建物跡 …… 27
第17図　SB3掘立柱建物跡（1） …… 29
第18図　SB3掘立柱建物跡（2） …… 30
第19図　SB4掘立柱建物跡（1） …… 32
第20図　SB4掘立柱建物跡（2） …… 33
第21図　SB5掘立柱建物跡 …… 35
第22図　SB6掘立柱建物跡（1） …… 36
第23図　SB6掘立柱建物跡（2） …… 37
第24図　SB7掘立柱建物跡 …… 38
第25図　SA1・２木柵跡（1） …… 39
第26図　SA1・２木柵跡（2） …… 40
第27図　SM1・２小溝状遺構群 …… 41
第28図　SD2～５・９～13溝跡（1） …… 42
第29図　SD2～５・９～13溝跡（2） …… 43
第30図　SD6～８溝跡（1） …… 44
第31図　SD6～８溝跡（2） …… 45
第32図　SE1井戸跡 …… 46
第33図　SK3～13土坑 …… 47
第34図　SK14～16･18～23土坑 …… 48
第35図　SK24～31・33・34土坑 …… 49
第36図　SK35～41・43～45・49土坑 …… 50
第37図　SK50～58・61土坑 …… 51
第38図　SK59・60・62～64・66～68土坑 … 52
第39図　Pit175出土遺物 …… 55
第40図　ピット配置図（1） …… 56
第41図　ピット配置図（2） …… 57
第42図　ピット配置図（3） …… 58
第43図　奈良～平安時代遺構配置図 …… 71
第44図　SI6竪穴住居跡（1） …… 73
第45図　SI6竪穴住居跡（2） …… 74
第46図　SI6竪穴住居跡出土遺物（1） …… 76

第47図　SI6竪穴住居跡出土遺物（2）…… 77
第48図　SI6竪穴住居跡出土遺物（3）…… 78
第49図　SI7竪穴住居跡（1）…… 80
第50図　SI7竪穴住居跡（2）…… 82
第51図　SI7竪穴住居跡出土遺物（1）…… 83
第52図　SI7竪穴住居跡出土遺物（2）…… 84
第53図　SI7竪穴住居跡出土遺物（3）…… 85
第54図　SI8A竪穴住居跡（1）…… 87
第55図　SI8A竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）… 88
第56図　SI8A竪穴住居跡出土遺物（2）…… 89
第57図　SI8B竪穴住居跡（1）…… 90
第58図　SI8B竪穴住居跡（2）…… 91
第59図　SI8B竪穴住居跡出土遺物 …… 92
第60図　SI9竪穴住居跡（1）…… 94
第61図　SI9竪穴住居跡（2）…… 95
第62図　SI9竪穴住居跡出土遺物 …… 96
第63図　SI10竪穴住居跡 …… 97
第64図　SI10竪穴住居跡出土遺物 …… 99
第65図　SI11竪穴住居跡 ……100
第66図　SI12竪穴住居跡 ……101
第67図　SI12竪穴住居跡出土遺物 ……102
第68図　SI13竪穴住居跡 ……103
第69図　SI14竪穴住居跡・出土遺物 ……104
第70図　SI15竪穴住居跡（1）……106
第71図　SI15竪穴住居跡（2）・出土遺物 ……107
第72図　SI16竪穴住居跡（1）……109
第73図　SI16竪穴住居跡（2）……111
第74図　SI16竪穴住居跡出土遺物（1）……112
第75図　SI16竪穴住居跡出土遺物（2）……113
第76図　SI17竪穴住居跡 ……115
第77図　SI17竪穴住居跡出土遺物 ……118
第78図　SI18竪穴住居跡 ……119
第79図　SI19竪穴住居跡 ……120
第80図　SI19竪穴住居跡出土遺物 ……121
第81図　SD14溝跡 ……122
第82図　SK17・32・42・46～48・69土坑 …123
第83図　SK70～78土坑 ……124
第84図　SK73～75土坑出土遺物 ……126
第85図　遺構外出土遺物 ……126
第86図　暦年較正結果 ……129
第87図　SI7炭化材サンプル採取位置 ……130
第88図　炭化材（1）……131
第89図　炭化材（2）……132
第90図　平安時代～
中世主要遺構新旧関係模式図 ……133
第91図　平安時代～中世主要遺構変遷図 ……134
第92図　掘立柱建物跡集成図 ……136
第93図　SI3・5及び類似遺構 ……137
第94図　竪穴住居跡出土土器集成図（A1期）……139
第95図　竪穴住居跡出土土器集成図（A2期）……141
第96図　竪穴住居跡出土土器集成図（B・C期）…142
第97図　奈良～平安時代主要遺構新旧関係模式図…144
第98図　奈良～平安時代主要遺構変遷図 ……145
第99図　竪穴住居跡集成図 ……148

挿 表 目 次

表1　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C補正値）……128
表2　放射性炭素年代測定結果（δ^{13}C未補正値、
暦年較正用^{14}C年代、較正年代）……128
表3　樹種同定結果 ……130

写真図版目次

写真図版1　調査区遠景・試掘調査
写真図版2　基本層序
写真図版3　平安時代～中世面全景・竪穴遺構（1）
写真図版4　竪穴遺構（平安時代～中世）（2）
写真図版5　掘立柱建物跡（平安時代～中世）（1）
写真図版6　掘立柱建物跡（2）・木柵跡（平安時代～中世）

写真図版７　小溝状遺構群・
溝跡（平安時代～中世）（1）
写真図版８　溝跡（2）・土坑（平安時代～中世）（1）
写真図版９　土坑（2）・ピット（平安時代～中世）
写真図版10　奈良～平安時代面全景
写真図版11　竪穴住居跡（1）
写真図版12　竪穴住居跡（2）
写真図版13　竪穴住居跡（3）
写真図版14　竪穴住居跡（4）
写真図版15　竪穴住居跡（5）
写真図版16　竪穴住居跡（6）
写真図版17　竪穴住居跡（7）
写真図版18　竪穴住居跡（8）
写真図版19　竪穴住居跡（9）
写真図版20　竪穴住居跡（10）
写真図版21　土坑・溝跡（奈良～平安時代）
写真図版22　竪穴遺構出土遺物・ピット出土遺物・
竪穴住居跡出土遺物（1）
写真図版23　竪穴住居跡出土遺物（2）
写真図版24　竪穴住居跡出土遺物（3）
写真図版25　竪穴住居跡出土遺物（4）
写真図版26　竪穴住居跡出土遺物（5）
写真図版27　竪穴住居跡出土遺物（6）
・土坑出土遺物・遺構外出土遺物

第１章　調査に至る経過

第１節　調査事由（第１図）

仙台市南部の富沢地区は、昭和62年の地下鉄南北線の開業以降、道路網の整備や宅地化が急速に進む地域となっている。このようななか、富沢地区の西側にある富田地区内において、組合施行による「仙台市富沢駅西土地区画整理事業」が計画され、事業地内に所在する京ノ中遺跡をはじめとする８遺跡（現在は９遺跡）を対象として、平成25年から28年まで継続して発掘調査が行われ、縄文時代から中近世に至る幅広い時代を対象とした調査が行われてきた。区画整理事業の施行に伴い平成26年に行われた京ノ中遺跡第１次調査では、竪穴住居跡２軒や溝跡などが確認されている。区画整理事業による道路や街区整備が終了し、供用が開始された事業地内には、かっての緑豊かな水田地帯に変わり新しい街が姿を現してきている。

今回の京ノ中遺跡第２次調査は、仙台市太白区富田字京ノ中83番地において計画された医療施設建設に伴い、一般財団法人 広南会により平成30年６月15日付けで、建設予定地内に隣接する埋蔵文化財の取り扱いについて協議書が提出されたことに始まる。建設予定地は京ノ中遺跡の南西側隣接地にあたることから、試掘調査を実施して遺構の広がりの有無を確認し、本発掘調査の必要性を判断することとなった。

試掘調査の結果、建築予定範囲のうち東側約1/3の範囲から、竪穴住居跡や溝跡、土坑、ピット等が確認されたことから遺跡の登録範囲が拡大され、教育委員会と事業者の協議の結果、本発掘調査を実施することになった。

第２節　調査要項

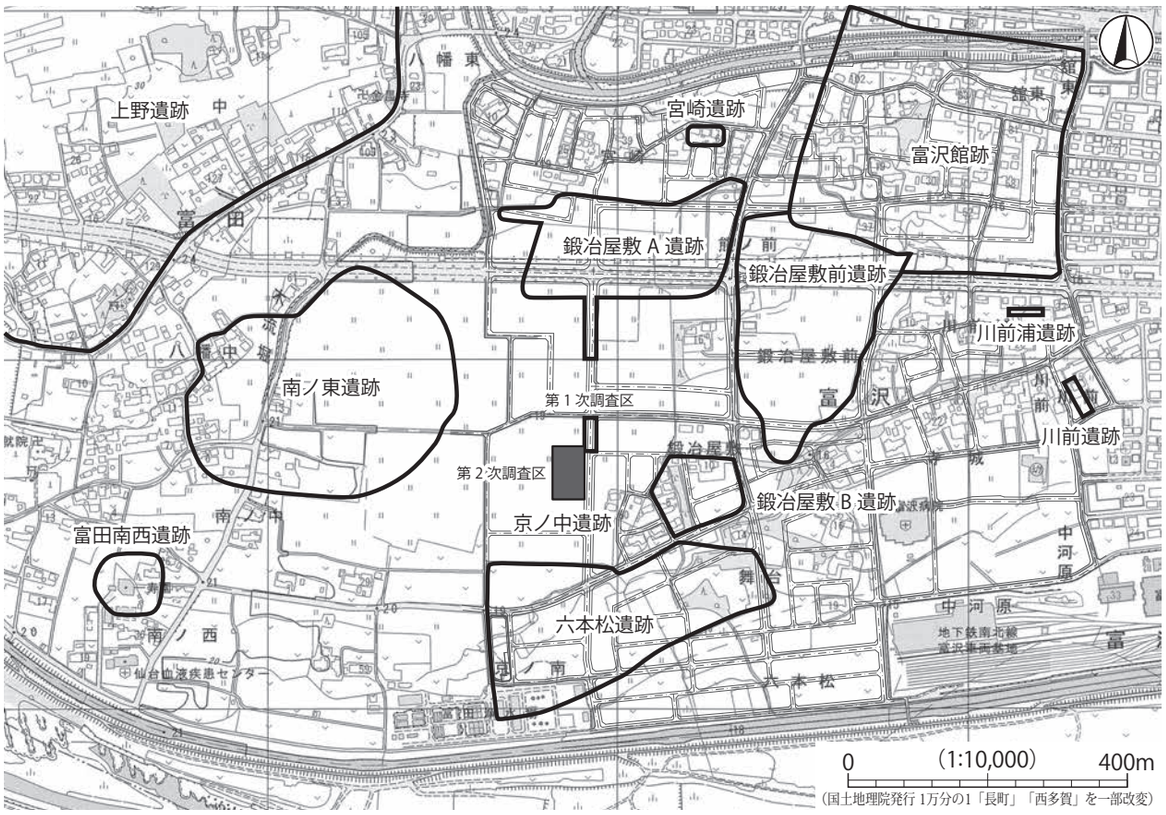
遺 跡 名：京ノ中遺跡（宮城県遺跡番号01573）
所 在 地：宮城県仙台市太白区富田字京ノ中83番地
調査原因：医療施設建設工事に伴う埋蔵文化財の事前調査

(1) 調査体制

調査主体：仙台市教育委員会
調査担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係
　　工藤 信一郎　澤目 雄大
調査組織：株式会社シン技術コンサル
　　主任調査員 吉澤　学　　調査補助員 倉石 広太
調査期間：2018年（平成30年）10月11日～ 2019年（平成31年）３月27日
調査面積：約2,100㎡（調査対象面積約6,600㎡）

(2) 調査報告書作成体制

整理担当：仙台市教育委員会生涯学習部文化財課調査指導係
　　工藤 信一郎　澤目 雄大　三浦 一樹
整理組織：株式会社シン技術コンサル
　　主任調査員 吉澤　学　　調査補助員 竹越 亜希子
整理期間：2019年（令和元年）５月13日～ 2020年（令和２年）３月24日



第１図　京ノ中遺跡位置図

第３節　試掘調査

今回申請された区画は、京ノ中遺跡の南西側に隣接していたことから、遺構の広がりや分布を確認するための試掘調査を実施し、その結果を受けて本発掘調査の実施や調査計画等について事業者と協議することとした。試掘調査の対象地点は、区画整理事業による街区整備が完了しており更地となっていたが、その一部が事業者側から貸し出され、資材置き場として利用されていた。

試掘調査にあたり、建築予定建物の南西角を仮の原点として10m単位のグリッドを設定し、３×10mの調査トレンチを17本設定する計画を立てた。そのうちの５本（第２・10～12・17トレンチ）については、多量の敷き鉄板や資材を移動させる必要があることから調査を実施せず、周辺トレンチの調査成果からこの範囲の本発掘調査の要否について判断することにした。また、第６～８・16トレンチについては、一部が資材置き場にかかることから当初計画から調査区を移動させて設定した。試掘調査は、７月23日～８月22日にかけて行い、調査面積は約330㎡である。重機により遺構検出面まで掘り下げ、その後人力にて遺構検出作業を行った。

調査の結果、建築予定建物範囲内の東側に位置する、第４トレンチで土坑、第５・９トレンチで竪穴住居跡及び土坑とピット、第13トレンチで溝跡とピットを確認した。その他のトレンチについては遺構が確認されず、重機や人力での下層調査でも遺構・遺物は確認されなかったことから、この範囲については未調査トレンチを含めて補足調査は不要と判断した。以下、遺構の確認されたトレンチについて報告する。なお、遺構番号については、本発掘調査時のものに差し替えている。

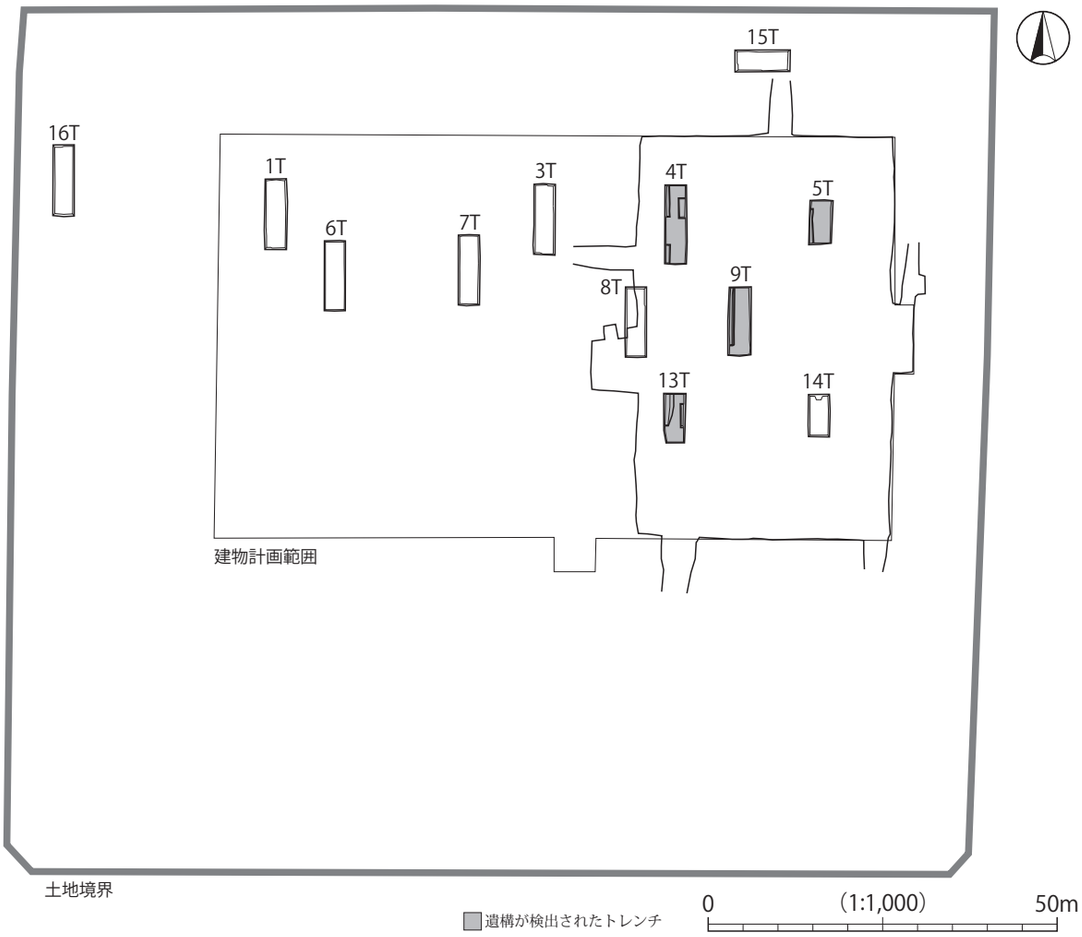
【第４トレンチ】　Ⅲ層上面で土坑２基を確認した。SK1は直径0.5mで円形を呈しており、SK2は長軸0.7m、短軸0.6mの楕円形を呈している。共に堆積土は2.5Y5/2暗灰黄色シルトの単層で、少量の炭化粒を含んでいる。土師器

の小片が出土しているが、時期及び性格は不明である。

【第５トレンチ】 Ⅲ層上面で竪穴住居跡１軒、土坑４基、ピット７基を確認した。なお、竪穴住居跡は本発掘調査ではSI3竪穴遺構として調査した。SK3は、直径0.5mで円形を呈しており、SK10・28は、共に0.8m以上の規模で深さは0.2m程度である。いずれも、堆積土は10YR3/2黒褐色シルトの単層で、少量の炭化粒物を含んでいる。時期及び性格は不明である。

【第９トレンチ】 Ⅲ層上面で、竪穴住居跡１軒、土坑、ピットを確認した。なお、竪穴住居跡は本発掘調査ではSI7竪穴住居跡として、土坑はSB4掘立柱建物跡を構成する柱穴として調査している。

【第13トレンチ】 Ⅳa層上面で、溝跡１条、ピットを確認した。SD1溝跡は幅0.6mで、深さは0.2m程度である。堆積土は10YR4/2灰黄褐色シルトの単層で、少量の炭化物粒及びマンガン粒を含んでいる。

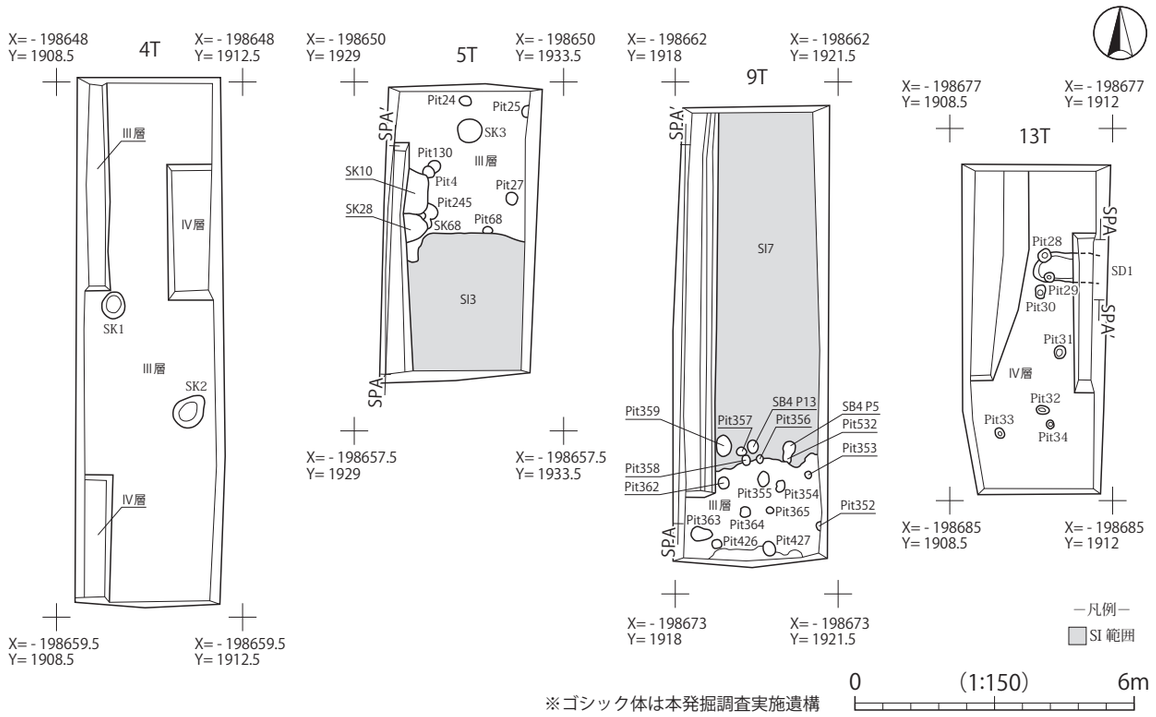


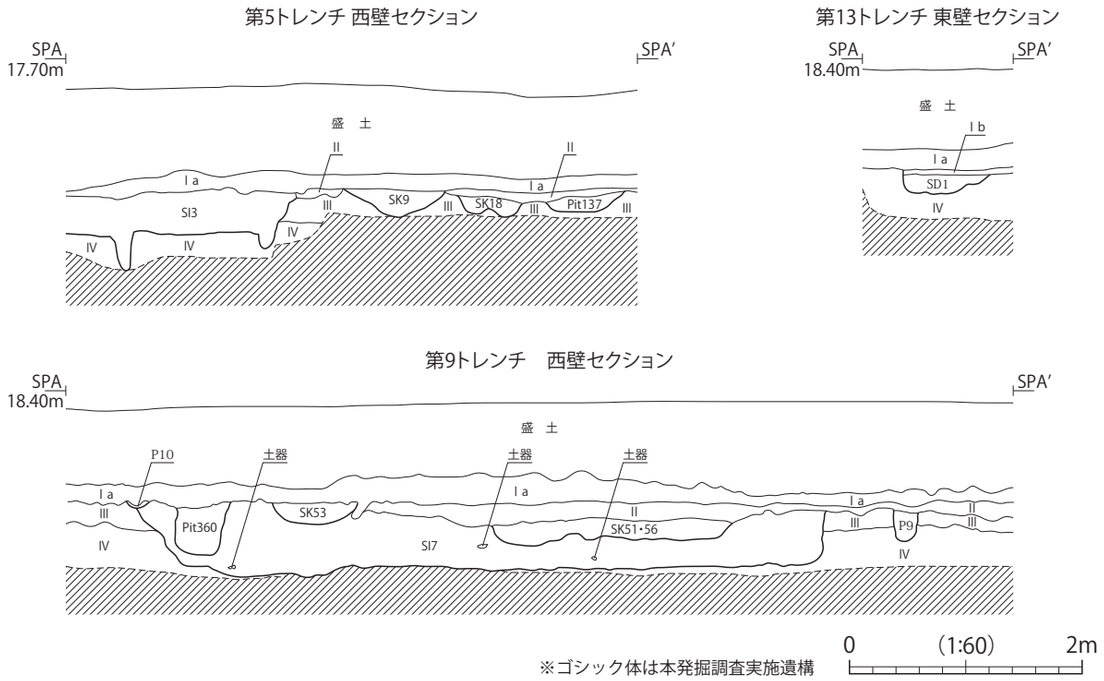
試掘調査成果一覧

トレンチ名	調査面積(㎡)	備　　考
1T	32.36	遺構・遺物検出されず。
2T	—	調査実施できず。
3T	31.16	遺構・遺物検出されず。
4T	35.76	土坑2基検出。
5T	20.66	住居跡1軒、土坑4基、ピット7基検出。
6T	30.36	遺構検出されず。土師器・須恵器片少量出土。
7T	31.10	遺構検出されず。須恵器片少量出土。
8T	30.79	遺構検出されず。土師器片少量出土。
9T	32.31	住居跡1軒、土坑3基、ピット19基検出。

トレンチ名	調査面積(㎡)	備　　考
10T	—	調査実施できず。
11T	—	調査実施できず。
12T	—	調査実施できず。
13T	21.57	溝跡1条、ピット8基検出。
14T	18.72	遺構・遺物検出されず。
15T	24.56	遺構検出されず。土師器片少量出土。
16T	31.16	遺構・遺物検出されず。
17T	—	調査実施できず。

第２図　試掘調査トレンチ配置図





層 位		土 色	土 質	備 考	
I	a	5GY6/1 オリーブ灰色	シルト	酸化鉄下位に集積。	本発掘調査基本層第Ⅱ層に対応。
	b	7.5YR7/1 灰白色	シルト	酸化鉄含む。	
Ⅱ		10YR4/1 褐灰色	砂質シルト～シルト		本発掘調査基本層第Ⅲ層に対応。
Ⅲ		2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト～シルト	灰白色火山灰少量含む。	本発掘調査基本層第Ⅳ層に対応。
Ⅳ		2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト		本発掘調査基本層第Ⅴ層に対応。

第３図　第４・５・９・13トレンチ遺構検出状況

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　京ノ中遺跡の立地と地形（第１・４図）

京ノ中遺跡（１）は仙台市南部、太白区富田地内に位置する。JR東北本線長町駅の南西方約3.2km、仙台市地下鉄南北線富沢駅の西方約1.4kmの地点で、仙台市富沢駅西土地区画整理事業地内の一角に相当する。同区画整理事業に伴う平成25・26年度の試掘・確認調査の結果発見され、新規で登録された遺跡である。

京ノ中遺跡は名取川下流域の左岸に立地し、周辺の地形は「郡山低地」と呼称される沖積地帯に属する。郡山低地は名取川を南縁、広瀬川を北縁とし、両河川の合流点と背後の青葉山丘陵との間に形成された扇状地性の沖積面である。標高は５～21ｍ前後を測り、東方向へと傾斜する。名取川・広瀬川沿いには自然堤防が良好に発達し、低地内には太白山を源流とする笊川をはじめ、複数の小河川が曲流する。笊川は近年の改修以前は氾濫や変流を繰り返していたことが知られ、その影響により自然堤防と後背湿地、さらに旧河道が入り組む複雑な微地形が形成されている。京ノ中遺跡は郡山低地南西端部の自然堤防上に立地し、名取川の現河道から約500ｍの距離に位置する。遺跡内における現況標高は18.2～18.7ｍ前後だが、周囲は区画整理事業による造成から、旧地形の名残は失われている。

第２節　周辺の遺跡と歴史的環境（第４図）

京ノ中遺跡周辺には、旧石器時代から近世にかけての遺跡が多数存在する。これらのうち主要な遺跡について抜粋し、時代ごとの概要について記す。

旧石器時代　名取川左岸段丘上の山田上ノ台遺跡（33）では、約３万年前の川崎スコリア層上位と、AT層下位からそれぞれ石器が出土している。笊川左岸の後背湿地内に位置する富沢遺跡（13）では、約２万年前の後期旧石器時代の湿地林が発見され、焚火跡の周囲から石器が出土している。氷河時代の自然環境と人類の生活跡が同時に発見された、世界的にも希少な例である。

縄文時代　早期には、名取川沿いの段丘上から郡山低地の西部にかけて遺跡が散在する。笊川左岸の自然堤防上に位置する下ノ内浦遺跡（16）では早期前半の竪穴住居跡が確認され、押型文土器が出土している。富沢遺跡では、早期後半の遺物包含層が確認された。名取川左岸段丘上の北前遺跡（34）では、早期末の竪穴住居跡が確認されている。前期から中期にかけては遺跡数が減少し、富沢地区一帯の沼湿地化により人々の生活圏の中心が高台に移動したと考えられる。青葉山丘陵東端部の三神峯遺跡（36）では、前期初頭～中期初頭の竪穴住居跡や土坑群が確認され、長期間にわたり集落が営まれていたと推定されている。北前遺跡では前期末の土坑群のほか、中期後半の竪穴住居跡が確認されている。段丘縁辺の上野遺跡（30）では、中期中頃の竪穴住居跡が確認されている。中期末から後期になると再び生活圏が低地内へと拡大し、遺跡数が増加する。山田上ノ台遺跡では中期末の竪穴住居跡が確認され、自然堤防上の六反田遺跡（18）では中期末～後期初頭の竪穴住居跡が、下ノ内遺跡（17）では中期末の複式炉を伴う敷石住居跡が確認されている。下ノ内浦遺跡・大野田遺跡（20）では後期前半の配石遺構などが確認され、富沢館跡（７）では後期中頃の竪穴住居跡が確認されている。後期後半から晩期にかけては低地内への進出が一段と進み、鍛冶屋敷Ａ遺跡（２）では後期後半の竪穴住居跡や、配石遺構などが確認された。川前遺跡（９）では、後期末～晩期初頭の竪穴住居跡が確認されたほか、遺物包含層からイモ貝形石製品、岩偶、岩版、石刀などが出土している。

弥生時代　前期は調査事例がほとんどなく、詳細は不明だが、船渡前遺跡（29）の遺物包含層から土器が出土している。中期以降については、郡山低地内の後背湿地に水田や、自然堤防上に集落が営まれる。富沢遺跡では中期～後期の水田跡から木製農具が出土しており、泉崎浦遺跡（14）・山口遺跡（15）・元袋遺跡（19）では後期の水田跡が確認されている。下ノ内浦遺跡では後期の土壙墓と土器埋設遺構が確認されている。青葉山丘陵東端部の土手内遺跡

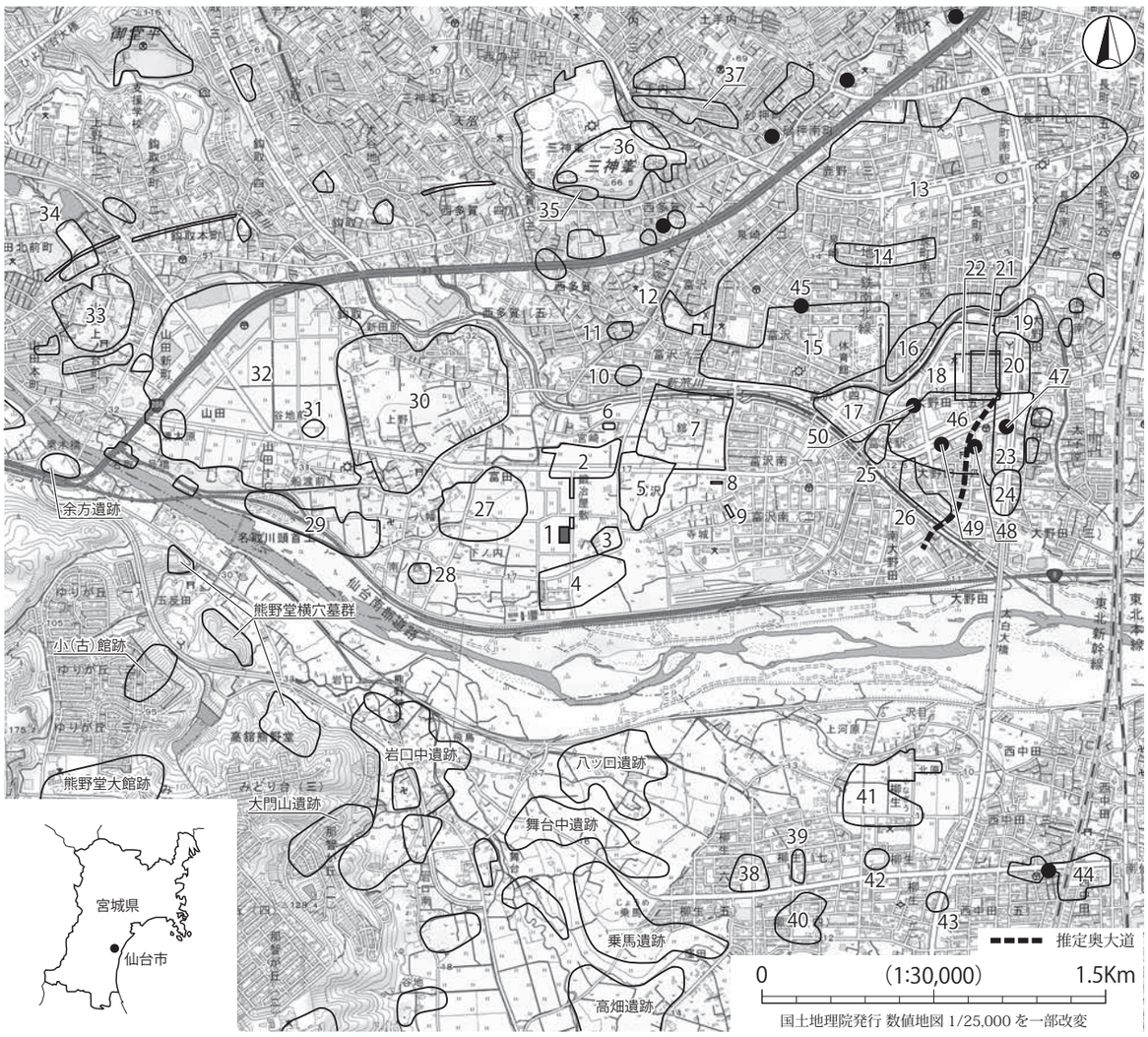
では、後期の竪穴住居跡と土坑が確認されている。

古墳時代　郡山低地では前期古墳は確認されないが、本遺跡の北東約６km、広瀬川左岸の自然堤防上には仙台市内最大の前方後円墳（主軸長約110ｍ）である遠見塚古墳が築造される。集落遺跡では、下ノ内遺跡、六反田遺跡、伊古田遺跡（25）、土手内遺跡などで塩釜式期の竪穴住居跡が確認され、下ノ内浦遺跡では弥生時代後期から続く水田跡が確認されている。中期後半以降になると本遺跡周辺でも古墳の数が増加し、後期前半にかけて一塚古墳、二塚古墳、砂押古墳、裏町古墳など首長墓クラスの古墳が青葉山丘陵麓に築造されるほか、郡山低地内では大野田古墳群（46）といった群集墳が出現する。青葉山丘陵東端の斜面地では、これらの古墳に供給する埴輪を生産したとみられる富沢窯跡（35）が操業される。また、泉崎浦遺跡、下ノ内遺跡、土手内遺跡では南小泉式期ないし引田式期の竪穴住居跡が確認されている。後期後半～終末期には、青葉山丘陵東端部の斜面地で須恵器窯の土手内窯跡（37）が操業される。土手内窯跡は終末期～奈良時代前半の土手内横穴墓群に壊されており、廃窯の直後に墓域へと転化したと考えられる。下ノ内遺跡、六反田遺跡では栗囲式期の竪穴住居跡が確認され、富沢遺跡では後期～終末期の水田跡が確認されている。また、終末期の７世紀中頃には、本遺跡の東約３kmに郡山遺跡のⅠ期官衙が成立する。Ⅰ期官衙は７世紀末葉まで存続し、古代陸奥国の建国に関った重要な柵跡と位置付けられている。

古代　７世紀末葉から郡山遺跡のⅡ期官衙が成立し、８世紀前葉まで存続する。Ⅱ期官衙は、多賀城創建以前の陸奥国府跡と考えられている。このⅡ期官衙と密接な関係が指摘される大野田官衙遺跡（22）では、幅３～４ｍの区画溝や、大型の掘立柱建物跡などが確認されている。当該期には遺跡数も顕著に増加し、第４図に示した遺跡の大半で古代の集落跡が調査されている。特に鍛冶屋敷Ａ遺跡、鍛冶屋敷前遺跡（５）、富沢館跡では平安時代の竪穴住居跡のほか鍛冶関連の遺構が確認され、鍛冶屋敷Ａ遺跡の竪穴住居跡からは古代の上申文と「上野」と刻まれた刻書砥石が出土した。鍛冶屋敷前遺跡の竪穴遺構では、羽口が炉跡に設置された状態で出土した。富沢遺跡や山口遺跡では真北方向を基準とした畦畔を伴う水田跡が確認されており、条里制地割との関係が推定される。山田条里遺跡（32）では、条里制地割の痕跡とみられる方眼状の地割が近年まで残存していた。

中世　郡山低地では、交通の要衝とみられる位置に大規模な屋敷や城館が造営される。富沢館跡は東西約400ｍ、南北約300ｍの広大な縄張りをもつ平城で、三ないし四重の堀割や土塁を伴う。主郭部の調査では東門の跡が確認されたほか、堀・土塁の変遷が明らかとなった。具体的な造営時期は不明だが、江戸時代には仙台藩士入生田家の在郷屋敷であった記録が残されている。王ノ壇遺跡（23）では、一辺50ｍと推定される堀割を伴う鎌倉時代の屋敷跡や、阿弥陀堂と推定される仏堂跡、波板状遺構や側溝を伴う路面幅2.8～4.2ｍの道路跡が確認されている。屋敷跡は武士層の居宅とみられ、道路跡は中世の幹線道路である「奥大道（おくのたいどう）」の可能性が指摘されている。富沢遺跡では、13～17世紀初頭の堀割を伴う屋敷跡や水田跡が確認され、上層農民もしくは領主クラスの当主像が推定されている。鍛冶屋敷Ａ遺跡、鍛冶屋敷前遺跡で確認された掘立柱建物跡や溝跡についても、富沢館跡に関係する集落である可能性も考えられる。

近世　奥州街道沿いに位置する長町は、宿駅として機能していた。本遺跡周辺は屋敷地が点在する水田地帯であったことがいわゆる『文政村絵図』などから推定され、富沢遺跡、山口遺跡、下ノ内浦遺跡、元袋遺跡、山田条里遺跡などで屋敷跡が確認されている。元袋遺跡の屋敷跡は一辺100ｍの堀割をもち、池状の遺構を伴うことから格式の高い武士階級の屋敷跡であったと推定されている。出土遺物の中には、伊達家の家紋である九曜紋瓦がある。また、富沢遺跡では墓壙群や水田跡、山田条里遺跡では堂宇跡が確認されている。



No	遺跡名	種　別	立　地	時　代	No	遺跡名	種　別	立　地	時　代
1	京ノ中遺跡	集落跡	自然堤防	奈良～中世	26	伊古田Ⅱ遺跡	畑跡	自然堤防	古墳～平安
2	鍛冶屋敷A遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・奈良～中世	27	南ノ東遺跡	散布地	後背湿地	弥生・平安
3	鍛冶屋敷B遺跡	包含地	自然堤防・後背湿地	縄文・奈良～近世	28	富田南西遺跡	散布地	自然堤防	奈良・平安
4	六本松遺跡	集落跡	自然堤防	平安	29	船渡前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良・平安
5	鍛冶屋敷前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・奈良～中世	30	上野遺跡	集落跡	段丘	縄文・奈良・平安・近世
6	宮崎遺跡	集落跡	自然堤防	平安	31	谷地前遺跡	散布地	後背湿地	平安
7	富沢館跡	城館跡・集落跡	自然堤防	縄文・平安～近世	32	山田条里遺跡	条里跡・散布地他	段丘・自然堤防	縄文・奈良・平安・近世
8	川前浦遺跡	散布地	自然堤防	縄文・古代	33	山田上ノ台遺跡	集落跡・墓・包含地	段丘	旧石器・縄文・平安・近世
9	川前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文	34	北前遺跡	集落跡・散布地	段丘	縄文・平安・近世
10	堀ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	古墳～平安	35	富沢窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳・奈良・平安
11	富沢上ノ台遺跡	散布地	段丘	縄文・平安～近世	36	三神峯遺跡	集落跡	丘陵	縄文・平安
12	富沢清水遺跡	集落跡	自然堤防	奈良・平安	37	土手内窯跡	窯跡	丘陵斜面	古墳・奈良
13	富沢遺跡	水田跡・包含地	後背湿地	旧石器～近世	38	松木遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	平安～近世
14	泉崎浦遺跡	水田跡・墓他	自然堤防・後背湿地	縄文～近世	39	雷遺跡	散布地	自然堤防	平安
15	山口遺跡	集落跡・水田跡他	自然堤防・後背湿地	縄文～近世	40	関場遺跡	包含地	自然堤防	古墳
16	下ノ内浦遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～近世	41	柳生台畑遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文～近世
17	下ノ内遺跡	集落跡・墓・畑跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良～近世	42	雷東遺跡	散布地	自然堤防	平安
18	六反田遺跡	集落跡・墓・畑跡	自然堤防	縄文～古墳・平安～近世	43	谷地田遺跡	散布地	自然堤防	古墳～平安
19	元袋遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文・弥生・奈良～近世	44	安久東遺跡	集落跡	自然堤防	弥生～近世
20	大野田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古墳～平安	45	教塚古墳	円墳	自然堤防	古墳後期前半
21	袋前遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古墳～平安	46	大野田古墳群	群集墳	自然堤防	古墳中期後半～後期
22	大野田官衙遺跡	官衙跡	自然堤防	古墳～奈良	47	王ノ壇古墳	円墳	自然堤防	古墳後期前半
23	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文・弥生～中世	48	鳥居塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳後期前半
24	皿屋敷遺跡	集落跡・水田跡他	自然堤防・後背湿地	縄文・奈良～近世	49	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳後期前半
25	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文・古墳～平安	50	五反田古墳	円墳	自然堤防	古墳後期前半

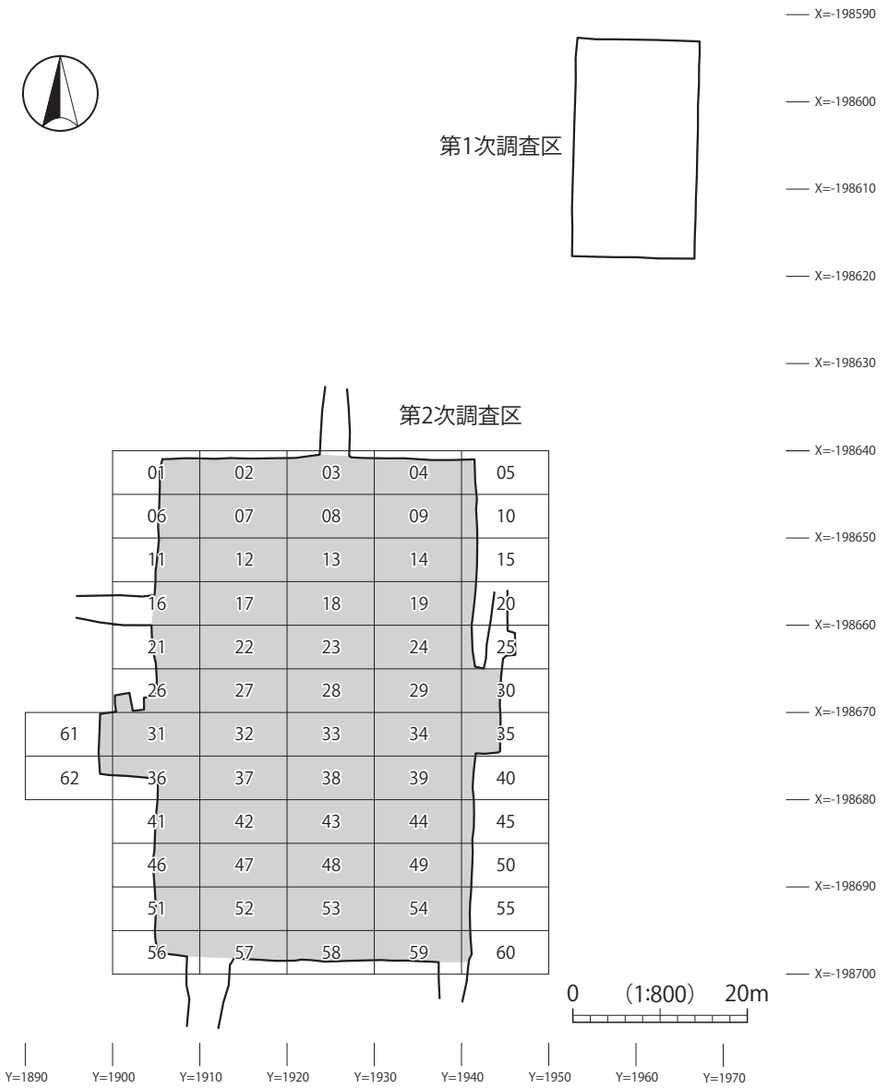
第４図　京ノ中遺跡と周辺の遺跡

第３章　調査の方法と概要

第１節　調査区と区割の設定（第５図）

今回の調査区は、医療施設建設範囲のうち、試掘調査によって遺構の存在が想定された東西36ｍ、南北58ｍの範囲で設定した。西壁の中央付近については調査途中で竪穴住居跡の分布範囲が広がることが判明したため、７ｍ程度拡張した。調査面積は約2,100㎡である。なお、調査前の現況は雑草地及び資材置場であった。

区割は、測量基準点（X＝-198640・Y＝1900）を原点とする東西10ｍ、南北５ｍの範囲で設定し、区名については、測量基準とした平面区割図の番号をそのまま用いた。区割は当初東西５列、南北12列の01～60区を設定したが、後日、西側の拡張部分に61・62区を追加した。



第５図　第２次調査区区割配置図

第２節　調査概要

(1) 調査経過

発掘調査は、事業者提供のバックホウ（バケット容量0.7㎥）を使用した表土除去から開始した。表土除去は仙台市教育委員会職員の立会により行われ、途中から委託を受けた株式会社シン技術コンサルが作業を引き継いだ。表土除去終了後は人力による遺構検出作業に移行し、各遺構の平面形状や新旧関係を確認した。遺構検出作業は、基本層Ⅳ層上面で行った。遺構調査は、検出状況の写真撮影と遺構配置図を作製した後、重複の新しいものから順次着手した。また平面確認が難しい遺構については状況に応じてサブトレンチを設定し、断面からの確認も試みた。調査区外にかかる遺構のうち建物建築予定範囲に含まれるものについては、必要最小限の範囲でバックホウ（バケット容量0.25㎥）を使用して調査区を拡張し、調査を行った。

(2) 測量基準・図面の作成（第５図）

測量は、「平面直角座標系第Ｘ系」を基準に行った。また、５×10ｍを単位とする平面区割図の作製に際し、調査区北西端部を01とし、西側拡張部分の62まで連番を付した。この番号は既述の通りそのまま区名としても用い、本文中における遺構の位置を示している。

平面図・断面図の作製はトータルステーションによる機械実測を基本とし、竪穴住居跡の断面図及び遺物微細図については手実測・写真実測を併用した。

(3) 遺物の取り上げ・調査記録の作成

遺構検出作業時に出土した遺物については、平面区割図番号をグリッド名とし、一括資料として取り上げた。遺構内からの出土遺物については特に詳細図が必要とされる遺物について出土状況図を作製し、位置とレベルを記録して取り上げた。それ以外の出土遺物についてはできるだけ層位で分け、特に竪穴遺構・竪穴住居跡については範囲内を平面的に四分割して一括資料として取り上げた。

整理作業の段階で、各遺構について観察カードを作成し、事実記載及び調査時の所見を記録した。

(4) 遺構番号

遺構番号については、基本的に第１次調査（平成26年度実施）からの通し番号とした。このため、竪穴遺構・竪穴住居跡はSI3から、溝跡はSD2から、土坑はSK3から付番した。今回新規で検出された掘立柱建物跡や木柵跡、小溝状遺構などは、それぞれSB1・SA1・SM1から付番した。ピットについては数が多いため、これについてもPit1から付番した。

(5) 調査報告書作成作業

調査報告書作成・刊行に伴う整理作業は、委託業務として株式会社シン技術コンサルが実施した。出土遺物の基礎整理のうち遺物水洗作業については、その一部を野外作業と並行して現場事務所で実施し、残りの基礎整理及び報告書作成に向けた各作業は、株式会社シン技術コンサル東北支店で行った。出土遺物の注記、接合・復元、登録、実測図作製のほか、遺物図版・遺構図版・写真図版、遺構観察表・遺物観察表の作成及び原稿執筆・編集等を行い、その間必要に応じて仙台市教育委員会職員と整理作業内容の確認・協議を行った。これら遺物実測図及びデジタルトレースを含む作成資料については、教育委員会の担当職員が随時点検を行った。

第４章　基本層序

第１節　基本層序（第６図）

基本層序は、調査区の北壁・東壁・西壁で観察した。観察範囲にはそれぞれ幅約50cm、深さ約50cmのサブトレンチを掘削し、遺構検出面より下層の状況把握に努めた。その結果、Ⅰ～Ⅺ層の基本層を確認した。ただし第１次調査では、今回遺構検出面としたⅣ層に相当する層位がⅢ層として記録されている。第１次調査では今回のⅢ層に相当する層位が確認されておらず、Ⅱ層直下が遺構検出面となっている。このため層番にずれが生じてしまっていることを予め記しておく。今回観察された基本層の概要は、下記の通りである。

第Ⅰ層　近・現代の盛土及び整地層。大小円礫を多量に含み、硬く締まる。

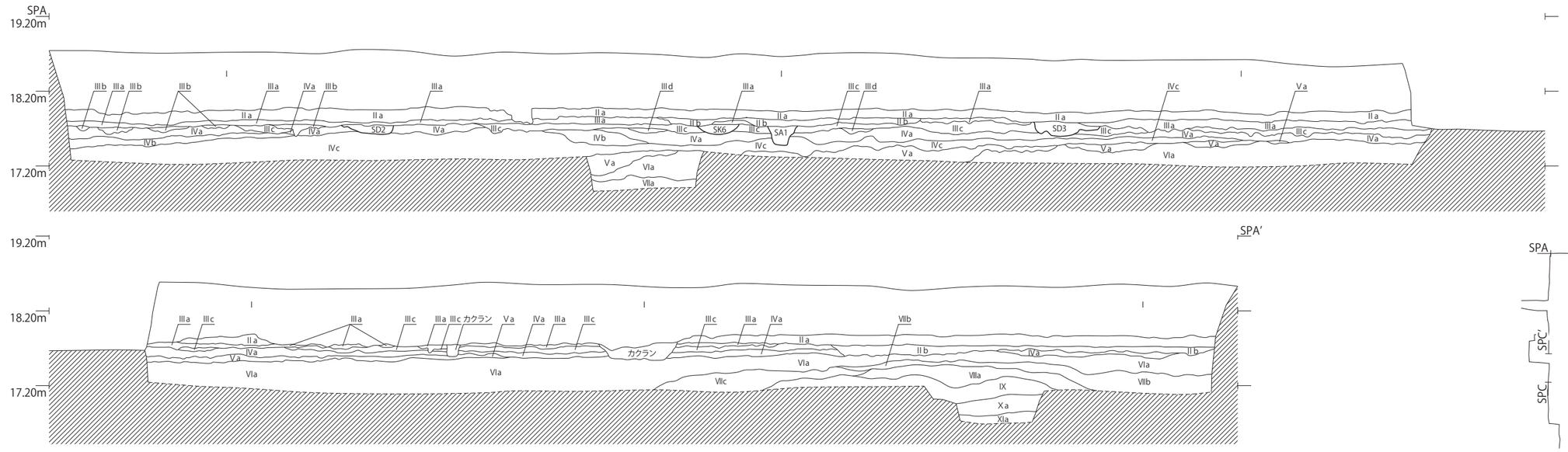
第Ⅱ層　灰色基調の砂質シルト層。全体的にきめ細かく、硬く締まる。微量の小円礫や炭化物粒を含み、下位には酸化鉄が帯状に集積する。土地改良時の盛土とみられ、ａ・ｂの２層に細別される。本層直下からは当時の造成跡とみられる撹乱が多数検出されている。特に調査区南部では遺構検出面が大きく削り取られ、本層が厚く堆積している。

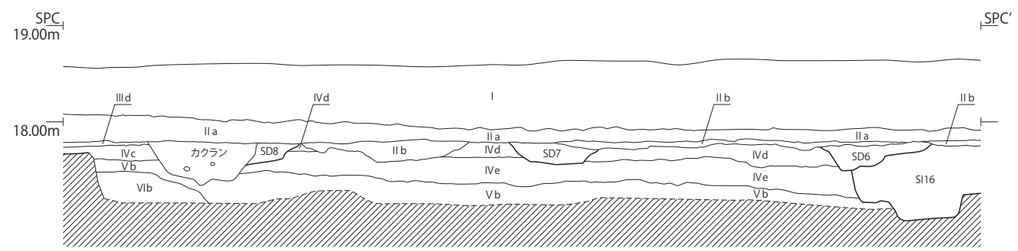
第Ⅲ層　灰褐色～黒褐色を基調とする砂質シルト及びシルト層。堆積範囲は部分的で、調査区北西部に良好に残存する。色調の明暗や粘性などからａ～ｄの４層に細別される。全体に酸化鉄を斑状に含む。平安時代～中世の耕作土とみられ、この時代の遺構は大半が本層に近似した堆積土で埋没している。

第Ⅳ層　黄褐色系統のシルト層。今回の調査では、本層上面を遺構検出面とした。調査区内において土質に違いがあり、砂質シルト、シルト、粘土質シルトと漸移的に変化している。このため、ａ～ｅの５層に細別される。全体的に斑状の酸化鉄や灰色シルトを含む。調査区北西部では本層上面に十和田ａ火山灰（推定：西暦915年降下）が部分的に認められ、窪地状の地形であったと考えられる。

第Ⅴ層～Ⅶ層　黄褐色系統のシルトと砂質シルトの互層で、層厚は均一ではない。部分的に酸化鉄を斑状に含み、特にⅦ層は礫・粗砂・細砂を含む。Ⅴ層とⅥ層はａ・ｂの２層に、Ⅶ層はａ～ｃの３層にそれぞれ細別される。

第Ⅷ層～Ⅺ層　砂礫層及び砂層。上面の起伏が激しく、調査区東部では遺構検出面と同一レベルで露呈する。堆積状況は一定ではなく、砂礫・粗砂・細砂が複雑に折り重なる。細砂層を主体とし、上層には砂礫層が帯状に堆積する。Ⅷ層はａ～ｄの４層に、Ⅹ層はａ～ｃの３層に、Ⅺ層はａ・ｂの２層にそれぞれ細別される。いずれの層も、河川堆積により形成された層である。





層位		土色	土性	備考	
Ⅰ				近・現代の盛土及び整地層。大小円礫を多量含み、硬く締まる。	
Ⅱ	a	7.5GY6/1 緑灰色	砂質シルト	硬質で、礫(5～20mm程度)・炭化物粒微量含む。下位に酸化鉄沈着。	土地改良関連層。
	b	7.5GY5/1 緑灰色	砂質シルト	Ⅱa層土ブロック多量含む。	
Ⅲ	a	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰色シルト・酸化鉄斑状に多量、炭化物粒微量含む。	平安時代～中世耕作土層。
	b	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅲa層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
	c	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳa層土斑状に多量、灰白色火山灰ブロック(5～10mm程度)部分的に含む。	
	d	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	酸化鉄斑状に多量、灰色シルト粒少量含む。	
Ⅳ	a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	酸化鉄斑状に多量、灰色シルト斑状に少量含む。	遺構検出面。
	b	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	酸化鉄斑状に少量、マンガン粒微量含む。	
	c	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に少量含む。	
	d	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	マンガン粒多量、灰色シルト粒・酸化鉄斑状に少量含む。	
	e	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	灰色シルト斑状に少量、マンガン粒微量含む。	

0　平面図（1:1,500）　60m　　0　断面図（1:60）　2m

層位		土色	土性	備考	
Ⅴ	a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～50mm程度)・酸化鉄斑状に多量含む。	
	b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	灰色シルト斑状に少量、マンガン粒微量含む。礫(5～10mm程度)・酸化鉄斑状に少量含む。	
Ⅵ	a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	灰色シルト斑状に少量含む。	
	b	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	酸化鉄斑状に少量、灰色シルト斑状に微量含む。	
Ⅶ	a	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	細砂少量含む。	
	b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	礫(5～10mm程度)・粗砂少量含む。	
	c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	礫(5mm程度)・粗砂多量含む。	
Ⅷ	a	10YR3/2 黒褐色	砂礫	礫(5～50mm程度)・粗砂の混層。	
	b	2.5Y5/4 黄褐色	粗砂	礫(5～10mm程度)多量、炭化物粒少量含む。	
	c	2.5Y5/3 黄褐色	砂礫	礫(5～100mm程度)・粗砂の混層。	
	d	5Y4/3 暗オリーブ色	砂礫	礫(5～40mm程度)・粗砂の混層。酸化鉄ラミナ状に少量含む。	
Ⅸ		2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	粗砂多量、礫(5～10mm程度)少量含む。	
Ⅹ	a	2.5Y3/1 黒褐色	粗砂	礫(5～20mm程度)・細砂少量含む。	
	b	5Y4/3 暗オリーブ色	粗砂	礫(5～10mm程度)・酸化鉄多量含む。	
	c	5Y4/2 灰オリーブ色	粗砂	礫(5mm程度)・酸化鉄多量含む。	
Ⅺ	a	5Y4/2 灰オリーブ色	細砂	黄色・灰白色細砂ラミナ状に多量含む。	
	b	5Y4/2 灰オリーブ色	粗砂	酸化鉄ラミナ状に多量、礫(5～10mm程度)少量含む。	

第６図　基本層序

第５章　検出遺構と出土遺物

今回の調査で検出された遺構は、概ね平安時代～中世、奈良～平安時代の２時期に分けられる。検出作業を同一面で行ったため層位的な確認はできなかったが、出土遺物以外にも遺構内堆積土が明確に異なるものが多く、時期決定は比較的容易であった。以下、これらの遺構について時期ごとに詳細を記す。

第１節　平安時代～中世の遺構と遺物（第７～43図）

本節では、重複状況及び出土遺物、堆積土などから平安時代～中世と考えられる遺構について扱う。該当する遺構は、竪穴遺構３基（SI3 ～ 5）、掘立柱建物跡７棟（SB1 ～ 7）、木柵跡２条（SA1・2）、小溝状遺構群２群（SM1・2）、溝跡12条（SD2 ～ 13）、井戸跡１基（SE1）、土坑59基（SK3 ～ 16・18 ～ 31・33 ～ 41・43 ～ 45・49 ～ 64・66 ～ 68）、ピット461基（Pit1 ～ 532・内71基欠番）である。調査後に掘立柱建物跡などの柱穴に該当したピットは、欠番とした。

当該期の遺構の分布は、南北方向のSA1・２と東西方向のSD6 ～ ８を境として密度が顕著に変化する。調査区の中央部付近では密集傾向にあるが、SA1・２及びSD6 ～ ８を隔てて希薄になる。これらの遺構が区画施設として機能し、遺構密度に影響を与えていると考えられる。

出土遺物は、陶磁器の破片や金属製品、鉄滓などが少量出土したが、いずれも図化できるものはなかった。陶磁器は常滑産とみられる鉢・甕や、龍泉窯産とみられる青磁碗が出土している。

以下、平安時代～中世の遺構について、竪穴遺構、掘立柱建物跡、木柵跡、小溝状遺構群、溝跡、井戸跡、土坑、ピットの順で記載する。

(1) 竪穴遺構（第８～14図）

竪穴遺構は、３基（SI3 ～ 5）確認された。調査区北東部にSI3が位置し、これより古い。SI4が東側に、SI5が西側にそれぞれ重複する。SI3の外周には、付属施設とみられる柱穴列が二重に巡る。

SI3竪穴遺構（第８～12図）

【位置・確認】　調査区北東部、13・14・18・19区に位置する。北側の一部が撹乱により、西側の一部は試掘調査時のトレンチにより失われている。

【重複】　SD5、Pit56・68・76・77より古く、SI4・5、SB6、SK67、Pit465・471・472・475・510より新しい。

【規模・形態】　検出した規模は長軸557cm、短軸372cmを測り、平面形状は南北に長い長方形を呈する。西辺は北側で47cm程度内側にずれ、やや歪んだ形状を呈する。南壁側にはテラス状の張り出しがある。

【方向】　東壁を基準としてＮ－８°－Ｅを測る。

【堆積土】　大別で15層に分層した。１～８層は灰黄褐色・にぶい黄褐色シルトを主体とする人為的な堆積土である。特に９層は床面上を直接覆う炭化物及び灰層である。10層は周溝堆積土、11 ～ 15層は南壁外に舌状に張り出したテラス状施設の堆積土である。

【壁面】　直線的に外傾して立ち上がり、壁高は最大32cmを測る。

【床面】　概ね平坦で、基本層Ⅳ層を床面とする。北側には東西方向に延びる土手状の高まりがあり、長さ132cm、幅20 ～ 27cm、高さ４～５ cmを測る。南側には炭化物と灰が薄く広がっている。

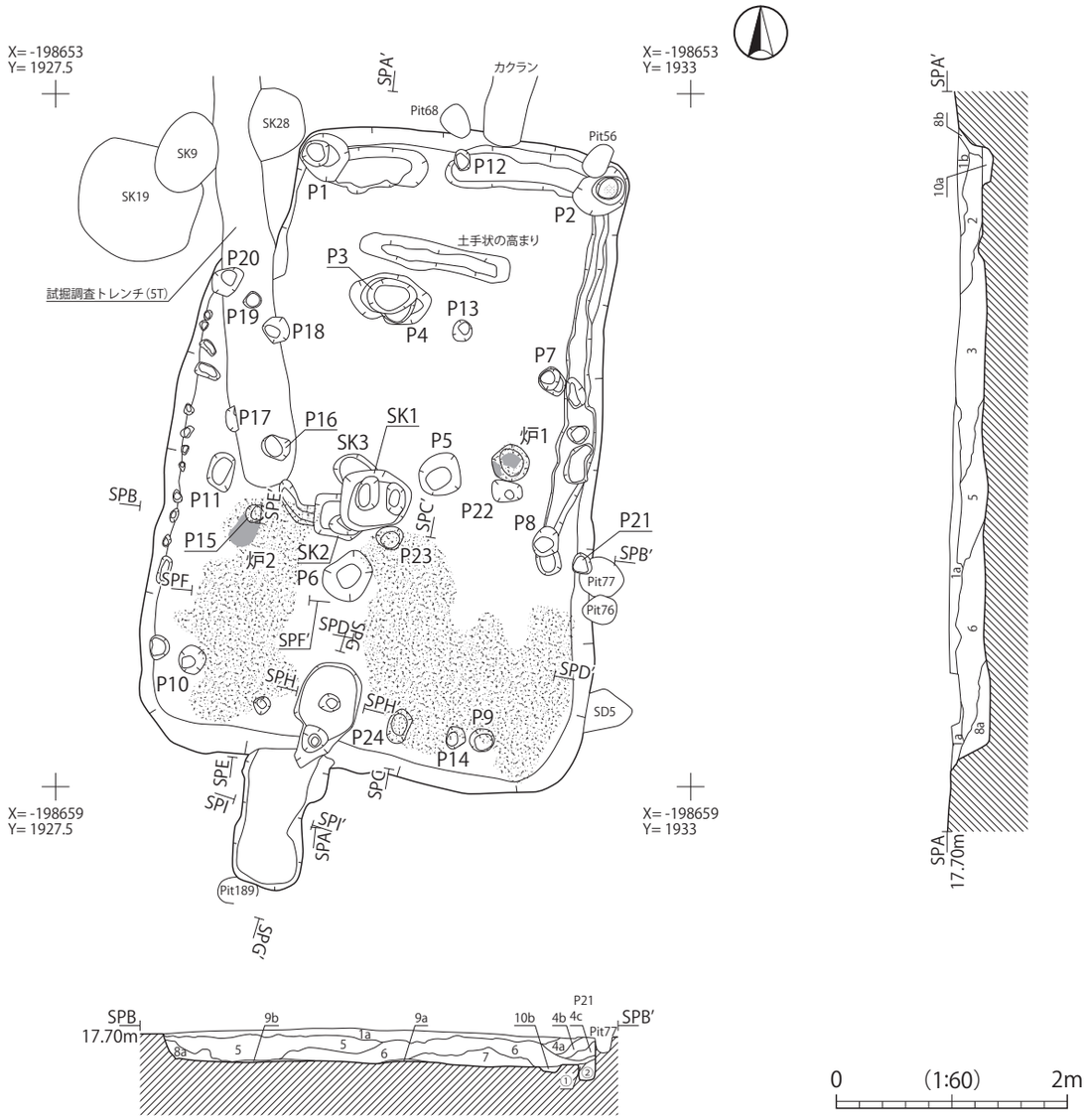
【柱穴】　床面で24基（P1 ～ 24）確認した。主柱穴と考えられるピットは壁際を中心に配置され（P1・2・7 ～ 12・18・20）、長軸上にも２基配置される（P3もしくは４・6）。平面規模は大小様々であるが、これらの大半が、

第７図　平安時代～中世遺構配置図

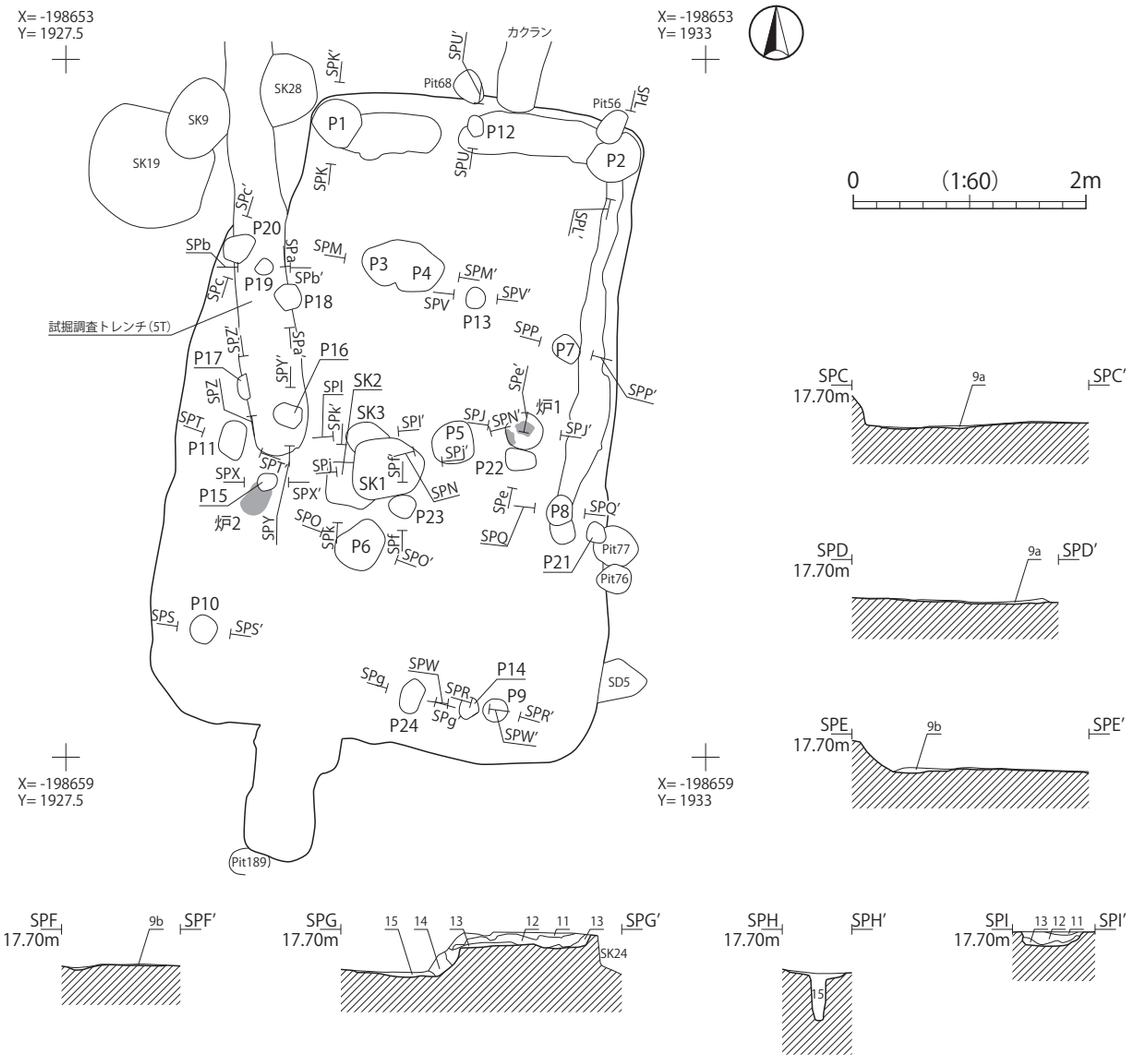
30cm以上の深さをもつ。P3・4は重複するが、土層断面からは新旧関係が確認できなかった。ほかは補助柱穴と思われるが、その配置に一定の規則性はない。いずれの柱穴からも、柱痕跡などは確認されなかった。

【周溝】　北壁から東壁の壁面に沿って「L」字状に延びる。規模は幅11～40cm、深さ3～13cmを測り、北側の周溝は幅が広い。西壁には周溝が確認されなかったが、長軸9～22cm前後の小規模な浅い窪みが壁面に沿って並ぶことから土木具痕と考えられ、周溝が存在した可能性がある。

【炉】　2箇所検出された。炉1は東壁寄りに位置し、浅い掘り込みを伴う。平面形状は円形を呈し、規模は長軸32cm、短軸31cm、深さ8cmを測る。全体的に被熱は弱く、壁・底面ともに焼土化は進んでいない。内部には5cm程度の厚さで灰・炭化物が堆積する。炉2は西壁寄りに位置し、掘り込みを伴わない被熱範囲である。平面形状は楕円形を呈し、長軸32cm、短軸20cmを測る。



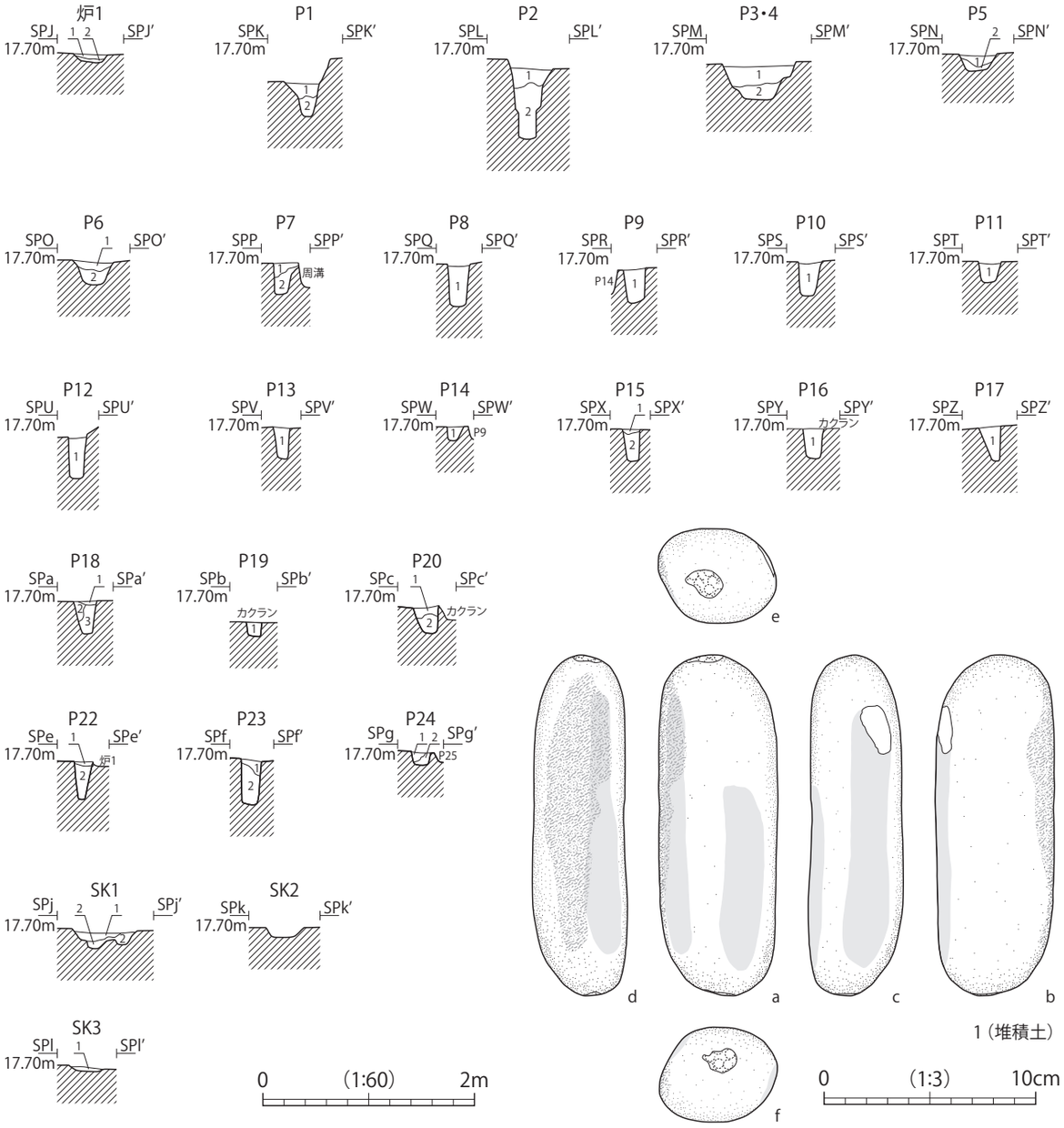
第8図　SI3竪穴遺構（1）



SI3 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
竪穴堆積土	1a	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・焼土ブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。
	4a	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・灰色シルトブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。
	4b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	4c	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。
	5	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～60mm程度）少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（5～10mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・礫（20mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、焼土ブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。
	8b	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。
	9a	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・灰多量、焼土ブロック（5～10mm程度）少量含む。※炭化物層
	9b	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物ブロック（5～10mm程度）多量、焼土ブロック（5～10mm程度）少量含む。※灰層
周溝	10a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。
	10b	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
テラス状施設	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルト互層状・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	13	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。
	14	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・礫（10～30mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

第９図　SI3 竪穴遺構（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	備　考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
1	Kc-001	SI3	堆積土	礫石器	磨敲石	16.1	5.6	4.5	567.0	凝灰岩	磨４面（a～d面）、敲打痕（e・f面）、一部被熱により黒変	22

第10図　SI3竪穴遺構（3）・出土遺物

【付属柱穴列】　竪穴の外周に、「コ」字状と「ロ」字状を呈して二重に並ぶ。ともに位置関係から本竪穴遺構に伴う柱穴列と考えられる。外側の柱穴列１は東西３間×南北２間で、南側が開口する。規模は、東西総長930cm、南北総長600～630cmを測る。柱間寸法は、東辺で315cm等間隔、西辺で300cm等間隔、北辺で東から330・270・330cmを測る。一部の柱穴で、柱痕跡や底面の変色範囲を確認した。内側の柱穴列２は東西３間×南北３間で、規模は東西総長730～750cm、南北総長720cmを測る。柱間寸法は、東辺で北から240・200・280cm、西辺で北から220・210・290cm、南辺で東から280・220・230cm、北辺で250cm等間隔を測る。柱痕跡などは確認され

なかった。この２つの柱穴列は時期差をもつと考えられ、本竪穴遺構は平面形状が歪むことや土手状の高まりの存在から、北側に拡張されたと推定される。拡張前の範囲との位置関係や、柱穴列２南辺のPit189が後述するテラス状施設と重複することなどから、柱穴列１が拡張後、柱穴列２が拡張前の施設とみられる。なお、柱穴列２西辺の柱穴のうち２基はSI5の床面で検出したためSI5に伴う遺構番号が付されているが、配置的に整合性があり、柱穴列２の一部として捉えた。これらの柱穴列はいずれも竪穴上を覆う上屋の支柱であった可能性が考えられる。

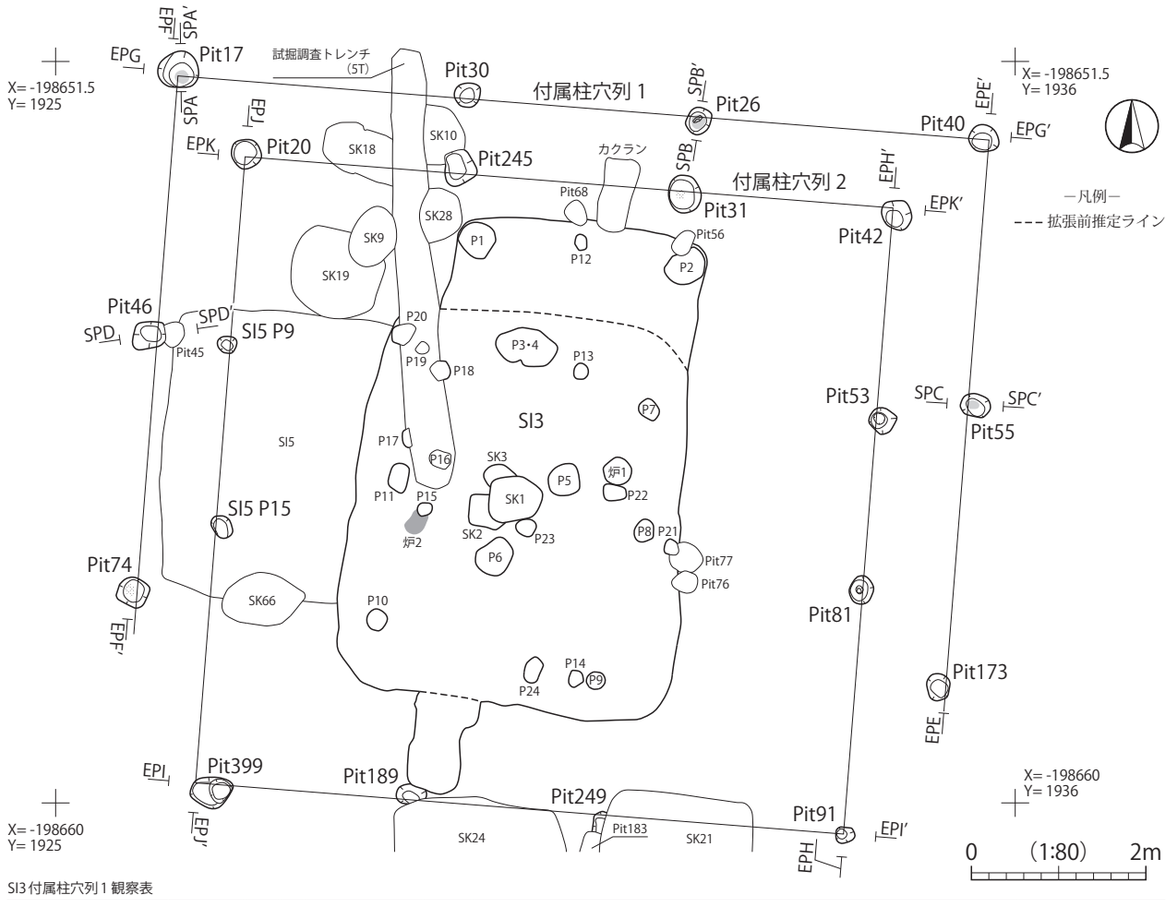
SI3 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
炉1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルト・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	N6/0 灰色	シルト	焼土ブロック（5～20mm程度）・炭化物粒少量含む。※灰層
P1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）微量含む。
P3・4	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫・焼土ブロック（ともに5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）微量含む。
	2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒互層状に少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
P7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（20mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
P8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、礫（5～30mm程度）・炭化物粒微量含む。
P10	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P12	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。
P15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）微量含む。
P16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、礫(30mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P18	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～30mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。
P19	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・礫（5～10mm程度）微量含む。薄くグライ化。
P20	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・礫（10mm程度）微量含む。
P21	①	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	②	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
P22	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。
P23	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒がほとんど。焼土粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。
P24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、黒褐色シルトブロック（20mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。
SK2	※注記なし			
SK3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI3 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円 形	40×39	56	主柱穴
P2	円 形	47×37	66	主柱穴　底面変色
P3	（楕円形）	（61）×40	41	主柱穴　P4との新旧関係不明
P4	（円形）	（32）×（30）	（15）	主柱穴　P3との新旧関係不明
P5	円形	36×35	17	補助柱穴
P6	円形	45×39	22	主柱穴
P7	円形	25×20	29	主柱穴
P8	円形	26×22	39	主柱穴
P9	円形	21×21	32	主柱穴
P10	円形	24×22	32	主柱穴
P11	楕円形	31×22	20	主柱穴
P12	楕円形	19×13	40	主柱穴
P13	円形	19×16	27	補助柱穴
P14	円形	20×16	14	補助柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P15	円形	17×16	32	補助柱穴
P16	（円形）	（25）×（19）	（31）	補助柱穴
P17	（円形）	（21）×（9）	（32）	補助柱穴
P18	（円形）	（22）×（21）	30	主柱穴
P19	（円形）	（16）×（14）	（12）	補助柱穴
P20	（円形）	（30）×（24）	25	主柱穴
P21	（円形）	18×（16）	11	補助柱穴
P22	楕円形	26×19	37	補助柱穴
P23	円形	22×20	42	補助柱穴
P24	楕円形	30×18	12	補助柱穴
SK1	楕円形	61×51	15	
SK2	（方形）	（41）×37	9	
SK3	（円形）	（32）×29	9	



SI3 付属柱穴列 1 観察表

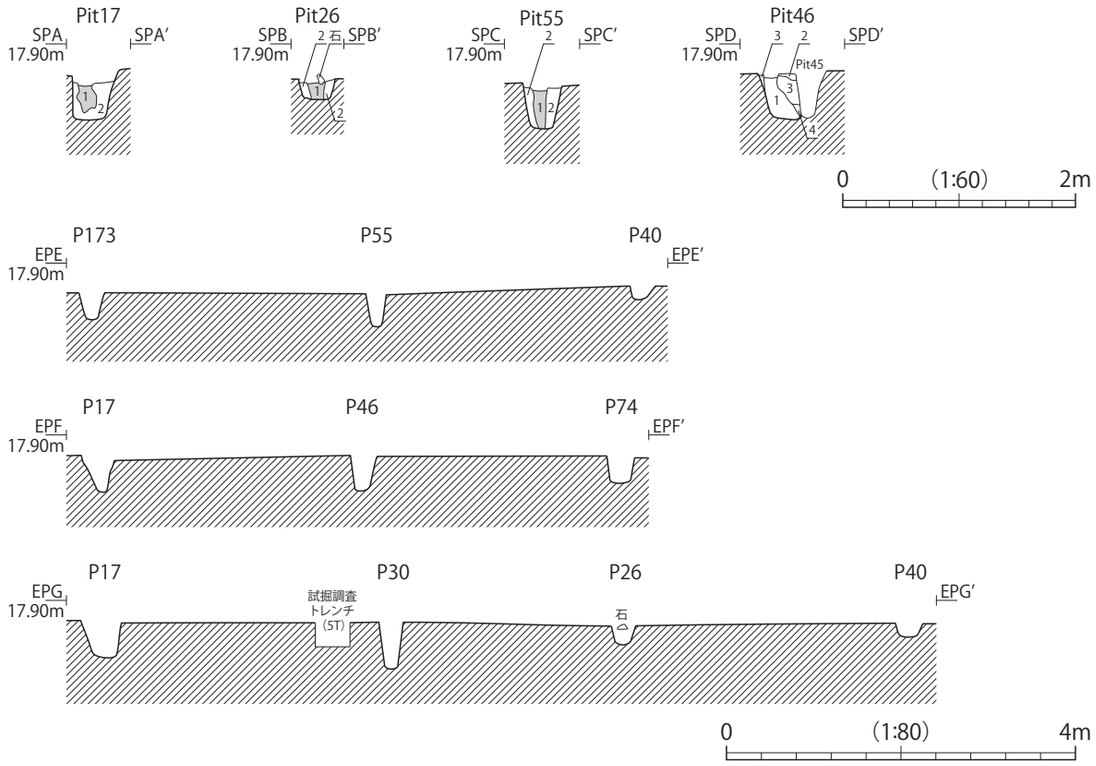
遺構名	区割	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit17	13	円形	46×42	43	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量含む。	
Pit26	14	楕円形	32×27	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）一部集中、灰色シルト斑状に少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。	
Pit30	13	楕円形	32×29	48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit40	14	楕円形	35×32	15	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・礫（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒微量含む。	Pit222 より新しい。
Pit46	13	方形	(39)×31	42	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルト粒（5mm 程度）微量含む。	Pit45 より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、黒褐色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量含む。	
Pit55	19	楕円形	34×25	38	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量含む。※柱痕跡	SB1 より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量含む。	
Pit74	18	方形	35×32	32	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit173	19	方形	31×27	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。	

SI3 付属柱穴列 2 観察表

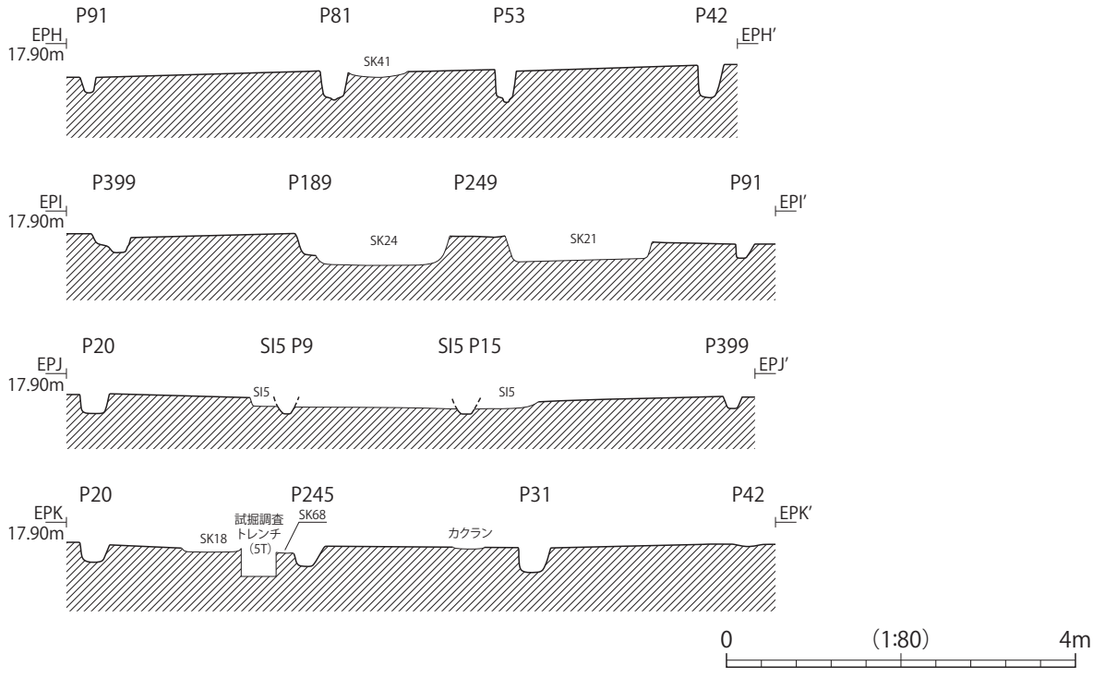
遺構名	区割	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit20	13	円形	34×33	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）微量含む。	
Pit31	14	楕円形	43×37	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	
Pit42	14	楕円形	37×34	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）微量含む。	
Pit53	19	円形	29×27	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	SB1 より新しい。
Pit81	19	楕円形	(35)×27	38	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量含む。	SK41 より新しい。
Pit91	24	楕円形	22×19	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物ブロック（ともに 5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。	
Pit189	18・23	長楕円形	35×22	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・礫（10 ～ 50mm 程度）少量、炭化物微量含む。	SK24 より古い。
Pit245	13	方形	(38)×36	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK10 より古く、SK68 より新しい。
Pit249	24	不明	(25)×(13)	22	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）微量含む。	SK21、Pit183 より古い。
Pit399	18・23	楕円形	50×37	23	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、礫（10 ～ 20mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
SI5 P9	13	円形	22×21	9	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルト互層状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SI5 P15	18	(楕円形)	22×(16)	6	1	N4/0 灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・灰多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。	

第 11 図　SI3 竪穴遺構付属柱穴列 1・2（1）

SI3 付属柱穴列 1



SI3 付属柱穴列 2



第 12 図　SI3 竪穴遺構付属柱穴列 1・2 (2)

【その他の施設】　床面で土坑を３基（SK1 ～ 3）確認した。中央部のやや南寄りにSK1が位置し、これより古いSK2・3が重複する。SK1は平面楕円形を呈し、長軸61cm、短軸51cm、深さ15cmを測る。SK2・3の正確な平面形状は不明だが、規模はSK2が長軸41cm以上、短軸37cm、深さ９ cm、SK3が長軸32cm以上、短軸29cm、深さ９cmである。いずれの土坑も性格は不明である。また、南壁のやや西寄りからは壁外に延びるテラス状施設を確認した。壁面の下端から20cm程度上方に付設され、奥行124cm、幅53 ～ 75cm、深さ13cmを測る。その下となる床面には長軸98cm、短軸52cm、深さ３ cmを測る浅い掘り込みが付属し、その底面には小ピットが２箇所並ぶ。カマドの痕跡とも考えたが、性格は不明である。

【出土遺物】　床面施設及び堆積土から少量出土した。土師器・須恵器の破片が主体であるが、無釉陶器鉢の破片が１点、鉄滓２点、礫石器１点が出土し、このうち礫石器１点を掲載した（第10図－1）。磨敲石で、a～d面に磨面、e・f面に弱い敲打痕が観察される。一部は被熱により黒変する。石材は凝灰岩である。また、床面上の炭化物を含む土を水洗したところ、炭化米が少量出土した。これらから分析試料３点を採取し、年代測定を実施した。

【時期】　出土遺物や後述するSB6より新しいことから中世と考えられ、床面から出土した炭化米について行った自然科学分析による年代測定では、12 ～ 13世紀代との結果が得られた。

SI4竪穴遺構（第13図）

【位置・確認】　調査区北東部、14・19区に位置する。残存は不良で、大半がSI3との重複により、北東部は撹乱により失われている。

【重複】　SI3、Pit76 ～ 78より古く、SB6より新しい。Pit44との新旧関係は不明である。

【規模・形態】　検出した規模は長軸357cm、短軸112cm以上を測り、平面形状は方形もしくは長方形と推定される。

【方向】　東壁を基準としてN－8°－Eを測る。

【堆積土】　大別で５層に分層した。１～３層は褐灰色シルトを主体とする人為的な堆積土である。４・５層は周溝堆積土である。

【壁面】　直線的に外傾して立ち上がり、壁高は最大９ cmを測る。

【床面】　概ね平坦で、基本層Ⅳ層を床面とする。

【柱穴】　床面で５基（P1 ～ 5）確認した。主柱穴は比較的大型で深いP1・2が該当すると考えられ、東壁沿いの南寄りに配置される。P1では径16cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】　東壁と北壁の残存部の壁面に沿って延びる。規模は幅14 ～ 28cm、深さ６～ 12cmを測り、東側の周溝は幅がやや広い。底面の一部には小ピット状の窪みがあり、土木具痕と考えられる。

【出土遺物】　出土しなかった。

【時期】　SI3より古く、SB6より新しいことから、中世と考えられる。

SI5竪穴遺構（第14図）

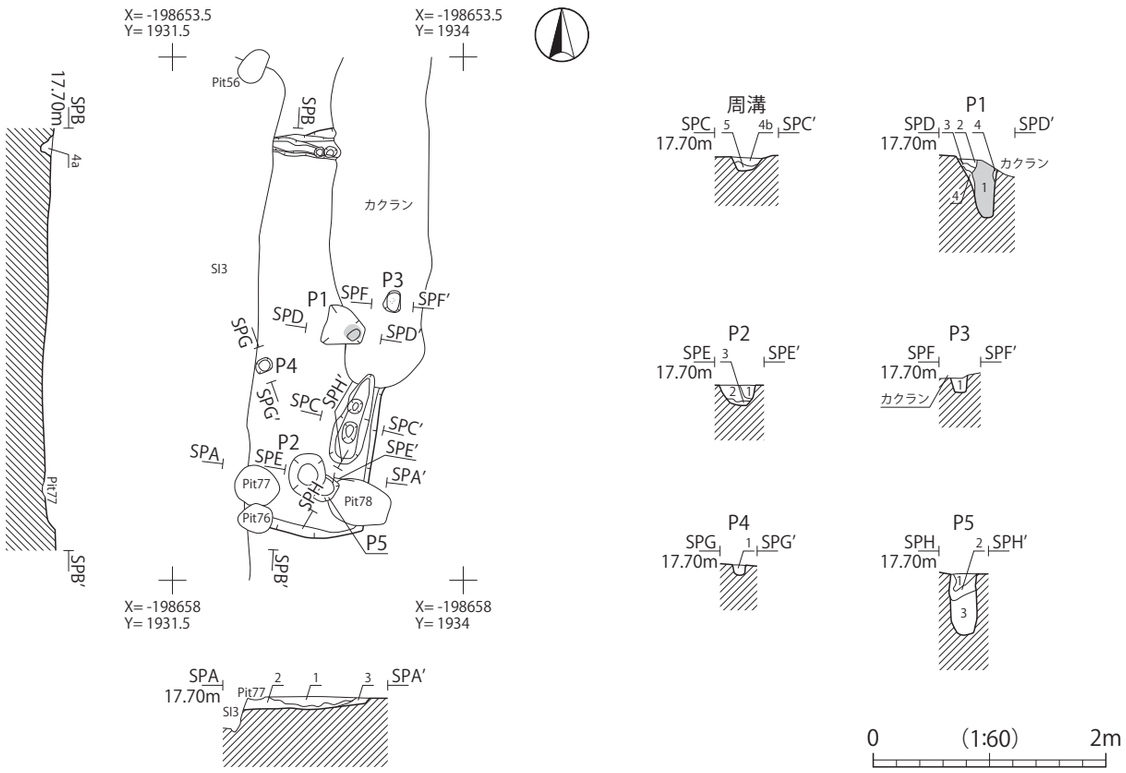
【位置・確認】　調査区北東部、13・18区に位置する。東側1/2程度はSI3との重複により、南壁際の一部は撹乱により失われている。

【重複】　SI3、SK19・66、Pit45より古く、SB3、Pit527より新しい。

【規模・形態】　検出した規模は長軸333cm、短軸261cm以上を測り、平面形状は方形もしくは長方形と推定される。

【方向】　西壁を基準としてN－6°－Eを測る。

【堆積土】　５層に分層した。これらは黒褐色シルトを主体とする人為的な堆積土である。炉の周囲には東西106cm、南北84cmの不整形な範囲で炭化物が薄く堆積している。



SI4 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
竪穴堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物粒少量、灰色シルトブロック・礫（ともに5mm程度）・焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。
周溝	4a	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。
	4b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。
	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、灰色シルト粒微量含む。

SI4 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm程度）微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
P2	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒少量、灰色シルト粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土粒多量、褐灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。

SI4 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	35 × (33)	54	主柱穴
P2	円形	38 × 31	17	主柱穴
P3	（楕円形）	(19) × (15)	(15)	

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P4	円形	15 × 11	12	
P5	円形	(28) × 22	53	

第13図　SI4竪穴遺構

【壁面】　直線的に外傾して立ち上がり、壁高は最大14cmを測る。

【床面】　概ね平坦で、基本層Ⅳ層を床面とする。

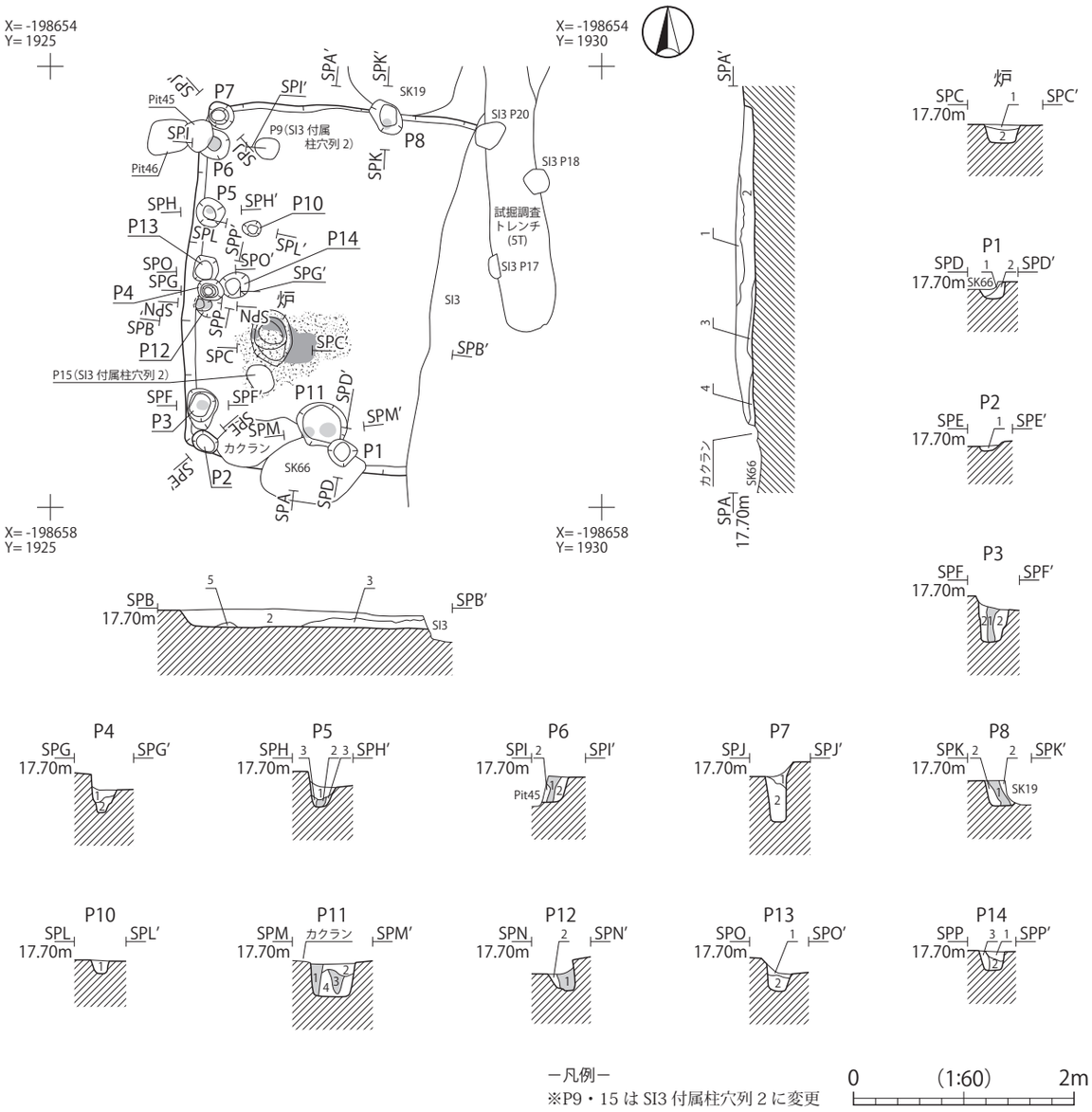
【柱穴】　床面で13基（P1 ～ 8・10 ～ 14）確認した。主柱穴と考えられるピットは、壁際を中心に配置されている（P3 ～ 8・11）。西壁のP4にはP12 ～ 14が重複することから、建て替えの可能性がある。比較的小型で浅いP1・

2・10は補助柱穴と考えられる。P3・5・6・8・11・12で径10～15cm程度の柱痕跡を確認し、特にP11では2箇所確認した。

【炉】 南西部に位置し、二段に掘り込まれた炉である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸36cm、深さ16cmを測る。全体的に被熱は弱く、壁・底面ともに焼土化は進んでおらず、東側は23cm程度外側へ被熱範囲が広がる。内部には12cm程度の厚さで灰・炭化物が堆積する。

【出土遺物】 堆積土から土師器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。ただし炉の周囲の炭化物層を水洗したところ、炭化米が少量出土した。

【時期】 詳細な時期は不明だが、SI3よりは古く、後述するSB3より新しいことから、中世と考えられる。



第14図　SI5竪穴遺構

SI5 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
竪穴堆積土	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック・礫（ともに 5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。

SI5 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
炉	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルト粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	灰互層状に多量、焼土粒・炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。
P1	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒微量含む。
P2	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。
P3	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルト粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・礫（ともに 5mm 程度）微量含む。
P5	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルト粒・礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒微量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。
P6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルト微量含む。
P7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・礫（ともに 5mm 程度）微量含む。
P8	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒微量含む。
P9	※欠番（SI3 付属柱穴列２の柱穴へ変更			
P10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
P11	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・礫（5 ～ 200mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、礫（10mm 程度）微量含む。
P12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。※柱痕跡
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
P13	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。
P14	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
P15	※欠番（SI3 付属柱穴列２の柱穴へ変更			

SI5 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	（24）×（22）	18	補助柱穴
P2	楕円形	25 × 18	6	補助柱穴
P3	楕円形	38 × 28	30	主柱穴
P4	円形	25 × 19	20	主柱穴
P5	円形	25 × 25	20	主柱穴
P6	円形	（26）× 26	25	主柱穴
P7	円形	25 × 23	41	主柱穴
P8	（楕円形）	25 ×（24）	30	主柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P9	SI3 付属柱穴列２の柱穴へ変更			
P10	円形	16 × 15	13	補助柱穴
P11	（円形）	47 ×（42）	33	主柱穴
P12	（円形）	23 ×（22）	28	
P13	（円形）	23 × 22	17	
P14	（円形）	（27）× 23	19	
P15	SI3 付属柱穴列２の柱穴へ変更			

（2）掘立柱建物跡（第 15 ～ 24 図）

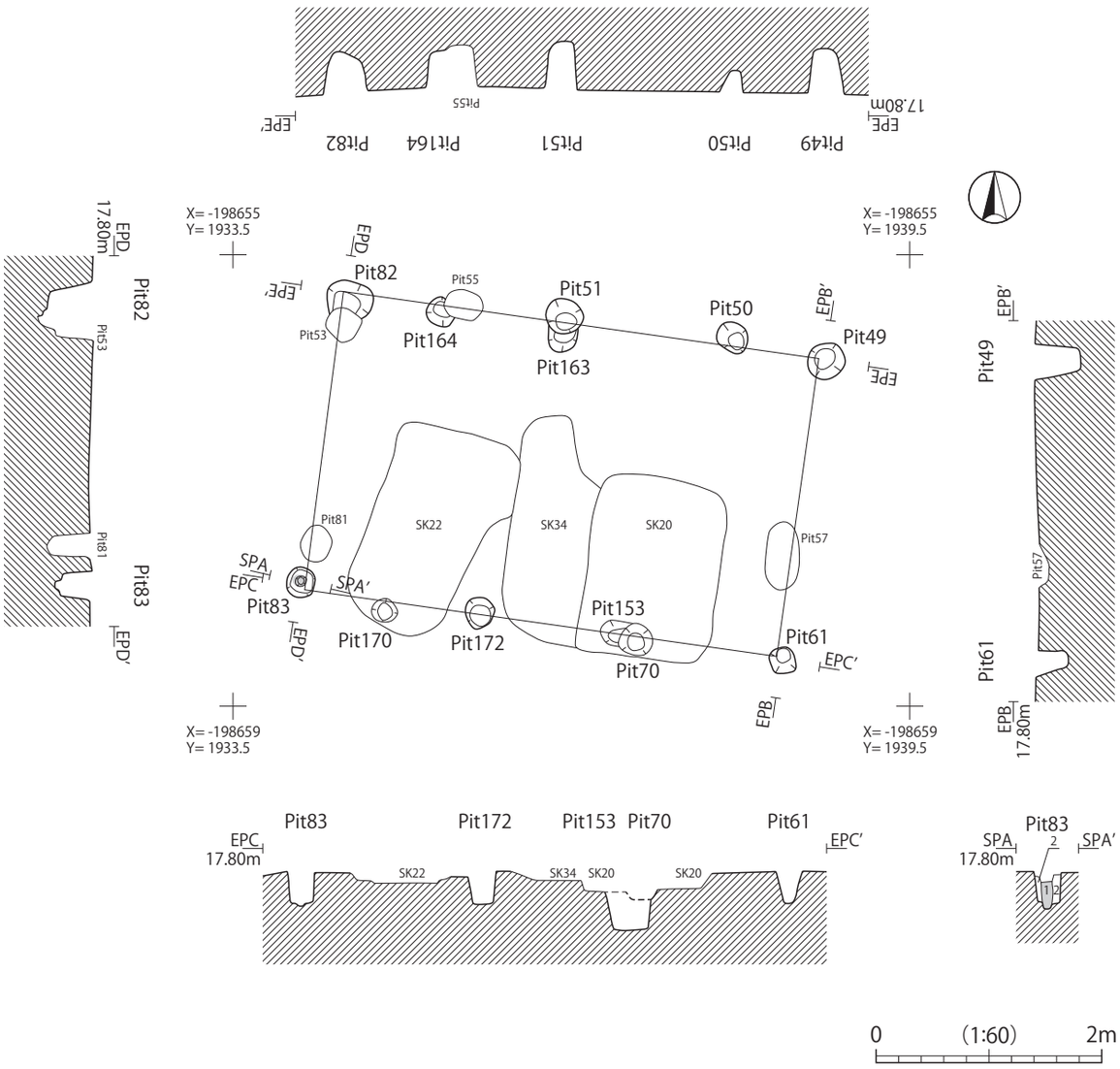
掘立柱建物跡は、7 棟（SB1 ～ 7）確認された。調査区北東部から中央部付近にかけて分布する。構造的には側柱（SB1 ～ 3・5）、総柱（SB4・6・7）の両形態があり、庇が付く建物も 3 棟存在する（SB3・4・6）。棟方向は東西棟が 3 棟（SB1・3・6）、南北棟が 4 棟（SB2・4・5・7）である。規模は SB5 の桁行総長 713cm が最大で、SB4 の桁行総長 370cm（身舎部分のみ）が最小である。柱穴規模では、長軸 20 ～ 30cm 前後の柱穴を主体に構成される SB1・4・5・7、長軸 50 ～ 60cm の柱穴を主体に構成される SB2・3・6 がある。これら建物群には棟範囲が重複する SB2・5 や、柱穴同士が重複する SB4・7 があり、ある程度の時間差が存在すると考えられる。このうち東西に並ぶ SB3・6 は、身舎及び庇の延長線が一致することから同時に存在していた建物の可能性がある。この 2 棟はともに SI3 ～ 5 といった竪穴遺構より古い建物跡である。今回検出された掘立柱建物跡はいずれも詳細な時期は不明であるが、SB3 の柱穴からは無釉陶器甕が、SB6 の柱穴からは青磁碗の破片がそれぞれ出土しており、中世の掘立柱建物跡も存在すると考えられる。

SB1 掘立柱建物跡（第 15 図）

調査区北東部の 19・20 区に位置し、13 基の柱穴を確認した。SI3 付属柱穴列 1・2（Pit53・55）、SK20・22 より古い。調査中に図上で確認した建物跡であり、このため柱穴名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北 1 間、東西 4 間の東西棟側柱建物跡で、北側桁行を基準とした主軸方向はＮ－82°－Ｗを測る。規模は、桁行総長 423cm、梁行総長 266cm、床面積は約 11.3㎡である。柱間寸法は、南側桁部で東から 125・140・85・73cm、北側桁部で東から 75・153・108・87cm と、桁行は南北で柱間寸法に違いがある。柱穴の平面形状は円形が主体で、一部楕円形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸 24 ～ 41cm 以上、短軸 21 ～ 41cm、深さ 21 ～ 45cm を測る。Pit83 で径 13cm 程度の柱痕跡を確認し、その底面には窪みがある。Pit51 と Pit163、Pit70 と Pit153 のように重複する柱穴もあり、建て替えが考えられる。

遺物は出土しておらず、本建物跡の詳細な時期は不明である。



第 15 図　SB1 掘立柱建物跡

SB1 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit49	19	円形	34×32	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit50	19	円形	31×25	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit51	19	円形	34×31	45	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（10～20mm程度）微量含む。	Pit163より新しい。
Pit61	19	円形	24×22	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰白色シルトブロック（10mm程度）・焼土粒微量含む。	
Pit70	19	［円形］	［29］×［27］	［23］	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK20より古く、Pit153より新しい。
Pit82	19	［円形］	［35］×41	41	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・黒褐色シルトブロック（5～20mm程度）多量含む。	SI3付属柱穴列2より古い。
Pit83	19	円形	26×25	33	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。	
Pit153	19	［楕円形］	［41］×［21］	—	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・礫（10～40mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK20、Pit70より古い。
Pit163	19	［楕円形］	［23］×26	—	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	Pit51より古く、Pit211より新しい。
Pit164	19	［円形］	26×［23］	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SI3付属柱穴列1より古い。
Pit170	19	楕円形	［23］×［21］	［11］	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。	SK22より古い。
Pit172	19	円形	28×25	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	

SB2 掘立柱建物跡（第16図）

調査区中央部北西寄りの17・18・22・23区に位置し、10基の柱穴を確認した。SD10・11より古く、SK58、Pit237・456より新しい。範囲的にはSB5とも重複するが、新旧関係は不明である。

南北3間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方向はN－11°－Eを測る。規模は、桁行総長615cm、梁行総長351cm、床面積は約21.6㎡である。南側梁部のP5は48cm程度外側に位置し、棟持柱と考えられる。柱間寸法は、東側桁部で南から206・209・200cm、北側梁部で東から182・169cmを測る。柱穴の平面形状は円形が主体で、P1が隅丸長方形、P9が不整形を呈する。柱穴の規模は長軸34～98cm以上、短軸34～85cm、深さ18～54cmを測る。梁に相当するP5・10は比較的小型で浅い。P2・3・6で径13～16cm程度の柱痕跡を確認し、P1・3・6の底面には窪みがある。

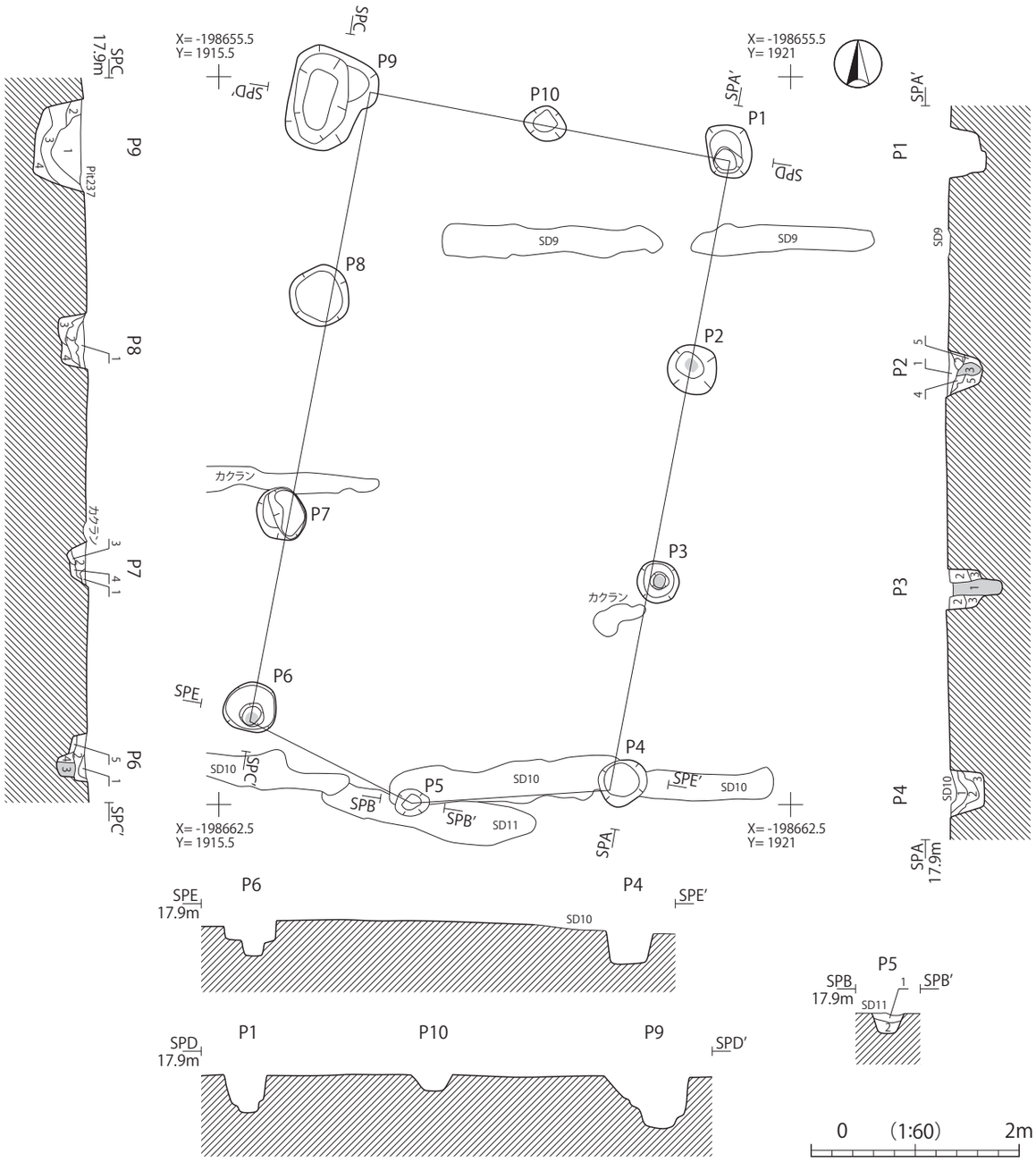
遺物はP4・5～7から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明であるが、建物構造や配置などから、後述するSB3と近い時期が考えられる。

SB3 掘立柱建物跡（第17・18図）

調査区中央部の18・23区に位置し、19基の柱穴を確認した。SI5、SD4・5、SK26・39、Pit239・267・277より古く、SK64、Pit394・438・441・444・458～460・466より新しい。一部の柱穴については調査中に図上で本建物跡に含まれることを確認したため、これらの名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北2間、東西3間の東西棟側柱建物跡で、南北両桁に庇が付く。北側桁行を基準とした主軸方向はN－81°－Wを測る。規模は、桁行総長525cm、梁行総長409cm、床面積は約21.4㎡である。柱間寸法は、南側桁部で東から198・223・104cm、北側桁部で東から193・212・120cmと、桁行は南北で柱間寸法に違いがある。梁行の柱間寸法は、東側梁部で南から198・211cmを測る。庇の幅は南側で130cm、北側で132cmを測る。南東側では身舎と庇との間にP3が位置するが、性格は不明である。柱穴の平面形状は円形が主体で、一部楕円形、隅丸長方形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸42～80cm以上、短軸33～57cm、深さ27～60cmを測る。P1・3・4・6・8、Pit280・282で径12～18cm程度の柱痕跡を確認し、P10、Pit283の底面には径12～16cm程度の変色範囲を確認した。P1・2・7・9・11・12、Pit72・283の底面には窪みがあり、P4・10からは礎盤石の可能性がある扁平な礫が出土した。P1・7・9・11・Pit283には底面の変色範囲や窪みが2箇所あり、建て替えが考えられる。



SB2 掘立柱建物跡 観察表（1）

遺構名	区割	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
P1	18	隅丸長方形	51×42	36	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
P2	17・18	円形	50×49	36	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルト互層状に少量含む。	Pit456より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、礫（30mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P3	17・22	円形	40×39	54	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SK58より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）微量含む。	

第16図　SB2掘立柱建物跡

SB2 掘立柱建物跡 観察表（2）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
P4	22	［円形］	47×［42］	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）微量含む。	SD10より古い。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～40mm程度）多量、黒褐色シルトブロック（5～40mm程度）微量含む。	
P5	22	［円形］	［34］×［26］	［22］	1	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・礫（10mm程度）微量含む。	SD10・11より古い。
					2	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
P6	22	円形	51×47	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					5	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P7	17	［円形］	53×45	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック・灰白色火山灰ブロック（ともに5mm程度）微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P8	17	円形	59×59	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
P9	17	［不整形］	［98］×85	50	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～30mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）少量含む。	Pit237より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
P10	17	円形	41×34	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、焼土粒微量含む。	

遺物はP9・10から土師器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。また、Pit282から無釉陶器甕の破片が1点出土したが、これも図化できなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明だが、出土遺物から中世と考えられる。

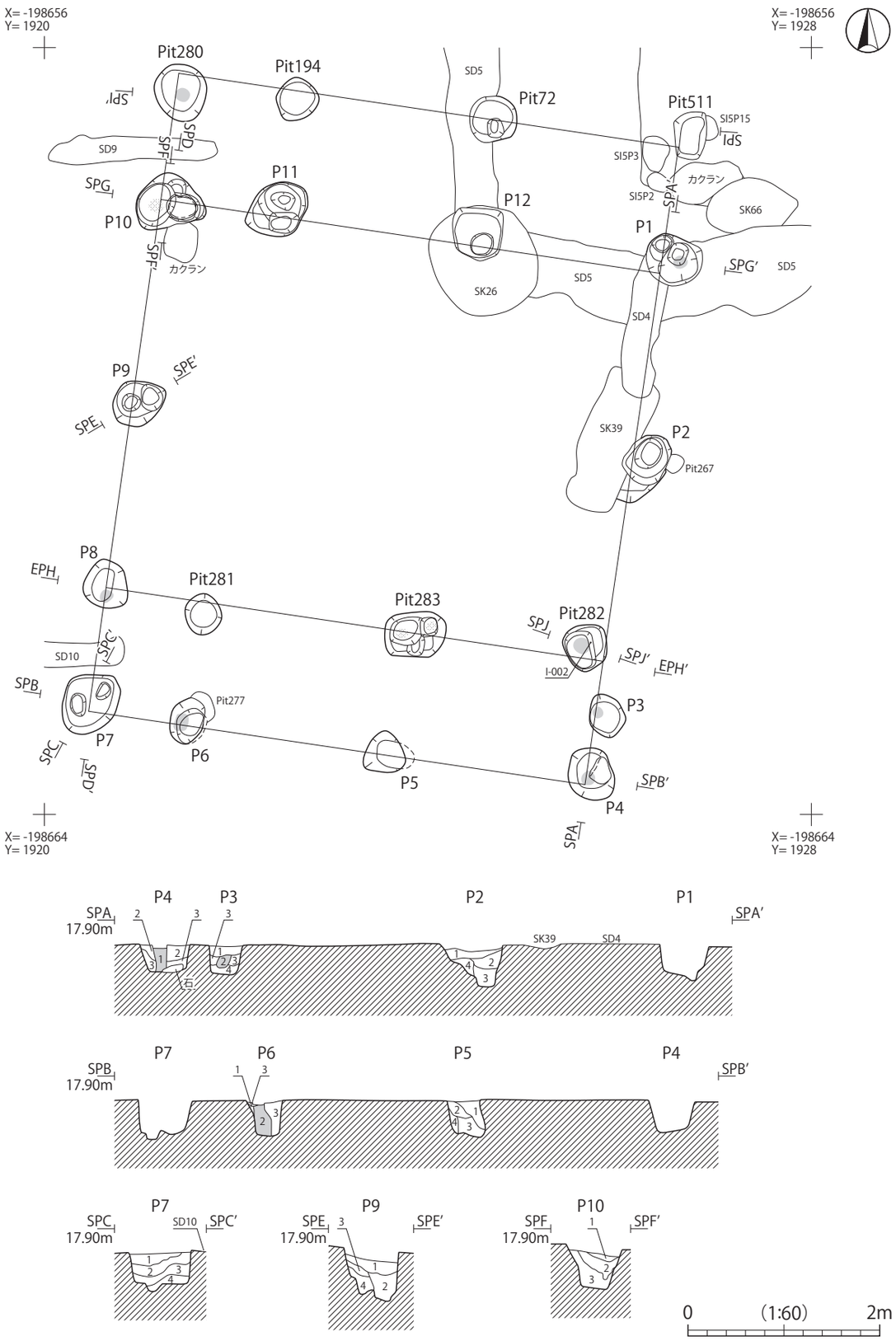
SB4 掘立柱建物跡（第19・20図）

調査区中央部の27・28・32・33区に位置し、15基の柱穴を確認した。SB7、Pit477・498より新しい。南側の一部は撹乱により失われている。

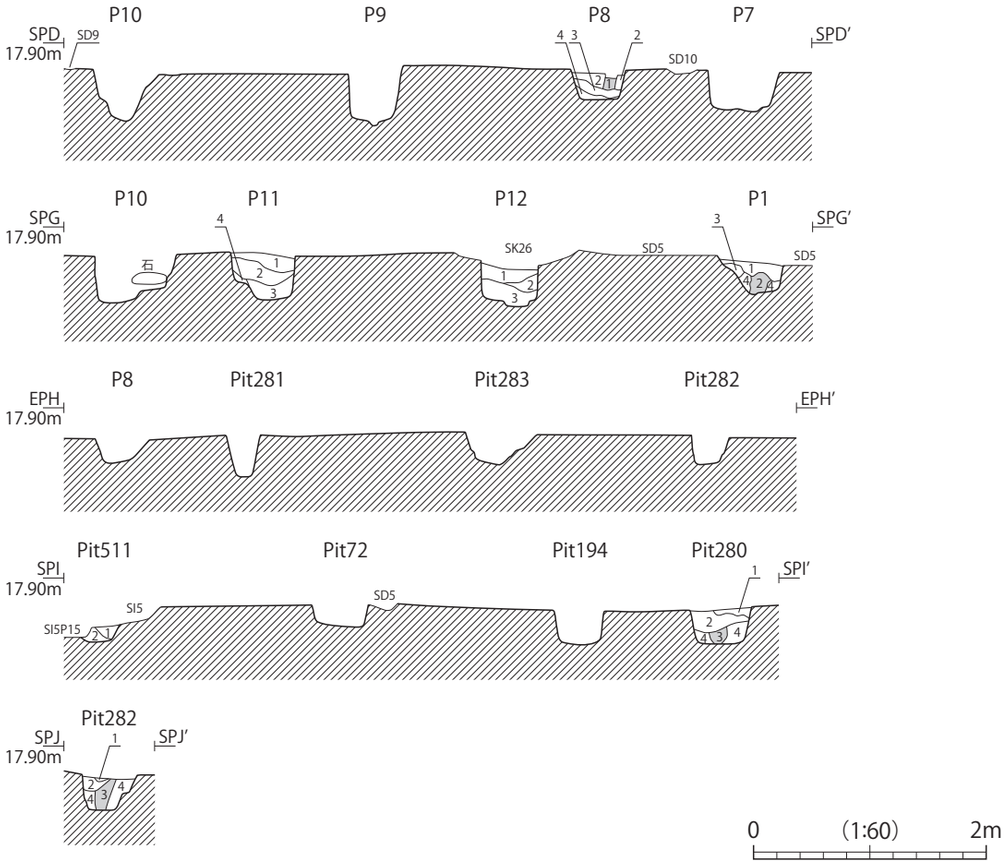
南北2間、東西2間の総柱建物跡で南北に若干長く、桁方向を示すと考えられる。東西両桁に庇が付く。東側桁行を基準とした主軸方向はN－3°－Eを測る。規模は、桁行総長370cm、梁行総長339cm、床面積は約12.5㎡である。柱間寸法は、東側桁部で南から194・188cm、西側桁部で南から171・199cmと、桁行は東西で柱間寸法に違いがある。梁行の柱間寸法は、北側桁部で東から159・180cmを測る。庇の幅は東側で68cm、西側で105cmを測る。柱穴の平面形状は円形が主体で、一部楕円形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸26～46cm、短軸26～37cm、深さ19～42cmを測る。P2・6・8～10・13で径11～20cm程度の柱痕跡を確認した。

遺物はP5～6・7・9・14・15から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明だが、本建物跡よりも古いPit477からは無釉陶器鉢の破片が出土しており、中世と考えられる。



第17図　SB3 掘立柱建物跡（1）



SB3 掘立柱建物跡 観察表 (1)

遺構名	区割	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
P1	18	［円形］	［60］×［50］	33	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SD4・5 より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、礫（10mm 程度）微量含む。※柱痕跡	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、礫（5 ～ 10mm 程度）微量含む。	
P2	23	［楕円形］	［80］×［45］	45	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK39、Pit267 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5mm 程度）多量、礫（5 ～ 10mm 程度）微量含む。	
					3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・礫（10mm 程度）微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、礫（10mm 程度）微量含む。	
P3	23	円形	47 × 36	27	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルト互層状に少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。※柱痕跡	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	
					4	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量含む。	
P4	23	楕円形	55 × 48	30	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。	
P5	23	円形	44 × 44	40	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	Pit441 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、礫（20mm 程度）微量含む。	
					4	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。	

第 18 図　SB3 掘立柱建物跡 (2)

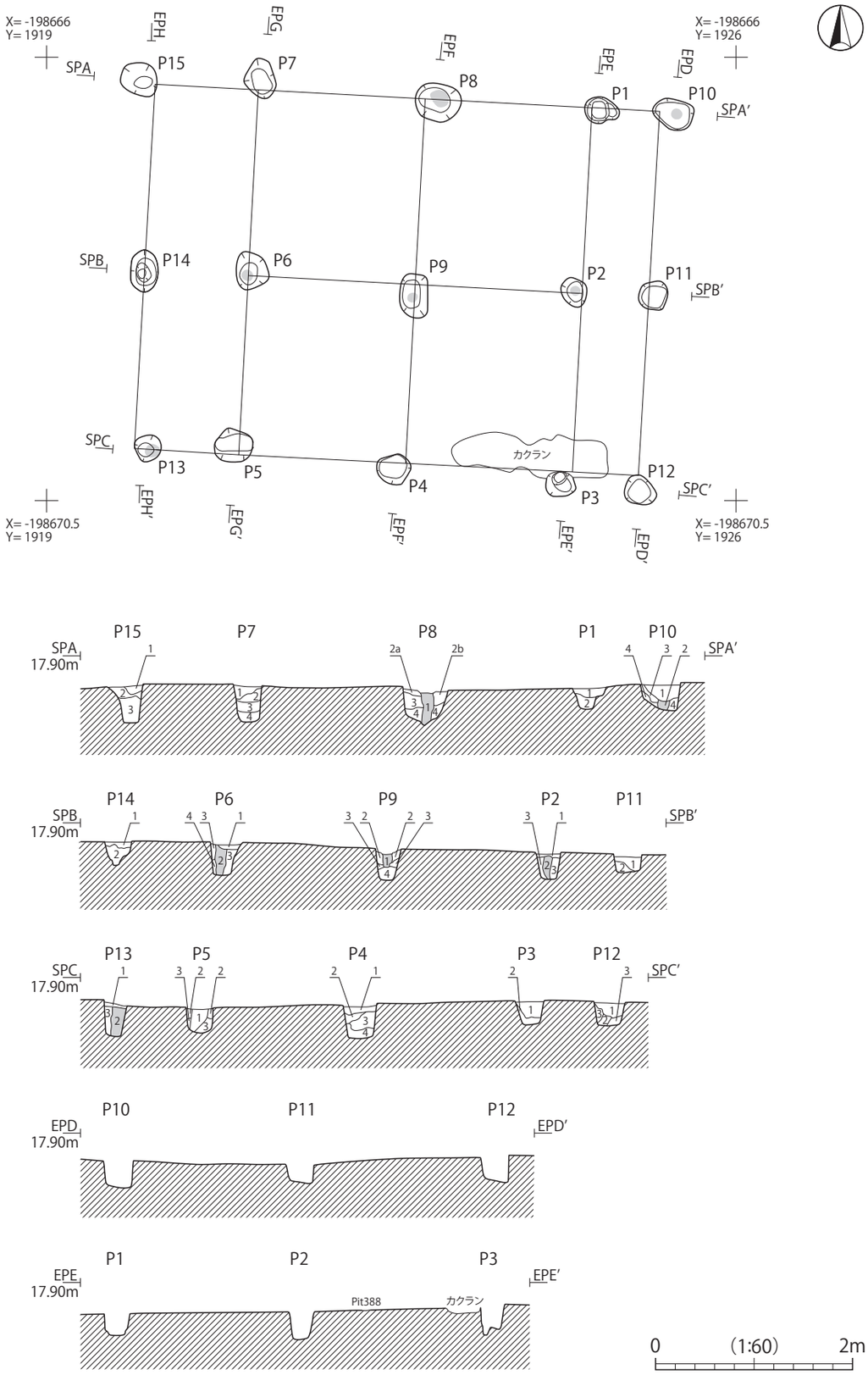
SB3 掘立柱建物跡 観察表（2）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
P6	23	［楕円形］	［49］×35	37	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状・灰色シルト互層状に少量含む。	Pit277より古い。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。※柱痕跡	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
P7	23	円形	62×56	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	
P8	23	円形	51×45	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	Pit438・466より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。	
P9	18	円形	58×48	60	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～40mm程度）多量含む。	
P10	18	円形	71×57	42	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	Pit239より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～50mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
P11	18	円形	60×53	44	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）多量、礫（5～20mm程度）微量含む。	SK64、Pit458・459より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（40mm程度）微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。	
P12	18	［円形］	［55］×［52］	［49］	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～20mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK26より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～20mm程度）少量含む。	
Pit72	18	円形	［49］×［47］	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～50mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SD5より古く、Pit460より新しい。
Pit194	18	円形	46×45	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit280	18	円形	61×54	31	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、礫（5～10mm程度）微量含む。	
Pit281	23	円形	42×39	41	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒・礫（10mm程度）少量含む。	Pit394より新しい。
Pit282	23	円形	50×46	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。	Pit444より新しい。
					2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、礫（20mm程度）微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒少量含む。※柱痕跡	
					4	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit283	23	隅丸長方形	64×47	44	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit511	18	［隅丸長方形］	［49］×［33］	［16］	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	SI5より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	

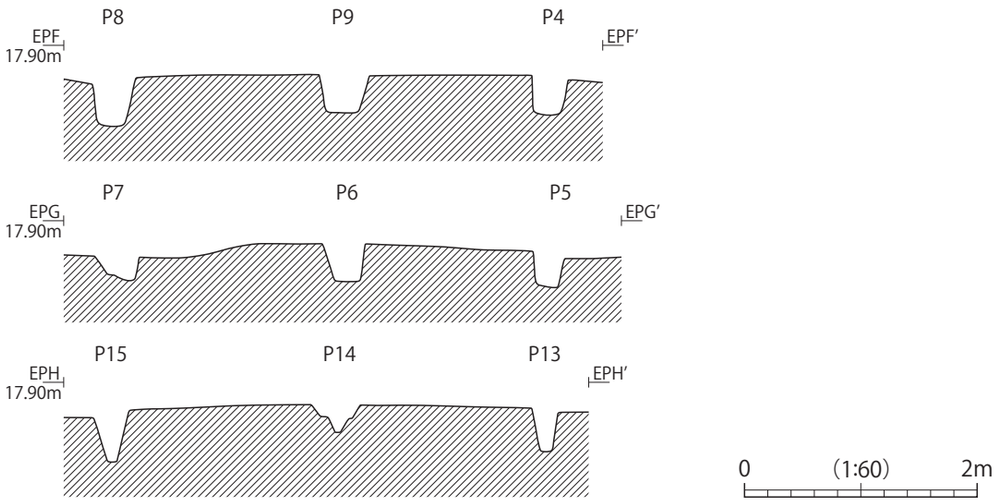
SB5 掘立柱建物跡（第21図）

調査区中央部北西寄りの12・17・22区に位置し、10基の柱穴を確認した。SA1・2より古く、範囲的にはSB2とも重複するが、新旧関係は不明である。調査後に図上で確認した建物跡であるため、柱穴名称は調査時のピット名称をそのまま使用した。

南北3間、東西2間の南北棟側柱建物跡で、東側桁行を基準とした主軸方向はN－8°－Eを測る。規模は、桁行総長713cm、梁行総長375cm、床面積は約26.7㎡である。柱間寸法は、東側桁部で南から210・240・263cm、北



第19図　SB4掘立柱建物跡（1）



SB4 掘立柱建物跡 観察表（1）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
P1	28	不整形	36×27	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	
P2	28	円形	31×26	28	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・礫（10mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（20mm程度）微量含む。	
P3	33	円形	31×26	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	Pit477より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	
P4	33	楕円形	32×31	36	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）多量、焼土粒微量含む。	SB7より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	
P5	28・33	楕円形	38×30	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SB7より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
P6	28	円形	38×33	34	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・炭化物粒微量含む。	Pit498より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。	
P7	28	楕円形	41×31	20	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
P8	28	円形	46×37	41	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					2a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					2b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P9	28	楕円形	44×29	31	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック・焼土ブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・焼土粒微量含む。	

第20図　SB4掘立柱建物跡（2）

SB4 掘立柱建物跡 観察表（2）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
P10	28	円形	41×30	28	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。※柱痕跡	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）多量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P11	28	円形	31×31	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P12	33	円形	35×28	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
P13	27・28 32・33	円形	26×26	36	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルト互層状に多量含む。※柱痕跡	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・灰色シルトブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
P14	27・28	楕円形	43×27	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	
P15	27・28	円形	41×33	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	

側梁部で東から190・185cmを測る。柱穴の平面形状は円形が主体で、楕円形、長方形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸24～55cm、短軸22～34cm、深さ23～43cmを測る。Pit225・256・271で径16～19cm程度の柱痕跡を確認し、Pit223・233・260の底面には径10～16cm程度の変色範囲を確認した。

遺物はPit223・258・259・260・263から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。また、Pit258から鉄製刀子の破片が1点出土したが、これも図化できなかった。

本建物跡の詳細な時期は不明である。

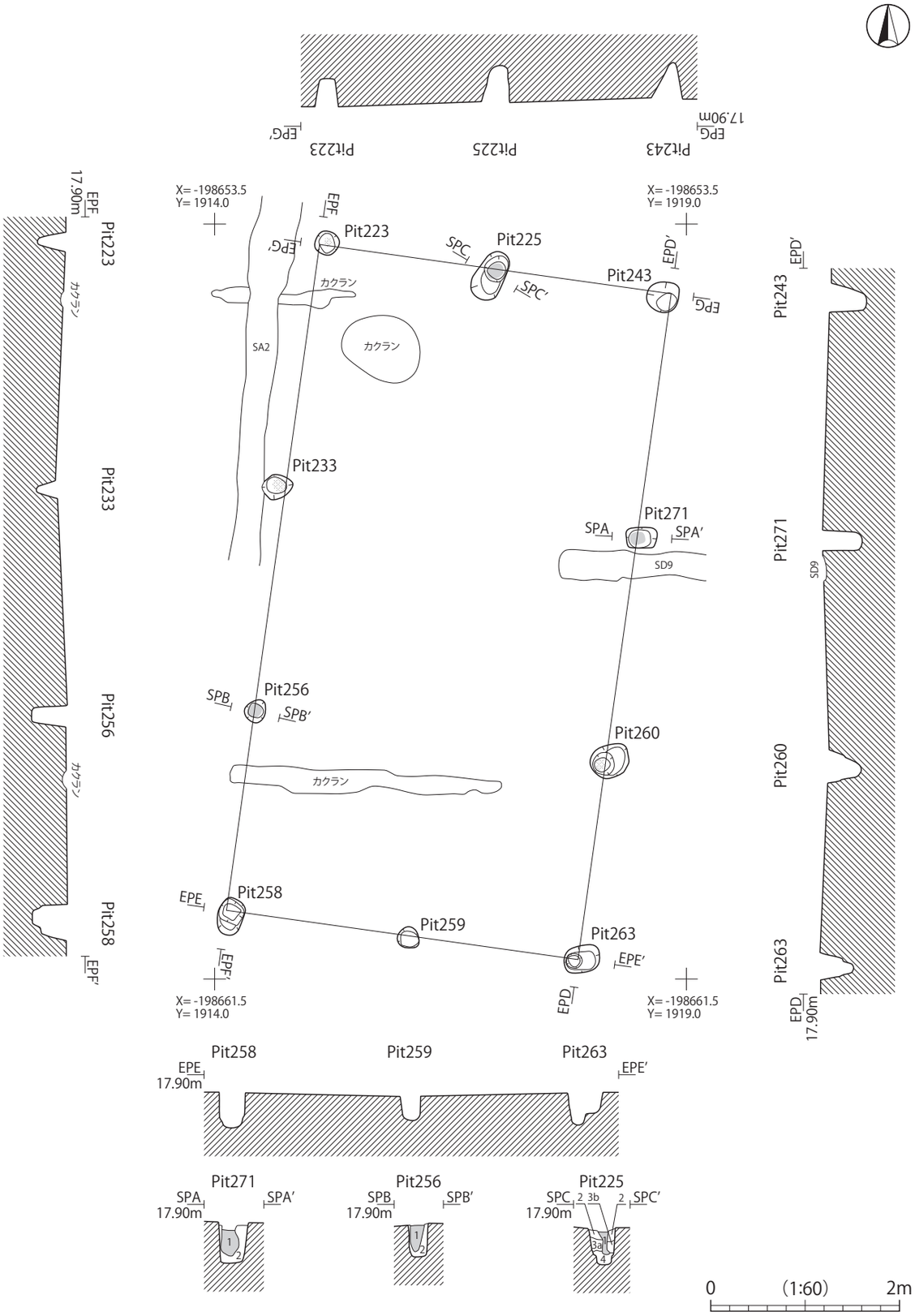
SB6 掘立柱建物跡（第22・23図）

調査区中央部東寄りの18・19・23・24区に位置し、11基の柱穴を確認した。SI3・4、SK23・24・44、Pit86・121より古く、Pit264・464・520より新しい。南側は撹乱により、北側はSI3との重複により一部の柱穴が失われている。調査後に図上で確認した建物跡であるため、柱穴名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北2間、東西2間の総柱建物跡で、東西に若干長く、桁方向を示すと考えられる。南北両桁に庇が付く。北側桁行を基準とした主軸方向はN－83°－Wを測る。規模は、桁行総長442cm、梁行総長421cm、床面積は約18.6㎡である。柱間寸法は、南側桁部で東から221・221cm、東側梁部で南から178・243cmを測る。庇の幅は南側で125cm、北側で118cmを測る。柱穴の平面形状は楕円形が主体で、Pit79が円形、Pit529が不整方形である。柱穴の規模は長軸25～63cm、短軸20～56cm以上、深さ14～42cmを測る。Pit219で底面に径19cm程度の変色範囲を確認し、Pit529の底面には窪みがある。

遺物はPit79・221・326・から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。また、Pit79から龍泉窯産とみられる青磁碗の高台部破片が1点出土したが、これも図化できなかった。

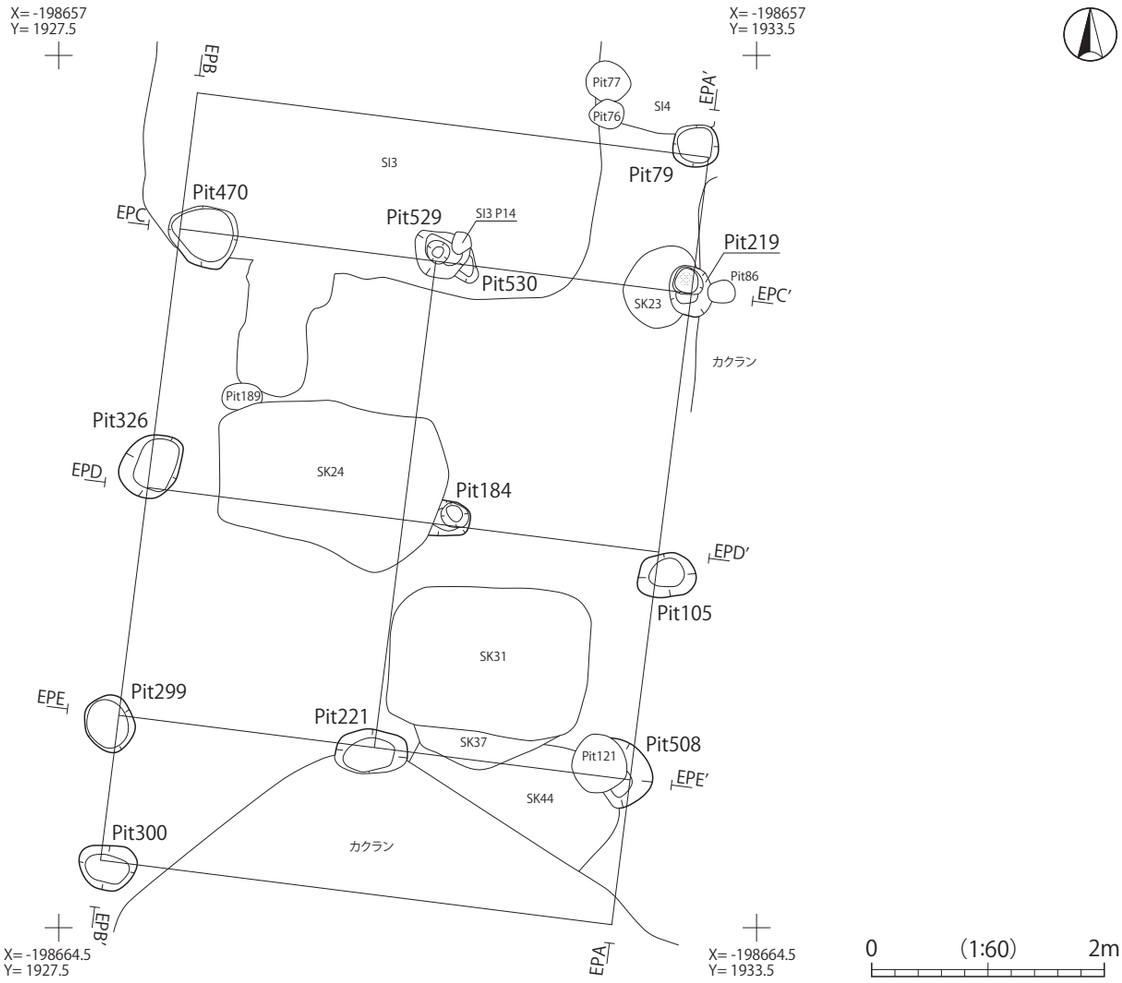
本建物跡の詳細な時期は不明だが、出土遺物から中世と考えられる。



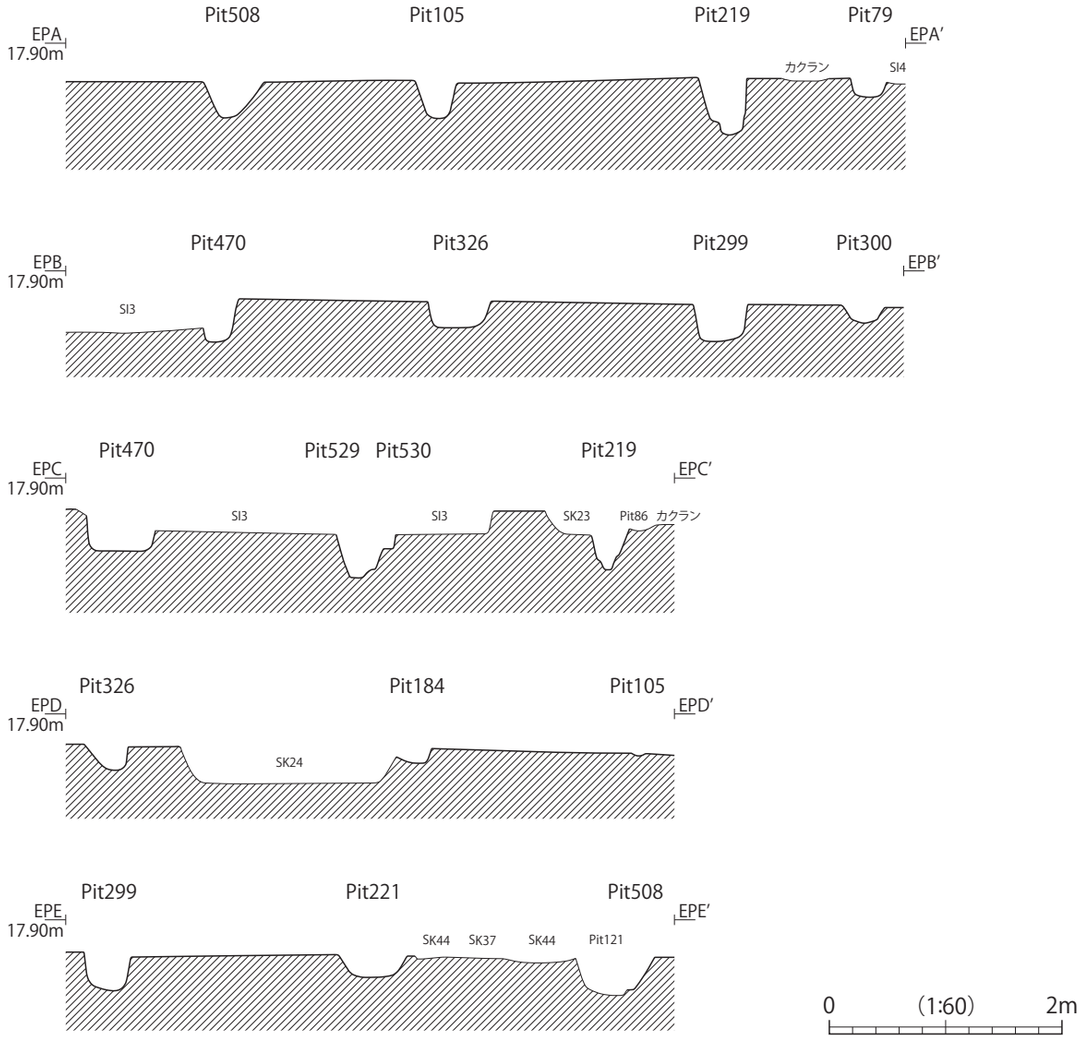
第21図　SB5 掘立柱建物跡

SB5 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit223	12	円形	25×25	31	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit225	12	長楕円形	55×32	39	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量含む。※柱痕跡	
					3a	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	
					3b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～20mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit233	17	円形	30×26	23	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	SA2より古い。
Pit243	12	円形	37×34	37	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	
Pit256	17	円形	26×22	36	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit258	22	楕円形	39×28	37	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）少量、灰色シルトブロック（10mm程度）微量含む。	
Pit259	22	円形	24×23	26	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰白色火山灰ブロック（ともに5mm程度）微量含む。	
Pit260	17	楕円形	41×34	36	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit263	22	長方形	38×29	25	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit271	17	長方形	33×22	43	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	



第22図　SB6掘立柱建物跡（1）



SB6 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit79	19	円形	39×36	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SI4より古く、Pit264より新しい。
Pit105	24	楕円形	51×37	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit184	24	楕円形？	［35］×31	14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック・礫（ともに5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK24より古い。
Pit219	19	楕円形	(42)×(38)	42	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・灰白色火山灰ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物ブロック（5～10mm程度）少量含む。	SK23、Pit86より古い。
Pit221	23・24	楕円形	63×38	23	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・礫（10mm程度）・炭化物粒少量含む。	Pit520より新しい。
Pit299	23	楕円形	48×43	32	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～50mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit300	23	楕円形	49×40	17	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit464より新しい。
Pit326	23	長方形	58×48	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・礫（5～10mm程度）・炭化物微量含む。	
Pit470	19	楕円形	(62)×(56)	41	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・褐灰色シルトブロック（ともに5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。	SI3より古い。
Pit508	24	楕円形	(60)×47	32	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、黒褐色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒少量、焼土ブロック（5mm程度）微量含む。	SK44、Pit121より古い。
Pit529	19	不整方形	48×39	28	※注記なし				SI3より古く、Pit530より新しい。
Pit530	19	楕円形？	［25］×［17］	18	※注記なし				Pit529より古い。

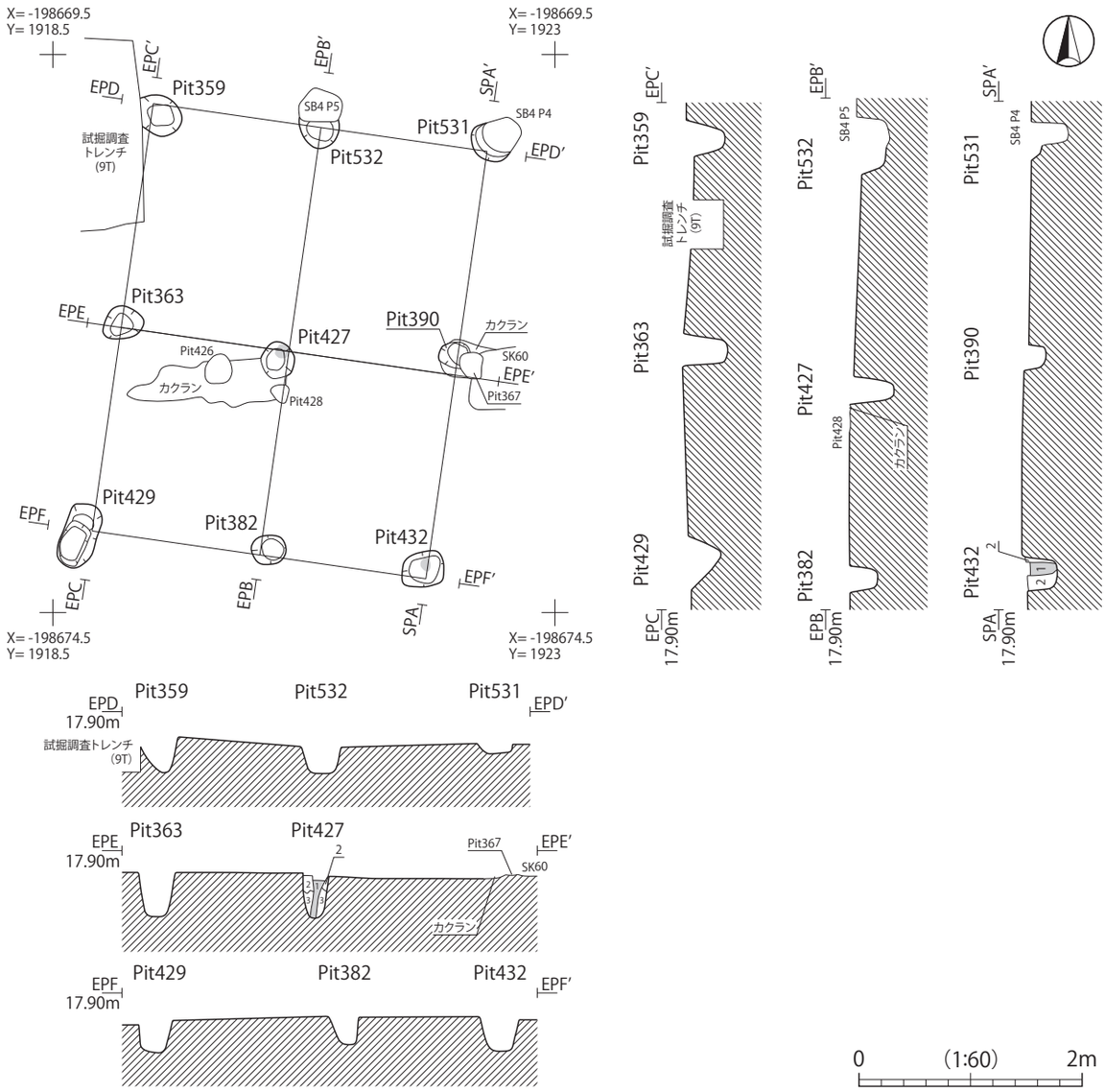
第23図　SB6掘立柱建物跡（2）

SB7 掘立柱建物跡（第 24 図）

調査区中央部南寄りの 27・28・32・33 区に位置し、9 基の柱穴を確認した。SB4、Pit367 より古い。調査後に図上で確認した建物跡であるため、柱穴名称は調査当初のピット名称をそのまま使用した。

南北 2 間、東西 2 間の総柱建物跡で、南北に若干長く、桁方向を示すと考えられる。東側桁行を基準とした主軸方向はＮ－8°－Ｅを測る。規模は、桁行総長 387cm、梁行総長 302cm、床面積は約 11.7㎡である。柱間寸法は、東側桁部で南から 200・187cm、西側桁部で南から 184・203cm と、桁行は東西で柱間寸法に違いがある。梁行の柱間寸法は、南側梁部で東から 150・152cm を測る。柱穴の平面形状は楕円形が主体で、一部円形、長方形の柱穴も存在する。柱穴の規模は長軸 25 ～ 59cm、短軸 23 ～ 35cm、深さ 9 ～ 40cm を測る。Pit427・432 で径 12 ～ 13cm 程度の柱痕跡を確認した。

遺物は出土しておらず、本建物跡の詳細な時期は不明である。



第 24 図　SB7 掘立柱建物跡

SB7 掘立柱建物跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit359	17・32	楕円形	［43］×35	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit363	32	楕円形	38×30	40	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	
Pit382	33	楕円形	31×26	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
Pit390	33	楕円形	［25］×23	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（10mm程度）微量含む。	Pit367より古い。
Pit427	33	円形	［30］×30	40	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、黒褐色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	
Pit429	32	長方形	59×32	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit432	33	長方形	38×31	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit531	33	円形？	38×［24］	9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）微量含む。	SB4より古い。
Pit532	33	円形？	35×［27］	25	※注記なし				SB4より古い。

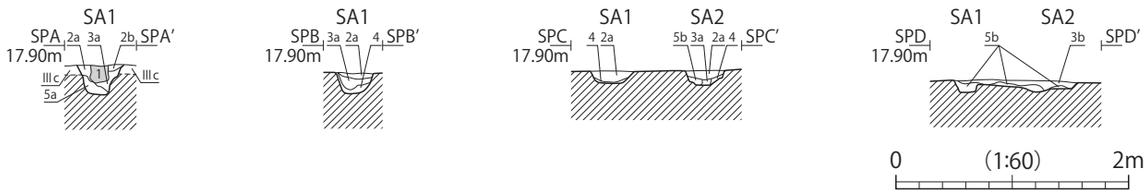
(3) 木柵跡（第25・26図）

木柵跡は、2条（SA1・2）確認された。ともに調査区北西部～西部の02・07・12・17・22・27区に位置し、SA1の東側にSA2が平行する。SA1の南端部付近とSA2の中央部付近は東西方向の溝により連結し、別番号としたが同一の遺構である。SA1の北端部は調査区外へと延びる。他遺構との重複関係はPit270より古く、SB5、Pit63～65より新しい。

主軸方位はSA1がN－7°－E、SA2はN－9°－Eで、ともに南北方向へと直線的に延びる。検出した規模は、SA1が長さ21.45m、SA2が17.76mで、上端幅は23～47cm、下端幅は9～37cm、深さは3～15cmを測る。断面形状は逆台形を呈し、一部箱形を呈する。底面には柱痕跡が並ぶが、間隔は不等で、一部には抜き取り痕とみられる大きめのピットもある。これらのピットの直径は10～25cm前後、深さ5～15cm前後を測る。堆積土は大別で5層に分層され、褐灰色・黒褐色の砂質シルトを主体とする人為的な堆積土である。

遺物は土師器・須恵器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

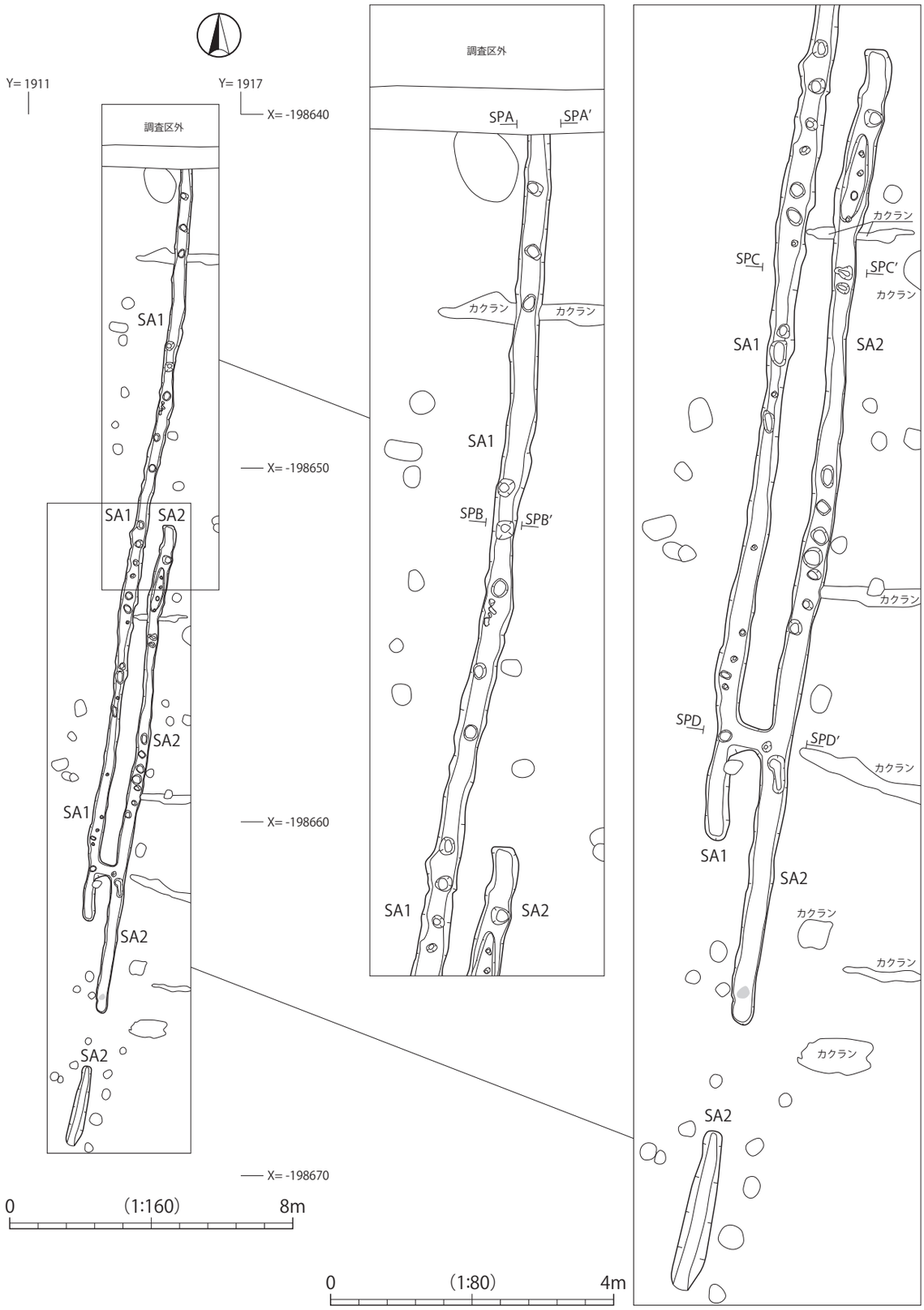
本木柵跡の詳細な時期は不明だが、後述するSD6～8と方位的に直交すること、本木柵跡を境に平安時代～中世の遺構密度が著しく変化することから、SD6～8とともに区画施設の性格が考えられる。



SA1・2木柵跡 観察表

遺構名	区割	方　向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SA1・2	02・07 12・17 22・27	SA1:N-7°-E SA2:N-9°-E	SA1:2145 SA2:1776	23～47	9～37	3～15	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量含む。※柱痕跡	Pit270より古く、SB5、Pit63～65より新しい。
							2a	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）少量含む。	
							2b	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒微量含む。	
							3a	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
							3b	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
							4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	
							5a	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・黒褐色シルトブロック（5～40mm程度）多量含む。	
							5b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、焼土粒微量含む。	

第25図　SA1・2木柵跡（1）



第26図　SA1・2木柵跡（2）

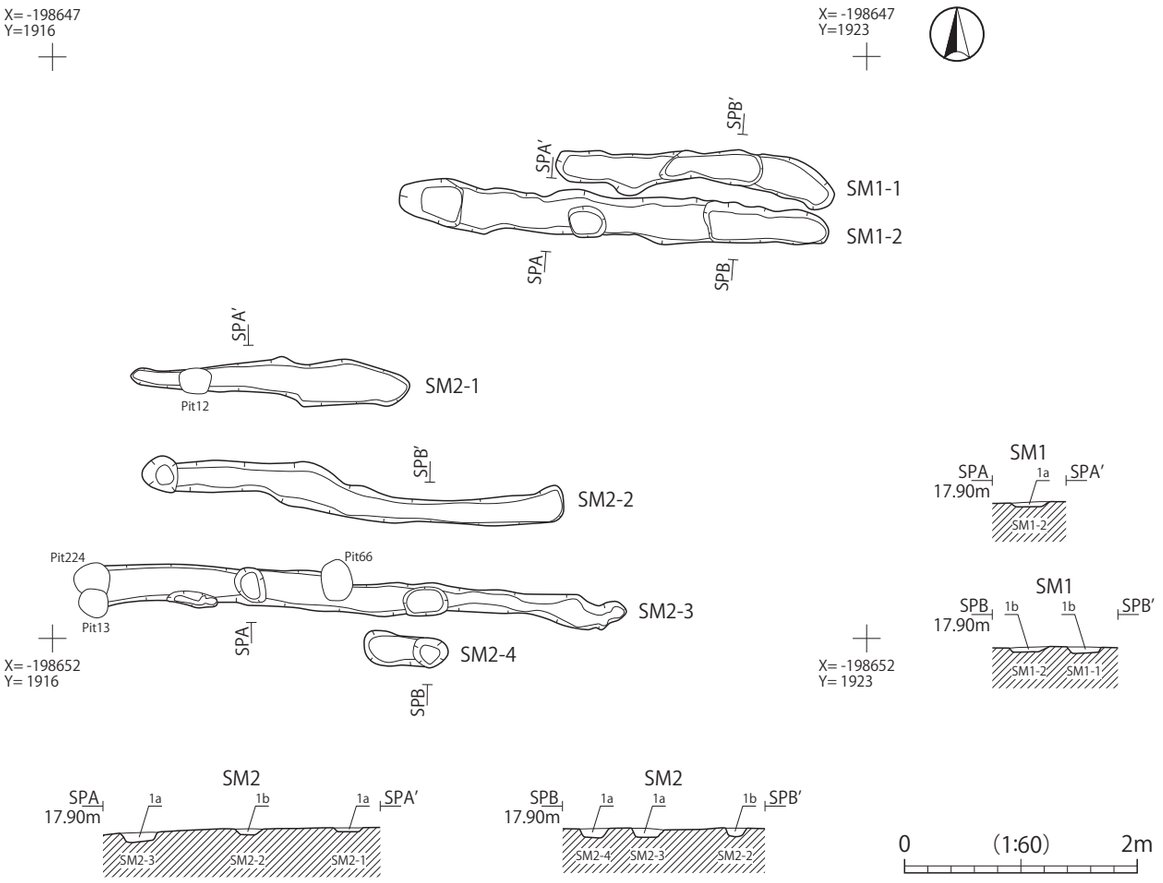
(4) 小溝状遺構群（第27図）

小溝状遺構群は、2群（SM1・2）確認された。調査区北部の07・08・12・13区に位置し、ともに東西方向に延びる。SM1は2条（SM1－1・2）、SM2は4条（SM2－1～4）で構成され、SM1の南側にSM2が平行する。SM2はPit12・13・66・224より古い。

主軸方位はともにN－86°～88°－Wである。検出した規模はSM1が長さ2.32～3.69m、幅21～41cm、深さ1～9 cm、SM2が長さ0.72～4.47 m、幅14～40cm、深さ1～21cmを測る。全体的に幅は均一性がなく、平面形状もいびつである。断面形状はともに逆台形を呈し、底面は起伏が顕著で一部ピット状に掘り込まれる。堆積土はともに黄灰色・暗灰黄色の粘土質シルトもしくは砂質シルトを主体とする。

遺物はSM1から須恵器が、SM2から土師器がそれぞれ少量出土したが、図化できるものはなかった。

本小溝状遺構群の詳細な時期は不明である。



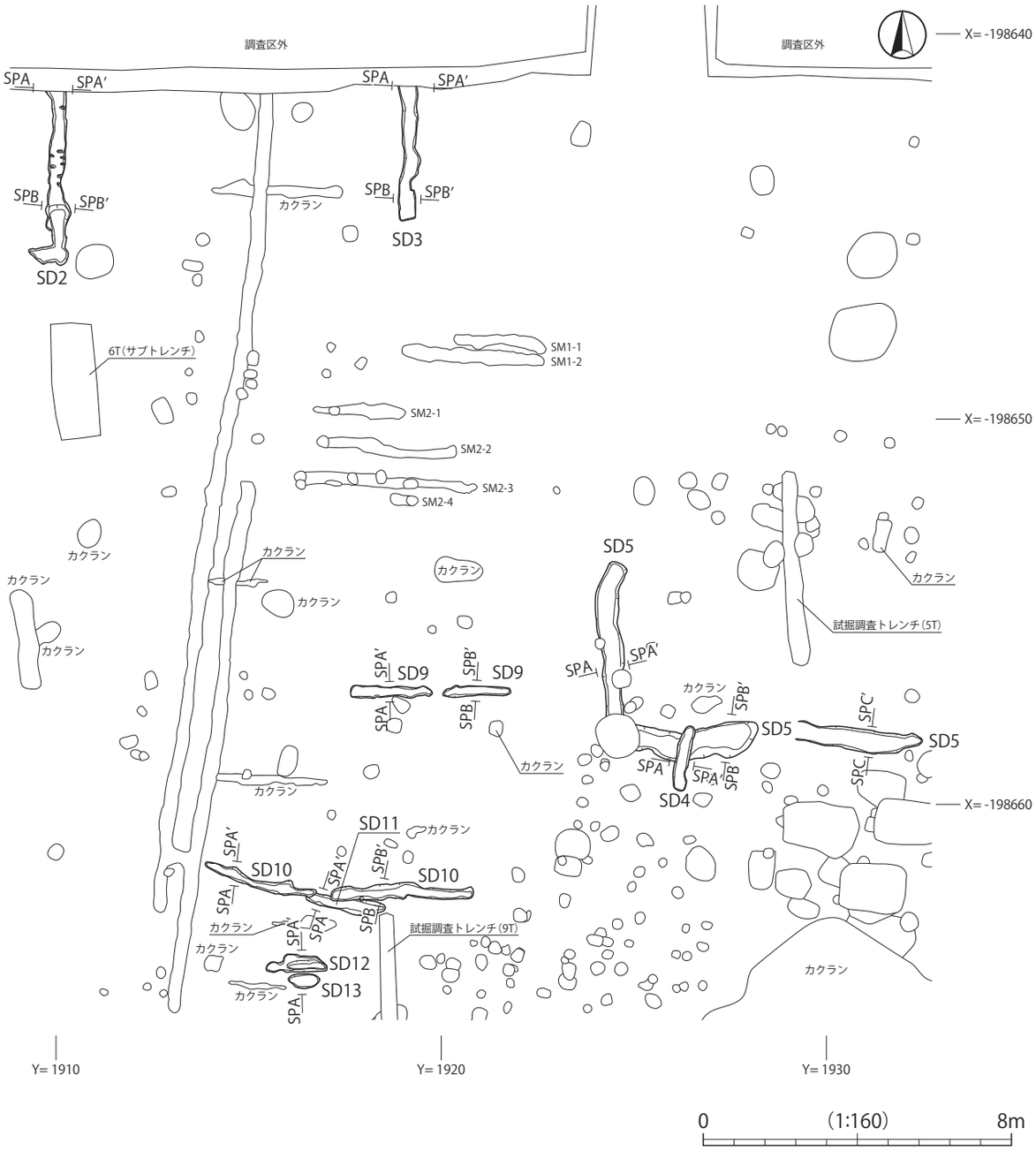
SM1・2小溝状遺構群 観察表

遺構名	区割	方　向	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長さ×幅	深さ					
SM1-1	8	N-87°-W	232×21～36	2～3	1a	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
SM1-2	7・8	N-86°-W	369×26×41	1～9	1b	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・マンガン粒少量含む。	
SM2-1	7	N-88°-W	240×14～39	1～3	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	Pit12より古い。
SM2-2	12・13	N-86°-W	364×19～40	1～21	1b	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
SM2-3	12・13	N-88°-W	［447］×17～36	1～5	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	Pit13・66・224より古い。
SM2-4	12	N-86°-W	72×25～30	2～7	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	

第27図　SM1・2小溝状遺構群

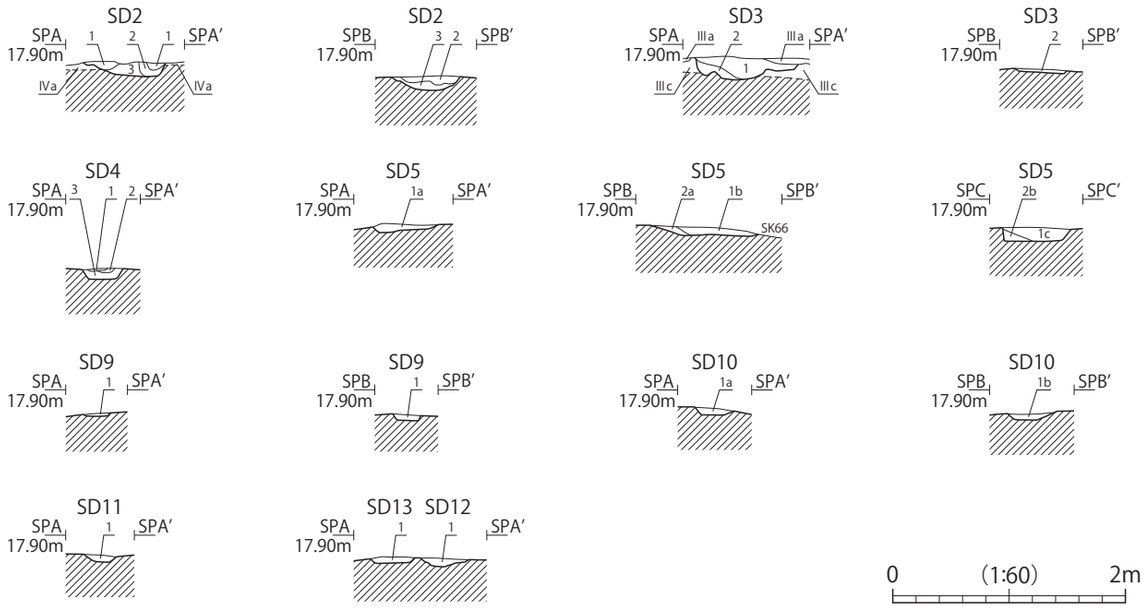
(5) 溝跡（第28～31図）

溝跡は、12条（SD2～13）確認された。方位は概ねSD2～4が南北方向、SD6～13が東西方向で、SD5は「L」字状に屈曲する。直線的な溝跡が多いが、SD10はやや南に膨らんで湾曲する。規模はSD6～8で上幅の最大値が103～122cmを測り、SD2・5が63～92cmとこれに次ぐ。SD3・4・9～13は33～47cmで、SD6～8の1/2程度の幅である。断面形状は逆台形を基本とし、一部でSD2のように「U」字形、SD3・4のように箱形に近い形態も存在する。底面は概ね平坦であるが、SD6～10では部分的に弱く起伏し、SD11では全体が不規則に起伏する。堆



第28図　SD2～5・9～13溝跡（1）

積土はシルトまたは砂質シルトで、色調は褐灰色～黒褐色を主体とする溝跡が多い。遺物はSD2・3・5～8・10・12から土師器・須恵器の破片が少量出土し、SD5・7からは鉄滓が、SD6からは無釉陶器甕の破片が出土しているが、図化できるものはなかった。また、いずれの溝跡も詳細な時期は不明であるが、一部の溝跡は中世と考えられる。



SD2～5・9～13溝跡 観察表

遺構名	区割	方向	規模(cm) 全長	上端幅	下端幅	深さ	層位	土色	土性	備考	重複
SD2	01・02 06・07	N-1°～88°-W	495	32～63	17～44	7～14	1	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量含む。	SK30より新しい。
							2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
							3	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	灰色シルト斑状に多量、Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)少量含む。	
SD3	02	N-2°-E	353	29～44	22～40	1～6	1	7.5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	マンガン粒多量、Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
							2	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、マンガン粒少量、炭化物粒微量含む。	
SD4	18	N-7°-E	171	31～36	11～29	5～7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量含む。	SB3、SD5、SK39、Pit265・524・525・528より新しい。
							2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
							3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルト粒少量、礫(10mm程度)・焼土粒微量含む。	
SD5	13・18 19	N-3°～89°-W	1263	41～92	30～66	4～13	1a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SD4、SK26、Pit69より古く、SI3、SB3、SK66、Pit397・398・460・469・472・522～524より新しい。
							1b	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰色シルトラミナ状に多量、Ⅳ層土ラミナ状・礫(5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
							1c	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・炭化物ブロック(ともに5mm程度)少量、礫(5～10mm程度)・焼土粒微量含む。	
							2a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
							2b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
SD9	17・18	N-89°-E	416	21～33	15～28	2～5	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SB2・3・5と重複するが、新旧関係は不明。
SD10	22・23	N-71～90°-W	709	17～43	6～33	4～9	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む。	SB2、SD11より新しい。SB3との新旧関係は不明。
							1b	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に多量、灰色シルトラミナ状に少量、炭化物粒微量含む。	
SD11	22	N-81°-W	207	26～42	11～27	1～9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(10mm程度)微量含む。	SD10より古く、SB2より新しい。
SD12	22	N-90°-W	159	20～47	12～41	4～9	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(20mm程度)微量含む。	
SD13	22	N-90°-W	159	32～38	17～31	1～3	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトラミナ状に少量、炭化物粒微量含む。	

第29図　SD2～5・9～13溝跡(2)

これらの溝跡のうちSD6～８は最大の規模を有し、３条がほぼ同等の距離を保って平行する。それぞれに何らかの関連性が窺えるほか、木柵跡（SA1・2）と方位的に概ね直交すること、また土坑・ピットをはじめとする平安時代～中世の遺構が希薄になる境界に位置することから、いずれも区画施設の性格をもつと考えられる。以降、SD6～８については個別に報告を行う。その他の溝跡の詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。

SD6溝跡（第30・31図）

調査区中央部、36～38・62区に位置する。東端部は撹乱で壊され、西端部は調査区外へと延びる。SK43、Pit231・232・484より古く、Pit276より新しい。

方位はN－88°－Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は長さ20.67m、上端幅64～122cm、下端幅46～117cm、深さ４～17cmを測る。断面形状は逆台形を呈するが、調査区壁の断面では北壁にテラス状の段差を伴っている。底面は部分的に弱く起伏し、東から西に向かって僅かに傾斜する。堆積土は大別で３層に分層され、黒褐色シルトを主体とする自然堆積である。

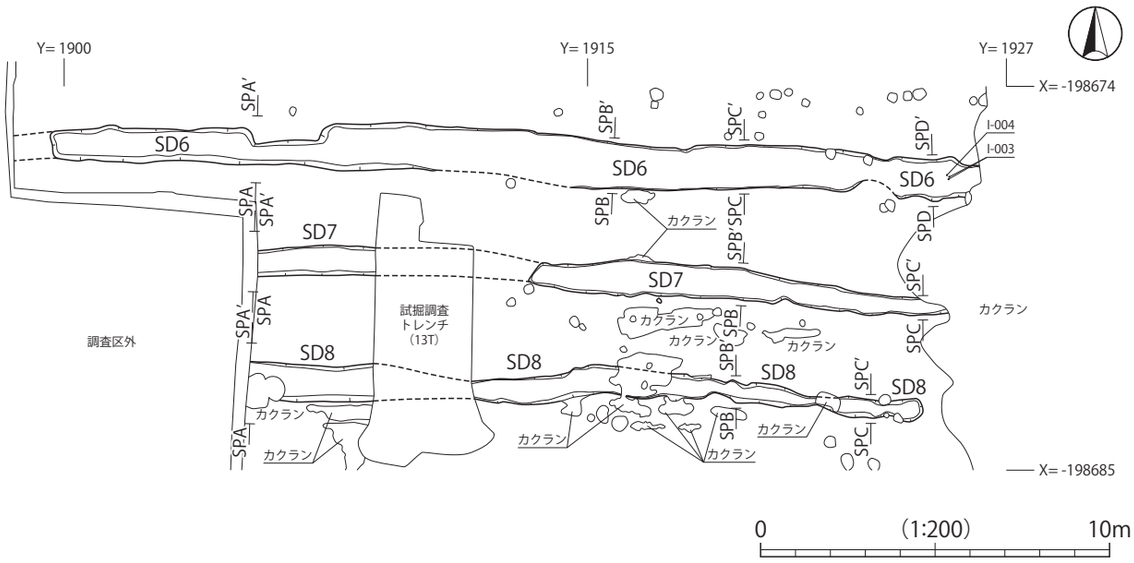
遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土し、既述の通り無釉陶器甕の破片も出土しているが、いずれも図化できなかった。本溝跡の詳細な時期は不明であるが、出土遺物から中世以降と考えられる。

SD7溝跡（第30・31図）

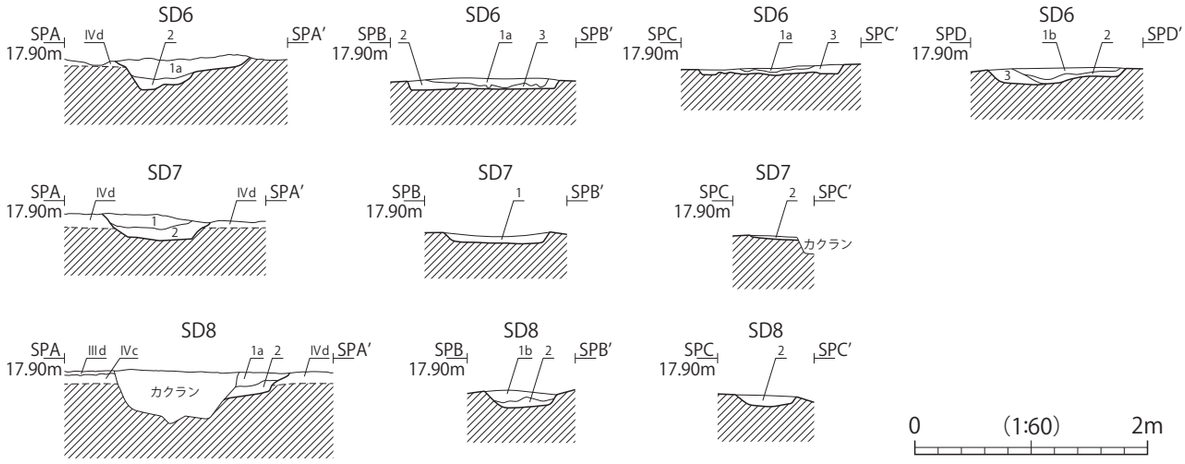
調査区中央部南寄り、36～38・42・43区に位置する。東端部は撹乱で壊され、西端部は調査区外へと延びる。Pit499より新しい。

方位はN－86°－Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は長さ19.84m、上端幅49～103cm、下端幅41～97cm、３～12cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は部分的に弱く起伏し、中央部付近が若干低くなるが、概ね水平である。堆積土は２層に分層され、褐灰色砂質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土し、鉄滓も１点出土しているが、図化できるものはなかった。本溝跡の詳細な時期は不明だが、位置関係や形状からSD6・8と近い時期が推測される。



第30図　SD6～８溝跡（1）



SD6 ～ 8 溝跡 観察表

遺構名	区割	方向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD6	36 ～ 38 62	N-88° -W	2067	64 ～ 122	46 ～ 117	4 ～ 17	1a	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	SK43、Pit231・232・484 より古く、Pit276 より新しい。
							1b	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ラミナ状に多量、灰色シルトラミナ状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
							3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ラミナ状に多量、灰色シルトラミナ状に少量、炭化物粒微量含む。	
SD7	36 ～ 38 42・43	N-86° -W	1984	49 ～ 103	41 ～ 97	3 ～ 12	1	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit499 より新しい。
							2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック・礫（ともに 5mm 程度）微量含む。	
SD8	41 ～ 43	N-88° -W	1942	23 ～ 108	13 ～ 83	2 ～ 16	1a	2.5Y4/1 黄灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ラミナ状に多量、灰色シルトラミナ状に少量、焼土粒微量含む。	Pit273 ～ 275 より古く、Pit512 ～ 514 より新しい。Pit505・506 との新旧関係は不明。
							1b	7.5YR5/2 灰褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
							2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	

第 31 図　SD6 ～ 8 溝跡（2）

SD8 溝跡（第 30・31 図）

調査区中央部南寄り、41 ～ 43 区に位置する。西端部は調査区外へと延びる。Pit273 ～ 275 より古く、Pit512 ～ 514 より新しい。Pit505・506 との新旧関係は不明である。

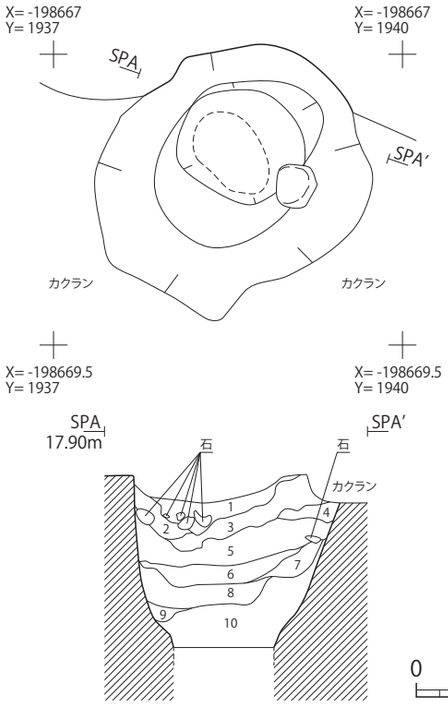
方位はＮ－ 88°－Ｗで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は長さ 19.42m、上端幅 23 ～ 108c m、下端幅 13 ～ 83cm、深さ 2 ～ 16cm を測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は部分的に弱く起伏し、中央部付近が若干低くなるが、概ね水平である。堆積土は大別で 2 層に分層され、黄灰色・灰褐色粘土質シルトを主体とする自然堆積である。

遺物は土師器・須恵器の破片が少量出土したが、図化できるものはなかった。本溝跡の詳細な時期は不明だが、位置関係や形状から SD6・7 と近い時期が推測される。

（6）井戸跡（第 32 図）

井戸跡は、1 基（SE1）確認された。調査時は土坑（SK65）として扱った。調査区西側の 29 区に位置し、撹乱のため南側の上部は失われている。井戸枠等を伴わない素掘りの井戸で、平面形状は円形を呈し、断面形状は底面まで検出できなかったものの漏斗状と推定される。規模は長軸 235cm、短軸 223cm を測り、深さは 150cm まで確認した。堆積土は 10 層に分層され、黄褐色または灰黄褐色シルトを主体とする。全体的に基本層Ⅳ層由来のブロックが

多く含まれ、人為的な堆積土である。遺物は上層から無釉陶器甕の破片が出土したが、図化できなかった。本井戸跡の詳細な時期は不明であるが、出土遺物から中世以降と考えられる。



SE1 井戸跡 観察表

遺構名	区割	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土　色	土性	備　考	重複
SE1	29	円形	［235］×［223］	［150］	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・礫（5 ～ 200mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、礫（5 ～ 200mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、礫（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・粗砂多量、礫（10mm 程度）微量含む。	
					7	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、黒色シルトブロック（10 ～ 40mm 程度）少量、焼土粒微量含む。	
					8	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土粒多量、粗砂少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					9	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。	
					10	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、粗砂・礫（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	

第 32 図　SE1 井戸跡

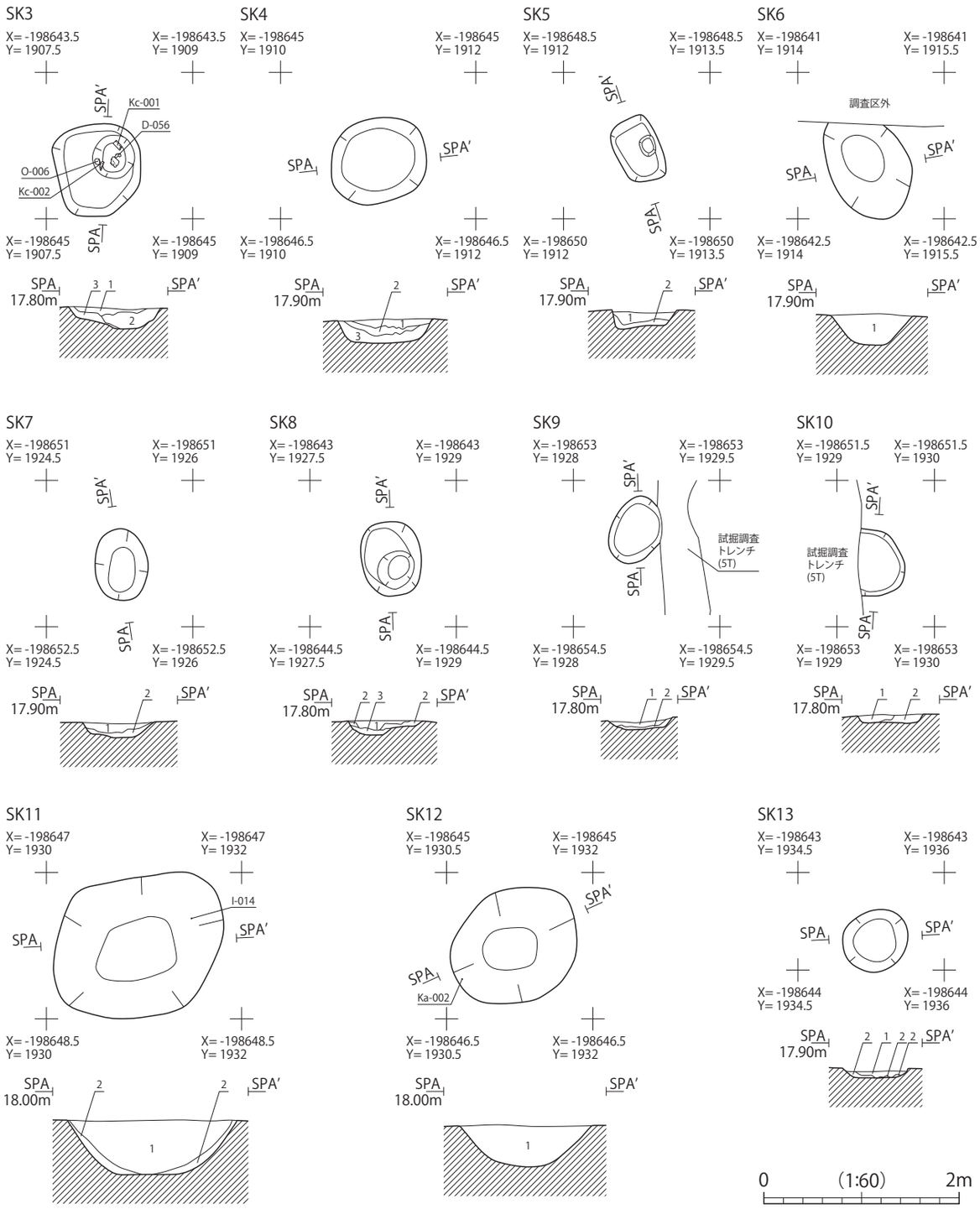
(7) 土坑（第 33 ～ 38 図）

土坑は、59 基（SK3 ～ 16・18 ～ 31・33 ～ 41・43 ～ 45・49 ～ 64・66 ～ 68）確認された。調査区中央部から北部にかけて分布し、特に北東部に集中する。平面形状や規模に規格性はあまりないが、調査区の北部には平面形状が円形基調で断面形状が逆台形の形態がみられ、北東部の SI3 ～ 5・SB3・6 周辺には平面形状が方形基調で断面形状が箱形に近い形態が多く確認される。堆積土はシルトもしくは砂質シルトを主体とし、褐灰色を基調とする土坑が多い。遺物は SK3 ～ 5・11・12・20 ～ 24・26・30・31・33・36 ～ 39・41・45・49 ～ 52・54・59・62・63 から出土しているが、土師器・須恵器の破片が主体で、いずれも図化できなかった。SK11 から火鉢とみられる瓦質土器の破片も出土していることから、一部が中世～近世の土坑の可能性がある。各土坑の詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。

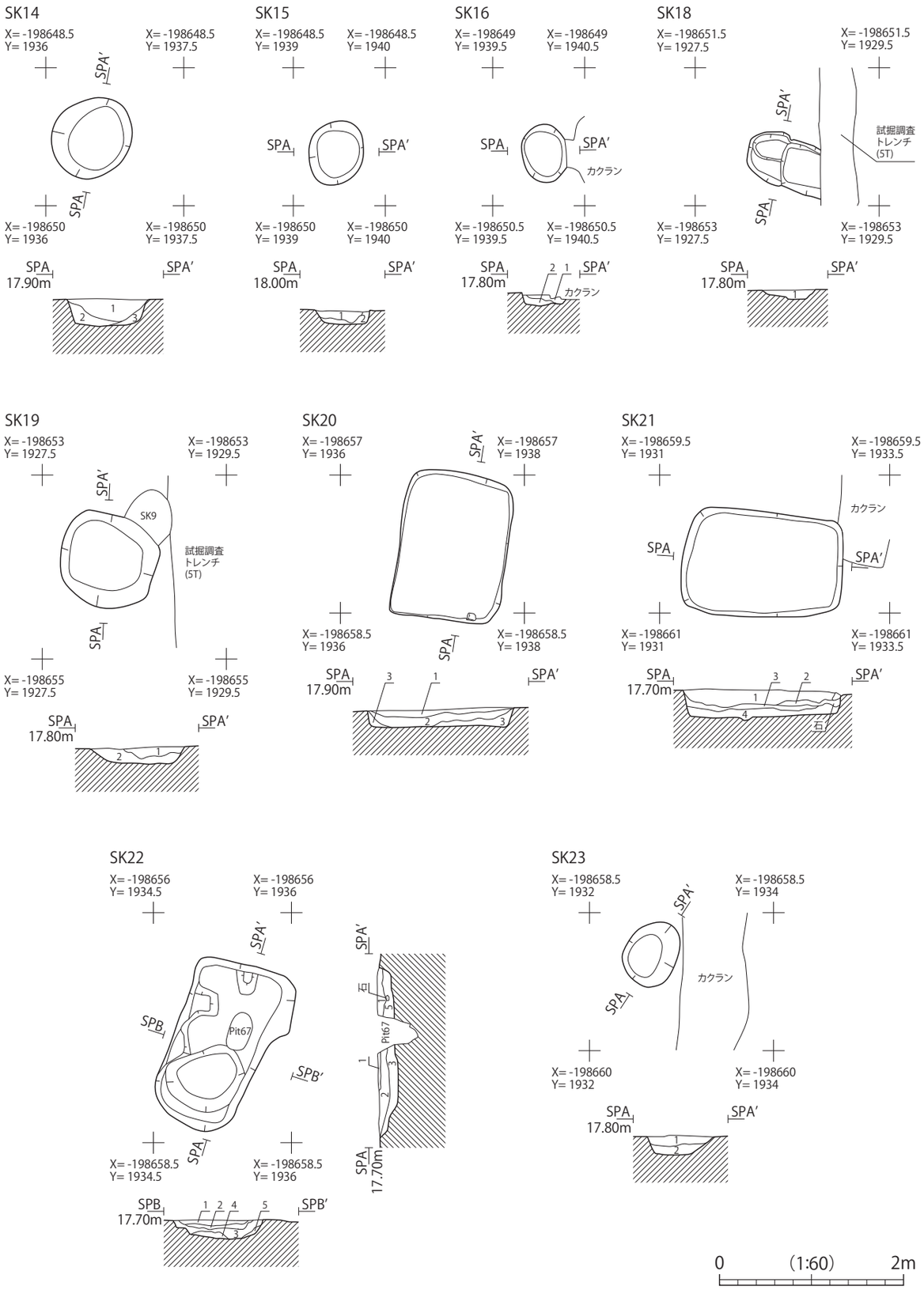
(8) ピット（第 39 ～ 42 図）

ピットは 532 基確認されたが、調査中や整理作業の段階で掘立柱建物跡などの柱穴に変更したピットが 71 基あり、最終的に 461 基を数える。分布は調査区のほぼ全域に及ぶが、特に中央部の 18・19・23・24・28・33 区に集中する傾向があり、全体の約半数がこの範囲に位置する。柱痕跡を確認したピットが 32 基、底面の変色範囲を確認したピットが 16 基あり、柵や建物の存在が推測されるが配置は明らかにできなかった。遺物は 68 基から出土しているが、土師器・須恵器の破片が主体である。Pit158・177・477 からは無釉陶器鉢・甕の破片が出土した。これらはいずれも図化できなかったが、Pit175 から出土した石製品 1 点を掲載した（第 39 図－ 1）。板状の砥石で、a

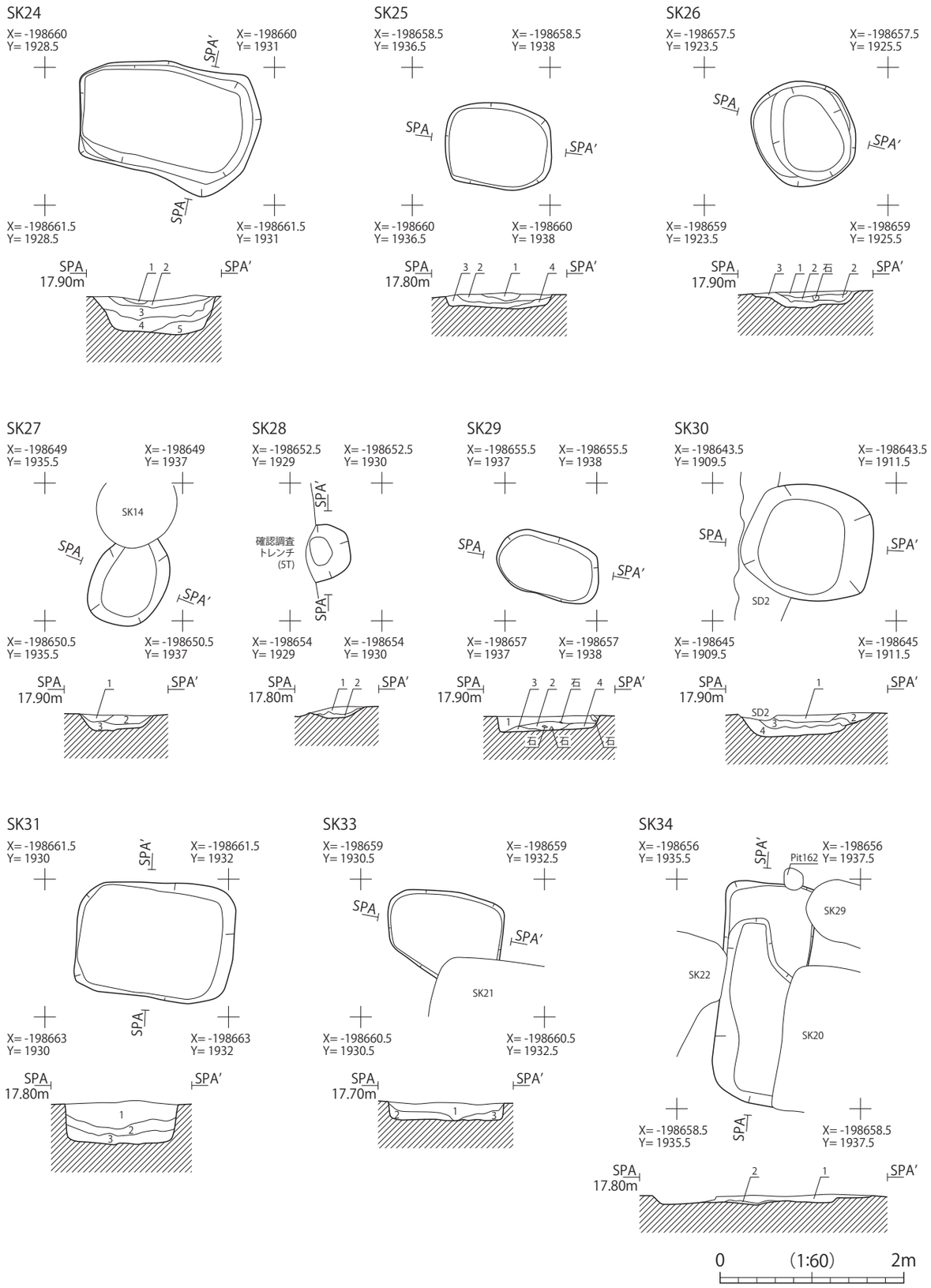
～ d 面には多数の線状痕が、b 面には深い溝状痕が観察される。また、被熱によりほぼ全体が黒変する。石材は凝灰岩である。なお、ピットについては配置図のみを第 39 ～ 41 図に示し、個々の図面は掲載していない。各ピットの詳細については、それぞれの観察表を参照されたい。



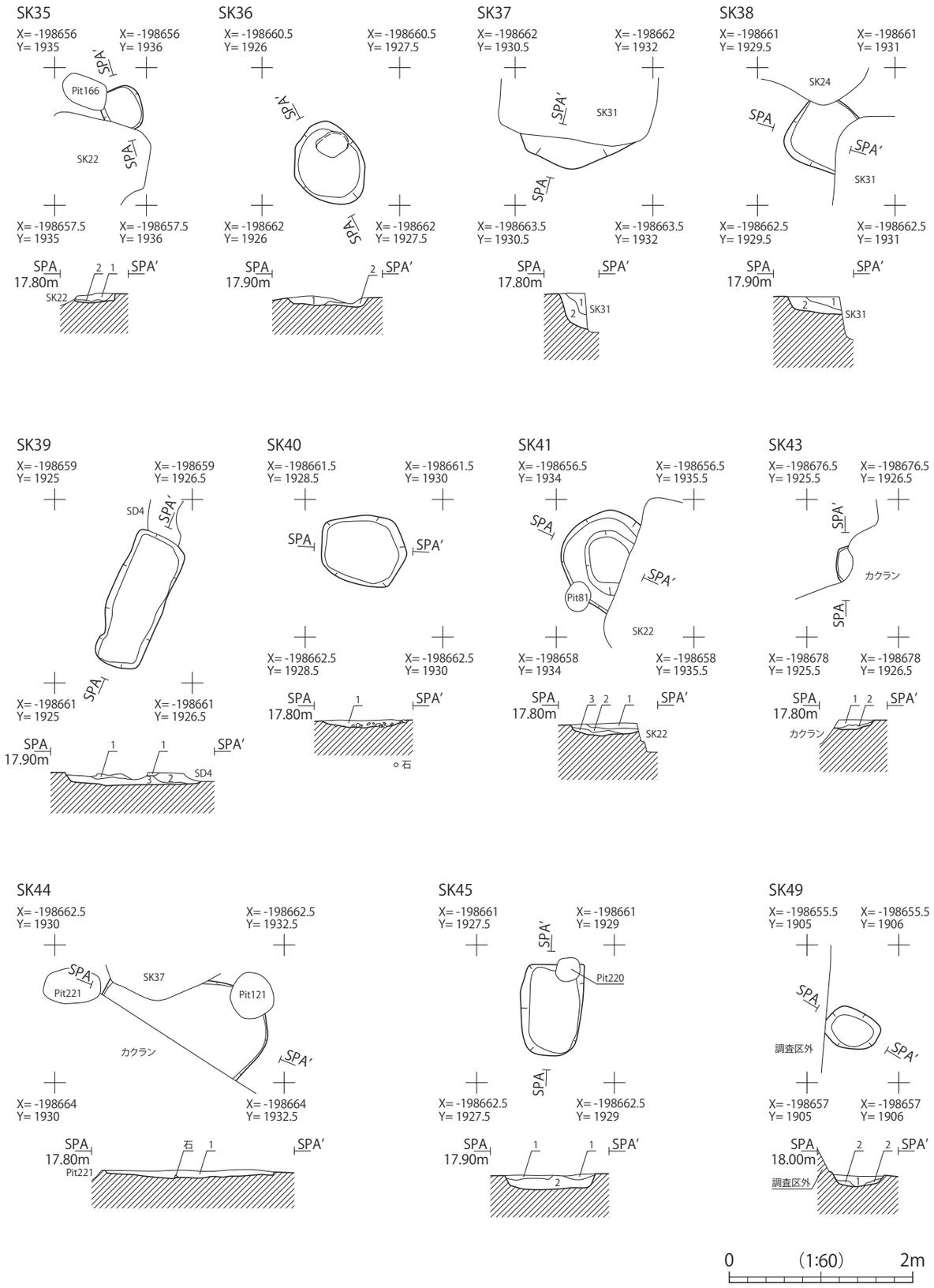
第 33 図　SK3 ～ 13 土坑



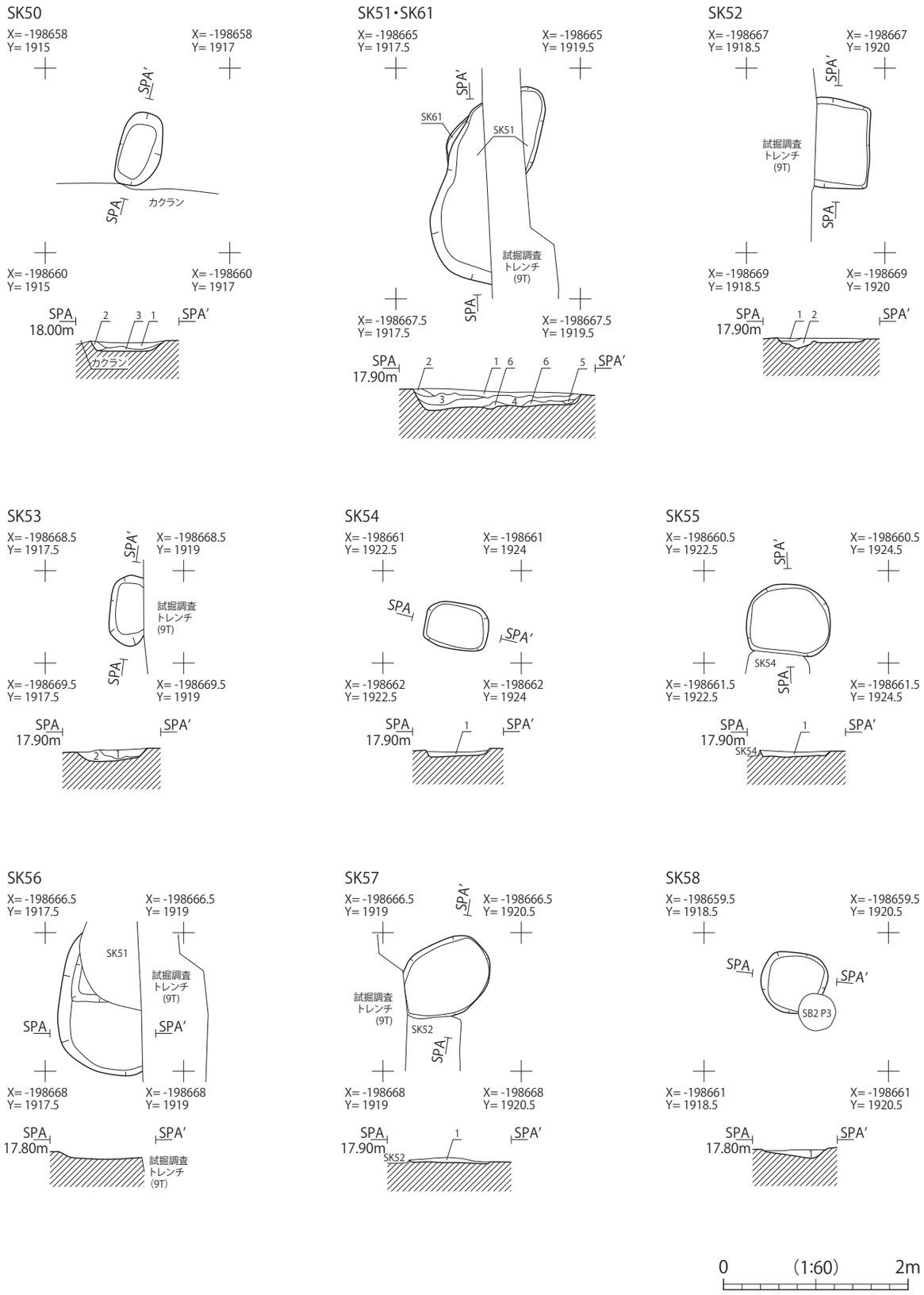
第34図　SK14 ～ 16･18 ～ 23土坑



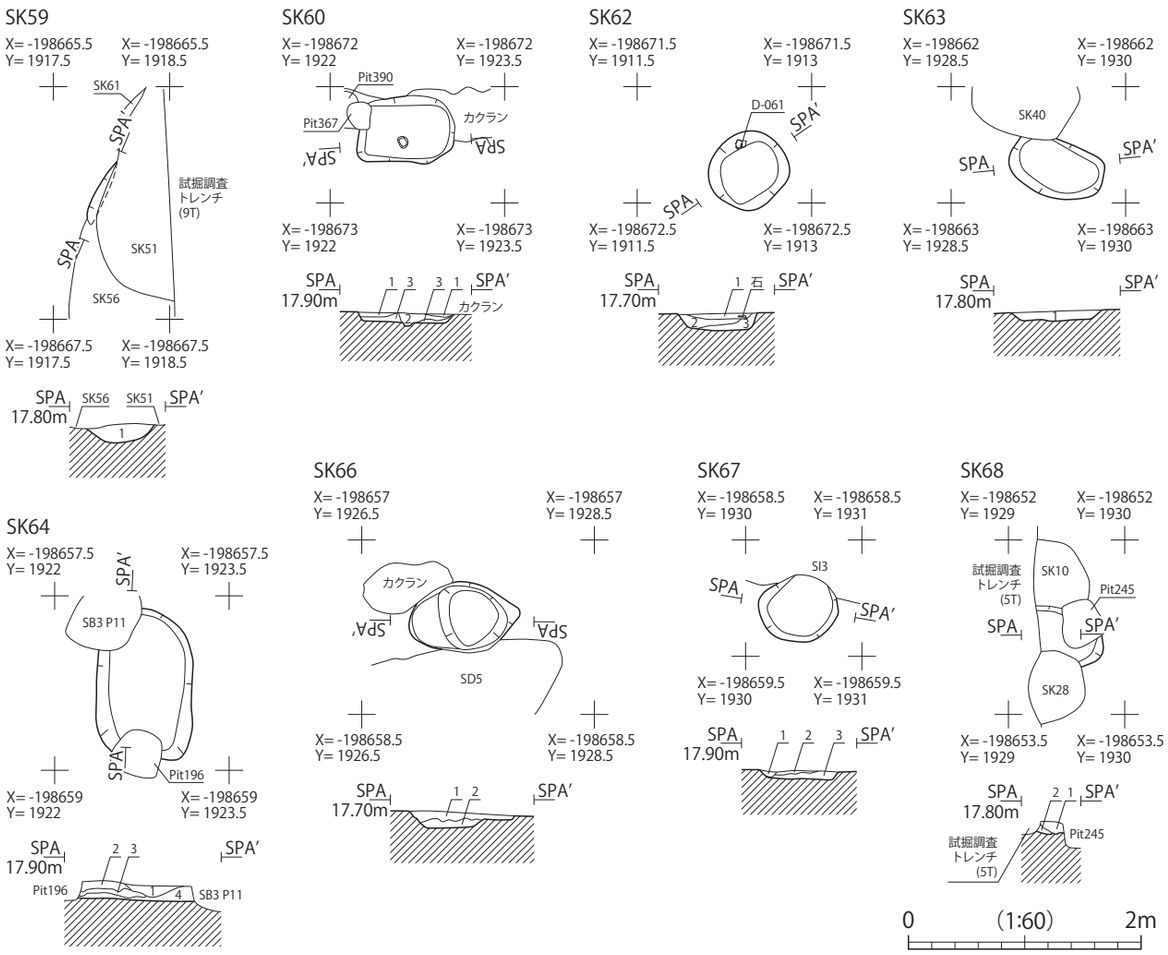
第35図　SK24～31・33・34土坑



第36図　SK35～41・43～45・49土坑



第37図　SK50～58・61土坑



第38図　SK59・60・62～64・66～68土坑

土坑（平安時代～中世）観察表（1）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK3	01	隅丸方形	95×88	22	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・焼土粒少量、炭化物ブロック（5～10mm程度）微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）・炭化物ブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。	
					3	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック斑状に多量、褐灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK4	07	楕円形	104×89	26	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色シルトブロック（5～20mm程度）・橙色シルトブロック（5～30mm程度）多量含む。	
					2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～40mm程度）少量含む。	
					3	7.5YR6/8 橙色	砂質シルト	灰色シルトブロック（5～40mm程度）・暗褐色シルトブロック（5～20mm程度）多量含む。	
SK5	07・12	長方形	66×46	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）・炭化物粒少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
SK6	02	楕円形	（119）×82	34	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	暗褐色シルトブロック（5～10mm程度）多量、橙色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
SK7	13	楕円形	73×55	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	
SK8	03	楕円形	76×61	15	1	10YR5/1 褐灰色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～20mm程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	
					2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	Ⅳ層土互層状に多量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y5/3 黄褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
SK9	13	楕円形	67×53	12	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK19より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	

土坑（平安時代〜中世）観察表（2）

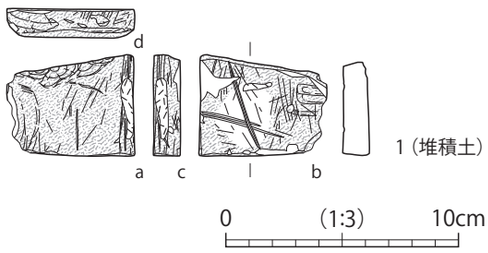
遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK10	13	楕円形	［54］×69	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SI3付属柱穴列2、SK68より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）微量含む。	
SK11	09	楕円形	192×147	59	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	酸化鉄斑状に多量、白色粒微量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	酸化鉄斑状に多量含む。	
SK12	09	楕円形	136×116	41	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	酸化鉄斑状に多量、焼土ブロック（5mm程度）・白色粒微量含む。	
SK13	04	楕円形	69×61	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量含む。	
SK14	09	楕円形	90×85	32	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）・灰色シルトブロック（5〜40mm程度）少量、礫（5〜10mm程度）・焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK27より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルトブロック（5〜20mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、灰色シルトブロック（10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK15	09	楕円形	67×59	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜50mm程度）多量含む。	
SK16	09・10 14・15	楕円形	63×52	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR6/4 にぶい黄橙色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック（5mm程度）多量含む。	
SK18	13	長楕円形	［94］×57	13	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜30mm程度）多量、灰色シルトブロック（10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK19	13	楕円形	105×101	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SK9より古く、SI5より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜40mm程度）多量、黒褐色シルトブロック（5〜10mm程度）多量含む。	
SK20	19	長方形	161×118	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・礫（5〜10mm程度）少量、焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SB1、SK34より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、礫（10mm程度）・焼土ブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）微量含む。	
SK21	19・24	長方形	175×115	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・礫（5〜100mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI3付属柱穴列2、SK33、Pit156・183・247・248より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、礫（10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					4	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜40mm程度）少量、焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK22	19	長方形	188×115	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）少量、礫（10mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit67より古く、SB1、SK34・35・41、Pit167〜169・212より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	
					4	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					5	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜100mm程度）多量、礫（5〜50mm程度）微量含む。	
SK23	19	楕円形	72×57	21	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）少量、灰色シルトブロック・焼土ブロック（ともに5〜10mm程度）・炭化物粒微量含む。	SB6、Pit90より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK24	18・19 23・24	長方形	195×134	42	1	5GY7/1 明オリーブ灰色	砂質シルト	焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI3付属柱穴列2、SB6、SK38、Pit190より新しい。
					2	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土互層状・焼土粒少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）少量、礫（5〜10mm程度）・焼土粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					5	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）少量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK25	19	長方形	115×92	12	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜30mm程度）・炭化物粒少量、礫（5〜30mm程度）微量含む。	Pit154・155・178より新しい。
					2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					4	N4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。※灰層	
SK26	18	楕円形	114×104	14	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SB3、SD5、Pit198より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルトブロック（5〜20mm程度）少量、礫（50mm程度）微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
SK27	9・14	楕円形	107×80	18	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量含む。	SK14より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量、礫（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）・礫（10mm程度）微量含む。	

土坑（平安時代〜中世）観察表（3）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK28	13	楕円形	［48］×61	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒微量含む。	SK68 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 30mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 〜 10mm 程度）微量含む。	
SK29	19	長楕円形	114×66	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（5 〜 100mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK34 より新しい。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 20mm 程度）多量、礫（10 〜 20mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（10mm 程度）微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
SK30	1・2	方形	［141］×125	27	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルトブロック（5 〜 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SD2 より古い。
					2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量含む。	
					4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。	
SK31	24	長方形	171×124	46	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	礫（5 〜 40mm 程度）・炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）・焼土粒微量含む。	SK37・38、Pit186・187 より新しい。
					2	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、礫（5 〜 40mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・礫（5 〜 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
SK33	19・24	長方形	125×96	3	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 40mm 程度）・灰色シルトブロック（5 〜 10mm 程度）少量、礫（5 〜 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK21 より古く、Pit246・247・248・471 より新しい。
					2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 〜 10mm 程度）少量、炭化物ブロック（5 〜 10mm 程度）微量含む。	
					3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
SK34	19	長方形	240×96	10	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土互層状・灰色シルトブロック（5 〜 20mm 程度）多量、礫（5 〜 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK20・22・29、Pit162 より古く、Pit212 より新しい。
					2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	
SK35	19	楕円形	49×44	11	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5 〜 30mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。	SK22、Pit166 より古い。
					2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	
SK36	23	楕円形	92×75	12	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	オリーブ灰色シルト互層状に多量、Ⅳ層土互層状・礫（5mm 程度）微量含む。	
					2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	
SK37	23・24	方形？	80×［64］	18	1	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK31 より古く、SK44 より新しい。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（40 〜 50mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
SK38	24	円形？	［124］×［34］	［44］	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（5 〜 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK24・31 より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK39	18・23	長方形	151×59	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SD4 より古く、SB3、Pit265・266 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、黒褐色シルトブロック（5 〜 30mm 程度）・灰色シルトブロック（5 〜 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・黒褐色シルト互層状に多量、灰色シルト互層状に少量、炭化物粒微量含む。	
SK40	23	不整形	95×77	9	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、礫（10 〜 30mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK63 より新しい。
SK41	19	楕円形	［89］×99	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SI3 付属柱穴列 2、SK22 より古く、P169 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
SK43	38	方形？	［39］×［18］	9	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 〜 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SD6 より新しい。
					2	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（5mm 程度）少量含む。	
SK44	24	不明	180×［95］	7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、黒褐色シルトブロック（5 〜 10mm 程度）・礫（5 〜 20mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK37、Pit121 より古く、SB6 より新しい。
SK45	23	長方形	99×69	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・礫（5 〜 30mm 程度）少量含む。	Pit220 より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、礫（5 〜 40mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
SK49	16	楕円形	56×45	32	1	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
SK50	17	長楕円形	81×47	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 20mm 程度）・灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 〜 10mm 程度）多量、褐色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	

土坑（平安時代〜中世）観察表（4）

遺構名	区割	平面形	規模（cm） 長軸×短軸	規模（cm） 深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
SK51	27	長楕円形	218×86	20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）・焼土粒微量含む。	SK56・59・61より新しい。
					2	10YR2/3 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5〜30mm程度）微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
					5	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
					6	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、焼土ブロック（10mm程度）微量含む。	
SK52	27	方形	97×［63］	11	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰白色火山灰互層状に多量、炭化物粒微量含む。	SK57、Pit449より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5〜10mm程度）少量含む。	
SK53	27	楕円形	75×［38］	10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量含む。	Pit448より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
SK54	23	隅丸方形	69×50	9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK55、Pit395より新しい。
SK55	23	隅丸方形	91×77	8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SK54より古く、Pit208より新しい。
SK56	27	楕円形	［143］×［93］	17	※注記なし。				SK51より古く、SK59、Pit447より新しい。
SK57	27・28	楕円形	［107］×80	5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK52より古い。
SK58	17・22	円形	70×66	11	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	SB2より古く、Pit457より新しい。
SK59	27	不明	［55］×［20］	15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量含む。	SK51・56より古い。
SK60	33	長楕円形	82×56	15	1	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。	Pit367より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5〜10mm程度）・炭化物粒少量、礫（5〜10mm程度）微量含む。	
					3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK61	27	不明	［58］×1	15	※注記なし。				SK51より古い。
SK62	32	楕円形	69×62	16	1	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK63	23・24	長方形	83×49	23	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	礫（5〜10mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK40より古い。
SK64	18	長楕円形	129×82	19	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SB3、Pit196より古い。
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）多量、暗褐色シルトブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）・炭化物粒多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK66	18	長楕円形	97×［62］	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SD5より古く、SI5、Pit509より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK67	19	楕円形	69×［57］	9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量含む。	SI3より古い。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）多量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5〜10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
SK68	13	楕円形	［55］×［52］	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SI3付属柱穴列2、SK10・28より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5〜20mm程度）多量含む。	

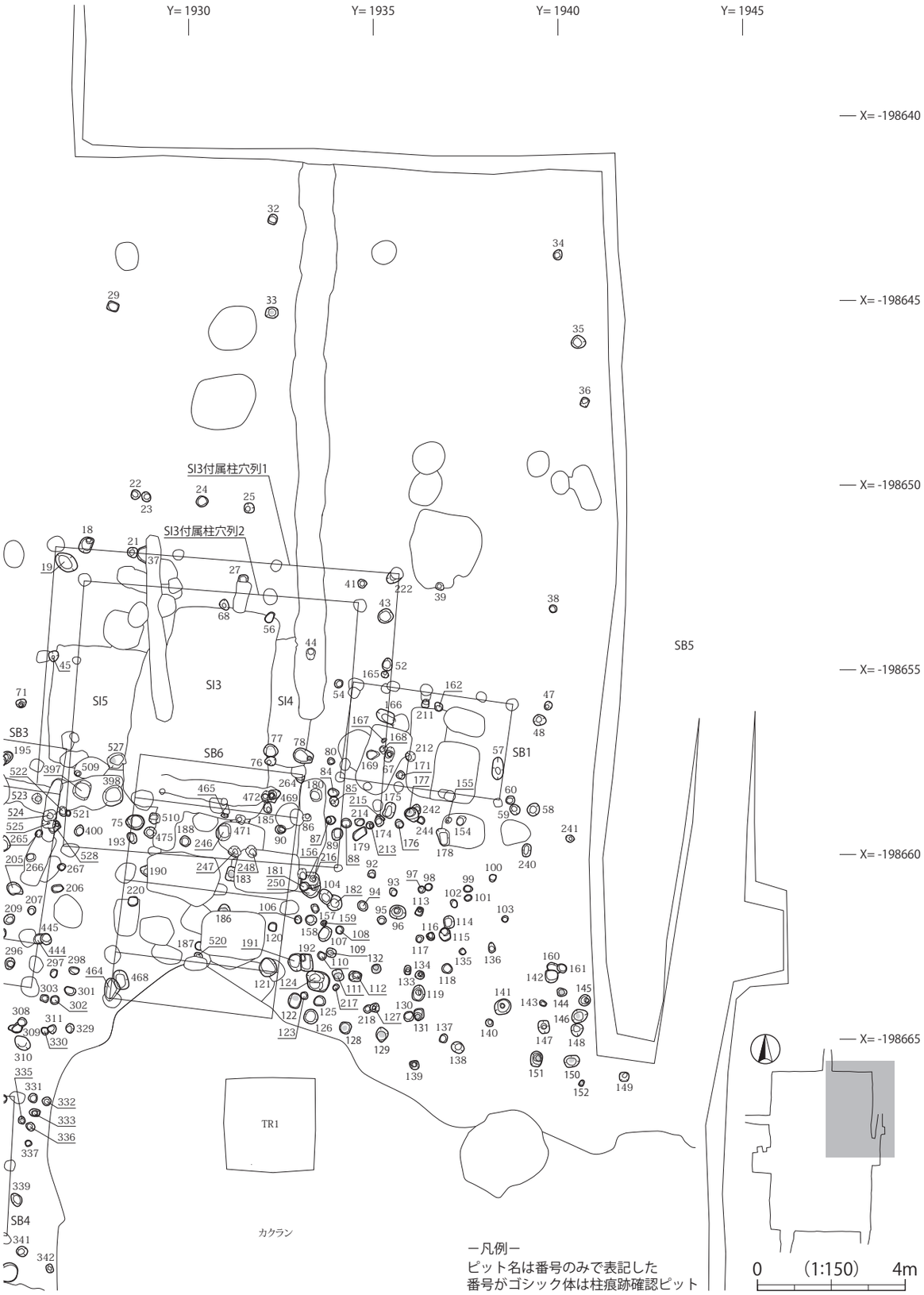


図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm） 全長	法量（cm） 幅	法量（cm） 厚さ
1	Kd-001	Pit175	堆積土	石製品	砥石	（4.3）	（5.6）	1.2

重量（g）	石材	備　考	写真図版
34.6	凝灰岩	砥面4面、線状痕（a〜d面）、溝状痕（b面）、被熱により黒変、欠損品	22

第39図　Pit175出土遺物

第40図　ピット配置図（1）



第41図　ピット配置図（2）

第42図　ピット配置図（3）

ピット 観察表（1）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit1	07	円形	36×33	20	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土互層状に多量含む。	
Pit2	07	長楕円形	53×26	68	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10mm程度）少量含む。	
Pit3	07	楕円形	31×24	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
Pit4	07	楕円形	29×23	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（10～20mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit5	07	楕円形	20×20	19	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒微量含む。	
Pit6	07	方形	31×27	38	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒微量含む。	
Pit7	07	楕円形	29×23	24	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルト粒微量含む。	
Pit8	12	楕円形	32×25	36	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）・灰色シルト粒少量含む。	
Pit9	07	楕円形	25×23	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit10	07	円形	23×22	21	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
Pit11	07	長方形	32×23	6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量含む。	
Pit12	07	楕円形	27×22	21	1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	SM2より新しい。
Pit13	12	楕円形	（31）×29	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量含む。	SM2、Pit224より新しい。
Pit14	12	長楕円形	39×26	49	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）上層部に集中。	
Pit15	03	楕円形	66×47	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～20mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）微量含む。	
Pit16	13	長方形	19×15	6	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒微量含む。大半がグライ化。	
Pit17	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列1の柱穴へ変更）	
Pit18	13	方形	44×34	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。	
Pit19	13	長楕円形	65×46	17	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒少量、礫（5mm程度）微量含む。斑状にグライ化。	
Pit20	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更）	
Pit21	13	楕円形	29×28	39	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、黒色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit22	13	円形	27×25	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）微量含む。	
Pit23	13	円形	28×24	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	
Pit24	14	円形	32×31	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。	
Pit25	14	円形	28×27	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒（5～20mm程度）微量含む。	
Pit26	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列1の柱穴へ変更）	
Pit27	14	楕円形	（23）×25	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit28	07	方形	42×39	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐灰色シルトブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit29	08	方形	31×25	27	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit30	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列1の柱穴へ変更）	
Pit31	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更）	
Pit32	04	楕円形	27×24	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～40mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit33	09	楕円形	34×29	33	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量含む。	
Pit34	04・05	楕円形	28×24	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit35	10	円形	39×35	23	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量含む。	
Pit36	10	方形	26×21	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit37	13	楕円形	48×（26）	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物ブロック（5～10mm程度）微量含む。	
Pit38	14	円形	21×20	3	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
Pit39	14	楕円形	（23）×（20）	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・礫（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。	
Pit40	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列1の柱穴へ変更）	
Pit41	14	楕円形	23×22	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit42	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更）	
Pit43	14	方形	40×37	14	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	マンガン粒多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。全体がグライ化。	
Pit44	14	楕円形	（33）×（24）	（14）	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	
Pit45	13	楕円形	28×26	36	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI3付属柱穴列1、SI5より新しい。
Pit46	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列1の柱穴へ変更）	
Pit47	19	楕円形	22×20	23	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	
Pit48	19	楕円形	34×29	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、焼土ブロック（5～10mm程度）・礫（5～20mm程度）微量含む。	
Pit49	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1の柱穴へ変更）	
Pit50	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1の柱穴へ変更）	
Pit51	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1の柱穴へ変更）	
Pit52	14・19	楕円形	34×27	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）多量含む。	
Pit53	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更）	
Pit54	19	円形	24×22	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）微量含む。	
Pit55	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3付属柱穴列1の柱穴へ変更）	
Pit56	14	楕円形	31×21	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SI3より新しい。
Pit57	19	楕円形	60×30	40	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	礫（5mm程度）少量、炭化物ブロック（5～10mm程度）・焼土粒微量含む。	
Pit58	19	楕円形	35×32	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒少量含む。	
Pit59	19	楕円形	29×25	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、焼土粒・礫（5mm程度）微量含む。	
Pit60	19	円形	24×23	11	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、礫（10～20mm程度）少量含む。	
Pit61	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1の柱穴へ変更）	
Pit62	02	楕円形	56×48	12	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit63	07	楕円形	38×30	13	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SA1より古い。
Pit64	07	長楕円形	35×22	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量含む。	SA1より古い。
Pit65	07	円形	32×30	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量含む。	SA1より古い。
Pit66	12	楕円形	35×26	9	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SM2より新しい。

ピット 観察表 (2)

遺構名	区割	平面形	規模 (cm) 長軸×短軸	規模 (cm) 深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit67	19	長楕円形	(42) × (29)	(25)	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 50mm 程度) 多量、礫 (5mm 程度)・灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量含む。	SK22 より新しい。
Pit68	14	方形	29 × 23	26	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	SI3 より新しい。
Pit69	18	楕円形	28 × 25	30	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度)・礫 (5mm 程度) 微量含む。	SD5 より新しい。
Pit70	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SB1 の柱穴へ変更)	
Pit71	18	楕円形	28 × 23	35	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 少量、礫 (5mm 程度) 微量含む。	
Pit72	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SB3 の柱穴へ変更)	
Pit73	18	楕円形	33 × 27	32	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量含む。	Pit195 より新しい。
Pit74	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SI3 付属柱穴列 1 の柱穴へ変更)	
Pit75	18	楕円形	50 × 40	45	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土 (5 ～ 20mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit76	19	楕円形	30 × 25	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (ともに 5 ～ 10mm 程度) 少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SI3、Pit77 より新しい。
Pit77	19	楕円形	38 × 32	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量、礫 (10mm 程度)・炭化物粒微量含む。	Pit76 より古く、SI3 より新しい。
Pit78	19	長楕円形	54 × 39	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20mm 程度)・灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量、炭化物ブロック (5mm 程度)・焼土粒微量含む。	SI4 より古い。
Pit79	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SB6 の柱穴へ変更)	
Pit80	19	円形	20 × 19	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 少量含む。	
Pit81	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SI3 付属柱穴列 2 の柱穴へ変更)	
Pit82	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SB1 の柱穴へ変更)	
Pit83	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SB1 の柱穴へ変更)	
Pit84	19	楕円形	29 × 22	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (ともに 5mm 程度) 少量含む。	
Pit85	19	楕円形	28 × 21	40	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit86	19	楕円形	23 × 19	28	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量含む。	SB6 より新しい。
Pit87	19	楕円形	27 × 23	37	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit88	19	円形	28 × 25	39	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、黒褐色シルトブロック・灰色シルトブロック (ともに 5 ～ 10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit89	19	楕円形	34 × 29	39	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 30mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。	
Pit90	19	楕円形	28 × (24)	45	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度)・炭化物ブロック (5mm 程度) 少量、焼土粒微量含む。	SK23 より古い。
Pit91	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SI3 付属柱穴列 2 の柱穴へ変更)	
Pit92	24	方形	21 × 20	15	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit93	24	方形	21 × 20	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 少量、礫 (10mm 程度) 微量含む。	
Pit94	24	楕円形	30 × 27	23	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度)・焼土ブロック (5 ～ 20mm 程度) 少量含む。	
Pit95	24	円形	23 × 22	12	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、礫 (5 ～ 10mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit96	24	楕円形	45 × 37	41	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、黒褐色シルトブロック (5 ～ 100mm 程度) 少量含む。	
Pit97	24	円形	19 × 18	25	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック (5mm 程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit98	24	円形	21 × 19	2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm 程度) 少量、焼土粒微量含む。	
Pit99	24	楕円形	25 × 19	16	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度)・灰色シルトブロック (5 ～ 20mm 程度) 少量含む。	
Pit100	24	円形	20 × 19	26	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (ともに 5mm 程度) 少量、礫 (10mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit101	24	楕円形	21 × 17	6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (ともに 5mm 程度) 少量、焼土粒微量含む。	
Pit102	24	楕円形	23 × 18	5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度)・灰色シルトブロック (5mm 程度) 少量含む。	
Pit103	24	円形	18 × 17	7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・礫 (ともに 5mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit104	24	方形	37 × 33	26	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20mm 程度) 多量、炭化物粒少量、灰色シルトブロック (5mm 程度) 微量含む。	Pit182 より新しい。
Pit105	―	―	―	―	―	―	―	※欠番 (SB6 の柱穴へ変更)	
Pit106	24	円形	21 × 19	28	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量、炭化物粒微量含む。	
Pit107	24	長方形	42 × 30	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit108	24	円形	22 × 21	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 少量、灰色シルトブロック・焼土ブロック (ともに 5mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit109	24	方形	27 × 24	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、焼土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 多量含む。	
Pit110	24	方形	24 × 21	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック (ともに 5 ～ 10mm 程度) 少量含む。	
Pit111	24	方形	32 × 26	22	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20mm 程度) 多量、灰色シルト・炭化物ブロック (ともに 5 ～ 10mm 程度) 少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 20mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量、焼土ブロック (10mm 程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit112	24	方形	34 × 28	35	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、灰色シルトブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量含む。	
Pit113	24	方形	24 × 20	10	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 多量、礫 (5mm 程度) 微量含む。	
Pit114	24	方形	34 × 28	17	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	
Pit115	24	方形	36 × 31	12	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック (5 ～ 10mm 程度) 少量含む。	
Pit116	24	方形	23 × 22	44	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック (5 ～ 20mm 程度) 多量、Ⅳ層土ブロック (5mm 程度) 少量、炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表 (3)

遺構名	区割	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit117	24	方形	21×20	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit118	24	方形	28×26	37	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、礫(10～30mm程度)・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
Pit119	24	長楕円形	43×34	38	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
Pit120	24	方形	24×23	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、礫・炭化物ブロック(ともに5mm程度)微量含む。	
Pit121	24	方形	49×47	32	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、礫・炭化物ブロック(ともに5mm程度)微量含む。	SB6、SK44より新しい。
Pit122	24	楕円形	40×34	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
Pit123	24	方形	20×19	15	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit124	24	方形	63×53	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、礫・炭化物ブロック(ともに5～30mm程度)微量含む。	
Pit125	24	楕円形	31×27	13	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit126	24	円形	39×38	14	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、礫(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit127	24	円形	25×25	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土ブロック(10mm程度)微量含む。	Pit218より新しい。
Pit128	24	円形	34×33	18	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit129	24・29	方形	34×33	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・褐灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit130	24	方形	27×26	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit131	24	方形	31×26	19	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・礫(5～300mm程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、炭化物粒微量含む。	
Pit132	24	方形	26×25	40	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit133	24	長方形	25×18	31	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量含む。	
Pit134	24	方形	25×22	21	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、礫(20mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit135	24	方形	18×16	13	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit136	24	長楕円形	28×18	26	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	
Pit137	24・29	方形	24×20	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit138	29	楕円形	35×30	38	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit139	29	方形	25×24	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、礫(5mm程度)微量含む。	
Pit140	24	方形	20×20	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit141	24	楕円形	48×41	41	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック・炭化物ブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	
Pit142	24	方形	35×34	9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit160より新しい。
Pit143	24	長方形	19×15	9	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit144	25	楕円形	25×21	14	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、褐灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	
Pit145	25	楕円形	32×29	31	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit146	25	楕円形	47×36	20	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・褐灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit147	24	方形	35×30	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit148	25	楕円形	33×33	32	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・褐灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・灰少量含む。	
Pit149	30	方形	26×25	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit150	30	長方形	41×31	46	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit151	29	長方形	42×31	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit152	30	楕円形	17×15	9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit153	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB1の柱穴へ変更)	
Pit154	19	楕円形	(30)×(22)	(19)	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	礫(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	SK25より古い。
Pit155	19	楕円形	(19)×(15)	(15)	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・礫(5mm程度)微量含む。	SK25より古い。
Pit156	24	方形	29×24	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	SK21より古く、Pit216より新しい。
Pit157	24	長方形	24×19	23	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表 (4)

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit158	24	円形	29×28	17	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。	
Pit159	24	方形	16×16	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。	
Pit160	24・25	楕円形	（33）×（23）	10	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。	Pit142・161 より古い。
Pit161	24・25	楕円形	27×22	18	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit160 より新しい。
Pit162	19	楕円形	24×21	23	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK34 より新しい。
Pit163	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1 の柱穴へ変更）	
Pit164	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1 の柱穴へ変更）	
Pit165	19	楕円形	20×18	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	
Pit166	19	長楕円形	（52）×31	47	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）微量含む。	SK35 より新しい。
Pit167	19	長楕円形	（16）×（10）	（19）	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK22 より古い。
Pit168	19	方形	（19）×（22）	（28）	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK22 より古い。
Pit169	19	楕円形	（35）×（26）	（13）	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK22・41 より古い。
Pit170	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1 の柱穴へ変更）	
Pit171	19	円形	23×22	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit172	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB1 の柱穴へ変更）	
Pit173	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3 付属柱穴列 1 の柱穴へ変更）	
Pit174	19	長方形	25×21	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit215 より新しい。
Pit175	19	長方形	42×29	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit176	19	楕円形	26×22	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、礫（30mm 程度）・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit177	19	楕円形	40×35	62	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	Pit242 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、黒褐色シルトブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit178	19	長方形	47×（36）	41	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SK25 より古い。
Pit179	19	長方形	42×23	10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit180	19	長方形	37×30	21	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 50mm 程度）多量、黒褐色シルトブロック（5 ～ 40mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit181	24	円形	26×23	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。	Pit216・250 より新しい。
Pit182	24	楕円形	（43）×41	36	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit104 より古い。
Pit183	24	方形	37×（24）	42	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、礫（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SK21 より古く、SI3 付属柱穴列 2 より新しい。
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土ブロック（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit184	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB6 の柱穴へ変更）	
Pit185	19	楕円形	29×21	36	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit186	24	長楕円形	（19）×（33）	43	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡	SK31 より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・礫（10mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit187	24	円形	23×（16）	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・礫（10 ～ 40mm 程度）・炭化物粒微量含む。	SK31 より古い。
Pit188	18・19	円形	29×28	11	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量、焼土ブロック（5mm 程度）微量含む。	
Pit189	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SI3 付属柱穴列 2 の柱穴へ変更）	
Pit190	23	不明	（19）×（32）	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。	SK24 より古い。
Pit191	24	楕円形	48×37	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・礫（10 ～ 20mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit192 より新しい。
Pit192	24	方形	47×（32）	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。	Pit191 より古い。
Pit193	18	長楕円形	32×24	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit194	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB3 の柱穴へ変更）	
Pit195	18	長楕円形	（38）×29	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit73 より古い。
Pit196	18	方形	42×（39）	41	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。	SK64 より新しい。
Pit197	18	長楕円形	36×28	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit198	18	長楕円形	34×29	20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量含む。※柱痕跡	SK26 より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表（5）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit199	18	楕円形	25×23	16	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit526より新しい。
Pit200	18	楕円形	28×22	15	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit201	18	方形	45×44	29	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）・灰色シルトブロック・炭化物ブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物微粒量含む。	
					3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物ブロック（5mm程度）微量含む。	
					5	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit202	18・23	楕円形	29×25	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit203	23	楕円形	22×19	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	
Pit204	23	長楕円形	50×34	24	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit205	23	楕円形	47×34	6	1	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量含む。	
Pit206	23	長楕円形	33×20	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit207	23	楕円形	23×22	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit208	23	楕円形	(26)×19	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	SK55より古い。
Pit209	23	楕円形	32×26	30	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit210	23	楕円形	28×21	6	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit211	19	方形	(24)×20	24	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）多量、礫（5mm程度）微量含む。	SB1より古い。
Pit212	19	円形	(27)×(26)	48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK22・34より古い。
Pit213	19	円形	20×19	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック・炭化物ブロック（ともに5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	
Pit214	19	楕円形	26×20	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit215	19	不明	23×(17)	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit174より古い。
Pit216	24	楕円形	52×44	34	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	Pit156・181より古く、Pit250より新しい。
					2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰白色火山灰ブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit217	24	楕円形	18×15	14	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit218	24	楕円形	24×20	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit127より古い。
Pit219	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB6の柱穴へ変更）	
Pit220	23	方形	(27)×(26)	11	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK45より新しい。
Pit221	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB6の柱穴へ変更）	
Pit222	14	楕円形	(36)×31	20	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、礫（5～10mm程度）微量含む。	SI3付属柱穴列1より古い。
Pit223	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB5の柱穴へ変更）	
Pit224	12	長方形	26×25	13	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量含む。	Pit13より古く、SM2より新しい。
Pit225	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB5の柱穴へ変更）	
Pit226	12	方形	29×28	39	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					3	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量。炭化物粒微量含む。	
Pit227	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB2の柱穴へ変更）	
Pit228	17	楕円形	21×20	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	
Pit229	18	楕円形	38×32	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit230	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB2の柱穴へ変更）	
Pit231	38	円形	31×30	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	SD6より新しい。
Pit232	38	楕円形	31×27	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SD6より新しい。
Pit233	—	—	—	—	—	—	—	※欠番（SB5の柱穴へ変更）	
Pit234	17	楕円形	23×20	15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit235	17	楕円形	27×20	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit236	17	楕円形	34×28	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。※柱痕跡	
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量含む。	
Pit237	17	長楕円形	(53)×(39)	26	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量含む。	SB2より古い。
Pit238	17	長楕円形	51×34	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒微量含む。	
Pit239	18	楕円形	(28)×(21)	15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SB3より新しい。
Pit240	19・24	楕円形	35×24	28	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、礫（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit241	20	楕円形	23×19	44	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表 (6)

遺構名	区割	平面形	規模(cm) 長軸×短軸	規模(cm) 深さ	層位	土　色	土性	備　考	重　複
Pit242	19	楕円形	(17)×26	36	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～30mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	Pit177より古い。
Pit243	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit244	19	方形	19×19	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量含む。	
Pit245	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更)	
Pit246	19	楕円形	(47)×(40)	48	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、黒褐色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。	SK33より古い。
Pit247	19・24	楕円形	(37)×(30)	35	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK21・33より古い。
Pit248	19・24	楕円形	(33)×(26)	(18)	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック・礫(ともに5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK21・33より古い。
Pit249	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更)	
Pit250	24	楕円形	51×(34)	25	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック・灰白色火山灰ブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit181・216より古い。
Pit251	17	楕円形	45×34	20	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック(ともに5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit252	17	楕円形	28×19	9	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit253	17	長楕円形	48×30	24	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit254	17	楕円形	22×22	44	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	Pit255より新しい。
Pit255	17	楕円形	(35)×23	19	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit254より古い。
Pit256	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit257	17	楕円形	(26)×22	16	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit258	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit259	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit260	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit261	22	方形	26×22	20	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit262	22	楕円形	26×24	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40mm程度)多量、焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit263	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit264	19	不明	(15)×(26)	21	1	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	SB6より古い。
Pit265	18	楕円形	(21)×(19)	23	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	SD4、SK39より古い。
Pit266	18・23	楕円形	26×22	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SK39より古い。
Pit267	23	円形	20×19	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む。	SB3より新しい。
Pit268	16	円形	33×29	17	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状に微量含む。	
Pit269	21・22	楕円形	43×37	26	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルブロック(5～10mm程度)・炭化物ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。	
Pit270	22	楕円形	28×22	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	SA1より新しい。
Pit271	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB5の柱穴へ変更)	
Pit272	43	楕円形	20×16	21	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit273	43	楕円形	35×30	22	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルト斑状に少量、Ⅳ層土斑状・礫(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	SD8より新しい。
Pit274	43	円形	14×14	7	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SD8より新しい。
Pit275	43	長楕円形	31×21	16	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・礫(5～10mm程度)微量含む。	SD8より新しい。
Pit276	38	円形	40×37	12	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(5～400mm程度)微量含む。	SD6より古い。
Pit277	23	楕円形	33×25	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	SB3より新しい。
Pit278	23	方形	36×35	39	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	Pit293より新しい。
Pit279	17	方形	39×37	7	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit280	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB3の柱穴へ変更)	
Pit281	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB3の柱穴へ変更)	
Pit282	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB3の柱穴へ変更)	
Pit283	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB3の柱穴へ変更)	
Pit284	22	長楕円形	46×36	39	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit285	23	長楕円形	45×37	29	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	Pit328より新しい。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土ブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit286	23	楕円形	19×16	7	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit287	23	長楕円形	42×30	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit288	23	楕円形	28×24	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～30mm程度)少量含む。	
Pit289	23	楕円形	26×23	47	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit290	23	不明	(19)×(32)	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物ブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit291	23	円形	27×26	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・焼土粒微量含む。	

ピット 観察表 (7)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit292	23	長楕円形	43×28	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)少量、礫(5mm程度)微量含む。	Pit384・467より新しい。
Pit293	23	長楕円形	31×12	23	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)・灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit278より古い。
Pit294	23	楕円形	35×28	29	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit295	23	円形	27×27	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit296	23	楕円形	34×26	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・灰色シルトブロック(5～30mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit297	23	楕円形	22×18	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit298	23	楕円形	27×21	10	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit299	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB6の柱穴へ変更)	
Pit300	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB6の柱穴へ変更)	
Pit301	23	長楕円形	31×22	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit302	23	円形	24×22	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit303	23	円形	22×20	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit304	23	楕円形	23×19	22	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit305	23	楕円形	30×24	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit306	23	円形	37×33	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit307	23	円形	34×33	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。※柱痕跡	
					2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit308	23	円形	25×24	3	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit309より新しい。
Pit309	23	長楕円形	39×(29)	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	Pit308より古い。
Pit310	23・28	楕円形	47×34	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit311	23	円形	23×22	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)多量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量含む。	Pit330より新しい。
Pit312	23・28	円形	29×28	34	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)・灰色シルトブロック(5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit313	28	円形	22×21	9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit314	23	楕円形	25×21	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit315	28	方形	39×34	40	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit316	23・28	円形	21×21	27	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit317	28	楕円形	52×38	11	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)多量含む。	Pit416より新しい。
Pit318	23	楕円形	22×19	10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit319	28	楕円形	32×26	33	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit320	28	楕円形	25×21	22	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit321	28	円形	30×28	19	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit322	28	円形	32×29	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・炭化物少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit323	28	円形	26×22	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物少量、焼土ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
Pit324	28	楕円形	31×23	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～30mm程度)・炭化物粒少量含む。	
Pit325	28	円形	57×54	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・灰色シルトブロック(5～30mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit326	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB6の柱穴へ変更)	
Pit327	22・23	楕円形	27×22	43	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit328	23	楕円形	39×(34)	21	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40mm程度)多量、黒褐色土ブロック(5～30mm程度)・灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(10mm程度)微量含む。	Pit285より古い。
Pit329	23	円形	25×23	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・礫(5mm程度)微量含む。	
Pit330	23	円形	22×20	6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～40mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、礫(10mm程度)微量含む。	Pit311より古い。
Pit331	28	円形	25×24	15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit332	28	円形	24×23	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)、焼土粒微量含む。	
Pit333	28	長楕円形	29×20	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)微量含む。	

ピット 観察表 (8)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit334	28	円形	22×22	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit335	28	円形	21×19	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit336	28	楕円形	25×22	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。	
Pit337	28	円形	18×17	9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・礫(5mm程度)微量含む。	
Pit338	28	円形	26×23	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit339	28	楕円形	35×28	8	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit340	28	方形	43×35	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit341	33	円形	28×27	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit342	33	長方形	24×17	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit343	33	楕円形	52×47	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit344	33	円形	(24)×(22)	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit345	33	円形	(31)×30	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、礫(10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit346	33	楕円形	(27)×(20)	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	
Pit347	33	楕円形	31×28	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit348	33	楕円形	26×21	33	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、礫(50mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit349	33	円形	24×23	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit350	33	楕円形	26×21	14	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit351	33	円形	22×21	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit352	33	長楕円形	33×21	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit353	33	楕円形	26×20	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、礫(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit354	33	長楕円形	35×21	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit355	33	楕円形	30×27	25	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)・炭化物粒少量含む。	
Pit356	33	円形	29×28	29	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、炭化物粒微量含む。	
Pit357	32	円形	16×15	5	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit358	32	長楕円形	32×21	2	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit359	―	―	―	―	―	―	―	※欠番(SB7の柱穴へ変更)	
Pit360	17・32	不明	(49)×(30)	29	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、礫(5mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit361	32	長楕円形	39×22	8	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit362	32	円形	21×20	7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit363	―	―	―	―	―	―	―	※欠番(SB7の柱穴へ変更)	
Pit364	32・33	楕円形	23×19	12	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
Pit365	33	長楕円形	28×20	27	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)・焼土粒・炭化物ブロック(5～10mm程度)微量含む。	
Pit366	33	円形	53×49	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit367	33	楕円形	(24)×(20)	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む。	SB7、SK60より新しい。
Pit368	33	楕円形	30×25	27	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック・礫(ともに5mm程度)微量含む。	
Pit369	33	円形	20×18	13	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit370	33	長楕円形	29×21	9	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
Pit371	33	円形	22×22	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、礫(5mm程度)微量含む。	
Pit372	33	長楕円形	(27)×38	11	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量、礫(5mm程度)微量含む。	
Pit373	33	楕円形	37×32	29	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～20mm程度)少量、礫(5～10mm程度)微量含む。	
Pit374	33	方形	26×25	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)少量、灰色シルトブロック(5～10mm程度)微量含む。	
Pit375	33	方形	28×27	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(20mm程度)微量含む。	
Pit376	33	円形	23×19	25	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit377	33	方形	23×22	22	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む。	
Pit378	32・33	円形	19×18	9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit379	32	円形	24×24	10	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(10mm程度)・炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表 (9)

遺構名	区割	平面形	規模(cm)		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit380	32・33	楕円形	22×18	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック・礫(ともに5mm程度)微量含む。	
Pit381	32・33	円形	21×19	13	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit382	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB7の柱穴へ変更)	
Pit383	33	円形	24×22	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(10mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit384	23	長楕円形	(32)×23	30	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)・炭化物粒微量含む。	Pit292より古く、Pit467より新しい。
Pit385	23	楕円形	19×16	21	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、焼土粒微量含む。	Pit442より新しい。
Pit386	28	円形	24×23	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
Pit387	28	円形	28×27	37	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)・焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit450より新しい。
Pit388	33	楕円形	(22)×19	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	Pit389より新しい。
Pit389	33	楕円形	(28)×(29)	15	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	Pit388より古い。
Pit390	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB7の柱穴へ変更)	
Pit391	22	長楕円形	36×18	6	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、炭化物粒微量含む。	
Pit392	22	楕円形	32×26	31	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit393	23	楕円形	40×34	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit394	23	長楕円形	(19)×24	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～30mm程度)・灰色シルトブロック(5～20mm程度)多量含む。	SB3より古く、Pit461より新しい。
Pit395	23	円形	(24)×(21)	(5)	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	SK54・55より古い
Pit396	23	円形	25×22	17	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit397	18	楕円形	(51)×(46)	(20)	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(5～30mm程度)・炭化物粒微量含む。	SD5より古い。
Pit398	18	楕円形	(61)×(51)	20	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)多量、礫(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	SD5より古い。
Pit399	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SI3付属柱穴列2の柱穴へ変更)	
Pit400	18	楕円形	31×24	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量含む。	
Pit401	22	楕円形	30×24	40	※注記なし				
Pit402	22	長楕円形	22×16	10	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit403	22	円形	21×19	10	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit404	22・27	方形	19×17	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック(5mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit405	27	楕円形	19×17	14	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
Pit406	27	楕円形	21×19	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量含む。	
Pit407	27	方形	27×21	39	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit408	27	方形	24×22	17	1	10YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit409	27	楕円形	19×17	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、焼土粒微量含む。	
Pit410	27	楕円形	26×24	31	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit411	27	楕円形	31×23	18	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルト粒・焼土粒微量含む。	
Pit412	27	円形	36×35	29	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)少量含む。	
Pit413	27	楕円形	27×24	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit414	23・28	長楕円形	36×24	19	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit415	28	長楕円形	32×18	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～20mm程度)多量、灰色シルトブロック(5mm程度)・礫(20mm程度)・焼土粒微量含む。	
Pit416	28	楕円形	(26)×(23)	41	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	Pit317より古い。
Pit417	28	円形	19×17	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit418	28	楕円形	34×27	28	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit419	27	楕円形	37×30	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	礫(30～40mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	
Pit420	28	円形	16×15	17	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5～10mm程度)少量含む。	
Pit421	28	方形	26×22	23	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5mm程度)少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit450より新しい。
Pit422	28	円形	30×28	36	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック(ともに5～10mm程度)・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	Pit498より新しい。
Pit423	32	円形	27×24	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)多量含む。	
Pit424	32	円形	28×27	15	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～20mm程度)多量含む。	Pit437より新しい。
Pit425	32	円形	36×32	20	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・黒褐色シルトブロック(ともに5～10mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)微量含む。	
Pit426	32・33	円形	26×24	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック(5～10mm程度)少量、Ⅳ層土ブロック(5mm程度)・焼土粒微量含む。	
Pit427	—	—	—	—	—	—	—	※欠番(SB7の柱穴へ変更)	
Pit428	33	楕円形	(16)×16	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック(5mm程度)少量、灰色シルトブロック(5mm程度)・焼土ブロック(5mm程度)・炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表（10）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit429	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB7の柱穴へ変更）	
Pit430	33	楕円形	34×27	29	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit431	33	方形	22×22	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit432	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB7の柱穴へ変更）	
Pit433	26	方形	19×19	14	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒微量含む。	
Pit434	32	円形	21×21	11	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit435	32	円形	36×36	12	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量含む。	
Pit436	32	方形	20×19	7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit437	32	楕円形	（32）×26	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（とも5mm程度）少量、焼土粒微量含む。	Pit424より古い。
Pit438	23	円形	35×（32）	38	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SB3より古い。
Pit439	23	楕円形	26×21	16	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit440	23	円形	31×29	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	Pit462より新しい。
Pit441	23	長楕円形	（37）×23	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SB3より古い。
Pit442	23	楕円形	（44）×35	23	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	Pit385より古く、Pit443より新しい。
Pit443	23	円形	46×40	19	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit442より古い。
Pit444	23	楕円形	（24）×27	32	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SB3、Pit445より古い。
Pit445	23	円形	32×28	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	Pit444より新しい。
Pit446	28	楕円形	27×22	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルト粒微量含む。	
Pit447	27	楕円形	（39）×39	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・礫（10mm程度）微量含む。	SK56より古い。
Pit448	27	長楕円形	（48）×（33）	9	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SK53より古い。
Pit449	27	円形	17×15	24	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック・礫（ともに5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SK52より古い。
Pit450	28	長楕円形	25×（19）	39	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	Pit387・421より古い。
					2	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）微量含む。	
Pit451	32	円形	（26）×（23）	28	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit452	32	楕円形	25×21	17	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック少量含む。	
Pit453	37	円形	20×19	15	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒微量含む。	
Pit454	37・38	方形	26×23	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック・礫（いずれも5mm程度）微量含む。	
Pit455	32	円形	22×21	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit456	17・18	不明	（33）×（11）	（22）	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。	SB2より古い。
Pit457	17	楕円形	（35）×35	18	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	SK58より古い。
Pit458	18	楕円形	（52）×58	32	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SB3より古い。
Pit459	18	楕円形	（25）×30	46	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・礫（ともに5～10mm程度）微量含む。	SB3より古い。
Pit460	18	楕円形	（22）×38	27	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	SB3、SD5より古い。
Pit461	23	楕円形	36×（29）	18	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	Pit394より古い。
Pit462	23	長方形	（25）×（16）	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。	Pit440より古い。
Pit463	23	不明	（20）×（6）	28	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	Pit290より古い。
Pit464	23	楕円形	58×43	21	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	Pit300より古く、Pit468より新しい。
Pit465	19	楕円形	19×（11）	7	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SI3より古い。
Pit466	23	楕円形	49×（20）	26	※注記なし				SB3より古い。
Pit467	23	楕円形	（25）×29	19	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit292・384より古い。
Pit468	23	長楕円形	53×37	35	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック・礫（ともに5mm程度）微量含む。	Pit464より古い。
Pit469	19	楕円形	（25）×（22）	42	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	SD5より古く、Pit472より新しい。
Pit470	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB6の柱穴へ変更）	
Pit471	19	楕円形	（23）×52	48	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～20mm程度）少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SI3、SK33より古い。
Pit472	19	楕円形	（26）×（23）	46	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SD5、Pit469より古い。
Pit473	28	楕円形	26×20	24	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit474	27	楕円形	（26）×21	20	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土（5～20mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	

ピット 観察表（11）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit475	18	方形	（30）×29	33	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量、炭化物粒・焼土粒微量含む。	SI3より古い。
Pit476	28	楕円形	22×19	26	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・炭化物粒少量含む。	
Pit477	33	長楕円形	（37）×（20）	22	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	SB4より古い。
Pit478	38	長楕円形	38×27	11	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰多量、炭化物粒微量含む。	Pit479より新しい。
Pit479	38	楕円形	（29）×24	13	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量含む。	Pit478より古い。
Pit480	43	楕円形	20×15	14	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
Pit481	42	楕円形	23×19	11	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）少量含む。	
Pit482	42	円形	18×17	18	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit483	42	楕円形	32×25	40	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit484	37	円形	28×28	37	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。	SD6より新しい。
Pit485	42	楕円形	27×23	33	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit486	42	長楕円形	51×34	31	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit487	42	円形	47×43	31	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit488	47	円形	37×34	32	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit489	47	円形	52×50	25	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit490	47	円形	36×33	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit491	47	円形	23×23	15	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・焼土粒微量含む。	
Pit492	43	円形	33×33	20	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit493	43・48	長楕円形	47×34	16	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit494	43・48	楕円形	38×32	15	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、礫（5mm程度）微量含む。	
Pit495	43・48	楕円形	37×32	18	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit496	48	楕円形	29×24	13	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit497	48	円形	21×21	8	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit498	28	楕円形	（27）×（23）	38	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒少量含む。	SB4、Pit422より古い。
Pit499	37	円形	22×20	16	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルト粒少量、Ⅳ層土ブロック・礫（ともに5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SD7より古い。
Pit500	37	円形	29×27	41	1	7.5YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）少量、灰白色火山灰ブロック（5～20mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit501	42	円形	17×16	11	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit502	42	円形	25×25	20	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	灰色シルト粒多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit503	42	長楕円形	22×14	14	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒を斑状に多量、灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	
Pit504	42	円形	18×16	11	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）少量、礫（10mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit505	42	楕円形	19×15	10	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	SD8と重複（新旧関係不明）。
Pit506	42	長楕円形	23×16	20	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。	SD8と重複（新旧関係不明）。
Pit507	42	楕円形	（12）×13	13	1	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit508	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB6の柱穴へ変更）	
Pit509	18	楕円形	（19）×16	13	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量、灰色シルト粒微量含む。	SK66より古い。
Pit510	18	方形	29×（29）	37	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに5～10mm程度）・炭化物粒少量、礫（10mm程度）微量含む。	SI3より古い。
Pit511	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB3の柱穴へ変更）	
Pit512	42	楕円形	（30）×26	13	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	SD8より古い。
Pit513	42	楕円形	25×22	14	1	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、礫（20mm程度）・炭化物粒微量含む。	SD8より古い。
Pit514	42	楕円形	27×（25）	14	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、礫（30mm程度）微量含む。	SD8より古い。
Pit515	42	円形	21×21	28	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。	
Pit516	31	楕円形	26×19	14	1	2.5Y3/1 暗赤灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit517	46	円形	64×58	35	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒斑状に多量、灰色シルト斑状・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
Pit518	28	長方形？	（41）×（17）	29	1	5YR3/1 黒褐色	シルト	焼土粒斑状・焼土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物粒少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
Pit519	28	楕円形	25×20	14	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
Pit520	24	円形？	22×（12）	15	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、礫（30mm程度）・焼土粒微量含む。炭化物ブロック（5～50mm程度）下位に集中。	SB6より古い。
Pit521	18	楕円形	16×12	13	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	Pit522より新しい。
Pit522	18	楕円形	（25）×（19）	（18）	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。	SD5・Pit521より古い。
Pit523	18	円形	（29）×（26）	（20）	1	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。	SD5、Pit521より古い。
Pit524	18	楕円形	（34）×（30）	（42）	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SD4・5より古く、Pit525より新しい。
					2	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
Pit525	18	楕円形	（35）×（22）	（32）	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。	SD4、Pit524より古く、Pit528より新しい。

ピット 観察表（12）

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
Pit526	18	円形	（25）×（24）	（21）	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック・黒褐色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	Pit199 より古い。
Pit527	18	楕円形	（48）× 42	24	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡	SI3・5 より古い。
					2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルト粒少量含む。	
					3a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量含む。	
Pit528	18	長方形	（34）×（21）	13	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。	SD4、Pit525 より古い。
Pit529	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB6 の柱穴へ変更）	
Pit530	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB6 の柱穴へ変更）	
Pit531	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB7 の柱穴へ変更）	
Pit532	―	―	―	―	―	―	―	※欠番（SB7 の柱穴へ変更）	

第２節　奈良～平安時代の遺構と遺物（第 43 ～ 85 図）

奈良～平安時代の遺構は、竪穴住居跡 15 軒（SI6 ～ 19）、溝跡 1 条（SD14）、土坑 16 基（SK17・32・42・46 ～ 48・69 ～ 78）を確認した。

当該期の竪穴住居跡と土坑は、調査区の中央部から南側及び西側にかけて分布し、その北縁に SD14 が東西に延びる。竪穴住居跡は SI7・14・15、SI8A・8B、SI10・13、SI16 ～ 19 がそれぞれ重複関係にあるが、全体の遺構分布は散在的である。

遺物は、土師器・須恵器や石製品、金属製品、鉄滓などが出土した。土師器はロクロ成形のものが主体である。SI6・7 から出土した一部の土器類と石製品は、遺構間で接合したものもある。SI6 からは桃と思われる種が、SI7 からは炭化米などの自然遺物も出土した。

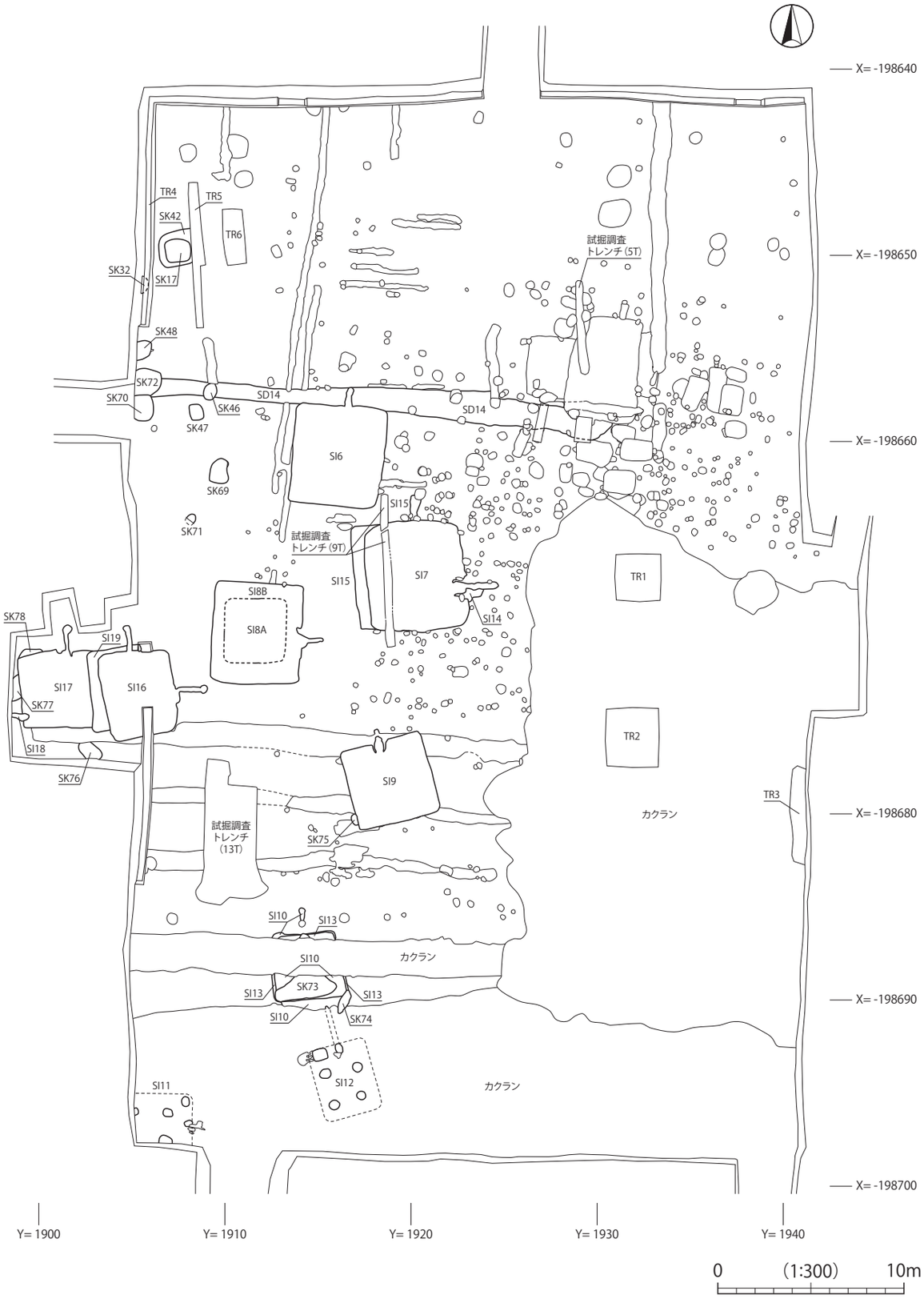
以下、奈良～平安時代の遺構について、竪穴住居跡、溝跡、土坑の順で記載する。

(1) 竪穴住居跡（第 44 ～ 80 図）

竪穴住居跡は、15 軒（SI6 ～ 19）確認された。その分布は調査区中央部から南側と西側に広がるようにして点在するが、南部の住居跡は削平や撹乱のため残存が不良である。住居跡同士の重複関係をみると、西部では SI16 ～ 19 が東西に並んで重複し、SI7・14・15、SI8A・8B、SI10・13 は入れ子状もしくはこれに近いかたちで重複する。平面形状の確認できたものは全て方形基調で、方位は四辺がほぼ東西南北を向く一群（SI6 ～ 8B・10・11 ？・13・15・17・19）と、若干西側に傾く一群（SI9・12 ？・16）が存在する（SI14・18 はカマド煙道部のみの確認に留まるため不明）。規模は SI7 の長軸 605cm が最大、SI8A の長軸 340cm が最小で、主体は長軸 450cm 前後の住居跡である。SI13・19 以外はカマドを伴い、SI6・9・10・12・15・17 が北壁、SI7・8A・8B・11 が東壁に付設される。SI16 は北壁と東壁の 2 箇所に付設される。カマドは壁内に設置されるのが基本形態であるが、SI8B のカマドは 1/2 程度が壁外に張り出す。カマドの袖は基本土層Ⅳ層土に似たシルトを突き固めて構築されるのが共通の特徴である。特殊な例として SI16 のカマド 2 は、焚口部分を自然礫と直方体に加工した粘土焼成ブロックを組み合わせて構築されている。SI9・17 はカマドとは別に炉も伴っており、SI17 では 2 箇所確認した。このうち SI9 の炉と SI17 の炉 1 は掘り込みを伴わない被熱範囲であり、SI17 の炉 2 は小規模な掘り込みを伴う。

SI7 は焼失住居で、堆積土や床面上から多量の焼土や炭化材が出土し、床面も広範囲にわたって被熱している。炭化材はほぼ原形を保つものが多く、壁材や柱材などが良好に残存する。西壁際の一部では、壁材に使用されたとみられる網代状の編物の痕跡も確認した。そこでこれらの炭化材から分析試料 20 点を採取し、樹種同定を実施した。

これらの竪穴住居跡の時期は、出土遺物や重複関係から 8 世紀後半～ 10 世紀前半と推定され、奈良時代から平安時代前半にかけての集落と考えられる。



第43図　奈良～平安時代遺構配置図

SI6竪穴住居跡（第44～48図）

【位置・確認】 調査区北西部、17・22区に位置する。西壁の上端は、平安時代～中世のSA2との重複により失われている。

【重複】 SD14より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸534cm、短軸495cmを測り、平面形状は若干南北に長い方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN－6°－Eを測る。

【堆積土】 大別で37層に分層した。1～10層は暗灰黄色・灰黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。11層は周溝堆積土、12～22層はカマド堆積土である。23～25層はカマド燃焼部の掘り方埋土、26～30層はカマド奥壁～煙道部前端の構築土である。31～37層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で51cmを測る。

【床面】 概ね平坦で、基本層Ⅳ層土を多量に混入した灰黄褐色・黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で6基（P1～6）確認した。規模や位置関係からP1～4は主柱穴と考えられ、規模は長軸45～64cm、短軸38～57cm、深さ33～35cmを測る。P3で径12cm程度の柱痕跡を確認し、その底面からは礎盤石とみられる扁平な自然礫が出土した。P5・6は補助柱穴と思われる。

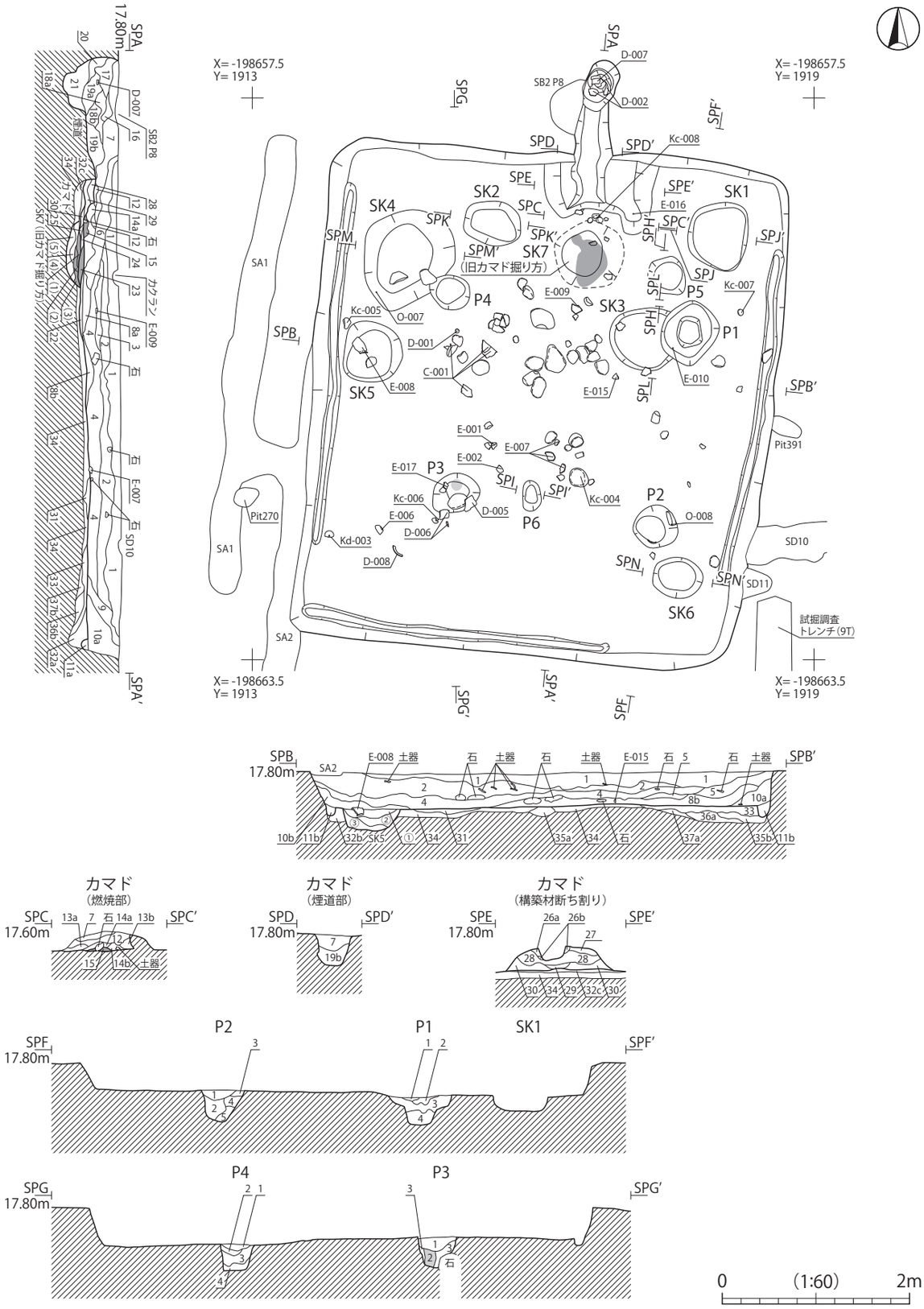
【周溝】 北壁を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅10～15cm、深さ6～11cmを測る。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は両袖とも失われている。燃焼部は壁面から50cm程度内側に離れて位置し、規模は奥行き42cm以上、幅66cm以上を測る。底面は平坦で、長径40cm程度の焼面が形成される。奥壁は外傾して13cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部の前端部は壁内に位置し、燃焼部奥壁とともに基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築される。煙道部は底面が煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は長さ153cm、幅30～42cm、深さ31～59cmを測る。煙出しはカマドの主軸から19°東に振れ、長軸53cm、短軸33cm程度のピット状を呈する。中層付近からは、ロクロ土師器の甕（第47図－5）1/5個体が潰れた状態で出土した。本カマドの直下からは古いカマドの掘り方とみられるSK7が検出されており、カマドの造り替えが行われたと考えられる。

【その他の施設】 床面で7基（SK1～7）の土坑を確認した。SK1・2はカマドの左右に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。SK1の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸64cm、深さ19cmを測る。SK2の平面形状は楕円形を呈し、長軸63cm、短軸47cm、深さ20cmを測る。ほかの土坑は性格不明だが、SK6が南東コーナー付近に位置するほかは北半部に位置し、いずれも人為的に埋め戻されている。SK3の平面形状は楕円形と推定され、規模は残存値で長軸67cm、短軸67cm、深さ23cmを測る。SK4の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸113cm、短軸98cm、深さ37cmを測る。SK5の平面形状は円形を呈し、規模は長軸64cm、短軸62cm、深さ25cmを測る。SK6の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸53cm、短軸44cm、深さ29cmを測る。SK7の平面形状は円形を呈し、規模は長軸75cm、短軸74cm、深さ17cmを測る。SK7はカマド燃焼部の直下に位置し、古いカマドの掘り方と考えられる。

【掘り方】 深さ3～22cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

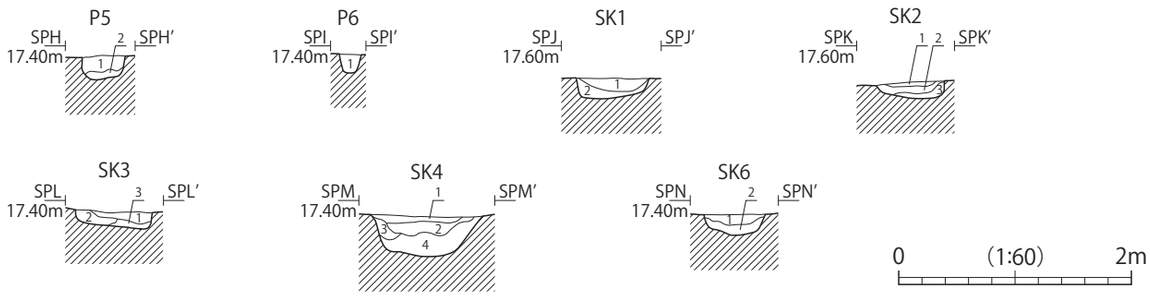
【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、自然遺物（種）が出土した。このうち、土師器1点、ロクロ土師器4点、須恵器10点のほか、種2点を掲載した（第46～48図・種は写真図版23にのみ掲載）。大半の遺物が多量の礫とともに床面から浮いた状態で出土していることから、住居廃絶後の投棄によるものと考えられる。床面遺物は比較的少ない。第46図－1は土師器の鉢で、口径30.8cmの大型品である。器形はやや歪み、口縁部と体部の境に弱い稜をもつ。外面はハケメ、内面はヘラナデ調整される。2～4・第47図



第44図　SI6竪穴住居跡（1）

SI6 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック・礫（ともに 5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量、一部に礫（150 ～ 200mm 程度）含む。
	5	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルト粒・礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	8a	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土ブロック（5mm 程度）少量、礫（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	8b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	10a	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒微量含む。
周溝	11a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	11b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	12	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒微量含む。
	13a	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒・灰少量含む。
	13b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	14a	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土粒少量、Ⅳ層土粒微量含む。全体が薄く被熱。
	14b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック（5mm 程度）微量含む。
	15	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰互層状に多量含む。
	16	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	17	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒・炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	18a	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	18b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	19a	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	19b	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	20	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルト粒微量含む。
	21	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	22	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土・炭化物・灰互層状に多量、焼土粒少量含む。
カマド燃焼部掘り方	23	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。※燃焼面
	24	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒少量、灰微量含む。
	25	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
カマド奥壁～煙道部構築土	26a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量、灰微量含む。
	26b	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	27	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土斑状・炭化物粒微量含む。
	28	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	29	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒・灰微量含む。
	30	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	31	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	32a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	32b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	32c	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	33	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5 ～ 20mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	34	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 30mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	35a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（10mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	35b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 20mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	36a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（20mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	36b	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	37a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	37b	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。



SI6 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	64 × 57	33	主柱穴
P2	円形	48 × 47	33	主柱穴
P3	楕円形	52 × 41	33	主柱穴　礎盤石
P4	楕円形	45 × 38	35	主柱穴
P5	円形	39 × 38	22	補助柱穴
P6	楕円形	33 × 19	16	補助柱穴
SK1	楕円形	73 × 64	19	貯蔵穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
SK2	楕円形	63 × 47	20	貯蔵穴
SK3	（楕円形）	（67）× 67	23	
SK4	楕円形	113 × 98	37	
SK5	円形	64 × 62	25	
SK6	楕円形	53 × 44	29	
SK7	円形	75 × 74	17	旧カマド掘り方

第 45 図　SI6 竪穴住居跡（2）

SI6 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土粒少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量、礫（10mm 程度）微量含む。
	4	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、礫（5mm 程度）微量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。※柱痕跡
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、礫（20mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状・礫（5mm 程度）微量含む。
P5	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、礫（5 ～ 40mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5mm 程度）多量、焼土粒微量含む。
P6	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に少量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK3	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK4	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK5	①	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	②	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	③	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
SK6	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 20mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK7	（1）	5YR5/6 明赤褐色	シルト	硬く焼け締まる。
	（2）	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土斑状に多量、焼土ブロック（5mm 程度）少量、Ⅳ層土斑状に微量含む。
	（3）	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒微量含む。
	（4）	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	（5）	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

－５はロクロ土師器で、２は鉢、ほか３点は甕である。鉢は口径25.0cmの大型鉢で、内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。３・４の甕の口縁部は受口状を呈する。５の外面は平行タタキ後、中位～下位がヘラケズリ調整される。第47図－６～第48図－15は須恵器で、６～11は坏、12・13は鉢、14は壺、15は甕である。坏の底部切り離し技法は６が回転ヘラ切り、10が回転糸切り、ほかは回転もしくは手持ちヘラケズリで調整され不明である。６は切り離し後、手持ちヘラケズリ調整される。12の鉢は小型鉢で、口縁部と体部との境に強い稜をもつ。13は大型鉢で、口縁部は受口状を呈する。外面は平行タタキ後、下半部がヘラケズリ調整される。14の壺は肩部が大きく張り、横瓶の可能性もある。外面には、自然釉の付着がみられる。15の甕は底部付近の破片で、底部は中央がやや凹む。外面はヘラケズリ、内面はヘラナデ調整される。写真のみ掲載した種はともに桃の核である可能性があり、床面から出土した。また、石製紡錘車の破片が１点出土している。SI7の床面施設から出土した石製紡錘車と接合したため、帰属性が高いSI7の遺物として掲載した（第53図－15）。

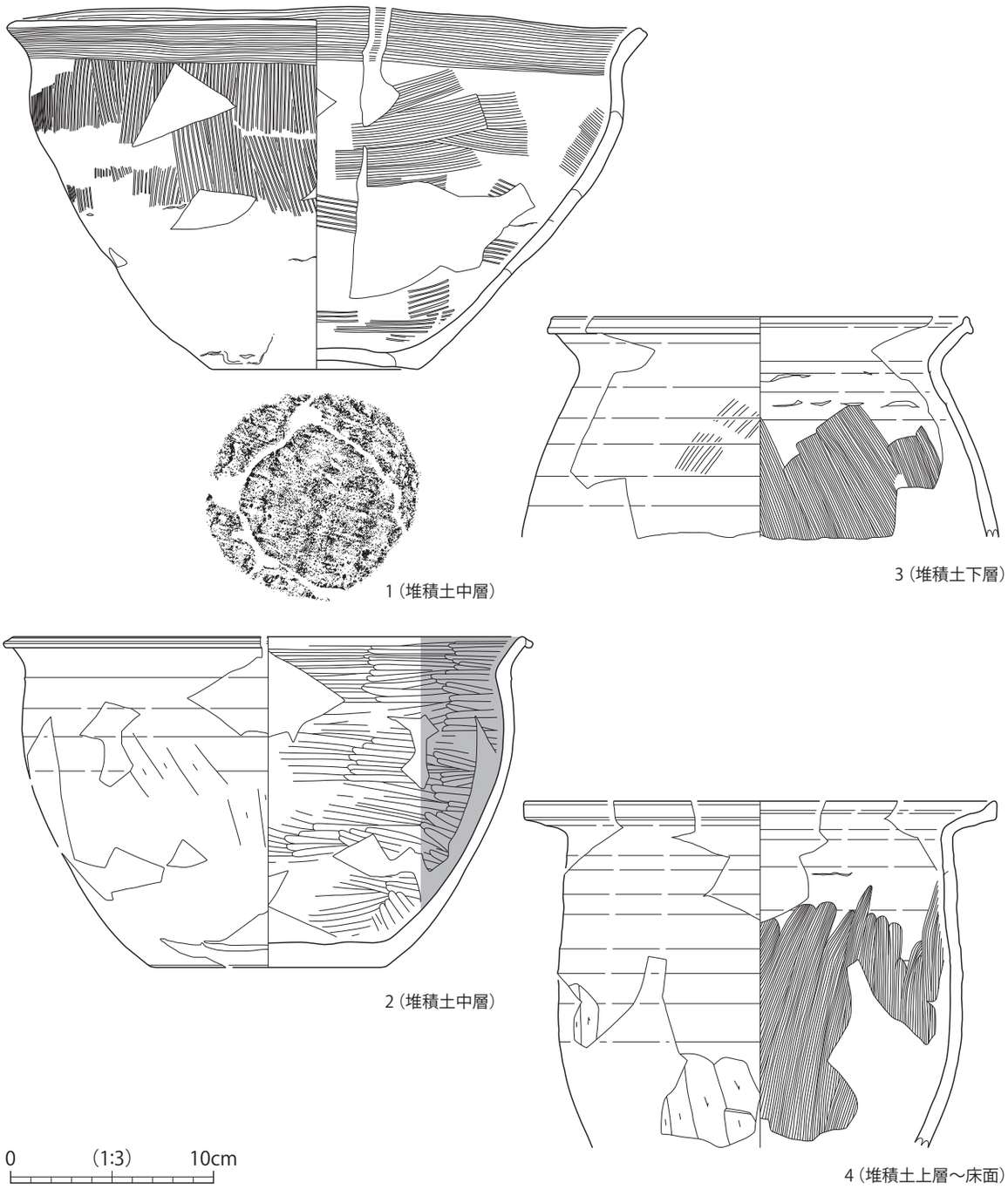
【時期】　床面から出土した須恵器坏や鉢、甕（第47図－６・７・12・第48図－15）の特徴から、A1期（８世紀後半～８世紀末頃）と考えられる。

SI7 竪穴住居跡（第49 ～ 53図）

【位置・確認】　調査区中央部、22・23・27・28・32・33区に位置する。壁及び床面は平安時代～中世の土坑やピットとの重複により部分的に失われている。今回の調査で唯一検出された焼失住居である。

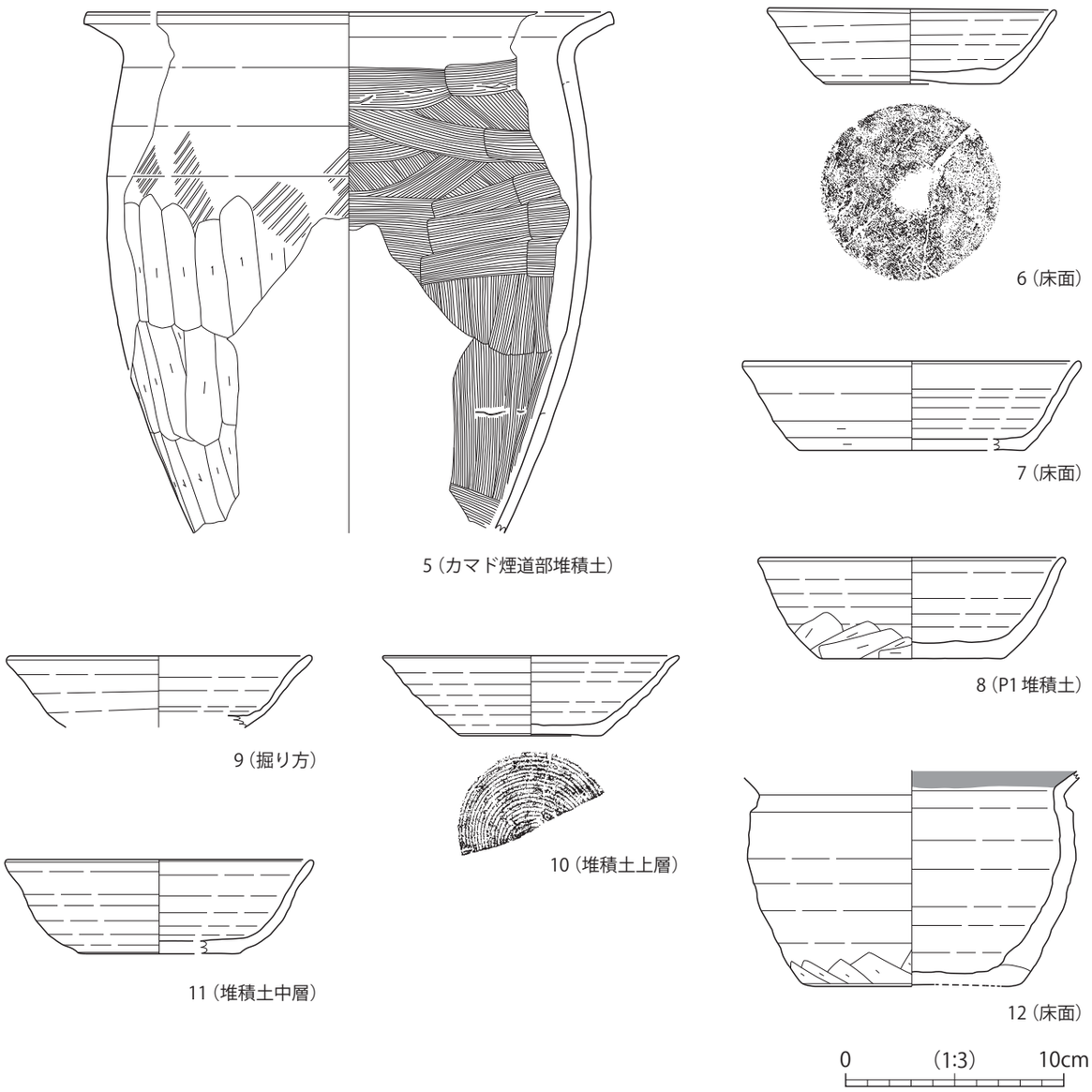
【重複】　SI14・15より新しい。

【規模・形態】　検出した規模は長軸605cm、短軸530cmを測り、平面形状は若干南北に長い方形を呈する。



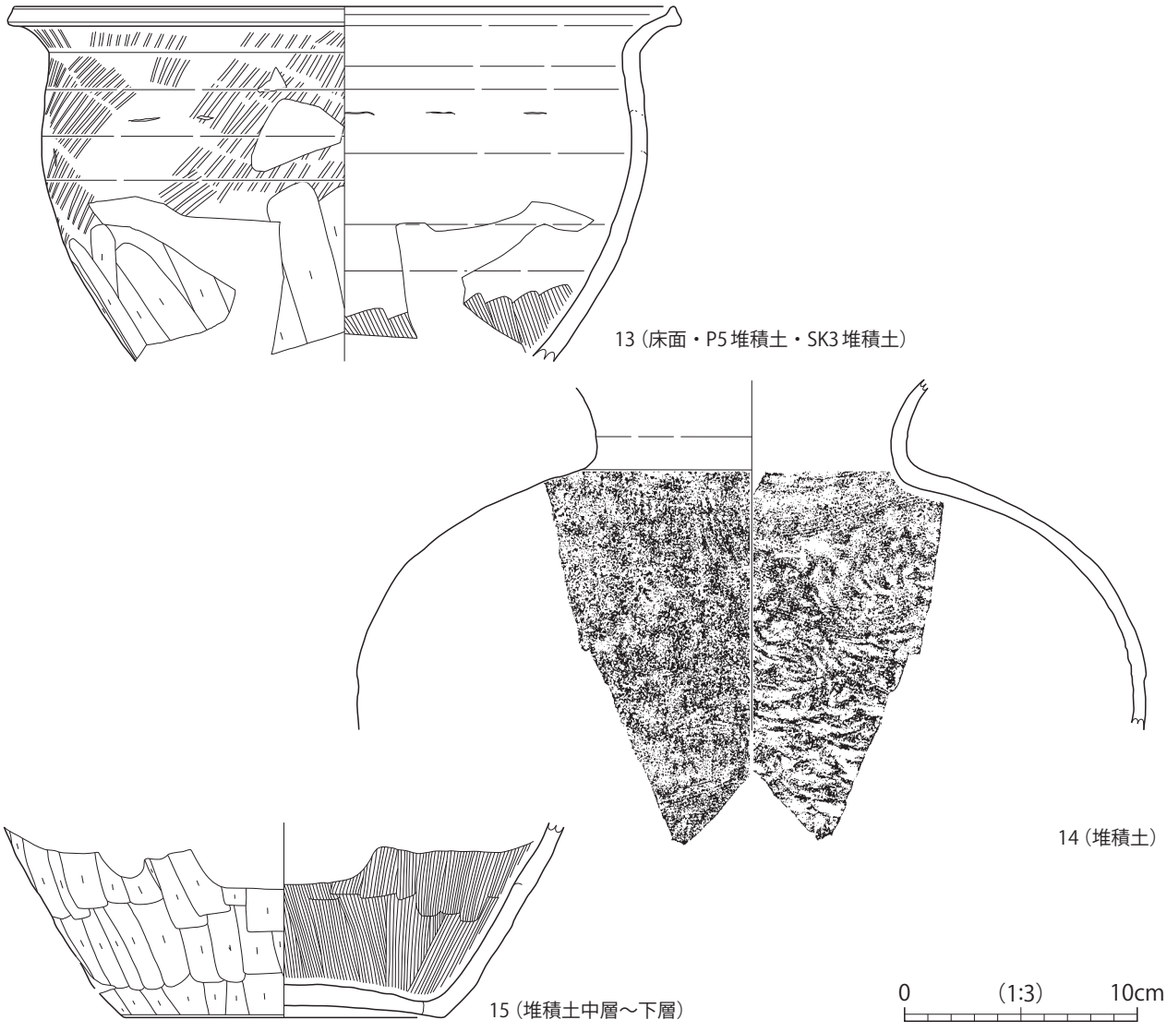
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-001	SI6	堆積土中層	土師器	鉢	30.8	10.1	17.9	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ 体部：ﾊｹﾒ 底部：畳表状の圧痕	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ 体上位：ﾍﾗﾅﾃﾞ 体中位～下位：ﾍﾗﾅﾃﾞ →ﾊｹﾒ	外面体部摩滅。内面体上位摩滅。	22
2	D-001	SI6	堆積土中層	ロクロ土師器	鉢	(25.0)	11.0	16.4	ﾛｸﾛ調整 体中位～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 体上位～下位：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面摩滅。内面黒色処理。	22
3	D-006	SI6	堆積土下層	ロクロ土師器	甕	(20.4)	—	(10.9)	ﾛｸﾛ調整 胴部：平行ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ調整 胴中位：ﾍﾗﾅﾃﾞ		22
4	D-003	SI6	堆積土上層～床面	ロクロ土師器	甕	(23.2)	—	(17.1)	ﾛｸﾛ調整 胴中位：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	外面煤付着。	22

第46図　SI6竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
5	D-002	SI6 ｶﾏﾄﾞ 煙道部	堆積土	ロクロ土師器	甕	（24.0）	—	（23.9）	ﾛｸﾛ調整 胴上半：平行ﾀﾀｷ 胴下半：平行ﾀﾀｷ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ		22
6	E-001	SI6	床面	須恵器	坏	13.1	8.0	3.5	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		23
7	E-002	SI6	床面	須恵器	坏	（15.4）	（10.4）	4.1	ﾛｸﾛ調整 体下位：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：切り離し不明→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		23
8	E-003	SI6 P1	堆積土	須恵器	坏	（13.9）	（8.1）	4.7	ﾛｸﾛ調整 体下半：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：切り離し不明→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		23
9	E-004	SI6	掘り方	須恵器	坏	13.8	—	3.3	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		23
10	E-005	SI6	堆積土上層	須恵器	坏	（13.5）	（6.4）	（3.7）	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	重ね焼き痕。	23
11	E-006	SI6	堆積土中層	須恵器	坏	（14.0）	（7.2）	4.3	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	外面口縁部に重ね焼き痕。内外面火襷痕。海綿骨針少量含む。	23
12	E-007	SI6	床面	須恵器	鉢	15.4	10.0	10.0	ﾛｸﾛ調整 体下端～底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	内面口縁部煤付着。外面底部火ﾊﾈの為不明瞭。	23

第 47 図　SI6 竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
13	E-010	SI6 P5・SK3	床面・堆積土	須恵器	鉢	（28.3）	—	15.3	ﾛｸﾛ調整 口縁部～体上半：平行ﾀﾀｷ 体下半：平行ﾀﾀｷ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 体下半：ﾍﾗﾅﾃﾞ	海綿骨針微量含む。	23
14	E-008	SI6 SK5	堆積土	須恵器	壺	—	—	（15.1）	ﾛｸﾛ調整 胴部：平行ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ調整 胴部：青海波ｱﾃ具痕→ﾍﾗﾅﾃﾞ		23
15	E-009	SI6	堆積土中～下層	須恵器	甕	—	13.6	（8.4）	胴部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ　一部ﾊｹﾒ		23

第48図　SI6竪穴住居跡出土遺物（3）

【方向】 カマドを基準としてN－87°－Eを測る。

【堆積土】 大別で34層に分層した。1～11層は暗灰黄色・オリーブ褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。床面上や壁際には焼土層、炭化物層、さらに基本層Ⅳ層土ブロックを多量に含む崩落土層が複雑に堆積し、これらの層には多量の炭化材が含まれる。12層は周溝堆積土である。A～Cセクション以外の場所では杭材痕が観察される。13～24層はカマド堆積土である。大半の層が焼土ブロックを多量含む。25～28層はカマド袖・奥壁構築土、29～31層はカマド掘り方埋土である。このうち30層は被熱層で北袖直下まで広がり、カマドの造り替えを示すと考えられる。32～34層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。壁際からは杭材と板材が内側に倒壊した状態で出土し、西壁には編物状の壁材も一部残存する。

【床面】　中央部が若干高まり、四壁側へ向かって低くなる。基本層Ⅳ層土を多量に混入した黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。床面上は被熱し、焼面が広範囲に形成される。

【柱穴】　床面で８基（P1 ～ 8）、掘り方で１基（P9）、総数９基確認した。規模や位置関係からP1 ～ 4は主柱穴と考えられ、規模は長軸56 ～ 93cm、短軸50 ～ 73cm以上、深さ26 ～ 40cmを測る。いずれの柱穴からも径17 ～ 22cm程度の柱痕跡を確認した。これらの上部は炭化・灰化し、P4では床面上に露出した柱材が倒れた状態で残存する。P5・7・8は壁柱穴及び補助柱穴と考えられる。P6はP2と重複し、P2により一部失われている。建て替えも考えられる。P9はカマド南袖の直下に位置し、径12cm程度の柱痕跡を確認したが、位置や検出層位が不自然であり、SI14など古い住居跡に伴う可能性も考えられる。

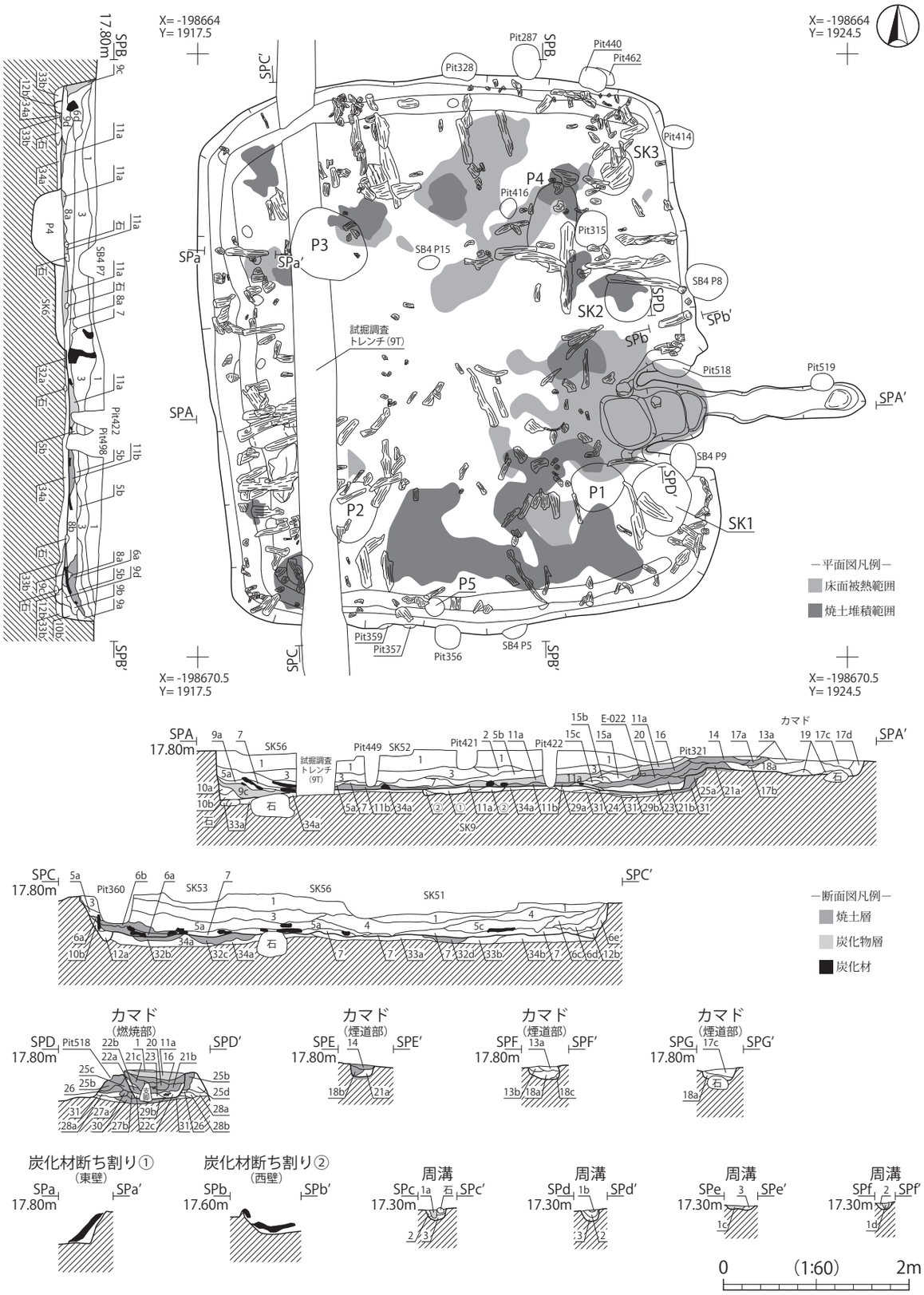
【周溝】　東壁を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は逆台形を呈し、規模は幅10 ～ 25cm、深さ５～ 15cmを測る。西壁のやや南寄りには長径50cm程度の扁平な自然礫が存在し、踏石など入口施設に関係すると考えられる。

【カマド】　東壁中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は壁面に対し馬蹄形に延び、規模は南袖が長さ93cm、幅32 ～ 50cm、北袖が長さ95cm、幅35 ～ 41cmを測る。基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築され、北袖の先端部には自然礫が芯材として埋設される。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き97cm、幅64cmを測る。底面は浅く掘り込まれ、北寄りには自然礫による支脚が１箇所底面上に設置される。底面から袖を含む内部全体に焼面が形成される。奥壁は階段状に19cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は底面が煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は長さ170cm、幅26 ～ 35cm、深さ10 ～ 17cmを測る。煙出しには長径24cm程度の扁平な自然礫が埋設される。本カマドの袖外壁は焼失時に被熱し、ほぼ全体が赤色化している。

【その他の施設】　床面で９基（SK1 ～ 9）の土坑を確認した。SK1 ～３はカマドの左右からコーナー付近に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。SK1と重複するSK4も同様の性格が考えられる。SK1の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸76cm、短軸64cm、深さ13cmを測る。SK2の平面形状は円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸51cm、深さ10cmを測る。SK3の平面形状は円形を呈し、規模は長軸51cm、短軸47cm、深さ17cmを測る。SK4の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸39cm、深さ15cmを測る。SK1･4の内外からは遺物がまとまって出土し、SK3の上層からは炭化した板材が出土している。建築部材とは異なるクワ属が用いられていることから、蓋に使用されたものと考えられる。SK5・８は南東部、SK6は中央部やや北東寄り、SK7は北部、SK9は中央部に位置する。SK5の平面形状は円形を呈し、規模は長軸77cm、短軸73cm、深さ10cmを測る。SK6の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸115cm、短軸97cm、深さ18cmを測る。SK7の平面形状は不整方形を呈し、規模は長軸74cm、短軸64cm、深さ10cmを測る。SK8の平面形状は円形を呈し、規模は長軸47cm、短軸47cm、深さ14cmを測る。SK9の平面形状は不整方形を呈し、規模は長軸91cm、短軸79cm、深さ7cmを測る。SK5 ～８は堆積土に多量の焼土を含み、カマド関連の土坑と思われる。SK2・４の堆積土中にも多量の焼土が含まれる。

【掘り方】　深さ２～ 17cmを測り、底面はカマド前方から中央部にかけて高まり、東壁を除く三壁側が「コ」字状に低くなる。

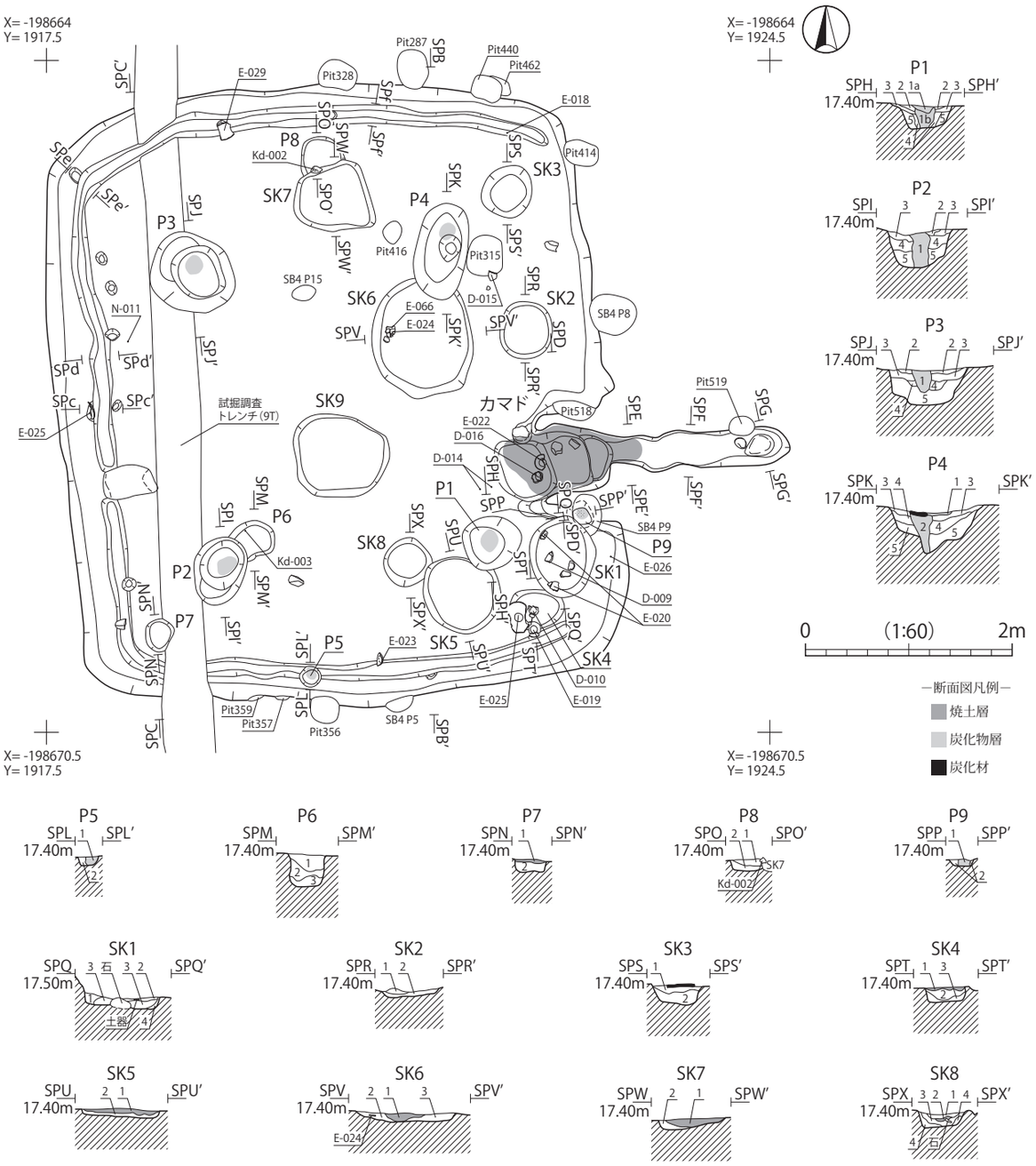
【出土遺物】　床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品が出土した。このうち、ロクロ土師器４点、須恵器９点、石製品２点を掲載した（第51 ～ 53図）。第51図－１～３・第52図－４はロクロ土師器で、１～３は坏、４は甕である。坏はいずれも底部が手持ちヘラケズリ調整され、２の底部切り離しは回転糸切りである。全て内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。４の甕は、胴部外面に平行タタキが部分的に観察される。第52図－５～第53図－13は須恵器で、５～ 12は坏、13は甕である。坏の底部切り離し技法は６・８・10・11が回転ヘラ切り、５・７・９・12が回転糸切りである。８は切り離し後、周縁を回転ヘラケズリ調整される。13の甕は胴部がやや長く、胴部上位に最大径をもつ。外面は平行タタキ後、下位を回転ヘラケズリ調整される。平行タ



第49図　SI7竪穴住居跡（1）

SI7 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量、礫（5 ～ 30mm 程度）・焼土粒微量含む。
	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒・マンガン粒多量、礫（10mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒少量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量、灰白色火山灰ブロック（5mm 程度）・焼土粒微量含む。
	5a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状・焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量、灰色シルト斑状に微量含む。
	5b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、マンガン粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	5c	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に少量、炭化物ブロック（5 ～ 30mm 程度）少量含む。
	6a	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック・炭化物ブロック（ともに 5mm 程度）少量含む。
	6b	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量含む。下位に炭化物（厚 10 ～ 20mm 程度）堆積。
	6c	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	6d	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量、礫（5mm 程度）微量含む。
	6e	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。下位に炭化物（厚 5 ～ 10mm 程度）堆積。
	8a	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒微量含む。
	8b	5Y5/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	9a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	9b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	9c	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）・灰少量含む。
	9d	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	10a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	10b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量含む。
	11a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土斑状に少量含む。
	11b	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
周溝	12a	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	12b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	13a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルトブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	13b	5Y3/2 オリーブ黒色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒・焼土粒少量含む。
	14	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	15a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	15b	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	15C	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒微量含む。
	16	5YR3/1 黒褐色	シルト	焼土・炭化物斑状に多量、Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック・炭化物ブロック（いずれも 5 ～ 20mm 程度）微量含む。
	17a	5YR5/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	17b	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量含む。
	17c	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒多量含む。
	17d	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰色シルト粒多量、Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	18a	5YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物斑状に多量、焼土粒・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	18b	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	18c	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒微量含む。
	19	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土・炭化物互層状に多量含む。
	20	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物ブロック（5mm 程度）・灰少量含む。
	21a	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。
	21b	5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量含む。
	21c	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	22a	2.5YR3/1 暗赤灰色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	22b	7.5YR4/3 褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量含む。
	22c	5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	23	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土ブロック（5mm 程度）・灰多量、炭化物粒少量含む。
	24	N2/1 黒色	シルト	炭化物層。
カマド袖・奥壁構築土	25a	5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	25b	5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土層。硬く焼け締まる。
	25c	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	25d	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒・灰微量含む。
	26	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒・灰微量含む。
	27a	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、灰微量含む。
	27b	7.5YR4/3 褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量含む。
	28a	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状・焼土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量含む。
	28b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック・炭化物ブロック（ともに 5mm 程度）微量含む。
カマド掘り方	29a	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒多量含む。
	29b	5YR3/3 暗赤褐色	シルト	被熱層。※燃焼面
	30	2.5YR3/3 暗赤褐色	シルト	被熱層。
	31	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒微量含む。一部上面被熱。
住居掘り方	32a	5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土斑状に多量含む。
	32b	2.5YR3/4 暗赤褐色	シルト	焼土斑状・Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	32c	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土斑状・Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土ブロック・炭化物ブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	32d	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	33a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	33b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	34a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	34b	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
周溝（杭材部分）	1a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。※杭材痕跡
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物粒多量、礫（5mm 程度）微量含む。※杭材痕跡
	1c	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	炭化物層。Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量含む。※杭材痕跡
	1d	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。※杭材痕跡
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	住居堆積土第 12 層に対応。		



SI7 施設観察表

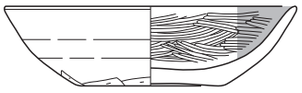
遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	56×51	26	主柱穴
P2	（楕円形）	67×（50）	40	主柱穴
P3	（楕円形）	（85）×（73）	37	主柱穴
P4	楕円形	93×50	32	主柱穴
P5	円形	21×20	14	壁柱穴
P6	（楕円形）	（38）×36	35	
P7	（円形）	32×（27）	20	補助柱穴
P8	（円形）	（42）×（39）	14	補助柱穴
P9	円形	28×25	7	底面変色

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	楕円形	76×64	13	貯蔵穴
SK2	円形	55×51	10	貯蔵穴
SK3	円形	51×47	17	貯蔵穴
SK4	楕円形	55×39	15	貯蔵穴
SK5	円形	77×73	10	カマド関連土坑
SK6	楕円形	115×97	18	カマド関連土坑
SK7	不整方形	74×64	10	カマド関連土坑
SK8	円形	47×47	14	カマド関連土坑
SK9	不整方形	91×79	7	

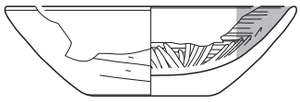
第50図　SI7 竪穴住居跡（2）

SI7 施設堆積土註記表

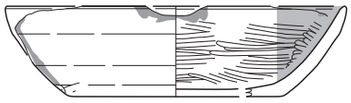
遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1a	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	灰多量、焼土ブロック・炭化物ブロック（ともに5mm程度）微量含む。※柱痕跡
	1b	10YR6/1 褐灰色	シルト	炭化物ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	炭化物粒多量、灰少量、焼土粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰少量、礫（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、粗砂少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、焼土ブロック（5 ～ 20mm程度）少量含む。上部に灰を互層状に含み、炭化物ブロック（5 ～ 10mm程度）が集中。※柱痕跡
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、礫（20mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・粗砂少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物ブロック（5 ～ 20mm程度）多量、焼土粒少量含み、上部に灰が集中。※柱痕跡
	2	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物粒少量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、焼土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、粗砂少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	5YR3/1 黒褐色	シルト	灰少量含む。※風化炭化物層
	2	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	焼土ブロック（5mm程度）多量含む。上部炭化して残存。※柱痕跡
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、礫（20mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 20mm程度）・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、粗砂少量、炭化物粒微量含む。
P5	1	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	灰色シルトブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒多量含む。
P6	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 30mm程度）・礫（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物ブロック（5mm程度）微量含む。
P7	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量含む。
P8	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック・炭化物ブロック（ともに5mm程度）・灰微量含む。
	2	10YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P9	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
SK2	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック・炭化物ブロック（ともに5mm程度）少量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物ブロック（5mm程度）少量含む。
SK3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、炭化物粒・灰少量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、炭化物粒少量、礫（30mm程度）・焼土ブロック（30mm程度）微量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（10mm程度）・粗砂少量含む。
SK5	1	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒多量、炭化物粒少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。
	2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、灰色シルト粒微量含む。
SK6	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、焼土斑状に多量、炭化物ブロック（5mm程度）少量含む。
	2	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）・焼土粒・炭化物斑状に少量含む。
	3	7.5YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
SK7	1	5YR5/3 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに5 ～ 10mm程度）多量、炭化物ブロック（5mm程度）少量含む。
	2	2.5YR5/2 灰赤色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、礫（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK8	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒・灰少量、焼土粒微量含む。
	2	5YR6/6 橙色	シルト	焼土層。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、礫（30mm程度）・焼土粒・炭化物粒・灰微量含む。
	4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
SK9	①	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物ブロック（5mm程度）少量、礫（5mm程度）微量含む。
	②	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒微量含む。



1（床面・SK1 堆積土）



2（SK4 堆積土）

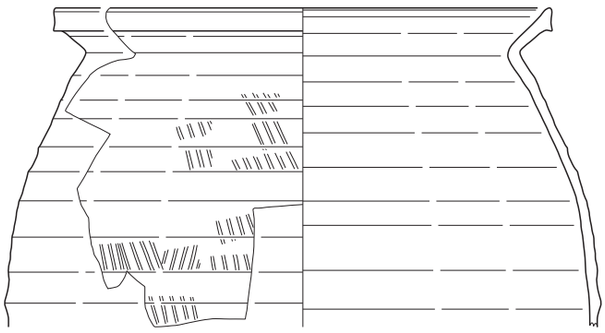


3（床面）

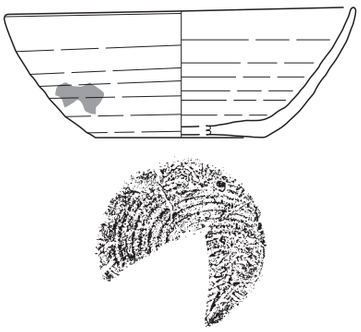
0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-009	SI7	床面 SK1 堆積土	ロクロ 土師器	坏	（12.4）	（6.4）	3.5	ﾛｸﾛ調整 体下端～底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。	23
2	D-010	SI7 SK4	堆積土	ロクロ 土師器	坏	（12.4）	（5.5）	3.9	体部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転糸切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面摩滅。内面黒色処理。 内面底部放射状ﾍﾗﾐｶﾞｷ。	23
3	D-012	SI7	床面	ロクロ 土師器	坏	（14.6）	（9.2）	3.9	ﾛｸﾛ調整 体部～底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面口唇部煤付着。内面黒色処理。	23

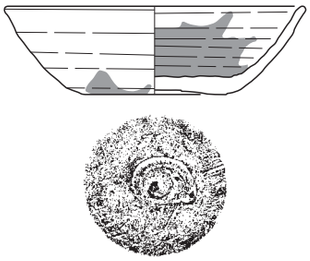
第51図　SI7 竪穴住居跡出土遺物（1）



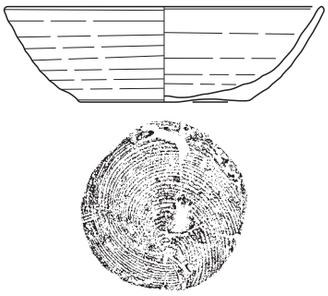
4（床面）



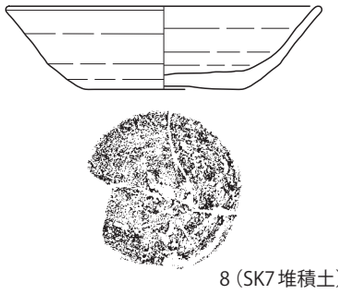
5（P2 堆積土・掘り方）



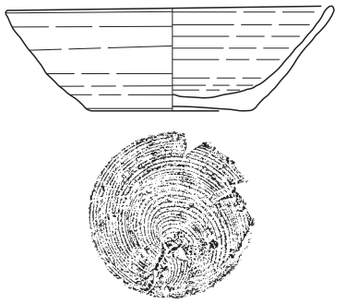
6（床面）



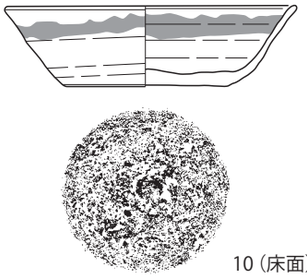
7（床面・SK1 堆積土）



8（SK7 堆積土）



9（カマド堆積土）



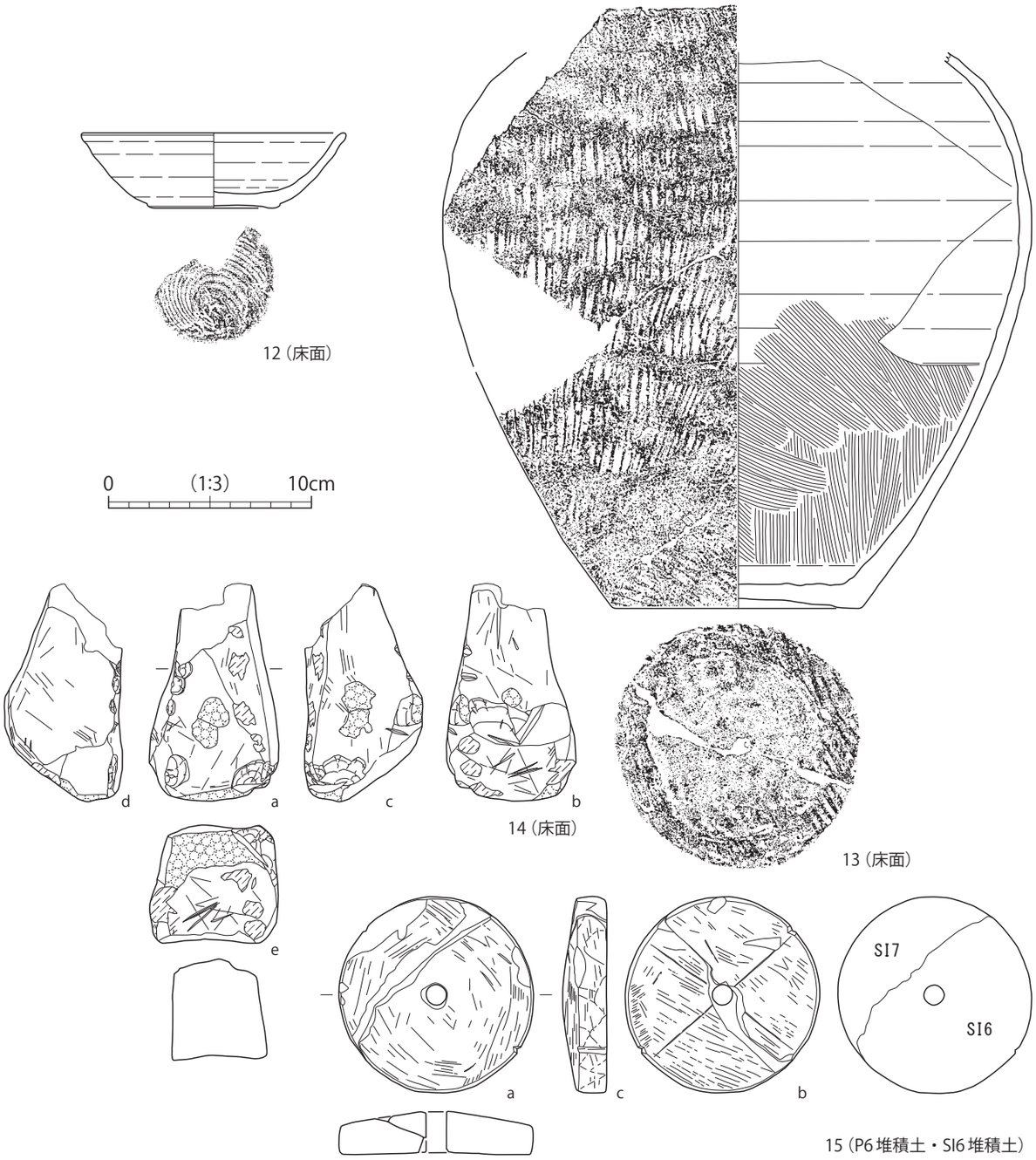
10（床面）

11（SK6 堆積土）

0　（1:3）　10cm

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
4	D-013	SI7	床面	ロクロ土師器	甕	（21.2）	—	（13.8）	ﾛｸﾛ調整 胴部：平行ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ調整		23
5	E-018	SI7	P2 堆積土 掘り方	須恵器	坏	（15.0）	7.2	5.6	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	外面煤付着。内面自然釉付着。重ね焼き痕。	23
6	E-019	SI7	床面	須恵器	坏	12.8	6.2	3.8	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	内外面煤付着。	23
7	E-020	SI7	床面 SK1 堆積土	須恵器	坏	13.6	7.4	4.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	海綿骨針微量含む。	23
8	E-021	SI7 SK7	堆積土	須恵器	坏	（13.4）	（6.6）	3.6	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→周縁回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	外面火ﾊﾈ痕・火襷痕。内外面摩滅。海綿骨針少量含む。	23
9	E-022	SI7 ｶﾏﾄﾞ	堆積土	須恵器	坏	14.0	6.9	4.5	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整		23
10	E-023	SI7	床面	須恵器	坏	12.5	7.0	3.5	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	内外面煤付着。	23
11	E-024	SI7 SK6	堆積土	須恵器	坏	（13.4）	（6.6）	3.3	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	外面火襷痕。	23

第 52 図　SI7 竪穴住居跡出土遺物（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
12	E-066	SI7	床面	須恵器	坏	（12.9）	（5.8）	3.7	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	海綿骨針少量含む。	24
13	E-025	SI7	床面	須恵器	甕	—	12.0	（27.4）	ﾛｸﾛ調整 胴上～中位：平行ﾀﾀｷ 胴下位：平行ﾀﾀｷ→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部周縁：平行ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ調整 胴下半：ｺﾋﾞﾅﾃﾞ		24

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	備　考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
14	Kd-002	SI7	床面	石製品	砥石	（10.7）	6.4	5.8	421.5	安山岩	砥面５面、線状痕（a～e面）、溝状痕（b・e面）、敲打痕（a・b・c・e面）、端部欠損、部分的に剥離	24
15	Kd-003	SI7 P6	堆積土 SI6堆積土	石製品	紡錘車	径9.7	孔径1.0	厚2.1	138.5	凝灰岩	擦痕（a～c面）、b面に「十」字状の線刻	24

第53図　SI7竪穴住居跡出土遺物（3）

タキは、底部外面の周縁にも施される。第53図－14・15は石製品である。14は砥石で、a～e各面を砥面とする。多数の線状痕や溝状痕のほか、敲打痕や剥離が各所に観察される。石材は安山岩である。15は紡錘車で、径9.7cmの大型品である。a～c面には整形時の擦痕が全体に観察されるほか、b面には「十」字状の線刻が認められる。石材は凝灰岩である。SI6の堆積土中層から出土した破片と接合した。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器坏・甕や須恵器坏・甕（第51図－3・第52図－4・6・7・9・10・第53図－12・13）の特徴から、A2期（9世紀前半）と考えられる。

SI8A竪穴住居跡（第54～56図）

【位置・確認】 調査区西部、26・27・31・32区に位置する。当初は1軒の住居として調査に入ったが、住居プランの内側で支脚の残るカマド（火床面）を確認したことから、入れ子状に重複する2軒の住居跡と判断した。断面及び内側で新たに確認したカマドや床面等の状況を再検討し、内側の新しい住居跡をSI8A、外側の古い住居跡をSI8Bとした。検出時の状況は撹乱により床面付近まで削平され、SI8Bとの同時調査のためカマド及びセクションベルトの周囲が残存する。全体範囲は周溝の位置から確認した。

【重複】 SI8Bより新しく、同住居跡とは入れ子状に重複する。

【規模・形態】 検出した規模は長軸345cm、短軸340cmを測り、平面形状は方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN－89°－Eを測る。

【堆積土】 大別で17層に分層した。1～4層は暗灰黄色砂質シルト・褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。5層は周溝堆積土である。6～8層はカマド堆積土、9～12層はカマド掘り方埋土、13～17層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 SI8Bとの同時調査のため残存しないが、土層断面の記録では直線的にやや外傾して立ち上がると考えられ、壁高は最大で8cmを測る。

【床面】 残存部分から概ね平坦であると考えられ、基本層Ⅳ層土を多量に混入した灰黄褐色・オリーブ褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。カマド前方には炭化物範囲が広がる。

【周溝】 カマド部分を除き、ほぼ全体の壁面に沿って延びると推定される。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅11～22cm、深さ4～11cmを測る。

【カマド】 東壁中央部のやや南寄りに位置する。袖は残存せず、壁面に対するカマドの付設状況は不明である。燃焼部は壁内に位置し、奥行き78cm、幅51cmの焼面が残存する。焼面の奥壁寄りには自然礫による支脚が1箇所、8cm程度の深さで埋設される。焼面前端の左右には一対の小ピットがあり、袖の芯材を埋設した痕跡と考えられる。煙道部は残存しない。

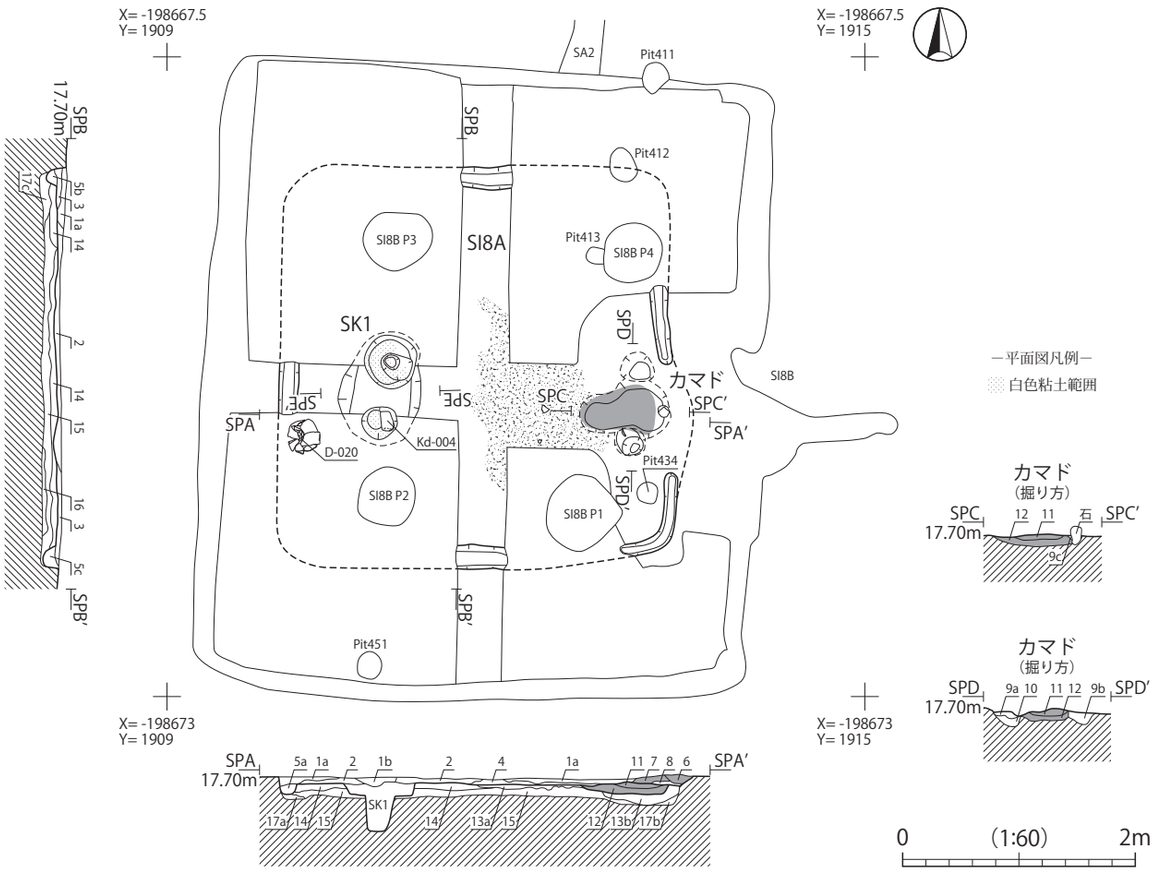
【その他の施設】 床面で1基（SK1）の土坑を確認した。西壁寄りに位置し、平面形状は楕円形と推定される。規模は長軸（推定）98cm、短軸70cm、深さ12cmを測る。底面には2基のピットが南北に並び、南側のピットは平面円形を呈し、長軸30cm、短軸28cm、土坑底面からの深さ27cmを測る。北側のピットは平面円形を呈し、長軸46cm、短軸44cm、土坑床面からの深さ24cmを測る。底面が非常に小さい、漏斗状のピットである。これらのピットを含めSK1は全体が人為的に埋め戻され、上層部には白色粘土ブロックが多量混入する。

【掘り方】 深さ9～21cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品が出土した。このうち、ロクロ土師器4点、石製品1点を掲載した（第55・56図）。第55図－1～4はロクロ土師器で、1～3は坏、4は鉢である。坏のうち1は底部回転糸切り後、周縁を回転ヘラケズリ調整される。2・3の底部調整は2が手持ちヘラケズリ、3が回転ヘラケズリである。いずれも内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。4の鉢は口径26.0cmの大型鉢で、

口縁部は受口状を呈する。内面は全体がヘラミガキ調整される。第56図－５の石製品は砥石である。a～d各面を砥面とするが、敲打や被熱による火ハネにより砥面は部分的に剥落する。c・d面には深い溝状痕が観察される。石材は安山岩で、大型の粗砥とみられる。

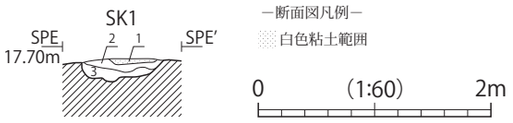
【時期】 床面から出土したロクロ土師器坏・鉢（第56図－１～４）の特徴や、SI8Bとの新旧関係から、B期（９世紀中頃～９世紀後半）と考えられる。



SI8A 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	1b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、白色粘土ブロック（5～20mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・白色粘土ブロック（5～20mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、白色粘土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
周溝	5a	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルト互層状に少量、焼土粒微量含む。
	5b	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	5c	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	6	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5mm程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR4/3 褐色	シルト	焼土ブロック（5mm程度）多量、灰少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	8	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）・焼土粒少量含む。
カマド掘り方	9a	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰色シルト粒少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
	9b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・焼土ブロック（10mm程度）・炭化物粒微量含む。
	9c	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土粒多量、灰少量含む。
	10	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	硬く焼け締まる。※燃焼面
	12	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	全体が薄く被熱。※燃焼面
住居掘り方	13a	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・炭化物・灰多量、焼土粒少量含む。
	13b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	14	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒少量、白色粘土ブロック（5～10mm程度）部分的に含む。
	15	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	17a	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	17b	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に少量含む。
	17c	7.5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒微量含む。

第54図　SI8A 竪穴住居跡（1）

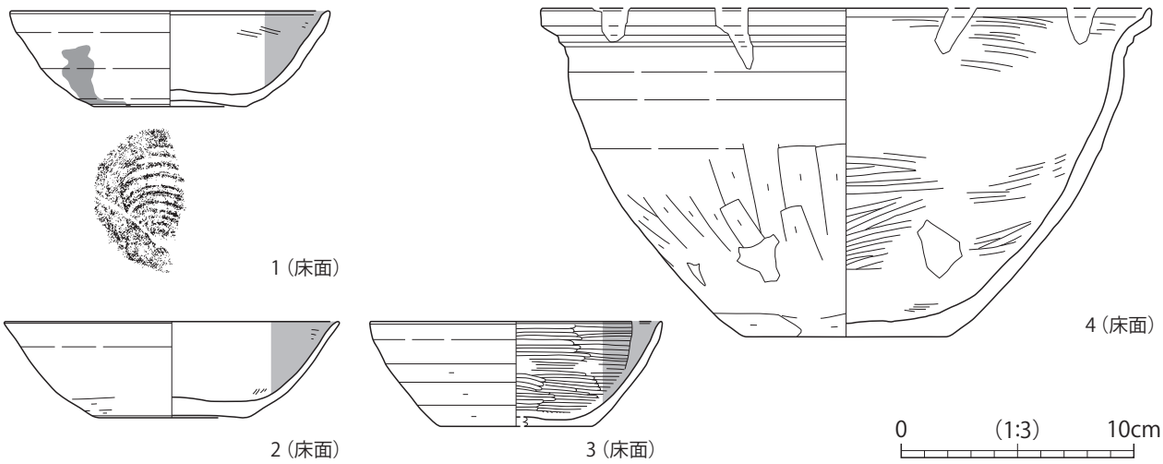


SI8A 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	（楕円形）	（98）×70	12	ピット部分深さ 南+27cm 北+24cm

SI8A 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
SK1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	白色粘土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量含む。
	2	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、白色粘土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-017	SI8A	床面	ロクロ土師器	坏	13.7	6.6	4.1	ﾛｸﾛ調整 体下端：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転糸切り→周縁回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面煤付着。内面摩滅。内面黒色処理。	24
2	D-018	SI8A	床面	ロクロ土師器	坏	（14.2）	（6.4）	4.2	ﾛｸﾛ調整 体下端～底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面摩滅。内面黒色処理。	24
3	D-019	SI8A	床面	ロクロ土師器	坏	（12.5）	（6.6）	4.5	ﾛｸﾛ調整 体部～底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。内面底部放射状ﾍﾗﾐｶﾞｷ。	24
4	D-020	SI8A	床面	ロクロ土師器	鉢	（26.0）	（9.0）	14.2	ﾛｸﾛ調整 体下半～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面体下半摩滅。内面摩滅。	24

第 55 図　SI8A 竪穴住居跡（2）・出土遺物（1）

SI8B 竪穴住居跡（第 57 ～ 59 図）

【位置・確認】　調査区西部、26・27・31・32 区に位置する。撹乱により床面付近まで削平され、床面はカマド周辺と四壁際のみが残存する。

【重複】　SI8A より古く、同住居跡とは入れ子状に重複する。

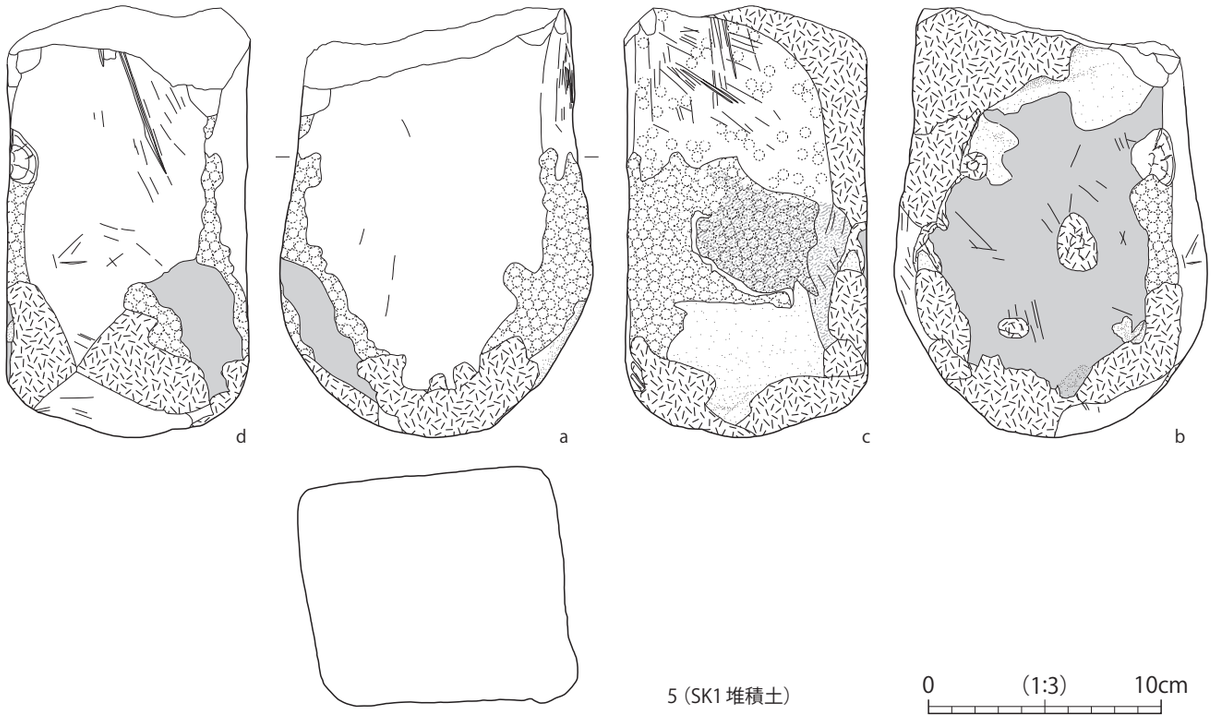
【規模・形態】　検出した規模は長軸 545cm、短軸 481cm を測り、平面形状は若干南北に長い方形を呈する。

【方向】　カマドを基準として N － 92° － E を測る。

【堆積土】　大別で 16 層に分層した。1 ～ 3 層はにぶい黄褐色砂質シルト・灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。4 層は周溝堆積土である。5 ～ 7 層はカマド堆積土、8 ～ 13 層はカマド掘り方埋土、14 ～ 16 層は住居掘り方埋土である。

【壁面】　直線的にやや外傾して立ち上がる。壁高は最大で 9 cm を測る。

【床面】　残存部分から概ね平坦であると推定され、基本層Ⅳ層土を多量に混入した灰黄褐色・にぶい黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	備　考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
5	Kd-004	SI8A SK1	堆積土	石製品	砥石	（18.5）	13.4	10.4	4,300.0	安山岩	砥面４面、線状痕（a ～ d 面）、溝状痕（c・d 面）、敲打痕（a ～ d 面）、端部欠損	24

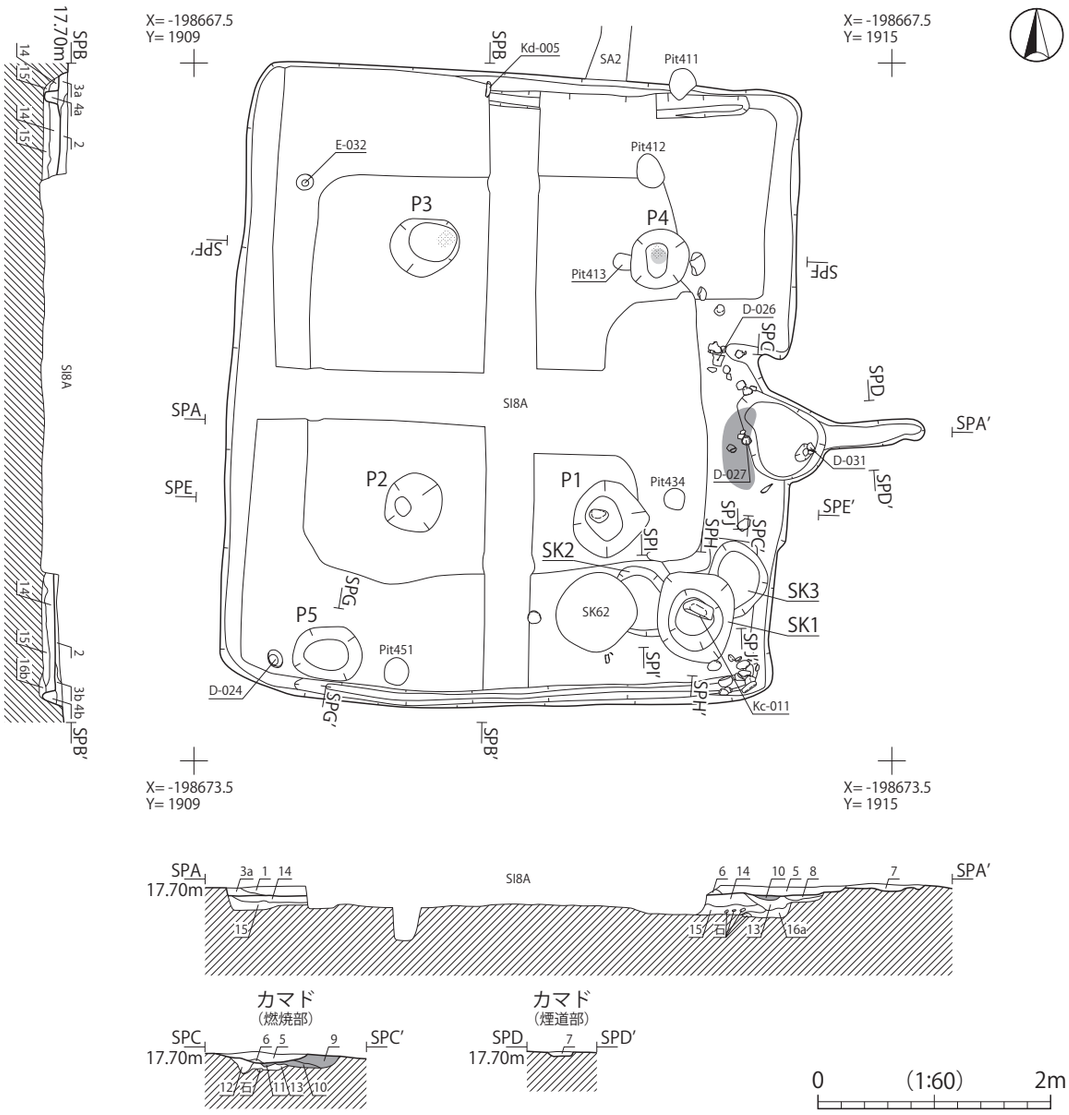
第 56 図　SI8A 竪穴住居跡出土遺物（2）

【柱穴】　床面で５基（P1 ～ 5）確認した。規模や位置関係から、P1 ～ 4 は主柱穴と考えられる。P2 ～ 3 は上部が失われているが、規模は残存値で長軸 51 ～ 62cm、短軸 49 ～ 58cm、深さ 35 ～ 52cm を測る。P4 で径 14cm 程度の柱痕跡を確認し、P3・4 の底面には径 12 ～ 15cm 程度の変色範囲を確認した。P1 の底面からは礎盤石とみられる扁平な自然礫が出土した。P5 は補助柱穴と思われる。

【周溝】　南壁と北壁の壁面に沿って延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅 11 ～ 19cm、深さ 5 ～ 9 cm を測る。

【カマド】　東壁中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は北袖のみが残存し、壁面に対し「ハ」字状に延びる。規模は長さ 59cm、幅 15 ～ 39cm を測り、先端部は失われている。袖は基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築される。燃焼部は壁内と壁外にまたがり、奥壁側 1/2 程度が壁外に位置する。規模は奥行き 89cm、幅 101cm 程度が残存する。底面は浅く掘り込まれ、長径 44cm 程度の焼面が形成される。奥壁は外傾して 3 cm 程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は壁面から 10°北に振れて付設され、底面は概ね平坦である。規模は長さ 85cm、幅 18 ～ 22cm、深さ 3 ～ 4 cm を測る。

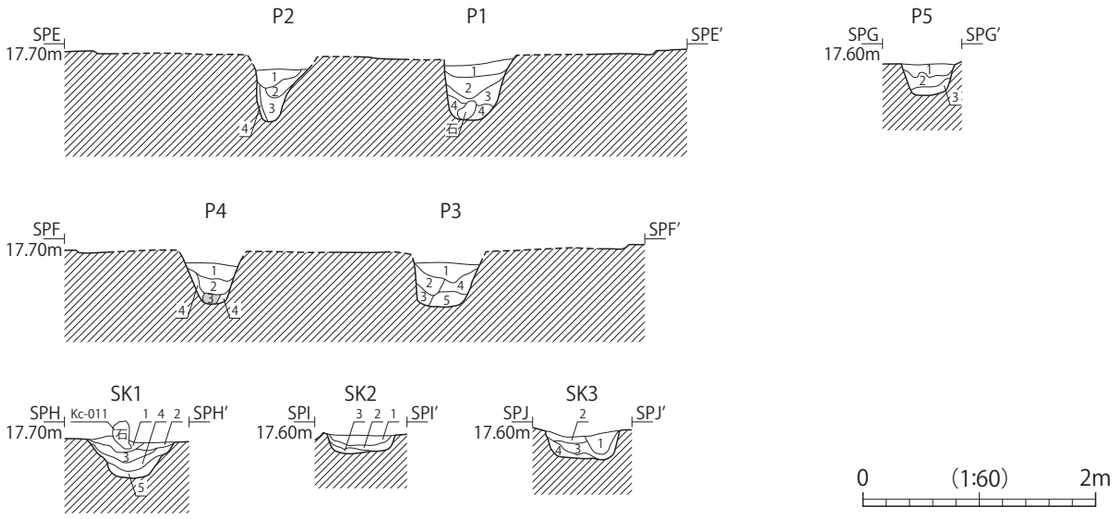
【その他の施設】　床面で３基（SK1 ～ 3）の土坑を確認した。SK1 は南東コーナー付近に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。SK1 と重複する SK2・3 も同様の性格が考えられる。いずれも上部が失われているが、残存で SK1 の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸 76cm、短軸 65cm、深さ 36cm を測る。人為的に埋め戻され、上部か



SI8B 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	3a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
周溝	4a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	4b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	5	5YR4/1 褐灰色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土粒・白色粘土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	6	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒微量含む。
	7	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒多量、焼土粒微量含む。
カマド掘り方	8	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土粒微量含む。
	9	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒微量含む。全体的に弱く被熱。
	10	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。全体的に強く被熱。※燃焼面
	11	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。上面被熱。
	12	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルト粒・焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	13	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量、礫（20mm 程度）・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	14	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、白色粘土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	16a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	16b	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。

第 57 図　SI8B 竪穴住居跡（1）



SI8B 施設堆積土註記表

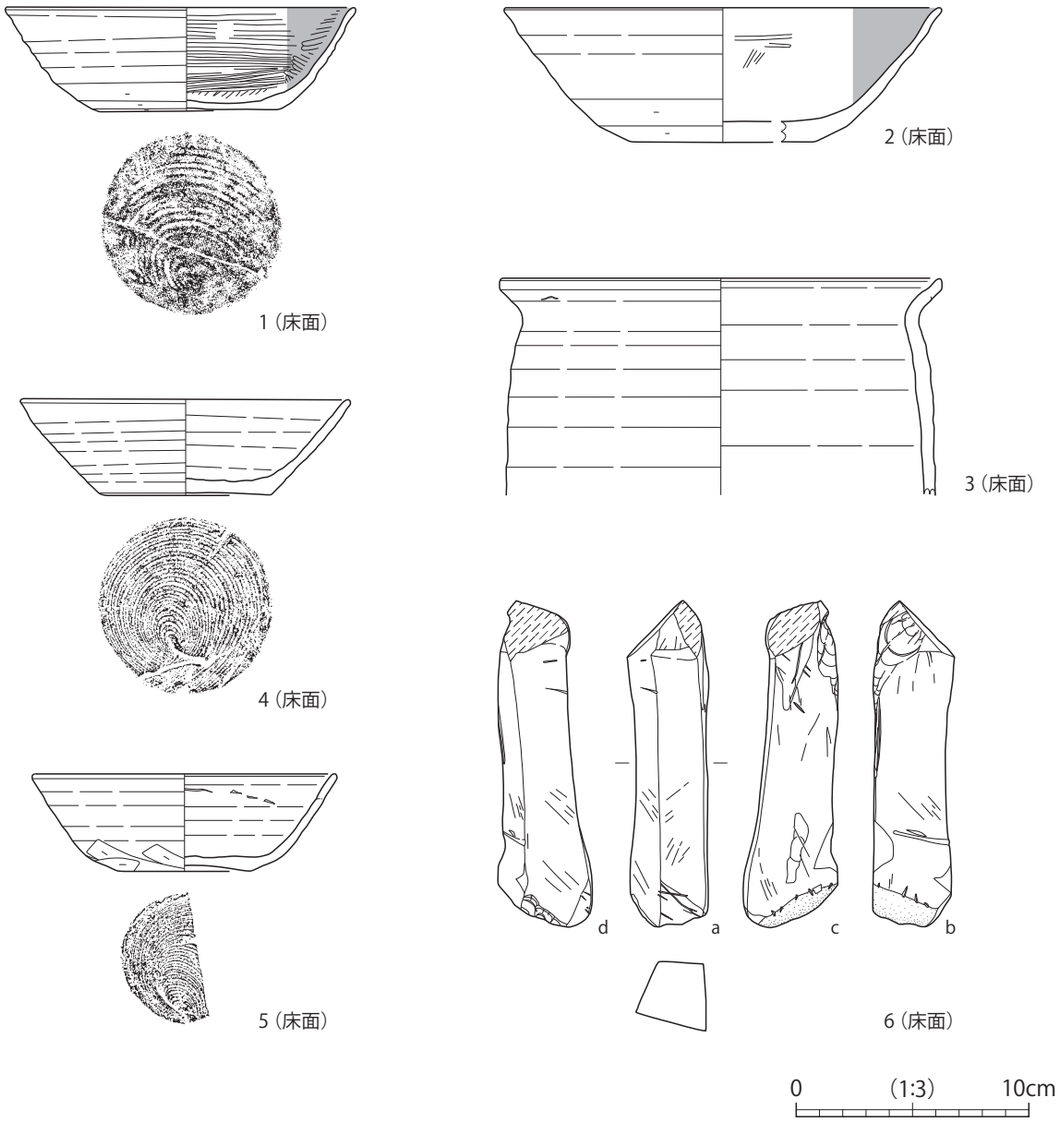
遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 40mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粗砂多量、礫（5 ～ 40mm 程度）微量含む。
P2	1	10YR6/4 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
P3	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、礫（5mm 程度）微量含む。
P4	1	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量含む。
P5	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK1	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	白色粘土ブロック（5 ～ 30mm 程度）少量、Ⅳ層土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、白色粘土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物ブロック（5 ～ 20mm 程度）少量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）微量含む。
	4	5Y5/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	5	7.5YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土互層状に多量、焼土粒微量含む。
SK2	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
SK3	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	灰色シルト粒多量、Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。全体が薄くグライ化。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、礫（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。部分的にグライ化。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。

SI8B 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	（62）×（58）	（52）	主柱穴　礎盤石
P2	（円形）	（54）×（50）	（45）	主柱穴
P3	（円形）	（59）×（51）	（36）	主柱穴　底面変色
P4	（円形）	（51）×（49）	（35）	主柱穴　底面変色

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P5	（楕円形）	（59）×（47）	30	補助柱穴
SK1	（楕円形）	（76）×（65）	36	貯蔵穴
SK2	（楕円形）	（60）×（40）	（17）	貯蔵穴
SK3	（楕円形）	（55）×（45）	28	貯蔵穴

第 58 図　SI8B 竪穴住居跡（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-024	SI8B	床面	ロクロ土師器	坏	14.9	7.6	4.5	ﾛｸﾛ調整 体下位：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転糸切り→周縁回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。	25
2	D-025	SI8B	床面	ロクロ土師器	坏	（18.7）	（8.1）	5.8	ﾛｸﾛ調整 体下半～底部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。内面摩滅。	25
3	D-026	SI8B	床面	ロクロ土師器	小型甕	（18.8）	—	（9.3）	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		25
4	E-032	SI8B	床面	須恵器	坏	14.1	7.1	4.2	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	海綿骨針微量含む。	25
5	E-033	SI8B	床面	須恵器	坏	（13.0）	（5.6）	4.2	ﾛｸﾛ調整 体下半：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	外面口縁部・内面体部に自然釉付着。	25

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	備　考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
6	Kd-005	SI8B	床面	石製品	砥石	（14.1）	3.5	4.1	203.4	凝灰岩	砥面４面、線状痕（a～d面）、溝状痕（a・c・d面）、端部欠損	25

第59図　SI8B竪穴住居跡出土遺物

らは長径25cm程度の台石が出土した。SK2の平面形状は楕円形を呈し、長軸60cm、短軸40cm、深さ17cmを測る。SK3の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸55cm、短軸45cm、深さ28cmを測る。これらも人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 深さ７～25cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品が出土した。このうち、ロクロ土師器３点、須恵器２点、石製品１点を掲載した（第59図）。１～３はロクロ土師器で、１・２は坏、３は甕である。坏の底部調整は１が回転糸切り後、周縁を回転ヘラケズリ調整される。２は体部下半まで回転ヘラケズリ調整される。１・２ともに内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。３の甕は小型甕で胴部の張りが弱く、残存部では円筒状を呈する。４・５はともに須恵器の坏で、底部はともに回転糸切り無調整である。６の石製品は砥石である。a～d各面を砥面とし、石材は凝灰岩である。

【時期】 床面から出土したロクロ土師器坏・甕や須恵器坏（第59図－１～５）の特徴や、SI8Aとの新旧関係から、A2期（９世紀前半）と考えられる。

SI9竪穴住居跡（第60～62図）

【位置・確認】 調査区中央部、22・23・27・28・32・33区に位置する。壁の上部は平安時代～中世のSD6・7との重複により失われている。

【重複】 SK75より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は長軸454cm、短軸447cmを測り、平面形状は方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN－16°－Wを測る。

【堆積土】 大別で21層に分層した。１～７層は暗灰黄色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。８層は周溝堆積土である。９～12層はカマド堆積土、13～17層はカマド構築土で、このうち13層は燃焼部底面、14～17層は袖の構築土である。16a層は東袖内部の被熱層で、カマドの造り替えもしくは補修を示すと考えられる。18層はカマド掘り方埋土、19～21層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で25cmを測る。

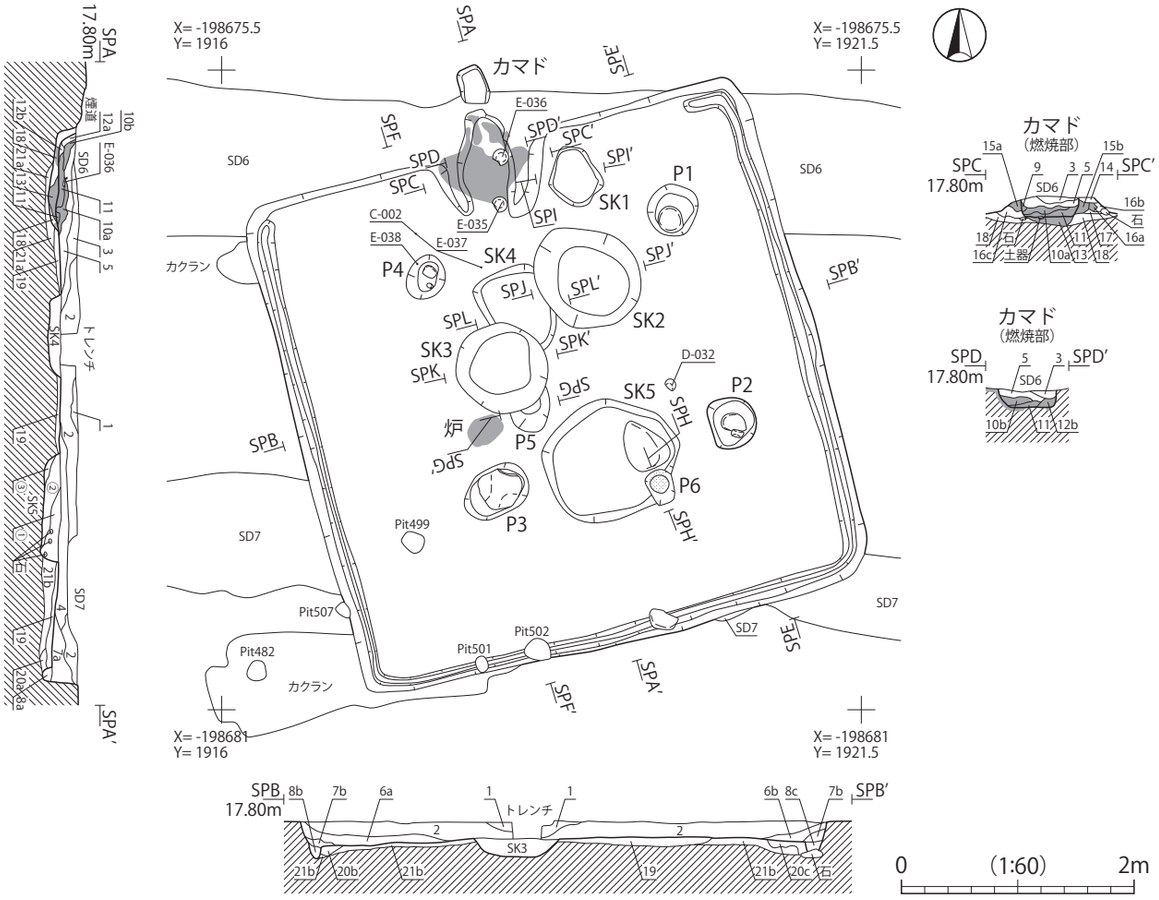
【床面】 中央部が若干高まり、四壁方向へと低くなる。基本層Ⅳ層土を多量に混入したオリーブ褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で６基（P1～6）確認した。規模や位置関係からP1～４は主柱穴と考えられ、規模は長軸38～59cm、短軸32～41cm、深さ25～40cmを測る。いずれの底面からも礎盤石とみられる扁平な自然礫が出土した。P5・6は補助柱穴と考えられ、P6の底面には径20cm程度の変色範囲を確認した。

【周溝】 北壁の大半部分を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅７～16cm、深さ４～10cmを測る。

【カマド】 北壁中央部に位置し、壁面に直交して付設される。袖は壁面に対し馬蹄形に延び、規模は東袖が長さ62cm、幅８～26cm、西袖が長さ47cm、幅８～10cmを測る。袖は基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築される。東袖の構築材内部には一部焼面を確認した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き95cm、幅49cmを測る。底面は平坦で、袖を含む内部全体に焼面が形成される。底面を覆う天井の崩落土直上からは、第62図－２・３の須恵器坏が正位で出土した。奥壁は外傾して14cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は前端部のみが残存し、規模は長さ38cm、幅24cm、深さ１～４cmを測る。

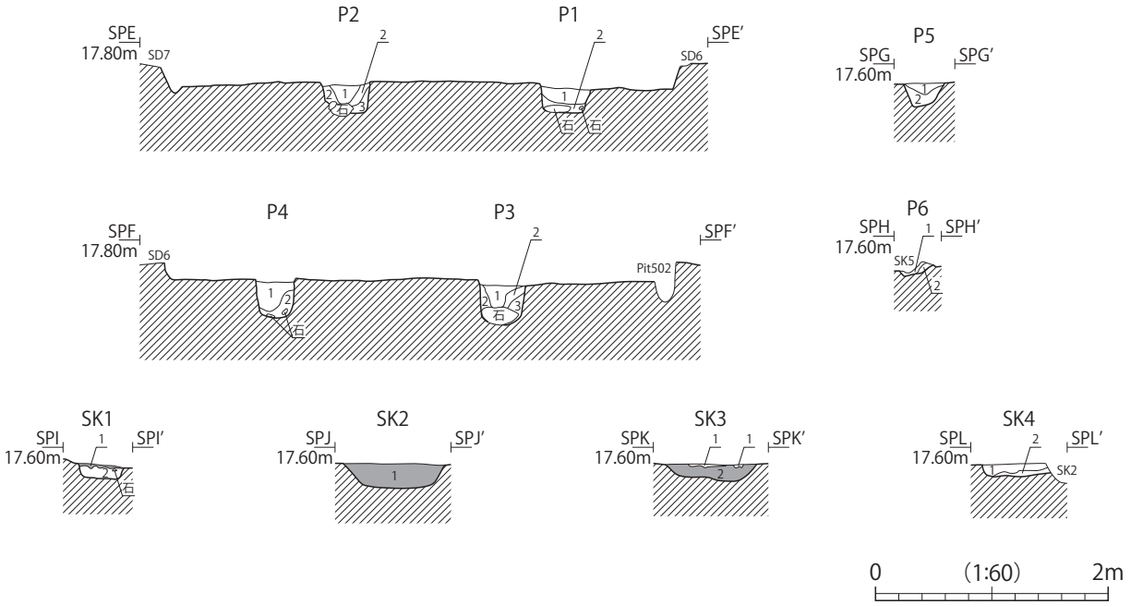
【炉】 中央部の西寄りに位置し、掘り込みを伴わない被熱範囲である。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸32cm、短軸24cmを測る。



SI9 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	炭化物粒多量、Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒少量、焼土粒微量含む。
	4	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒少量、灰色シルト斑状に微量含む。
	6a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	6b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7a	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	7b	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
周溝	8a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
	8b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	8c	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	9	5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。
	10a	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒・灰少量含む。
	10b	5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）・焼土斑状に多量含む。
	11	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土粒・焼土粒・灰多量に含む。
	12a	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土斑状に少量、炭化物粒・灰微量含む。
	12b	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土斑状に多量含む。
カマド底面・袖構築土	13	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	固く焼け締まる。※燃焼面
	14	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土粒微量含む。
	15a	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）・焼土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	15b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）多量、灰少量、炭化物粒微量含む。
	16a	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、灰微量含む。※被熱層
	16b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	16c	5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	17	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒微量含む。
カマド掘り方	18	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。一部上面被熱。
住居掘り方	19	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	20a	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 20mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	20b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	20c	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	21a	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	21b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

第 60 図　SI9 竪穴住居跡（1）



SI9 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒・灰微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（10mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック・焼土ブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、礫・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・礫（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
P6	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・炭化物互層状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。
SK2	1	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒・灰少量含む。
SK3	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒・灰少量含む。
SK4	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
SK5	①	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物互層状に少量、礫（10 ～ 20mm 程度）微量含む。
	②	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土・炭化物互層状に多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	③	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。

SI9 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	円形	44 × 41	25	主柱穴　礎盤石
P2	不整円形	44 × 39	26	主柱穴　礎盤石
P3	楕円形	59 × 40	40	主柱穴　礎盤石
P4	円形	38 × 32	34	主柱穴　礎盤石
P5	（楕円形）	（46）× 35	20	補助柱穴
P6	（楕円形）	（30）× 22	7	補助柱穴　底面変色

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	不整形	54 × 45	25	貯蔵穴
SK2	円形	97 × 85	22	カマド関連土坑
SK3	円形	81 × 74	17	カマド関連土坑
SK4	楕円形	77 × 52	12	カマド関連土坑
SK5	円形	115 × 102	15	

第 61 図　SI9 竪穴住居跡（2）

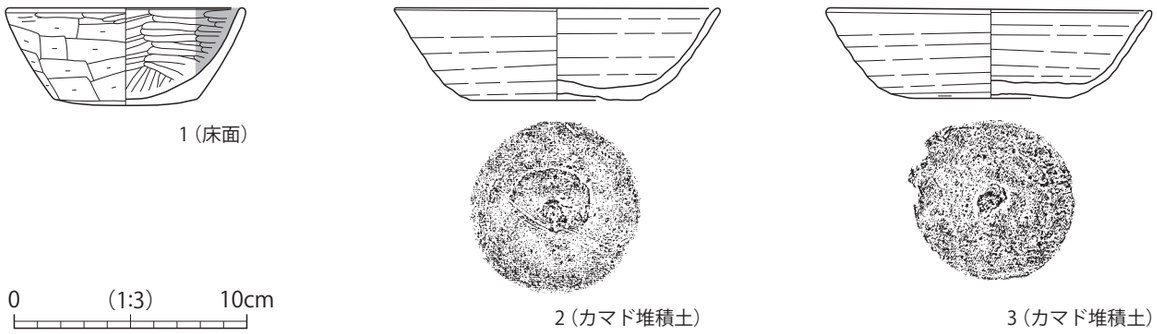
【その他の施設】　床面で 5 基（SK1 ～ 5）の土坑を確認した。SK1 はカマドの東脇に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸 54cm、短軸 45cm、深さ 25cm を測る。人為的に埋め戻され、多量の焼土が混入する。SK2 ～ 5 は中央部付近に位置し、このうち SK4 を中心に SK2・3 が重複する。SK2 の平面形状は円形を呈し、規模は長軸 97cm、短軸 85cm、深さ 22cm を測る。SK3 の平面形状は円形を呈し、規模は長軸

81cm、短軸74cm、深さ17cmを測る。SK4の平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸77cm、短軸52cm、深さ12cmを測る。SK5の平面形状は円形を呈し、規模は長軸115cm、短軸102cm、深さ15cmを測る。これらはいずれも人為的に埋め戻され、SK2・3では多量の焼土のほか、炭化物・灰が混入する。これらの埋土を水洗したところ、被熱した粘土塊が多量、骨片が少量出土した。カマド関連の土坑と考えられる。

【掘り方】 深さ2～17cmを測り、底面は中央部の北寄りが高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器が出土した。このうち、ロクロ土師器1点、須恵器2点を掲載した（第62図）。1はロクロ土師器の埦で、外面の体～底部はヘラケズリ調整される。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。2・3は須恵器の坏で、ともに完形に近く、底部は回転ヘラ切り未調整である。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器坏や須恵器坏（第62図－1～3）の特徴から、A2期（9世紀前半）と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-032	SI9	床面	ロクロ土師器	埦	(10.1)	6.1	4.2	口縁部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ 体部～底部：手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。	25
2	E-035	SI9 ｶﾏﾄﾞ	堆積土	須恵器	坏	13.9	7.3	4.0	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	海綿骨針微量含む。	25
3	E-036	SI9 ｶﾏﾄﾞ	堆積土	須恵器	坏	13.9	6.8	3.9	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	外面口縁部重ね焼き痕。海綿骨針微量含む。	25

第62図　SI9竪穴住居跡出土遺物

SI10竪穴住居跡（第63・64図）

【位置・確認】 調査区南西部、47・52区に位置する。中央部は撹乱により失われ、南北に分断される。南壁も撹乱を受けている。

【重複】 SK73・74より古く、SI13より新しい。

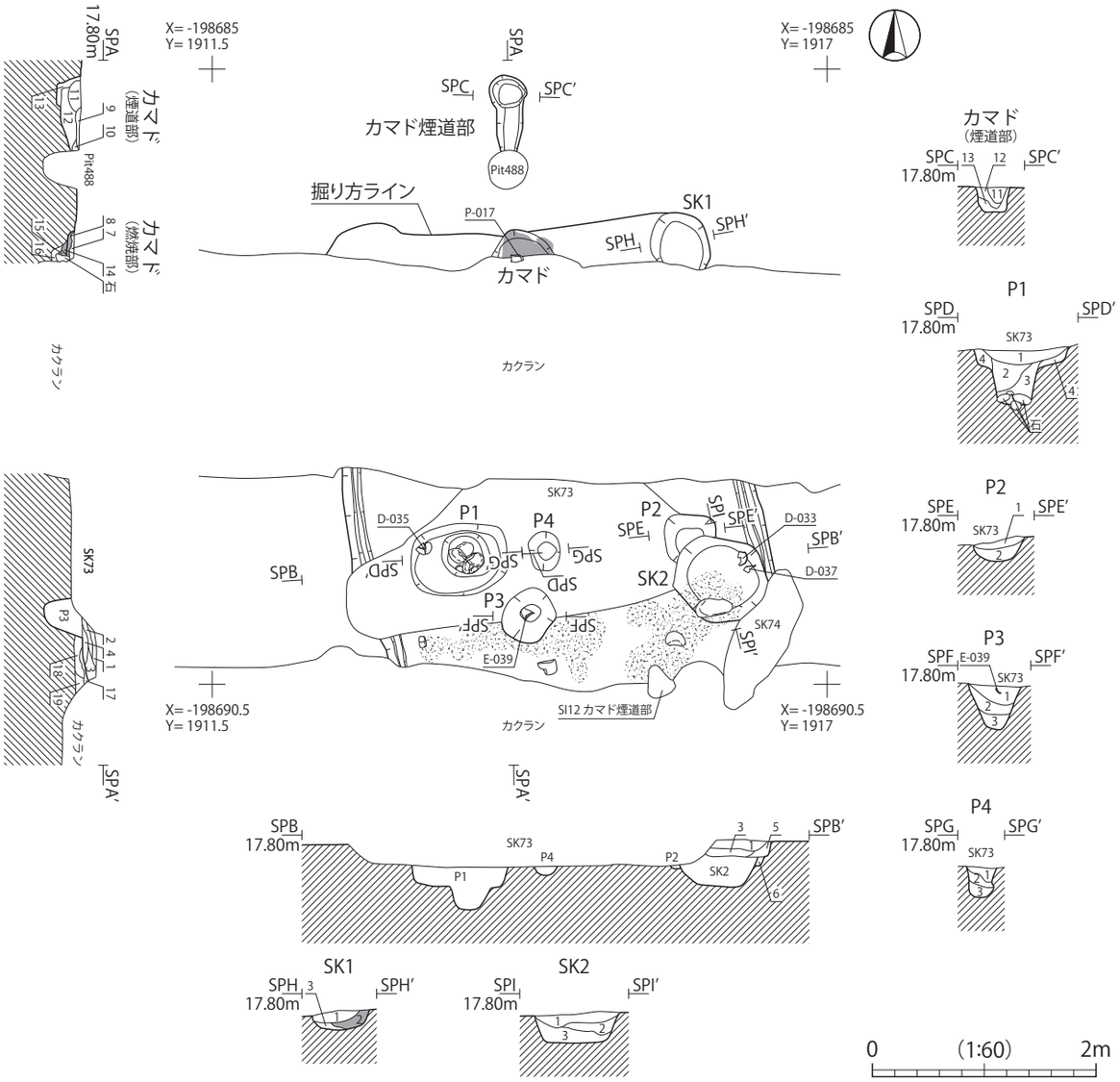
【規模・形態】 検出した規模は長軸420cm以上、短軸368cmを測り、平面形状は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 カマドを基準としてN－6°－Wを測る。

【堆積土】 19層に分層した。1～5層は暗灰黄色砂質シルト・オリーブ褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。6層は周溝堆積土である。7～13層はカマド堆積土、14～16層はカマド掘り方埋土、17～19層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で14cmを測る。

【床面】 概ね平坦と思われるが、残存部分が少なく不明である。基本層Ⅳ層土を多量に混入したオリーブ褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。南側には炭化物が広がっている。



SI10 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒多量、灰色シルト粒微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	4	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
周溝	6	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	7	5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒・灰微量含む。
	8	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	9	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物斑状に多量、焼土粒微量含む。
	10	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物斑状に少量含む。
	11	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物斑状に少量含む。
	12	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	13	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量含む。
カマド掘り方	14	5YR5/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）・焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。※燃焼面
	15	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	16	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト・焼土斑状に少量含む。
住居掘り方	17	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト互層状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	18	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	19	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。

第 63 図　SI10 竪穴住居跡

SI10 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
SK1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・焼土斑状に多量、炭化物粒少量含む。
	3	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、礫（10mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI10 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（隅丸方形）	（87）×（65）	（41）	主柱穴
P2	（隅丸方形）	（46）×（42）	23	主柱穴
P3	（隅丸方形）	（49）×（42）	37	補助柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P4	（楕円形）	（36）×（27）	（28）	補助柱穴
SK1	（円形）	（56）×51	（19）	貯蔵穴
SK2	（円形）	（82）×77	27	

【柱穴】　床面で４基（P1 ～ 4）確認した。規模や位置関係からP1・２は主柱穴と考えられ、規模は長軸46 ～ 87cm以上、短軸42 ～ 65cm以上、深さ23 ～ 41cm以上を測り、P1はP2の二倍近い規模をもつ。ともに柱痕跡は確認されなかったが、P1の下部からは多量の自然礫が出土した。P3・４は補助柱穴と思われる。

【周溝】　残存部では北壁を除き、東西の両壁面に沿って延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅６ ～ 20cm、深さ６～８ cmを測る。

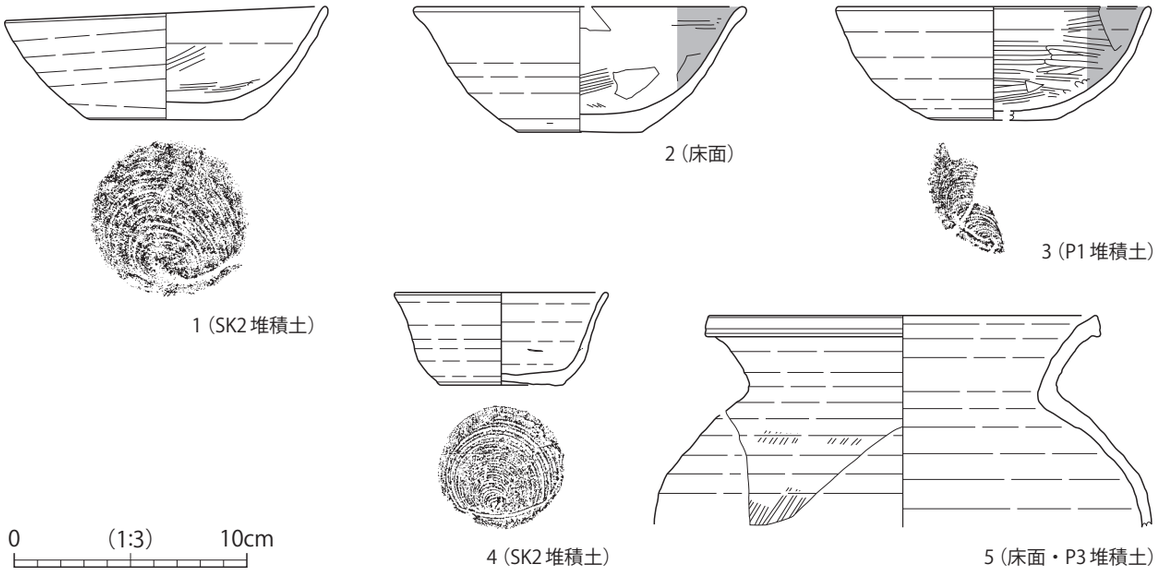
【カマド】　北壁中央部に位置し、奥壁と煙道部の煙出し付近が残存する。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き25cm、幅56cmが残存する。底面は土坑状を呈し、直方体に加工した粘土ブロックによる支脚が１箇所、10cm程度の深さで埋設される。燃焼部の内部には全体に焼面が形成される。奥壁は外傾して６ cm以上立ち上がるが、煙道部との接続部分は失われる。煙道部は壁に直交して延び、底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ138cm（復元値）、幅15 ～ 23cm、深さ11 ～ 22cmを測る。煙出しは長軸33cm、短軸29cm程度のピット状を呈する。

【その他の施設】　床面で２基（SK1・2）の土坑を確認した。SK1は南東コーナーに位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸56cm以上、短軸51cm、深さ19cm以上を測る。内部には多量の焼土が入り込み、人為的に埋め戻される。SK2は南東部の東壁際に位置する。平面形状は円形を呈し、長軸82cm以上、短軸77cm、深さ27cmを測る。

【掘り方】　深さ５～ 20cmを測り、底面は概ね平坦である。

【出土遺物】　床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器が出土した。このうち、ロクロ土師器３点、須恵器２点を掲載した（第64図）。１～３はロクロ土師器の坏である。１～３はいずれも底部が回転糸切りで、１・３は未調整、２は回転ヘラケズリ調整される。２・３の内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。４・５は須恵器で、４は口径9.0cmの小型の埦である。大半が重複するSK73からの出土であるが、一部が本住居跡から出土した破片と接合したため第64図に示した。５は甕の口縁部～胴部上位の破片である。口縁部には突帯を巡らす。

【時期】　床面から出土したロクロ土師器坏や須恵器甕（第64図－１・５）の特徴や、SI12との新旧関係から、B期（９世紀中頃～９世紀後半）と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-033	SI10 SK2	堆積土	ロクロ土師器	坏	（13.8）	6.4	4.9	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ		25
2	D-034	SI10	床面	ロクロ土師器	坏	（15.0）	5.8	5.4	ﾛｸﾛ調整 体下端：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転糸切り→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。内外面摩滅。	25
3	D-035	SI10 P1	堆積土	ロクロ土師器	坏	（13.4）	（5.4）	4.9	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整 体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。	25
4	E-040	SI10 SK2	堆積土	須恵器	埦	（9.0）	5.2	4.0	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整		25
5	E-039	SI10	床面 P3 堆積土	須恵器	甕	（16.6）	—	（9.1）	ﾛｸﾛ調整 胴上位～中位：平行ﾀﾀｷ	ﾛｸﾛ調整	海綿骨針多量含む。	25

第 64 図　SI10 竪穴住居跡出土遺物

SI11 竪穴住居跡（第 65 図）

【位置・確認】　調査区南西端部、56 区に位置する。掘り方底面まで撹乱を受けており、床面施設のみが残存する。南側及び西側は調査区外へ延びるものと推定される。

【重複】　なし。

【規模・形態】　不明だが、残存する床面施設の位置関係から、規模は長軸 315cm、短軸 271cm を超えると推定される。

【方向】　カマドを基準として N－89°－E が推定される。

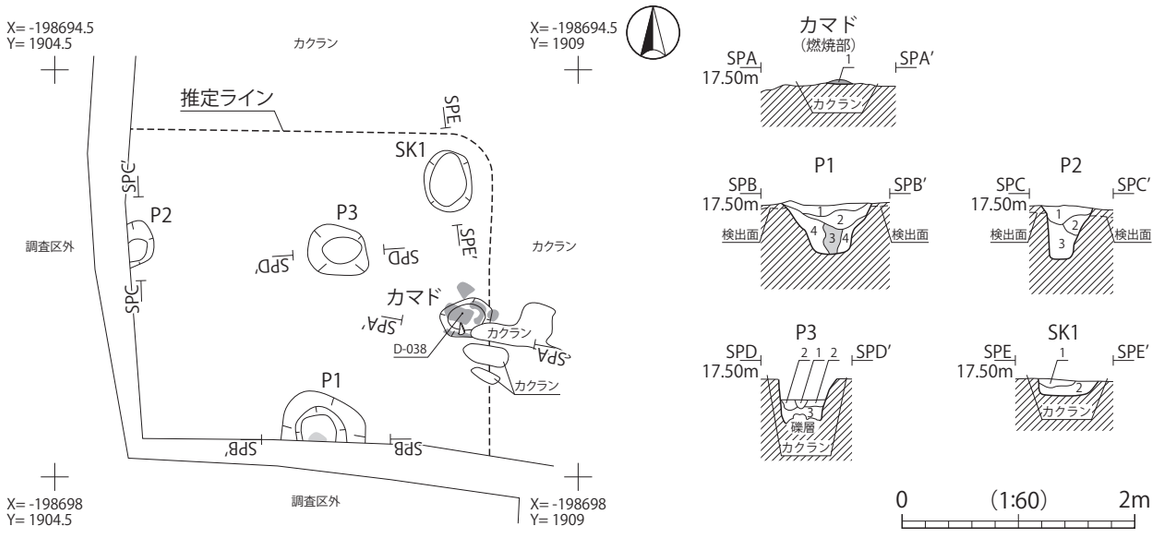
【堆積土】　カマド掘り方部分のみ観察された。褐灰色シルトの埋土である。

【柱穴】　3 基（P1 ～ 3）確認した。規模や位置関係からいずれも主柱穴と考えられる。規模は残存値で長軸 36 ～ 72cm、短軸 28 ～ 44cm、深さ 36 ～ 41cm を測る。P1 で径 16cm 程度の柱痕跡を確認した。

【カマド】　東壁に位置し、燃焼部掘り方の底面付近のみが残存する。燃焼部は壁内に位置すると考えられ、掘り方は平面楕円形を呈する。規模は奥行き 45cm、幅 32cm を測る。掘り方の内外には焼土が分布し、カマド構築材の一部と考えられる被熱礫が 1 点出土した。

【その他の施設】　1 基（SK1）の土坑を確認した。カマドの北側に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸 53cm、短軸 40cm、深さ 18cm を測る。

【出土遺物】　検出時やカマド掘り方内から土師器・須恵器の破片が少量出土したが、いずれも図化できなかった。



SI11 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
カマド掘り方	1	5YR4/2 褐灰色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量含む。全体が薄く被熱。

SI11 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
P3	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
	2	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK1	1	7.5YR4/3 褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	7.5YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。

SI11 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	（72）×（43）	（41）	主柱穴
P2	（円形）	（36）×（28）	（39）	主柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P3	（不整円形）	（50）×（44）	（36）	主柱穴
SK1	（楕円形）	（53）×（40）	（18）	貯蔵穴

第 65 図　SI11 竪穴住居跡

【時期】 図化はできなかったが、ロクロ土師器坏の底部付近の破片が出土しており、その特徴から A2 期（9 世紀前半）と考えられる。

SI12 竪穴住居跡（第 66・67 図）

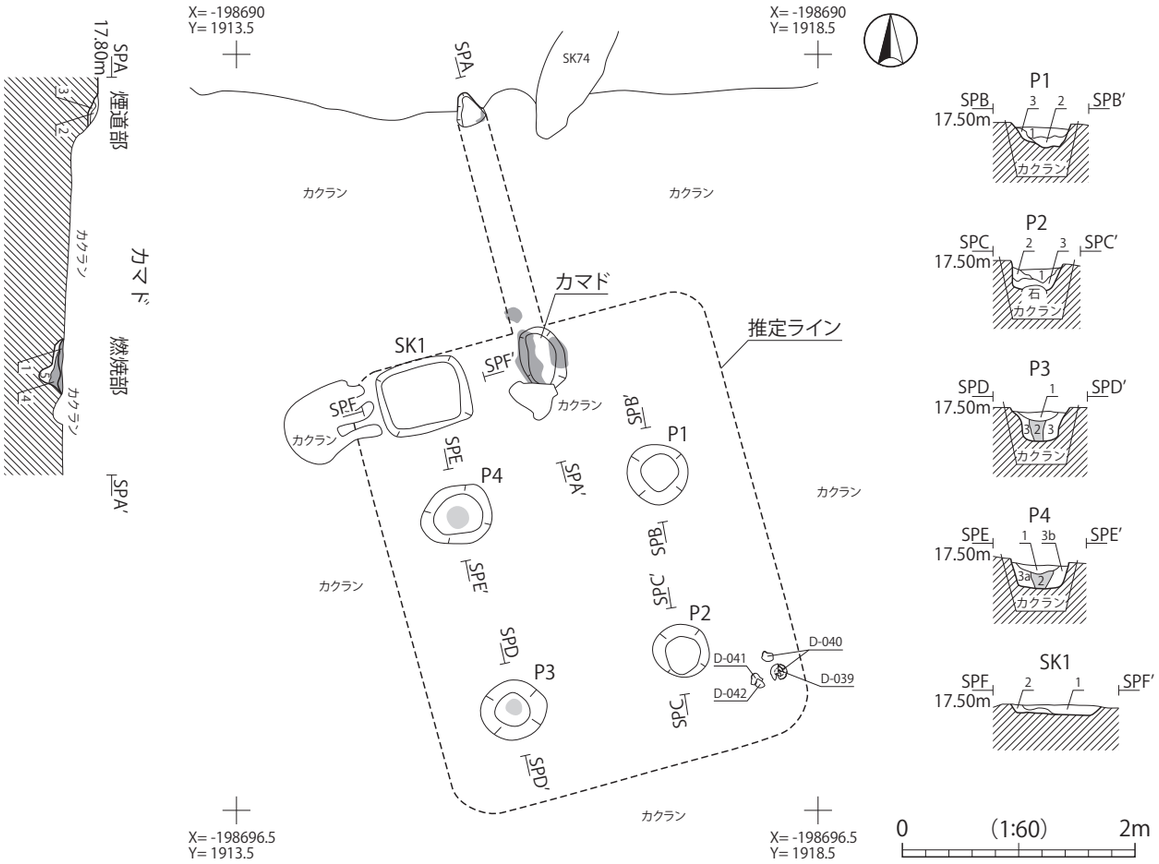
【位置・確認】 調査区南部、52・57 区に位置する。掘り方底面まで撹乱を受けており、床面施設のみが残存する。第 67 図に示した土器はいずれも検出面から 2 ～ 4cm 程度浮いた状態で出土している。

【重複】 なし。

【規模・形態】 残存する床面施設の位置関係から、規模は長軸 330cm、短軸 241cm を超えると推定される。

【方向】 カマドを基準として N － 15°－ W が推定される。

【堆積土】 カマド部分のみ観察され、5 層に分層した。1 ～ 3 層はカマド堆積土で、1 層は燃焼部、2・3 層は煙道部に堆積する。4・5 層はカマド掘り方埋土で、燃焼部のみ確認された。



SI12 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
カマド堆積土	1	5YR5/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒少量含む。
	2	7.5YR3/3 暗褐色	シルト	灰色シルト粒少量、焼土斑状・炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm程度）・炭化物粒少量含む。
カマド掘り方	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm程度）・焼土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒少量含む。※燃焼面
	5	10YR6/3 にぶい黄橙色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。

SI12 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に多量、礫（10mm程度）・焼土粒微量含む。
	2	10YR3/3 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5 ～ 10mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（5mm程度）微量含む。※柱痕跡
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR3/4 暗褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3a	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。

SI12 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	（53）×（52）	（41）	主柱穴
P2	（円形）	（48）×（46）	（27）	主柱穴
P3	（円形）	（54）×（52）	（30）	主柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P4	（円形）	（62）×（53）	（26）	主柱穴
SK1	（長方形）	（78）×（63）	（12）	貯蔵穴

第66図　SI12竪穴住居跡

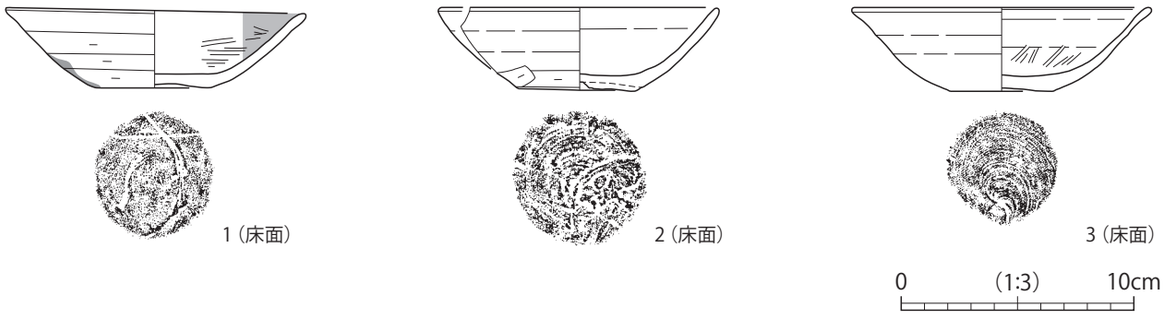
【柱穴】　4基（P1 ～ 4）確認した。規模や位置関係からいずれも主柱穴と考えられる。規模は残存値で長軸48 ～ 62cm、短軸46 ～ 53cm、深さ26 ～ 41cmを測る。P3・4で径15 ～ 20cm程度の柱痕跡を確認した。

【カマド】　北壁に位置し、燃焼部の底面付近と煙道部の煙出し付近のみが残存する。燃焼部は壁内に位置すると思われ、底面は浅く掘り込まれる。平面形状は楕円形で、規模は奥行き55cm、幅38cmを測る。底面には不規則な範囲で焼面が形成される。煙道部は推定で長さ210cmを測り、先端部の幅は18cmを測る。

【その他の施設】　1基（SK1）の土坑を確認した。カマドの西側に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は長方形を呈し、規模は残存値で長軸78cm、短軸63cm、深さ12cmを測る。

【出土遺物】　床面付近の層や、カマド内から土師器が出土した。このうち、ロクロ土師器3点を掲載した（第67図）。いずれも坏で、底部は回転糸切りである。1・2の底部は回転糸切り後一部がヘラナデもしくはヘラケズリ調整され、1の体部ほぼ全体と2の体部下端は手持ちもしくは回転ヘラケズリ調整される。1の内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。

【時期】　床面付近から出土したロクロ土師器坏（第67図－1 ～ 3）の特徴や、SI10との新旧関係から、C期（10世紀前半～ 10世紀前半以降）と考えられる。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-039	SI12	床面	ロクロ土師器	坏	12.8	4.8	3.5	ﾛｸﾛ調整 体部：回転ﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ 底部：回転糸切り→一部ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	外面煤付着。内面黒色処理。内外面摩滅。	25
2	D-040	SI12	床面	ロクロ土師器	坏	11.9	5.0	3.6	ﾛｸﾛ調整 体部下端：手持ちﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ 底部：回転糸切り→一部ﾍﾗｹﾞｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		25
3	D-041	SI12	床面	ロクロ土師器	坏	（12.8）	4.5	3.6	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整 体部下半：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内外面摩滅。	25

第67図　SI12竪穴住居跡出土遺物

SI13竪穴住居跡（第68図）

【位置・確認】　調査区南部、47区に位置する。SI10に入れ子状で重複し、このため南北の両壁は失われているが、周溝の残存から概ねの南北範囲が確認された。

【重複】　SI10、SK73・74より古い。

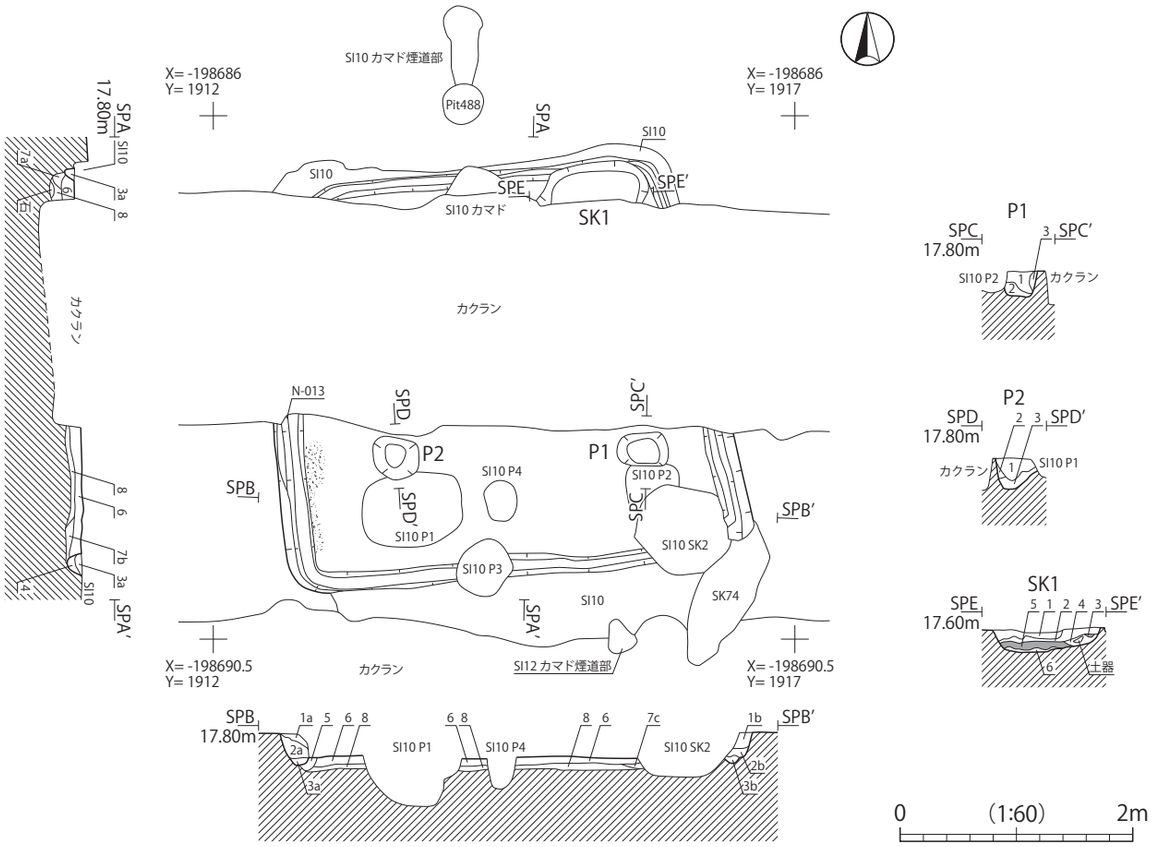
【規模・形態】　検出した規模は長軸393cm、短軸352cmを測り、平面形状は若干東西に長い方形を呈する。

【方向】　東壁を基準としてN－15°－Wを測る。

【堆積土】　大別で8層に分層した。1・2層は暗灰黄色シルトを主体とする住居堆積土で、東西両壁付近のみに残存する。3・4層は周溝堆積土で、5～8層は住居掘り方埋土である。

【壁面】　直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で22cmを測る。

【床面】　概ね平坦で、基本層Ⅳ層土を多量に混入したにぶい黄褐色・灰黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。



SI13 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1a	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	1b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	2b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
周溝	3a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量含む。
	3b	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量含む。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・炭化物斑状に少量含む。
	6	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	7a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	7b	10YR4/4 褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	7c	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。

SI13 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P2	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒・灰微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒・灰多量含む。
	6	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、礫（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量含む。

SI13 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（隅丸長方形）	44 ×（28）	23	主柱穴
P2	（隅丸方形）	39 ×（36）	27	主柱穴

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
SK1	（楕円形）	98 ×（38）	16	貯蔵穴

第 68 図　SI13 竪穴住居跡

西壁沿いには炭化物範囲がみられる。

【柱穴】 床面で２基（P1・2）確認した。規模や位置関係からともに主柱穴と考えられ、規模は長軸39 ～ 44cm、短軸28 ～ 36cm以上、深さ23 ～ 27cmを測る。柱痕跡などは確認されなかった。

【周溝】 残存部分の壁面全周に沿って延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅10 ～ 20cm、深さ１～ 15cmを測る。

【その他の施設】 床面で１基（SK1）の土坑を確認した。北東コーナーに位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。南側1/2程が撹乱で壊されるが、平面形状は楕円形と推定され、規模は長軸98cm、短軸38cm以上、深さ16cmを測る。内部には多量の焼土が入り込み、人為的に埋め戻されている。

【掘り方】 深さ９～ 20cmを測り、底面は中央部が高まり四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】 床面から鉄滓が１点出土したが、図化できなかった。

【時期】 本住居跡の詳細な時期は不明だが、SI10との新旧関係から、B期（９世紀中頃～９世紀後半）以前である。

SI14竪穴住居跡（第69図）

【位置・確認】 調査区中央部、28区に位置する。住居の大部分はSI7との重複により失われ、カマド煙道部のみが残存する。

【重複】 SI7より古い。

【規模・形態】 不明。

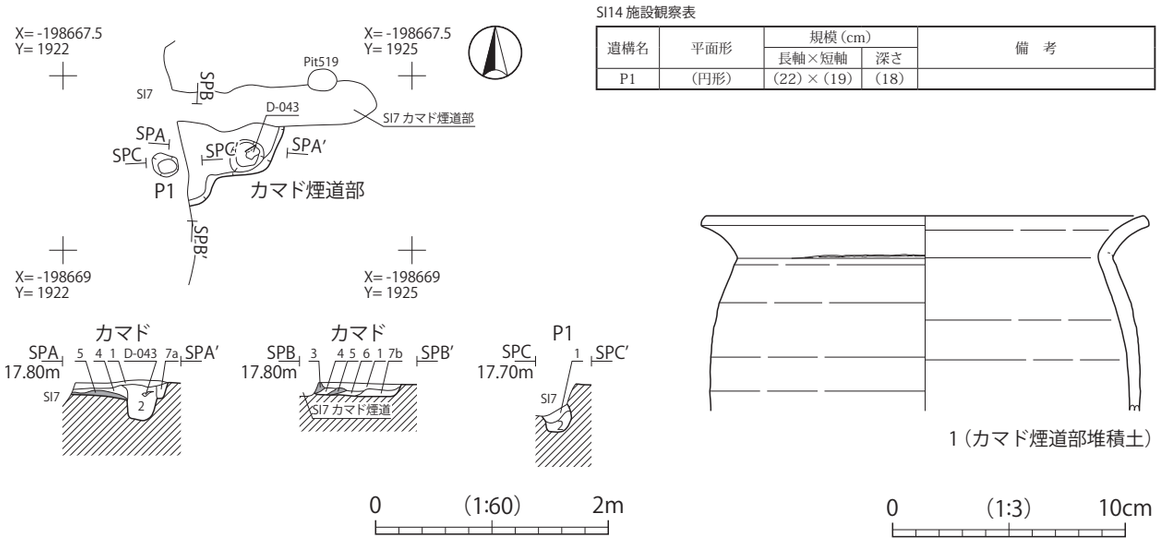
【方向】 不明。

【堆積土】 全てカマド堆積土で、大別で７層に分層した。灰黄褐色シルトを主体とし、自然堆積である。

【カマド】 東壁に位置すると思われ、既述の通り煙道部のみが残存する。煙道部の底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は残存値で長さ90cm、幅38 ～ 73cm、深さ11 ～ 31cmを測る。幅は不定で、いびつな平面形状

SI14 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	（22）×（19）	（18）	



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-043	SI14 ｶﾏﾄﾞ煙道部	堆積土	ロクロ土師器	甕	（18.8）	—	（8.4）	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		25

第69図　SI14竪穴住居跡・出土遺物

SI14 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
カマド堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルト粒・炭化物ブロック（5mm 程度）少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物ブロック（5mm 程度）少量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量含む。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルト粒・炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
	5	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	灰・焼土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	6	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	7a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量、焼土粒・灰微量含む。
	7b	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物粒・灰微量含む。

SI14 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・粗砂少量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。

を呈する。煙出しは長軸30cm、短軸27cm程度のピット状を呈する。

【その他の施設】　前方のSI7掘り方内で１基（P1）のピットを確認した。平面形状は円形を呈し、規模は残存値で長軸22cm、短軸19cm、深さ18cmを測る。位置関係から本住居跡の施設と捉えたが、性格は不明である。

【出土遺物】　堆積土からロクロ土師器が少量出土し、このうち１点を掲載した（第69図－１）。甕の口縁部～胴部上位の破片で、口縁部は「く」字状に外反する。

【時期】　本住居跡の詳細な時期は不明だが、SI7との新旧関係から、A2期（９世紀前半）以前である。

SI15竪穴住居跡（第70・71図）

【位置・確認】　調査区中央部、22・23・27・28・32・33区に位置する。SI7との重複で大半が壊され、西壁付近とカマド煙道部のみが残存する。

【重複】　SI7より古い。

【規模・形態】　検出した規模は長軸556cmを測り、短軸は床面施設の位置関係から463cmを超えると推定される。平面形状は方形もしくは長方形と推定される。

【方向】　西壁を基準としてN－6°－Wを測る。

【堆積土】　15層に分層した。１～４層は灰黄褐色シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。５層は周溝堆積土である。６～11層はカマド堆積土、12層はカマド掘り方埋土で、煙道部の壁構築材である。13～15層は住居掘り方埋土である。

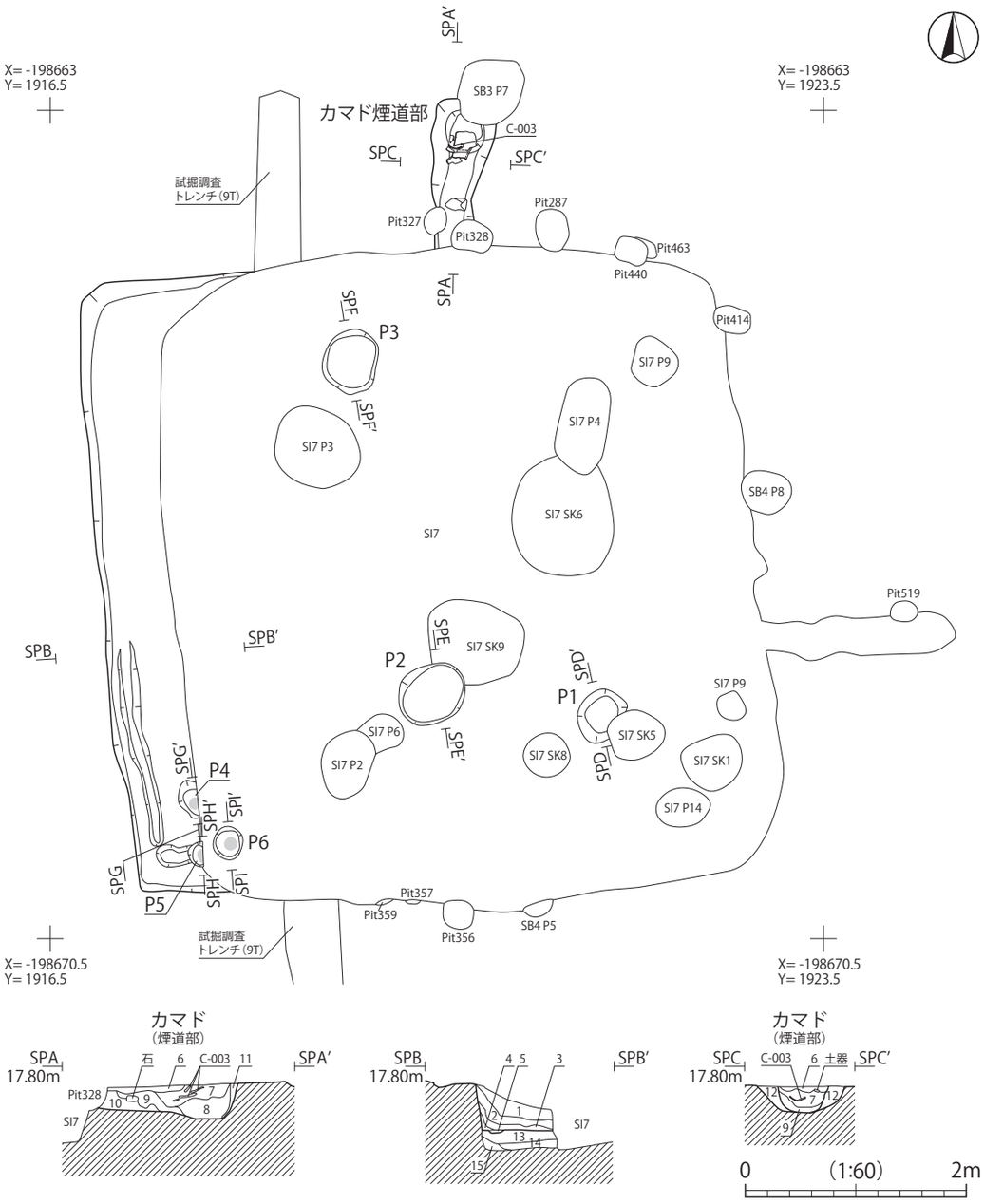
【壁面】　直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で43cmを測る。

【床面】　形状は残存部分が少なく不明であるが、基本層Ⅳ層土を多量に混入した黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】　床面及びSI7の掘り方内で６基（P1～６）確認した。規模や位置関係からP1～３が主柱穴の可能性があるが、全体の配置は不規則である。規模は残存値で長軸49～64cm、短軸35～56cm、深さ18～37cmを測る。柱痕跡などは確認されなかった。P4～６はいずれも南西コーナー付近に位置し、規模も小型で補助柱穴と思われる。３基ともに径12～13cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】　南西コーナーから西壁の中央付近にかけて「L」字状に延びる。壁の下端から５～21cm程度内側に掘り込まれる。断面形状は逆台形を呈し、規模は幅11～21cm、深さ２～13cmを測る。

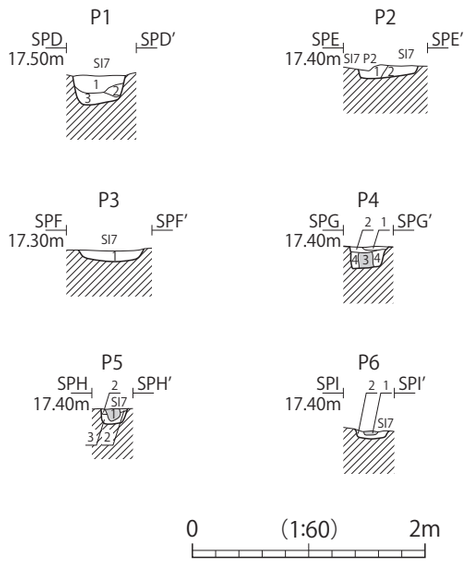
【カマド】　北壁に位置し、既述の通り煙道部のみが残存する。煙道部は主軸方位から12°東に振れて付設される。底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は残存値で長さ135cm、幅34～42cm、深さ22～28cmを測る。煙出しは長軸64cm、短軸56cmのピット状を呈し、中層付近から土師器の甕（第71図－１）2/3個体が潰れた状態で出土した。



SI15 堆積土註記表

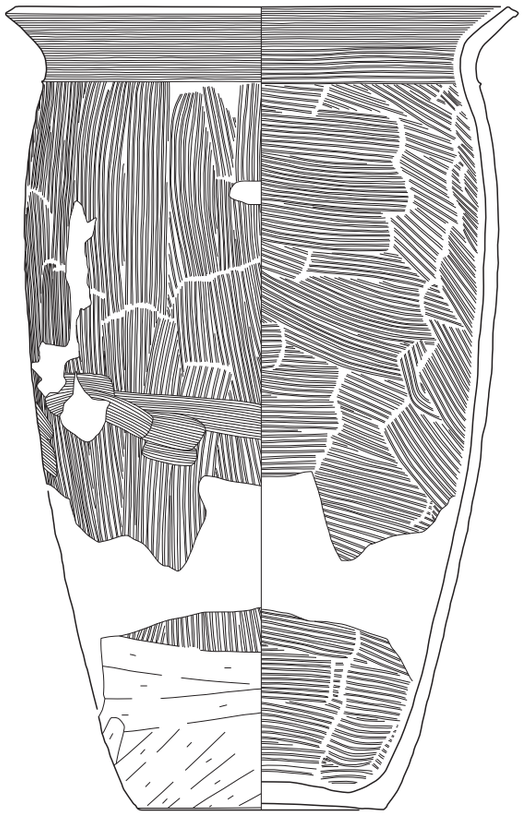
部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
	2	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	5Y4/1 灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
周溝	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	7	7.5YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	8	10YR2/1 黒色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	9	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・焼土ブロック・炭化物ブロック（いずれも 5mm 程度）微量含む。
	10	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒・炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
	11	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
カマド掘り方	12	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒少量、礫（5 ～ 10mm 程度）微量含む。
住居掘り方	13	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5mm 程度）少量、粗砂・炭化物粒微量含む。
	14	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状・粗砂少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	15	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状・礫（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。

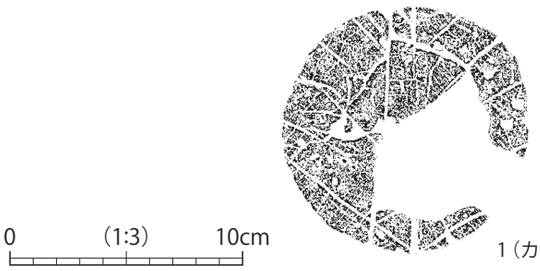
第 70 図　SI15 竪穴住居跡（1）



SI15 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（楕円形）	（49）×（35）	（37）	主柱穴か
P2	（円形）	（64）×（56）	（19）	主柱穴か
P3	（円形）	（59）×（48）	（18）	主柱穴か
P4	（楕円形）	（28）×（22）	（19）	補助柱穴
P5	（円形）	（22）×（11）	（18）	補助柱穴
P6	（円形）	（30）×（27）	（11）	補助柱穴





1（カマド煙道部堆積土）

図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	C-003	SI15 ｶﾏﾄﾞ 煙道部	堆積土	土師器	甕	（21.2）	10.6	（34.5）	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ 胴上～中位：ﾊｹﾒ→一部ﾍﾗﾅﾃﾞ 胴下位：ﾊｹﾒ→ﾍﾗｹｽﾞﾘ	口縁部：ﾖｺﾅﾃﾞ →ﾊｹﾒ 胴部：ﾊｹﾒ 底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	外面煤付着。 底部：木葉痕。	25

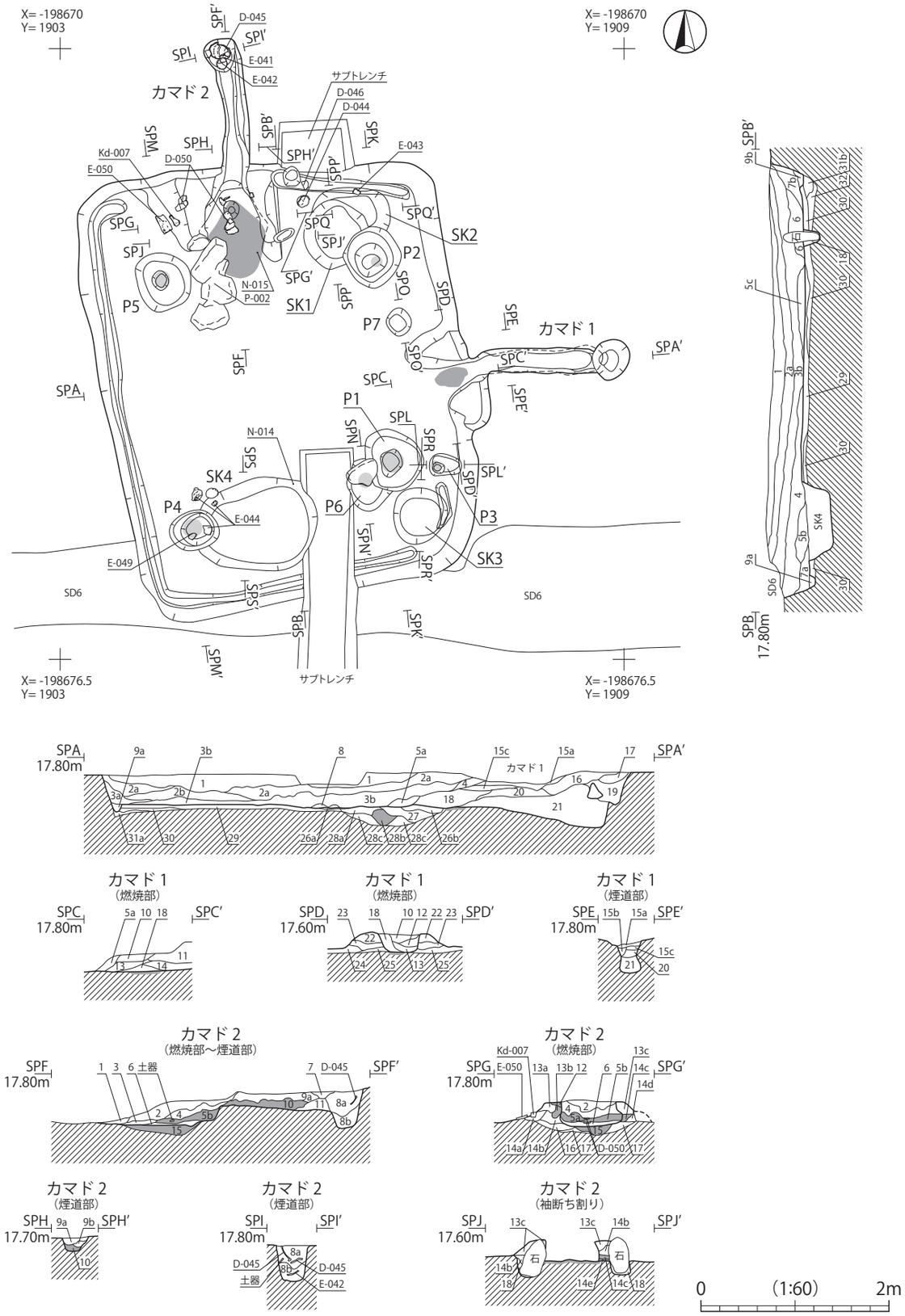
SI15 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、礫（5 ～ 30mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状・粗砂・礫（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量、礫（5mm 程度）微量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、礫（10 ～ 20mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	粗砂・礫（5 ～ 10mm 程度）少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
P4	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P6	1	2.5Y4/1 黄灰色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、粗砂少量、炭化物粒微量含む。

第 71 図　SI15 竪穴住居跡（2）・出土遺物

【掘り方】 残存部では深さ15～22cmを測るが、底面形状は残存部分が少なく不明である。
【出土遺物】 堆積土やカマドから土師器・須恵器、土製品が出土した。このうち、土師器1点を掲載した（第71図－1）。甕の個体資料で、口縁部は「く」字状に外反し、胴部は長胴である。外面はハケメ調整後、下位がヘラケズリ調整される。内面はハケメ調整が主体である。底部の外面には、木葉痕が観察される。また図化できなかったが、土製品はカマド煙道部の前方から出土し、直方体に加工された粘土ブロックである。カマドの構築材と考えられる。
【時期】 カマドから出土した土師器甕（第71図－1）の特徴や、SI7との新旧関係から、A1期（8世紀後半～8世紀末頃）と考えられる。

SI16竪穴住居跡（第72～75図）
【位置・確認】 調査区西部、26・31・36区に位置する。南側の上部は平安時代～中世のSD6との重複により失われている。
【重複】 SI19より新しい。
【規模・形態】 検出された規模は長軸471cm、短軸388cmを測る。平面形状は南北に長い長方形を呈する。
【方向】 カマド1を基準としてN－78°－Eを測る。
【堆積土】 大別で32層に分層した。1～8層は暗灰黄色・にぶい黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。9層は周溝堆積土である。10～21層はカマド1の堆積土、22・23層はカマド1の袖構築土、24～28層はカマド1の掘り方埋土、29～32層は住居掘り方埋土である。
【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で38cmを測る。
【床面】 概ね平坦で、基本層Ⅳ層土を多量に混入した灰黄褐色・黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。
【柱穴】 床面で7基（P1～7）確認した。規模や位置関係からP1・2・4・5は主柱穴と考えられ、規模は長軸50～68cm、短軸42～62cm、深さ26～44cmを測る。いずれの柱穴からも径12～24cm程度の柱痕跡を確認した。P6はP1と重複し、建て替えの関係が考えられる。径17cm程度の柱痕跡を確認したほか、上部からは抜き取られた礎盤石とみられる長径36cm程度の扁平な自然礫が出土した。P3・7は壁柱穴及び補助柱穴と思われ、P3で径13cm程度の柱痕跡を確認した。
【周溝】 東壁を除き、壁面に沿って「コ」字状に延びる。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅9～18cm、深さ3～9cmを測る。
【カマド】 東壁と北壁の2箇所で確認した。東壁のカマド1は中央部のやや南寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は焚口付近が失われるが、規模は残存値で南袖が長さ45cm、幅42cm、北袖が長さ65cm、幅36～46cmを測る。袖は基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築される。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き70cm、幅34cmを測る。底面は概ね平坦で、長径36cm程度の焼面が形成される。奥壁はなく、燃焼部はトンネル状に煙道部へと繋がる。煙道部は壁面から11°南に振れて付設され、底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ167cm、幅23～27cm、深さ38～61cmを測る。煙出しは長軸45cm、短軸39cm程度のピット状を呈し、煙道部奥壁の上方27cm程度の位置に掘り込まれる。
　北壁のカマド2は中央部のやや西寄りに位置し、壁面に直交して付設される。袖は直線的に延び、規模は東袖が長さ104cm、幅24～33cm、西袖が長さ85cm、幅35～76cmを測る。袖は基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築され、先端には自然礫による芯材が14～18cm程度の深さで埋設される。焚口前方からは、天井に架構されたとみられる直方体の粘土焼成ブロックが割れた状態で出土した。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き88cm、幅72cmを測る。底面は概ね平坦で、長径61cm程度の焼面が形成される。奥壁は外傾して15cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は壁面から8°東に振れて付設され、底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長



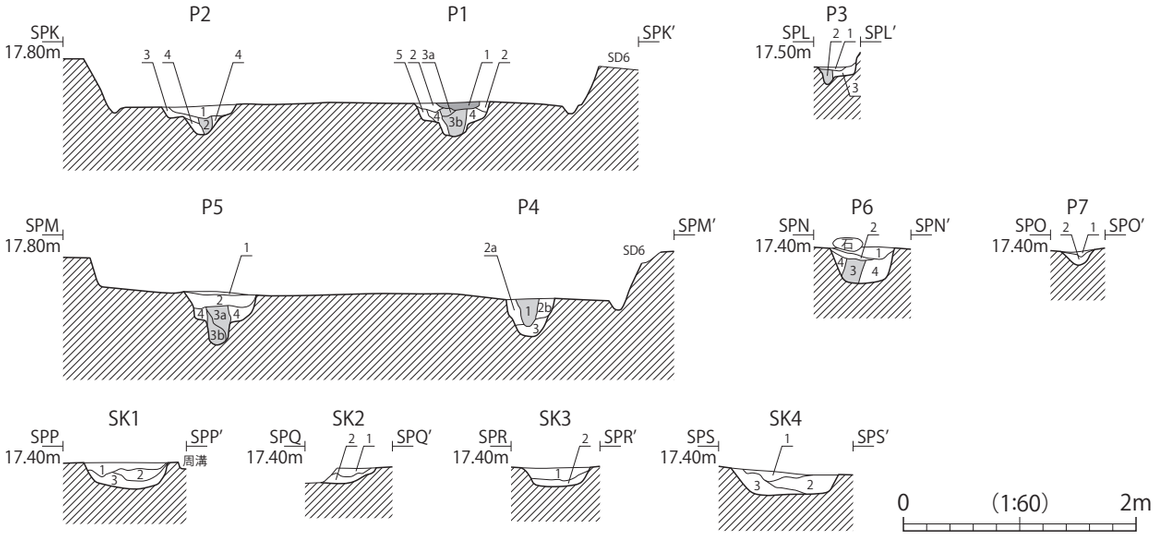
第 72 図　SI16 竪穴住居跡（1）

SI16 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2b	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3a	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3b	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5b	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒少量、灰色シルト粒・焼土ブロック（5mm 程度）微量含む。
	5c	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	6	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	7a	2.5Y6/3 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	7b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土粒・灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土粒微量含む。
	8	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
周溝	9a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	9b	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
カマド１堆積土	10	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	11	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土斑状に少量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	12	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	14	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	15a	2.5Y5/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	15b	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	15c	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量含み、下位に焼土（厚 10 ～ 20mm 程度）部分的に堆積。
	16	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒・焼土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	17	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	18	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状・灰色シルト粒・炭化物粒少量含む。
	19	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5mm 程度）少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	20	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。
	21	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
カマド１袖構築土	22	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	23	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
カマド１掘り方	24	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。
	25	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	26a	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒多量、炭化物粒微量含む。
	26b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。上面被熱。
	27	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
	28a	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、礫（10mm 程度）・焼土ブロック（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	28b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	28c	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
住居掘り方	29	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルト粒少量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	30	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	31a	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒少量、灰色シルト粒微量含む。
	31b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5 ～ 40mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	32	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
カマド２堆積土	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土ブロック（10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
	5a	5YR5/6 明赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	5b	2.5YR3/1 暗赤灰色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物斑状に多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。
	6	7.5YR6/1 褐灰色	シルト	灰層。焼土ブロック（5mm 程度）少量含む。
	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	8a	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	8b	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物斑状に多量含む。
	9a	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	9b	5YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	10	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒多量含む。
カマド２袖構築土	12	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土斑状に少量含む。
	13a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土斑状に微量含む。
	13b	2.5YR4/2 灰赤色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。全体が被熱。
	13c	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	14a	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土斑状に少量含む。
	14b	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
	14c	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	焼土粒多量、Ⅳ層土斑状に微量含む。
	14d	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物微量含む。
	14e	2.5YR5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量含む。
カマド２掘り方	15	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。全体が被熱。※燃焼面
	16	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	17	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土斑状に微量含む。
	18	5Y4/2 灰オリーブ色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。

さ 152cm、幅 24 ～ 29cm、深さ 17 ～ 46cm を測る。煙出しは長軸 36cm、短軸 30cm 程度のピット状を呈し、上層～中層からロクロ土師器の甕 1 点（第 74 図－ 3）が破片で、下層からは須恵器の坏 2 点（第 74 図－ 4 ・ 5）がほぼ完形の状態で出土した。

【その他の施設】　床面で 4 基（SK1 ～ 4）の土坑を確認した。SK3 は南東コーナー付近に位置し、規模や位置関係か



SI16 施設堆積土註記表

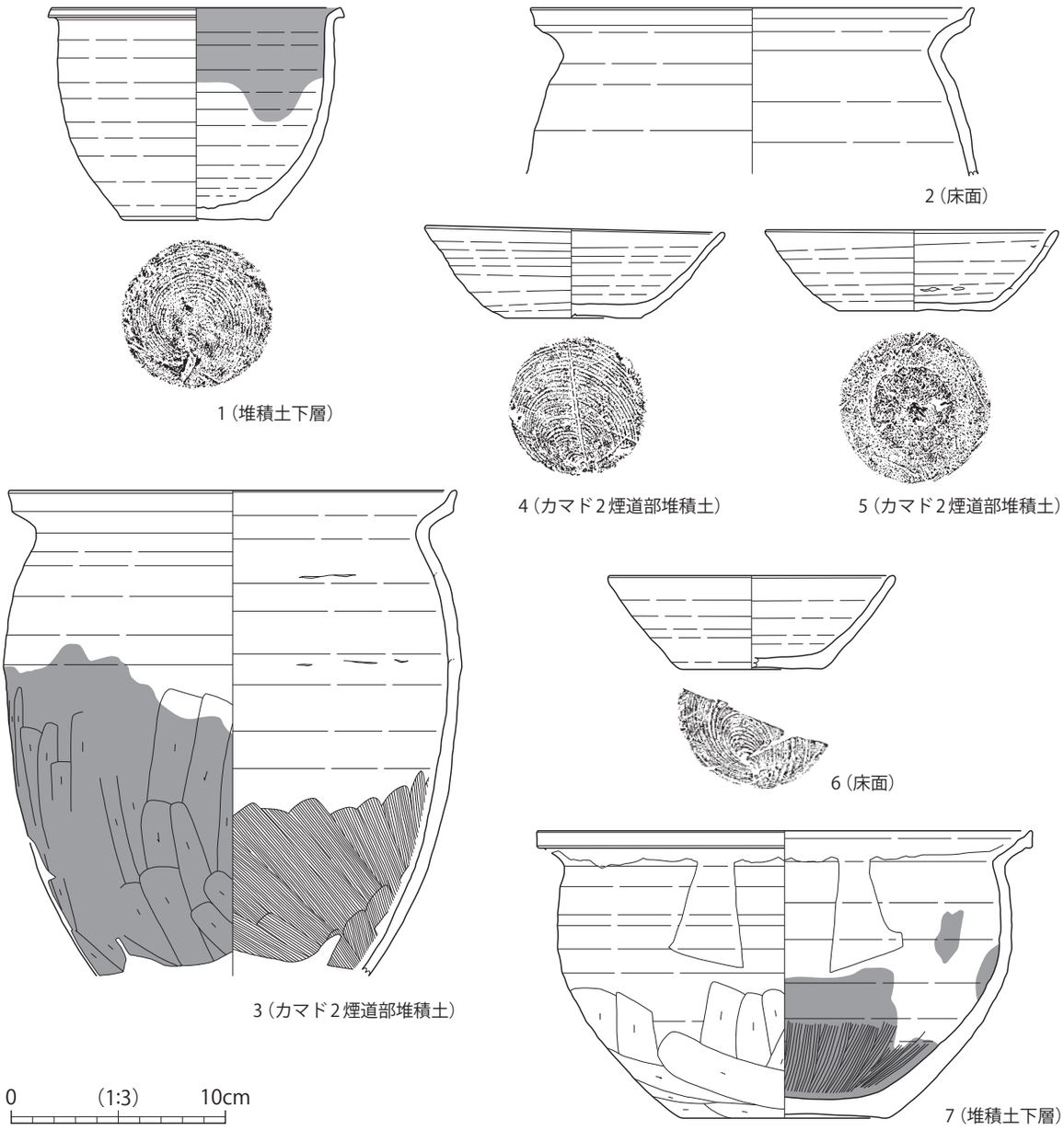
遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	焼土斑状に多量、Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3a	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト・焼土斑状に少量含む。※柱痕跡
	3b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（20mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y5/1 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
P2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒少量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量含む。
P3	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒・焼土ブロック（5mm 程度）少量含む。
	2	2.4Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、礫（30mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2a	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2b	2.5YR2/1 赤黒色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P5	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3a	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3b	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	7.5YR5/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物ブロック（10mm 程度）微量含む。
	2	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量、焼土粒微量含む。※柱痕跡
	4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
P7	1	5YR3/2 暗赤褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土粒・炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、Ⅳ層土粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルトブロック（5 ～ 20mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
SK2	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK3	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。

SI16 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	68 × 62	27	主柱穴
P2	隅丸方形	59 × 57	26	主柱穴
P3	楕円形	34 × 23	16	補助柱穴
P4	円形	50 × 42	35	主柱穴
P5	円形	64 × 58	44	主柱穴
P6	（隅丸方形）	（52）×（44）	29	礎盤石

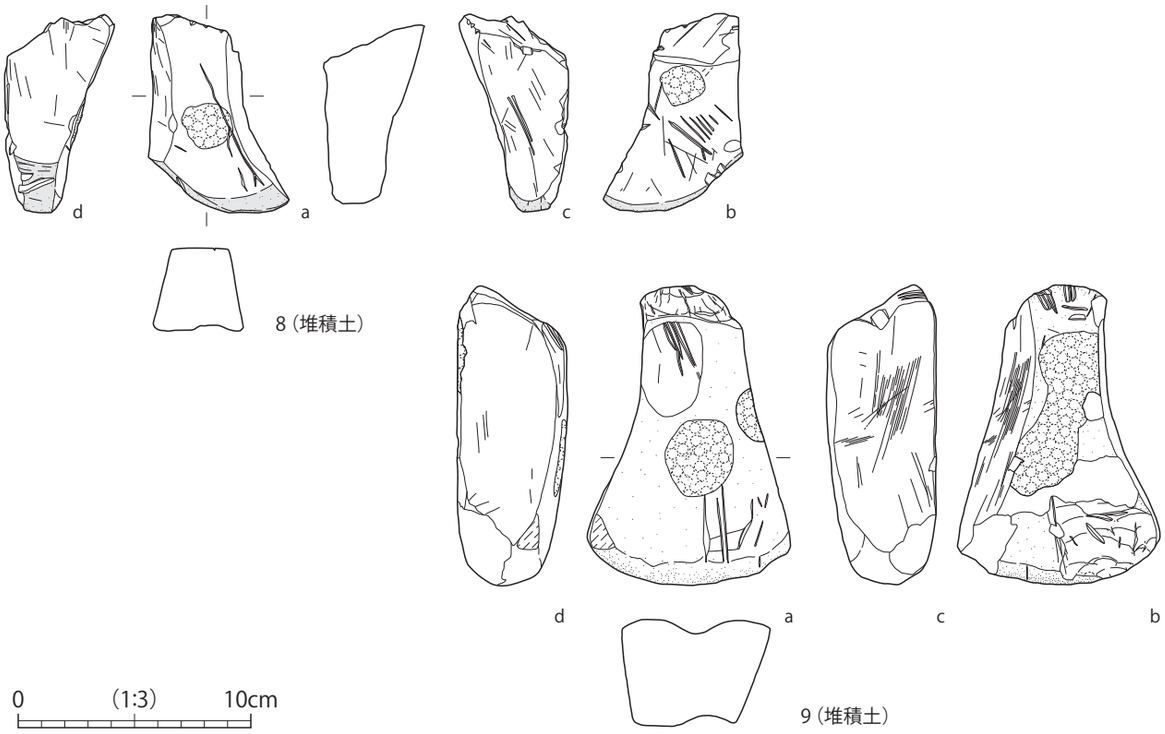
遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P7	円形	27 × 26	13	補助柱穴
SK1	（円形）	68 ×（62）	21	貯蔵穴か
SK2	（楕円形）	（86）×（40）	14	貯蔵穴か
SK3	（円形）	60 ×（57）	16	貯蔵穴
SK4	（楕円形）	（126）× 100	22	

第 73 図　SI16 竪穴住居跡（2）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-044	SI16	堆積土下層	ロクロ土師器	小型甕	（13.5）	6.8	10.0	ﾛｸﾛ調整 体下半：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	内外面胴上位煤付着。外面に火ﾊﾈ痕。	26
2	D-046	SI16	床面	ロクロ土師器	甕	（20.5）	—	（7.9）	ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		26
3	D-045	SI16 ｶﾏﾄﾞ 2 煙道部	堆積土	ロクロ土師器	甕	（20.8）	—	（22.7）	ﾛｸﾛ調整 胴下半：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 胴下半：ﾍﾗﾅﾃﾞ	外面胴下半煤付着。	26
4	E-041	SI16 ｶﾏﾄﾞ 2 煙道部	堆積土	須恵器	坏	13.9	6.3	4.4	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	内外面体部自然釉付着。重ね焼き痕。底部線刻「－」。	26
5	E-042	SI16 ｶﾏﾄﾞ 2 煙道部	堆積土	須恵器	坏	13.6	7.1	3.8	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	外面体部自然釉付着。内外面口縁部に重ね焼き痕。	26
6	E-043	SI16	床面	須恵器	坏	（13.2）	（6.4）	4.4	ﾛｸﾛ調整 底部：回転糸切り	ﾛｸﾛ調整	内面体部上位に火ﾊﾈ痕。	26
7	E-044	SI16	堆積土下層	須恵器	鉢	（23.0）	（9.8）	13.4	ﾛｸﾛ調整 体下半～底部：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 体下半：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内面？付着	26

第74図　SI16竪穴住居跡出土遺物（1）



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			重量（g）	石材	備　考	写真図版
						全長	幅	厚さ				
8	Kd-006	SI16	堆積土	石製品	砥石	（8.5）	6.0	4.7	15.3	凝灰岩	砥面４面、線状痕（a～d面）、溝状痕（a～d面）、敲打痕（a・b面）、端部欠損	26
9	Kd-007	SI16	堆積土	石製品	砥石	（12.9）	8.7	6.7	511.0	凝灰岩	砥面４面、線状痕（a～e面）、溝状痕（a・b面）、敲打痕（a・b面）、端部欠損	26

第75図　SI16竪穴住居跡出土遺物（2）

ら貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸57cm以上、深さ16cmを測る。北東コーナーに位置するSK1・2も貯蔵穴の可能性があるが、ともに主柱穴P2により一部失われている。SK1の平面形状は円形を呈し、規模は長軸68cm、短軸62cm以上、深さ21cmを測る。SK2の平面形状は楕円形を呈し、長軸86cm以上、短軸40cm以上、深さ14cmを測る。SK4は南西コーナー付近に位置し、一部が主柱穴P4により失われている。平面形状は楕円形を呈し、規模は長軸126cm以上、短軸100cm、深さ22cmを測る。

【掘り方】　深さ３～19cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】　床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、石製品、金属製品、土製品が出土した。このうち、ロクロ土師器３点、須恵器４点、石製品２点を掲載した（第74・75図）。また図化はしなかったが、土製品１点を写真のみ掲載した（写真図版27－５）。第74図－１～３はロクロ土師器で、いずれも甕である。１は小型甕で、口縁部は短く外傾する。底部は回転糸切り未調整である。２の甕は口縁部が受口状を呈し、３の胴部外面の下半はヘラケズリ調整される。４～７は須恵器で、４～６は坏、７は鉢である。坏の底部は４・６が回転糸切り、５が回転ヘラ切りでいずれも未調整である。７の鉢は口縁部が短く外傾し、受口状を呈する。体部外面の下半はヘラケズリ調整される。第75図－８・９は砥石で、ともに一部を欠損する。８はａ～ｄの各面を砥面とし、多数の線状痕が観察される。石材は凝灰岩である。９はａ～ｅ面を砥面とし、多数の線状痕のほか、ａ・ｂ面には溝状痕と敲打痕が観察される。石材は凝灰岩である。写真のみ掲載した土製品は、カマド材である（写真図版27－５）。風化・剥落が顕著で取り上げられたのは一部の破片のみだが、整形時の粘土貼り付けの痕跡や、人為的に穿たれたとみられる小孔が

数箇所観察される。カマド２の焚口前方から、割れた状態で出土した。

【時期】 床面やカマドから出土したロクロ土師器甕や須恵器坏（第74図－２～６）の特徴から、B期（９世紀中頃～９世紀後半）と考えられる。

SI17竪穴住居跡（第76・77図）

【位置・確認】 調査区西端部、26・31・36・61・62区に位置する。南壁の上部は平安時代～中世のSD6、東壁付近はSI16との重複により失われている。

【重複】 SI18・19より古く、SK77・78より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、残存値で長軸413cm、短軸377cmを測る。平面形状は東西に長い長方形と推定される。

【方向】 カマドを基準としてN－5°－Wを測る。

【堆積土】 大別で28層に分層した。１～８層はにぶい黄褐色・黄褐色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。９層は周溝及び間仕切り溝の堆積土である。10～18層はカマド堆積土、19～22層はカマド袖構築土、23・24層はカマド掘り方埋土、25～28層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で29cmを測る。

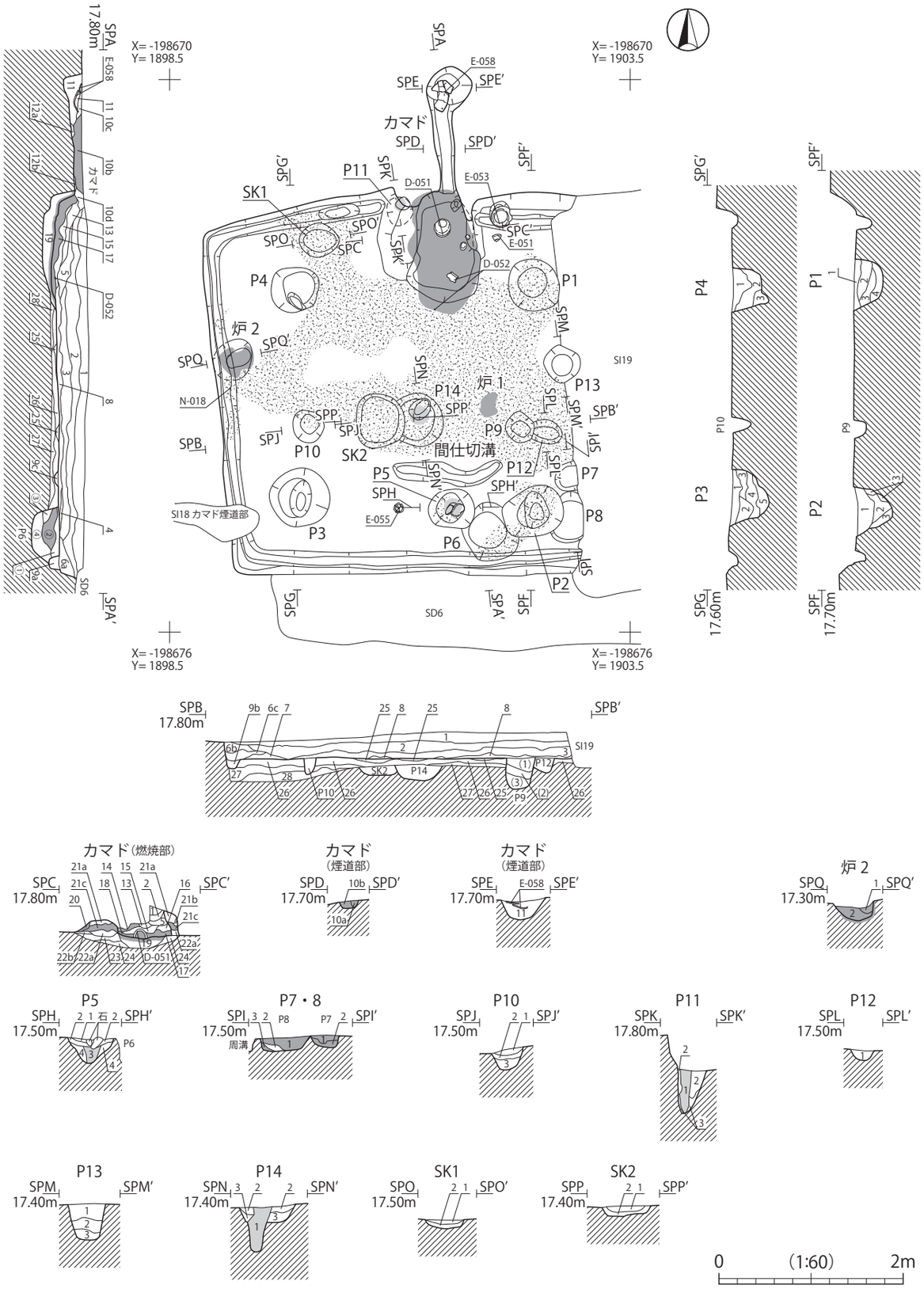
【床面】 概ね平坦で、基本層Ⅳ層土を多量に混入した暗灰黄色・黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。北側から中央にかけての広い範囲で炭化物が広がっている。

【柱穴】 床面で12基（P1～10・12・13）、掘り方で２基（P11・14）、総数14基確認した。規模や位置関係からP1～４は主柱穴と考えられ、規模は長軸55～66cm、短軸50～63cm、深さ31～44cmを測る。いずれも柱痕跡などは確認されなかった。P6・８は主柱穴P2と重複するが、建て替えの関係にあるかは不明である。ほかは補助柱穴と考えられるが、P14は中央部付近に位置することから、変則的に配置された主柱穴の可能性がある。規模は長軸60cm、短軸56cm以上、深さ54cmを測り、径21cm程度の柱痕跡を確認した。P11はカマド袖の直下に位置し、径16cm程度の柱痕跡を確認したが、カマドとの位置関係から本住居跡に伴わない別遺構の可能性も考えられる。ほかに柱痕跡を確認した柱穴はP14があり、柱痕跡の径は20cm程度を測る。

【周溝】 残存部分では全体の壁面に沿って延びる。断面形状は逆台形を呈し、規模は幅12～20cm、深さ５～16cmを測る。また、南寄りで東西方向に延び、断面形状は逆台形を呈する溝を確認した。間仕切り溝と考えられる。規模は長さ123cm、幅16～22cm、深さ４～８cmを測る。

【カマド】 北壁中央部のやや東寄りに位置すると推定され、壁面に直交して付設される。袖は東袖の一部が失われるが、概ね「ハ」字状に延びる。規模は残存値で東袖が長さ66cm、幅15～17cm、西袖が長さ100cm、幅41～46cmを測る。袖は基本層Ⅳ層に近似したシルトを突き固めて構築される。燃焼部は壁内に位置し、規模は奥行き96cm、幅61cmを測る。底面は浅く掘り込まれ、奥壁寄りにはロクロ土師器の小型甕（第77図－１）を転用した支脚が１箇所あり、逆位に伏せて４cm程度の深さで埋設される。東袖の脇にも自然礫が２点置かれるが、用途は不明である。底面から袖を含む内部全体に焼面が形成される。奥壁は外傾して17cm程度立ち上がり、煙道部に繋がる。煙道部は底面が煙出しに向かって緩やかに傾斜し、規模は長さ139cm、幅16～22cm、深さ11～21cmを測る。煙出しはカマドの主軸から43°東に振れ、長軸43cm、短軸39cm程度のピット状を呈する。上層から、ロクロ土師器の甕（第77図－２）1/5個体が潰れた状態で出土した。

【炉】 床面から１基（炉1）、掘り方から１基（炉2）、総数２基を確認した。炉１は中央部の南東寄りに位置し、掘り込みを伴わない被熱範囲である。平面形状は不整形を呈し、規模は長軸27cm、短軸16cmを測る。炉２は西壁に一部が食い込むようにして位置し、掘り込みを伴う。平面形状は円形を呈し、規模は長軸48cm、短軸40cm、深さ



第76図　SI17竪穴住居跡

SI17 堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物粒少量、Ⅳ層土斑状に微量含む。
	5	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	6a	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒斑状に少量含む。
	6b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	炭化物斑状に多量、Ⅳ層土斑状に少量含む。
	6c	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	7	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	8	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	炭化物斑状に少量、焼土粒微量含む。
周溝・間仕切溝	9a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	9b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。
	9c	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。
カマド堆積土	10a	5YR3/2 暗赤褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）・焼土粒多量、炭化物粒斑状に少量含む。
	10b	5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	10c	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10d	2.5YR5/2 灰赤色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・焼土粒多量、炭化物粒少量含む。
	11	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。
	12a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土斑状に微量含む。
	12b	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	13	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土粒微量含む。
	14	5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	15	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）微量含む。
	16	2.5YR4/4 にぶい赤褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。
	17	2.5YR3/2 暗赤褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物斑状に多量、灰色シルト粒少量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）微量含む。
	18	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・焼土斑状に多量含む。
カマド袖・底面構築土	19	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。上面被熱。※燃焼面
	20	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土粒・炭化物粒少量含む。
	21a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	21b	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量含む。
	21c	5YR5/4 にぶい赤褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	22a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒少量、炭化物粒微量含む。
	22b	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒微量含む。
カマド掘り方	23	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、焼土粒少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）微量含む。
	24	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	25	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト互層状に多量、炭化物粒微量含む。
	26	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	27	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	28	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。

SI17 施設堆積土註記表（1）

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
炉2	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 30mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	2	7.5YR5/3 にぶい褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量含み、下位に炭化物（厚 5 ～ 20mm 程度）堆積。
P1	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒少量、焼土ブロック（5mm 程度）微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
P3	1	2.5Y5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、灰色シルト粒・焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	5	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/1 褐灰色	シルト	Ⅳ層土斑状に微量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物ブロック（5mm 程度）少量、焼土粒微量含む。
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P6	①	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土互層状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	②	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5 ～ 20mm 程度）多量、炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
	③	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土粒多量、焼土粒・炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	④	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P7	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5mm 程度）多量、炭化物粒少量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
P8	1	5YR4/2 灰褐色	シルト	焼土ブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・灰色シルトブロック（5 ～ 40mm 程度）・炭化物ブロック（5mm 程度）少量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量、焼土粒微量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
P9	（1）	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	（2）	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に多量、焼土粒少量含む。
	（3）	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P10	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。

SI17 施設堆積土註記表（2）

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P11	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P12	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルト互層状に少量、炭化物粒微量含む。
P13	1	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5 ～ 20mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
P14	1	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 30mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量含む。※柱痕跡
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状に微量含む。
SK2	1	2.5Y5/4 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。

SI17 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（円形）	58 × （55）	31	主柱穴
P2	楕円形	66 × 54	39	主柱穴
P3	円形	63 × 63	44	主柱穴
P4	円形	55 × 50	41	主柱穴
P5	円形	50 × 42	46	補助柱穴
P6	（隅丸方形）	63 × 52	31	
P7	（円形）	32 × （26）	15	
P8	（円形）	56 × （36）	11	

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P9	円形	32 × 29	33	補助柱穴
P10	円形	40 × 37	35	補助柱穴
P11	円形	34 × 30	47	別遺構の可能性
P12	（楕円形）	（33） × 26	26	補助柱穴
P13	（円形）	41 × （40）	44	補助柱穴
P14	（円形）	60 × （56）	54	主柱穴か
SK1	円形	44 × 37	21	貯蔵穴
SK2	隅丸方形	60 × 50	17	

21cmを測る。

【その他の施設】　床面で１基（SK1）、掘り方で１基（SK2）、総数２基の土坑を確認した。SK1はカマドの西側に位置し、規模や位置関係から貯蔵穴と考えられる。平面形状は円形を呈し、規模は長軸44cm、短軸37cm、深さ21cmを測る。SK2は中央部のやや西寄りに位置し、平面形状は隅丸方形を呈する。規模は長軸60cm、短軸50cm、深さ17cmを測る。

【掘り方】　深さ７～24cmを測り、底面は中央部が高まり、四壁側へ向かって低くなる。

【出土遺物】　床面施設及び堆積土、床面、掘り方から土師器・須恵器、金属製品が出土した。このうち、ロクロ土師器２点、須恵器３点を掲載した（第77図）。１・２はロクロ土師器で、ともに甕である。１は小型品で、カマドの支脚に転用されていた。口縁部は「く」字状に短く外反し、胴部外面の下半はヘラケズリ調整される。２は胴部上位に最大径をもち、口縁部は短く外傾する。胴部外面の上半には平行タタキの痕跡が部分的に残り、下半はヘラケズリ調整される。３～５は須恵器で、３は坏、４は埦、５は甕である。３・４の底部はともに回転ヘラ切りで、３は未調整、４は手持ちヘラケズリ調整される。５の甕は口縁部～胴部上端が全周して残存する。口縁部は受口状を呈し、全体の外面には平行タタキの痕跡が残る。カマド東脇の床面上から逆位に伏せた状態で出土しており、器台などに転用された可能性がある。

【時期】　床面やカマドから出土したロクロ土師器甕や須恵器坏（第77図－１～３）の特徴から、A2期（９世紀前半）と考えられる。

SI18竪穴住居跡（第78図）

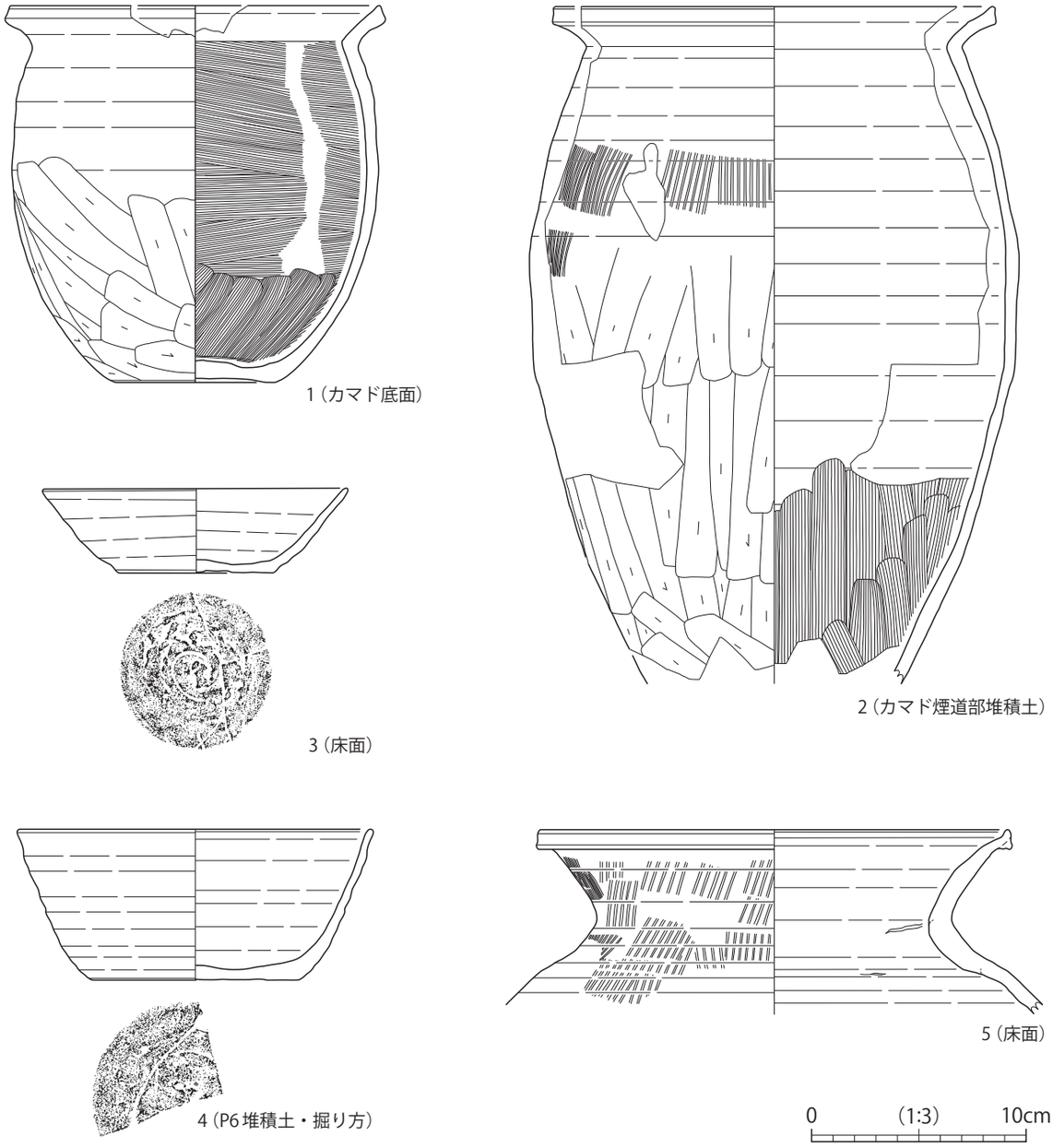
【位置・確認】　調査区西端部、61区に位置する。住居本体は調査区外に位置し、カマド煙道部のみを確認した。煙出しの一部は重複するSI17の先行調査により失われている。

【重複】　SI17より新しい。

【規模・形態】　不明。

【方向】　不明。

【堆積土】　全てカマドの堆積土で、５層に分層した。暗灰黄色シルトを主体とし、自然堆積である。



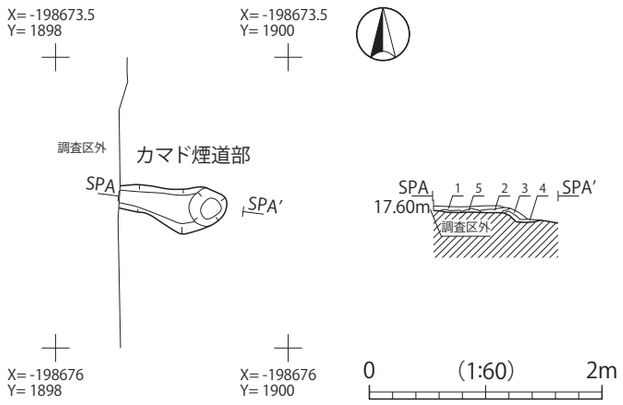
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	D-051	SI17 ｶﾏﾄﾞ	底面	ロクロ土師器	小型甕	（17.2）	7.6	17.6	ﾛｸﾛ調整 胴下半：ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	ﾛｸﾛ調整 胴部：ﾍﾗﾅﾃﾞ	支脚に転用。	26
2	D-052	SI17 ｶﾏﾄﾞ 煙道部	堆積土	ロクロ土師器	甕	（20.4）	—	31.6	ﾛｸﾛ調整 胴上半：平行ﾀﾀｷ 胴下半：ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 胴下半：ﾍﾗﾅﾃﾞ	内外面煤付着。	27
3	E-051	SI17	床面	須恵器	坏	14.1	7.2	4.0	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り	ﾛｸﾛ調整	外面体部煤付着。内外面に火襷痕。海綿骨針少量含む。	27
4	E-052	SI17	P6堆積土掘り方	須恵器	埦	（16.4）	（9.6）	7.1	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		27
5	E-053	SI17	床面	須恵器	甕	（21.8）	—	8.6	平行ﾀﾀｷ→ﾛｸﾛ調整	ﾛｸﾛ調整		27

第77図　SI17竪穴住居跡出土遺物

【カマド】 東壁に位置すると思われ、既述の通り煙道部のみを確認した。煙道部の底面は煙出しに向かって緩やかに傾斜する。規模は長さ92cm以上、幅24 ～ 39cm、深さ3 ～ 17cmを測る。煙出しは長軸33cm、短軸32cm程度のピット状を呈する。

【出土遺物】 堆積土から土師器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

【時期】 本住居跡の詳細な時期は不明だが、SI17との新旧関係から、A2期（9世紀前半）以降である。



SI18 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
カマド堆積土	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、灰色シルト粒・炭化物粒少量、焼土ブロック（5mm程度）微量含む。
	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	炭化物斑状に多量、Ⅳ層土ブロック（5mm程度）少量、焼土粒微量含む。
	4	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒多量、炭化物粒微量含む。

第78図　SI18竪穴住居跡

SI19竪穴住居跡（第79・80図）

【位置・確認】 調査区西部、31・36区に位置する。床面の大半がSI16との重複により失われているが、周溝の存在から概ねの形状・規模が推定される。

【重複】 SI16より古く、SI17より新しい。

【規模・形態】 検出した規模は、残存値で長軸430cm、短軸290cmを測る。平面形状は南北に長い長方形を呈する。

【方向】 西壁を基準としてN－5°－Wを測る。

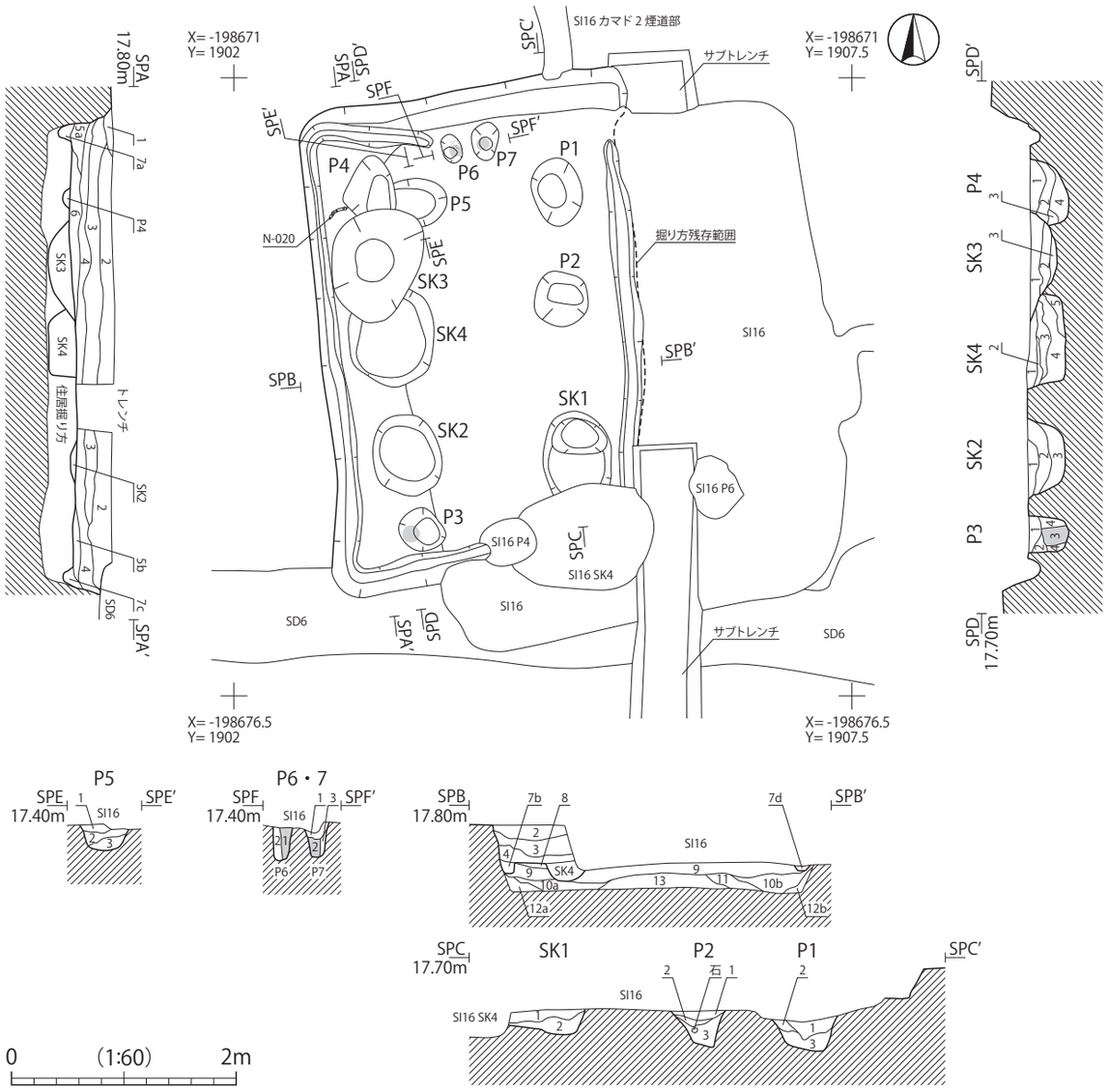
【堆積土】 大別で13層に分層した。1 ～ 6層はにぶい黄褐色・暗灰黄色砂質シルトを主体とする住居堆積土で、自然堆積である。7層は周溝堆積土、8 ～ 13層は住居掘り方埋土である。

【壁面】 直線的にやや外傾して立ち上がり、壁高は最大で36cmを測る。

【床面】 形状は残存部分が少なく不明である。基本層Ⅳ層土を多量に混入した黄褐色シルト主体の埋土上面を床面とする。

【柱穴】 床面で7基（P1 ～ 7）確認した。規模や位置関係からP1 ～ 4は主柱穴と考えられるが、配置は変則的である。規模は残存値で長軸40 ～ 66cm、短軸35 ～ 47cm、深さ30 ～ 38cmを測る。P3で径16cm程度の柱痕跡を確認した。P5はP4に重複し、建て替えの関係が考えられる。P6・7は北壁際の中央付近に並列し、規模や配置状況から入口柱穴の可能性がある。ともに径12cm程度の柱痕跡を確認した。

【周溝】 壁面全周に沿って延びると推定されるが、南壁と北壁の一部は新しい遺構によって失われている。北壁では壁の下端からやや内側に方向を変えていた可能性がある。断面形状は「U」字形もしくは逆台形を呈し、規模は幅10 ～ 21cm、深さ4 ～ 12cmを測る。



SI19 堆積土註記表

部　位	層位	土　色	土性	備　考
住居堆積土	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト粒・焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	4	7.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	5a	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	5b	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	6	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
周溝	7a	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	7b	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	7c	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
	7d	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
住居掘り方	8	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・酸化鉄多量、焼土粒少量含む。
	9	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	10a	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	10b	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・礫（5mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	11	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。
	12a	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	12b	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、酸化鉄少量、炭化物粒微量含む。
	13	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、礫（5 ～ 30mm 程度）・焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。

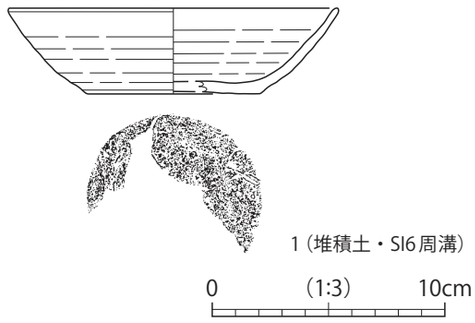
第 79 図　SI19 竪穴住居跡

SI19 施設堆積土註記表

遺構名	層位	土　色	土性	備　考
P1	1	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・礫（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
P2	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、灰色シルトブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/2 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	灰色シルト斑状・礫（5 ～ 40mm 程度）少量、Ⅳ層土斑状に微量、炭化物粒微量含む。
P3	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	灰色シルト斑状に少量、Ⅳ層土斑状・炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に微量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
P4	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P5	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。
P6	1	10YR3/2 黒褐色	シルト	灰色シルトブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、Ⅳ層土粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
P7	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土粒・灰色シルト粒・焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒少量含む。
	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	Ⅳ層土粒少量、灰色シルト粒・炭化物粒微量含む。※柱痕跡
	3	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）多量、炭化物粒微量含む。
SK1	1	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	灰色シルトブロック（5mm 程度）多量、Ⅳ層土ブロック（5mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物ブロック（5mm 程度）微量含む。
SK2	1	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック・灰色シルトブロック（ともに 5 ～ 20mm 程度）少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y6/3 にぶい黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、礫（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
SK3	1	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）・酸化鉄多量、炭化物粒微量含む。
	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、灰色シルトブロック・焼土ブロック（ともに 5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	3	2.5Y5/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
SK4	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰色シルト斑状に多量、Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。
	2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。
	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 10mm 程度）多量、焼土ブロック（5 ～ 10mm 程度）少量、炭化物粒微量含む。
	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5 ～ 20mm 程度）多量、焼土ブロック（5mm 程度）・炭化物粒微量含む。
	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。

SI19 施設観察表

遺構名	平面形	規模（cm）		備　考
		長軸×短軸	深さ	
P1	（楕円形）	（57）×（43）	（30）	主柱穴
P2	（円形）	（48）×（47）	（31）	
P3	（円形）	（40）×（35）	38	主柱穴
P4	（不整形）	（66）×（46）	36	主柱穴
P5	（楕円形）	（45）×（44）	（24）	
P6	（楕円形）	（26）×（17）	29	入口柱穴か　底面変色
P7	（楕円形）	（34）×（24）	30	入口柱穴か
SK1	（楕円形）	（66）×（60）	22	
SK2	（円形）	74 ×（60）	32	
SK3	（楕円形）	（104）×（79）	23	
SK4	（円形）	（89）×（76）	30	



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-059	SI19 周溝	堆積土	須恵器	坏	（14.1）	（7.4）	3.7	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	外面口縁部に重ね焼き痕。 SI16 周溝と接合。	27

第 80 図　SI19 竪穴住居跡出土遺物

【その他の施設】　床面で 4 基（SK1 ～ 4）の土坑を確認した。SK1 が南東コーナー付近に、SK2 ～ 4 が西壁に沿うようにして並ぶ。SK3・4 は重複し、SK3 が新しい。SK1 の平面形状は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸 66cm、短軸 60cm、深さ 22cm を測る。SK2 の平面形状は円形を呈し、規模は残存値で長軸 74cm、短軸 60cm、深さ 32cm を測る。SK3 の平面形状は楕円形を呈し、規模は残存値で長軸 104cm、短軸 79cm、深さ 23cm を測る。SK4 の平面形状は円形を呈し、規模は残存値で長軸 89cm、短軸 76cm、深さ 30cm を測る。いずれの土坑も性格は不明である。

【掘り方】　深さ 25 ～ 28cm を測り、底面は概ね平坦だが、各コーナー付近が土坑状に低くなる。

【出土遺物】　床面施設及び堆積土、掘り方から土師器・須恵器、金属製品が出土した。このうち須恵器 1 点を掲載した（第 80 図）。坏で、1/2 程度が残存する。底部は回転ヘラ切り後、一部が手持ちヘラケズリ調整される。

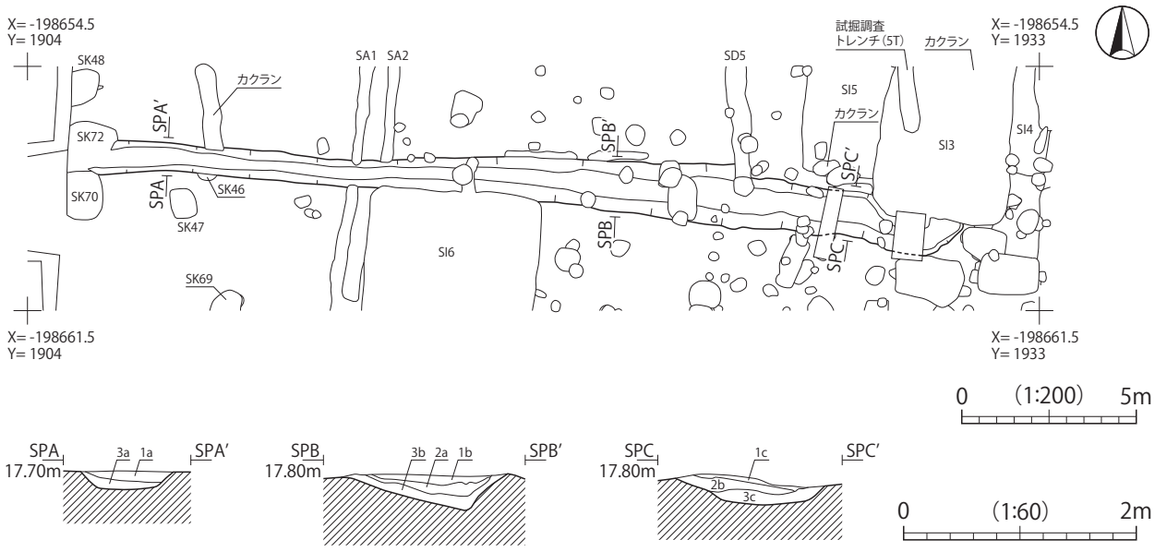
【時期】 掲載した須恵器坏（第80図－１）は堆積土及びSI16周溝内からの出土で詳細な時期を確定し難いが、新旧関係ではSI16とSI17との中間に位置付けられることから、A2期（９世紀前半）とB期（９世紀中頃～９世紀後半）の中間と考えられる。

(2) 溝跡

SD14溝跡（第81図）

調査区北部、16～19区に位置する。西端部はSK70・72との重複のため不明であるが、調査区外に延びると考えられる。SI6、SK46・70・72より古い。方向はN－86°－Wで、東西方向へと直線的に延びる。検出した規模は、長さ25.17m、上端幅73～173cm、下端幅27～99cm、深さ７～31cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。底面は概ね平坦で、一定方向への傾斜はみられない。西半部分は幅が狭くなるが、削平の影響と考えられ、本来は一定の幅をもつ溝であったと考えられる。堆積土は大別で３層に分層され、東半部は黄褐色シルト、西半部は褐色砂質シルトを主体とする。中央部はややグライ化する。いずれの層も自然堆積である。

遺物は出土しておらず、本溝跡の詳細な時期は不明だが、SI6との新旧関係から、A1期（８世紀後半～８世紀初頃）以前である。



SD14溝跡観察表

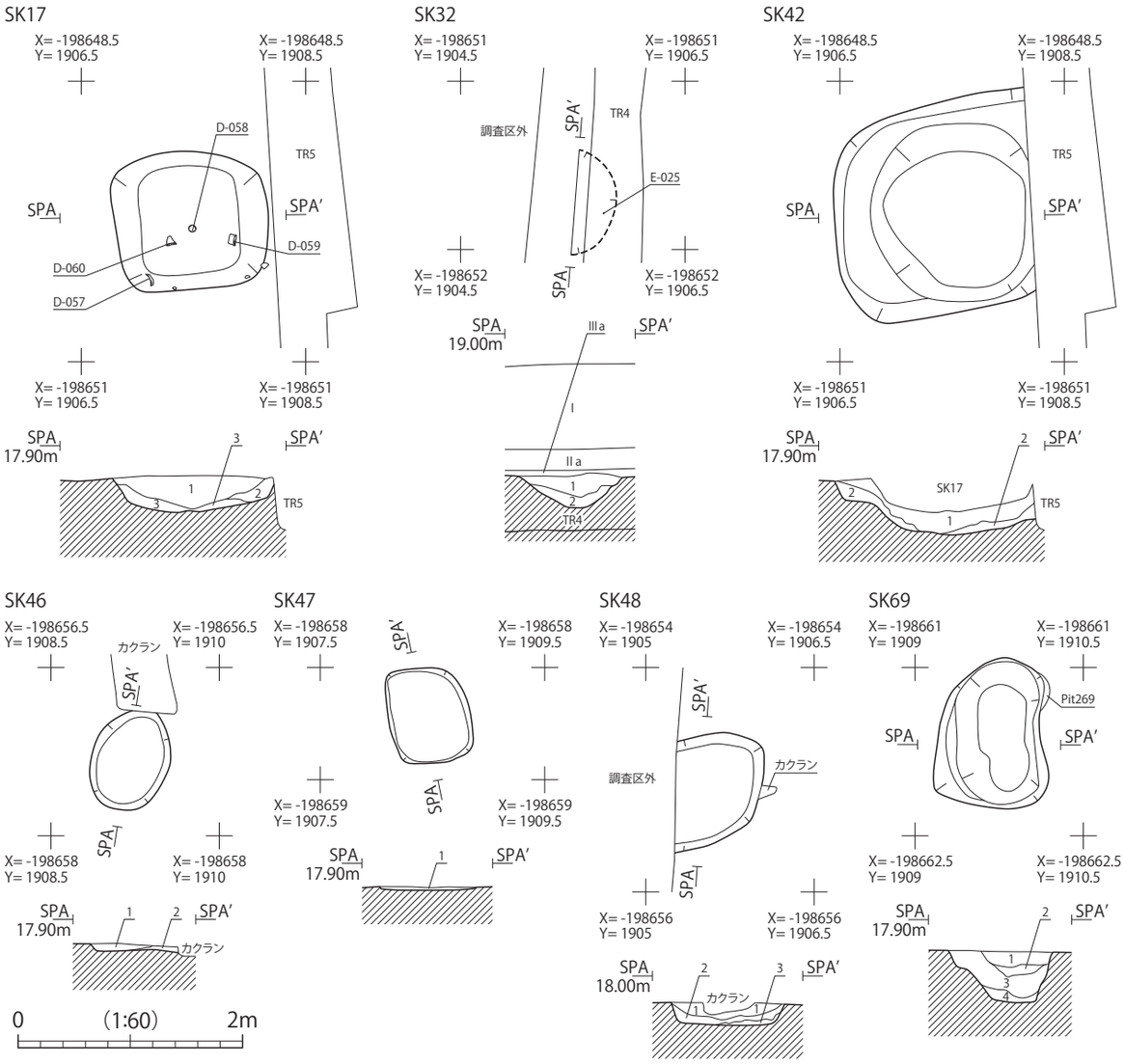
遺構名	区割	方向	規模（cm）				層位	土　色	土性	備　考	重　複
			全長	上端幅	下端幅	深さ					
SD14	16～19	N-86°-W	2517	73～173	27～99	7～31	1a	7.5YR4/3 褐色	砂質シルト	灰色シルト斑状に多量、Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。	SI6、SK46・70・72より古い。
							1b	5Y5/2 灰オリーブ色	砂質シルト	Ⅳ層土ラミナ状に多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・炭化物粒少量、黒褐色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
							1c	2.5Y5/4 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルトブロック（5～10mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							2a	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状多量、炭化物粒少量、黒褐色シルトブロック（5～10mm程度）微量含む。	
							2b	2.5Y6/4 にぶい黄色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5～10mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
							3a	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							3b	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト粒少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
							3c	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	

第81図　SD14溝跡

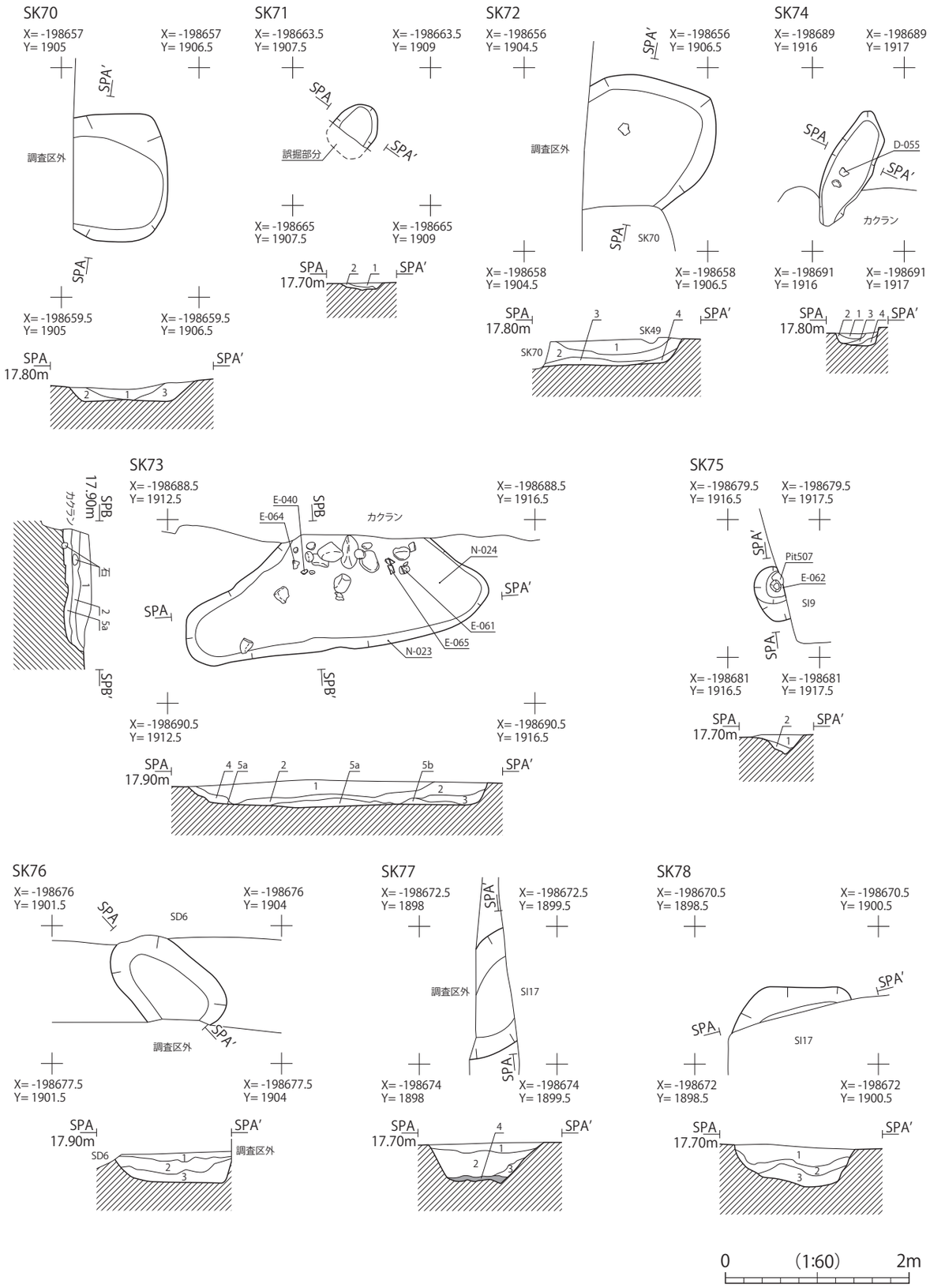
(3) 土坑（第82～84図）

土坑は、16基（SK17・32・42・46～48・69～78）検出された。調査区西部に分布の中心があり、中央部にSK75が、南部にSK73・75が位置する。平面形状は楕円形の土坑が多く、一部SK42・47・70・72など方形基調の土坑が存在する。断面形状は逆台形が大半である。規模はSK73の長軸333cm、短軸122cmが最大で、SK75の長軸47cm、短軸32cmが最小である。全体的に長軸100cm以上の土坑が多く見受けられる。堆積土はシルトまたは砂質シルトが主体で、色調は灰黄褐色～にぶい黄褐色と、灰褐色の二つの系統に分けられる。遺物はSK17・32・46～48・69～75から出土したが、土師器・須恵器の破片が主体である。このうちSK73の須恵器坏1点、SK74のロクロ土師器杯1点、SK75の須恵器坏1点を掲載した（第84図－1～3）。SK73からはこのほかにも鉄釘と考えられる金属製品が2点出土しているが、図化できなかった。

これらの土坑の性格はいずれも不明であるが、SK73については内部から多量の礫とともに土師器・須恵器などが出土していることから、廃棄坑として使用された可能性が考えられる。



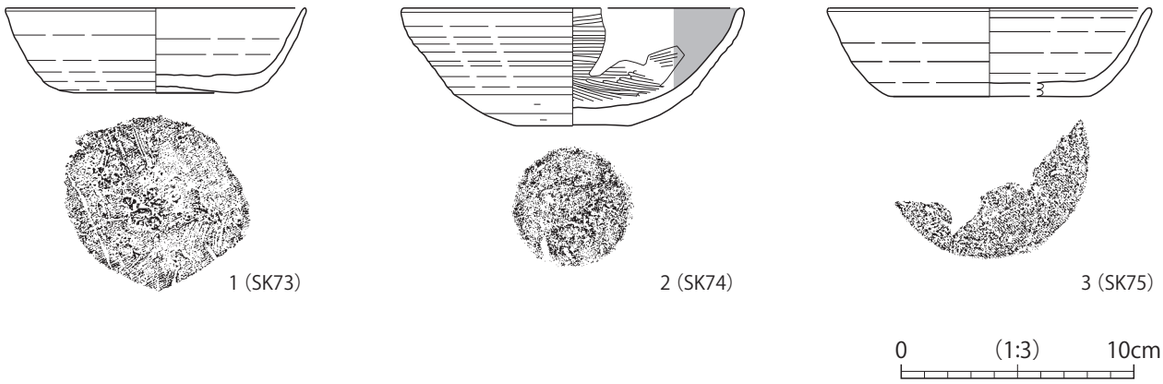
第82図　SK17・32・42・46～48・69土坑



第83図　SK70～78土坑

土坑（奈良～平安時代）観察表

遺構名	区割	平面形	規模（cm）		層位	土　色	土性	備　考	重　複
			長軸×短軸	深さ					
SK17	06・11	円形	159×［144］	33	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰色シルト斑状に少量、Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）・炭化物ブロック（5～20mm程度）微量含む。	SK42より新しい。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（10～20mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK32	11	不明	—	—	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・青灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK42	06・11	方形	186×［177］	53	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、炭化物ブロック（5～10mm程度）少量、焼土粒微量含む。	SK17より古い。
					2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量含む。	
SK46	16	楕円形	（88）×69	8	1	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	SD14より新しい。
					2	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土互層状に少量、灰色シルト互層状・焼土粒・炭化物粒微量に含む。	
SK47	16	長方形	86×73	5	1	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土互層状・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
SK48	11・16	楕円形	［106］×97	20	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土互層状・灰色シルト斑状に多量、炭化物粒微量含む。一部グライ化。	
					2	7.5YR4/1 褐灰色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
					3	2.5YR4/2 灰赤色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に微量含む。	
SK69	21・22	長楕円形	134×102	54	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物ブロック（5～10mm程度）多量含む。	Pit269より古い。
					2	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～20mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、灰色シルトブロック（5mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK70	16	方形	139×［103］	28	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	SD14、SK72より新しい。
					2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
					3	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、灰色シルト斑状に微量含む。	
SK71	21	楕円形	（60）×47	9	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土互層状に多量、灰色シルト粒少量含む。	
SK72	16	方形	［157］×［146］	37	1	7.5YR4/2 灰褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	SD14、SK49・70より古い。
					2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					4	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	灰色シルト斑状に多量、Ⅳ層土斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
SK73	47・52	長楕円形	333×［122］	22	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・灰色シルト粒少量、礫（10mm程度）・焼土粒・炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒少量、灰色シルト斑状・焼土粒微量含む。	
					4	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒少量、灰色シルト斑状に微量含む。	
					5a	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に少量含む。	
					5b	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
SK74	47・52	長楕円形	［133］×49	29	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	
					2	10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状・炭化物粒微量含む。	
					3	2.5Y4/3 オリーブ褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
					4	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、炭化物粒微量含む。	
SK75	42	円形？	47×［32］	24	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、礫（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	SI9より古い。
					2	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、焼土ブロック（5mm程度）・炭化物粒微量含む。	
SK76	36	楕円形	［127］×80	38	1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5mm程度）多量、炭化物粒少量、灰色シルトブロック（5mm程度）微量含む。	
					2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～30mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状・炭化物粒微量含む。	
SK77	61	楕円形？	114×［84］	47	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に少量、炭化物粒微量含む。	SI17より古い。
					2	2.5Y5/3 黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、焼土粒・炭化物ブロック（5～10mm程度）微量含む。	
					3	10YR5/3 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック（5～10mm程度）多量、焼土粒・炭化物粒少量含む。	
					4	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	Ⅳ層土ブロック・焼土ブロック（ともに5～10mm程度）多量、灰少量含む。	
SK78	31・61	楕円形？	［138］×［32］	39	1	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	Ⅳ層土・灰色シルト斑状に少量、炭化物ブロック（5mm程度）一部に集中。	SI17より古い。
					2	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルトブロック（5～100mm程度）少量、炭化物粒微量含む。	
					3	10YR5/4 にぶい黄褐色	シルト	Ⅳ層土斑状に多量、灰色シルト斑状に少量、炭化物粒微量含む。	



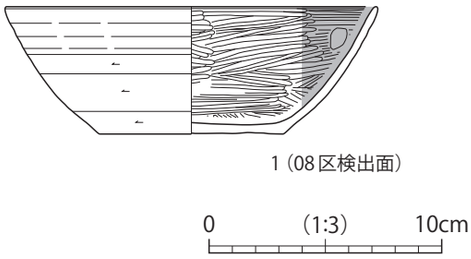
図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）			外面調整	内面調整	備　考	写真図版
						口径	底径	器高				
1	E-061	SK73	堆積土	須恵器	坏	（12.9）	7.2	3.7	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整	内面火襷痕。海綿骨針少量含む。	27
2	D-055	SK74	堆積土	ロクロ土師器	坏	（14.5）	4.8	5.1	ﾛｸﾛ調整 体下半：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部；回転糸切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整 口縁部～体部：ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。	27
3	E-062	SK75	堆積土	須恵器	坏	（13.8）	（8.6）	3.8	ﾛｸﾛ調整 底部：回転ﾍﾗ切り→手持ちﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾛｸﾛ調整		27

第84図　SK73～75出土遺物

第84図－1・3は須恵器の坏である。1は3/4程度が残存し、器形は体部から口縁部にかけては内湾気味に外傾する。底部は回転ヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整されるが、仕上げはかなり雑である。3は1/3程度が残存し、器形は体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、口唇部は僅かに外反する。底部は回転ヘラ切り後、手持ちヘラケズリ調整される。2はロクロ土師器の坏で、1/2程度が残存する。器形は体部が内湾気味に外傾し、口縁部でほぼ直立する。底部は回転糸切り後、手持ちヘラケズリ調整される。体部外面の下半は、回転ヘラケズリ調整される。内面は全体がヘラミガキ調整後、黒色処理される。やや薄手で精巧な作りである。

(4) 遺構外出土遺物（第85図）

表土中や遺構検出面、撹乱内、平安時代～中世の遺構堆積土からは当該期の遺物が多量発見されている。ただし小片がほとんどで、図化できたのはロクロ土師器1点のみであった（第85図－1）。器種は坏で、1/3程度が残存する。体部はやや内湾しながら外傾し、外面は体部から底部にかけて回転ヘラケズリ調整される。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。かなり薄手で、精巧な作りである。08区南東部の遺構検出面から出土したが、周辺では当該期の遺構は検出されなかった。



図版番号	登録番号	出土地点	層位	種別	器種	法量（cm）		
						口径	底径	器高
1	D-063	08区	検出面	ロクロ土師器	坏	（16.0）	7.9	5.5

外面調整	内面調整	備　考	写真図版
ﾛｸﾛ調整 体部：回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ 底部：回転ﾍﾗ切り→回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾍﾗﾐｶﾞｷ	内面黒色処理。	27

第85図　遺構外出土遺物

第６章　自然科学分析

第１節　京ノ中遺跡第２次発掘調査における放射性炭素年代（AMS 測定）

株式会社　加速器分析研究所

１．測定対象試料

京ノ中遺跡は、宮城県仙台市太白区富田字京ノ中83に所在し、名取川左岸域に形成された自然堤防上に立地する。測定対象試料は、SI3竪穴遺構の床面から出土した炭化米２点、炉１から出土した木炭１点の合計３点である（表１）。

２．測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

３．化学処理工程

（1）メス・ピンセットを使い、土等の付着物を取り除く。

（2）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常１ mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表１に記載する。

（3）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（4）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（5）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（6）グラファイトを内径１ mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４．測定方法

加速器をベースとした^{14}C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５．算出方法

（1）δ^{13}Cは、試料炭素の^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表１）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（2）^{14}C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２に示した。^{14}C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±１σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2％であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表１に、補正していない値を参考値として表２

に示した。

(4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1 標準偏差（1 σ＝68.2％）あるいは 2 標準偏差（2 σ＝95.4％）で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ ^{13}C 補正を行い、下 1 桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13 データベース（Reimer et al. 2013）を用い、OxCalv4.3 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表 2 に示した。暦年較正年代は、^{14}C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

6．測定結果

測定結果を表 1 、2 に示す。

試料の ^{14}C 年代は、試料 No.1（遺物 No.O-001）が 850 ± 20yrBP、試料 No.2（遺物 No.O-002）が 760 ± 20yrBP、試料 No.3（遺物 No.O-003）が 770 ± 20yrBP である。暦年較正年代（1 σ）は、試料 No.1（遺物 No.O-001）が 1169 ～ 1216cal AD の範囲、試料 No.2（遺物 No.O-002）が 1256 ～ 1279cal AD の範囲、試料 No.3（遺物 No.O-003）が 1228 ～ 1275cal AD の間に 2 つの範囲でそれぞれ示され、概ね 12 世紀から 13 世紀の中世頃に相当する（佐原 2005）。

試料の炭素含有率は試料 No.1（遺物 No.O-001）が 68％、試料 No.2（遺物 No.O-002）が 69％、試料 No.3（遺物 No.O-003）71％の適正な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表 1　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ^{13}C（‰）（AMS）	δ ^{13}C 補正あり	
						Libby Age（yrBP）	pMC（%）
IAAA-190934	No.1（遺物 No. O-001）	SI3 竪穴遺構 床面	炭化米	AaA	-22.44 ± 0.41	850 ± 20	89.94 ± 0.25
IAAA-190935	No.2（遺物 No. O-002）	SI3 竪穴遺構 床面	炭化米	AaA	-23.51 ± 0.44	760 ± 20	91.01 ± 0.25
IAAA-190936	No.3（遺物 No. O-003）	SI3 竪穴遺構 炉	木炭	AAA	-25.89 ± 0.49	770 ± 20	90.87 ± 0.27

［IAA 登録番号：#9824］

表 2　放射性炭素年代測定結果（δ ^{13}C 未補正値、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代）

測定番号	δ ^{13}C 補正なし		暦年較正用（yrBP）	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age （yrBP）	pMC （%）			
IAAA-190934	810 ± 20	90.41 ± 0.24	852 ± 22	1169calAD - 1216calAD（68.2%）	1156calAD - 1252calAD（95.4%）
IAAA-190935	730 ± 20	91.29 ± 0.24	756 ± 22	1256calAD - 1279calAD（68.2%）	1224calAD - 1283calAD（95.4%）
IAAA-190936	780 ± 20	90.7 ± 0.25	769 ± 23	1228calAD - 1231calAD（ 4.0%） 1246calAD - 1275calAD（64.2%）	1222calAD - 1279calAD（95.4%）

［参考値］

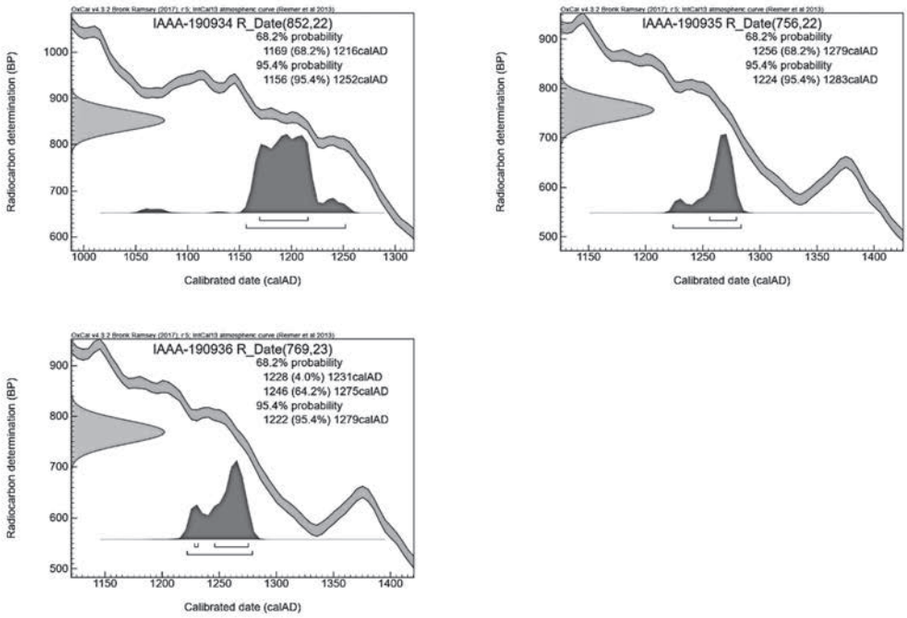
文献

Bronk Ramsey,C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates,Radiocarbon 51（1）,337-360

Reimer,P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves,0-50,000 years cal BP,Radiocarbon 55（4）,1869-1887

佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分，佐原眞，ウェルナー・シュタインハウス監修，独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所編集，ドイツ展記念概説 日本の考古学 上巻，学生社，14-19

Stuiver,M. and Polach,H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data,Radiocarbon 19（3）,355-363



第86図　暦年較正年代グラフ（参考）

第２節　京ノ中遺跡第２次発掘調査出土炭化材樹種同定

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

宮城県仙台市太白区富田字京ノ中に所在する京ノ中遺跡は、古代から中世にかけての集落跡である。

本分析調査では、第２次調査で確認された平安時代の焼失住居跡から出土した炭化材について樹種同定を実施し、木材利用について検討する。

１．試料

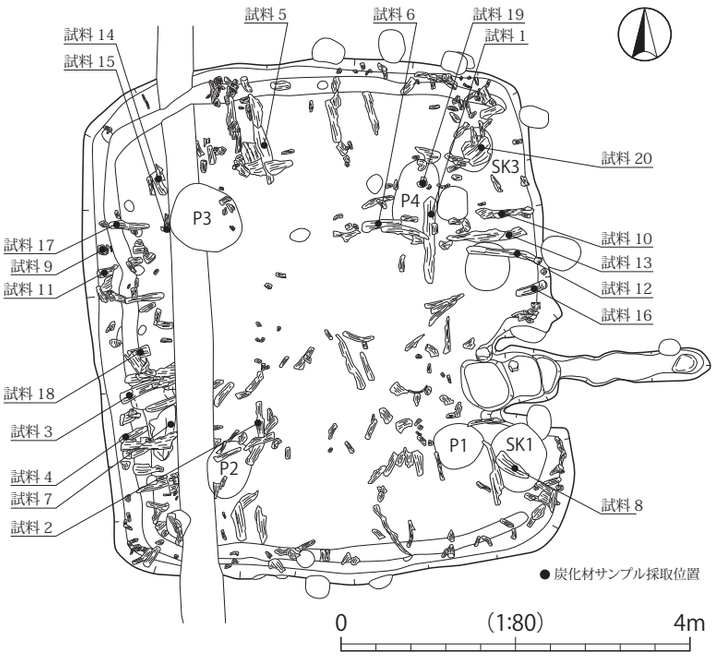
分析用試料は、SI7竪穴住居跡床面及びピットP4、土坑SK3から検出された炭化材20点である。試料の詳細は結果とともに表に示す。

２．分析方法

炭化材は、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作成し、電子顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察する。木材組織の種類や配列の特徴を、現生標本や独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995,1996,1997,1998,1999）を参考にする。

３．結果

結果を表３に示す。全体の半数以上がコナラ亜属コナラ節である。次いでクリが多い。その他ハンノキ属、クワ属、サクラ属が１点ずつ検出される。以下に検出された試料の解剖学的所見について述べる。



第87図　SI7炭化材サンプル採取位置

表３　樹種同定結果

試料名		樹種名
SI7	No.1	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.2	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.3	クリ
SI7	No.4	クリ
SI7	No.5	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.6	クリ
SI7	No.7	不明
SI7	No.8	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.9	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.10	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.11	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.12	ハンノキ属
SI7	No.13	クリ
SI7	No.14	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.15	サクラ属
SI7	No.16	クリ
SI7	No.17	コナラ亜属コナラ節
SI7	No.18	コナラ亜属コナラ節
SI7P4	No.19	コナラ亜属コナラ節
SI7SK3	No.20	クワ属

・ハンノキ属（*Alnus*）カバノキ科

散孔材で、道管は単独または２～４個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高。おそらく、ヤシャブシ亜属（subgen.*Alnaster*）と思われる。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Quercus* sect. Prinus）ブナ科

環孔材で、孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔、壁孔は交互状に配列。放射組織は同性、単列、１～20細胞高程度のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は３～４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・クワ属（*Morus*）クワ科

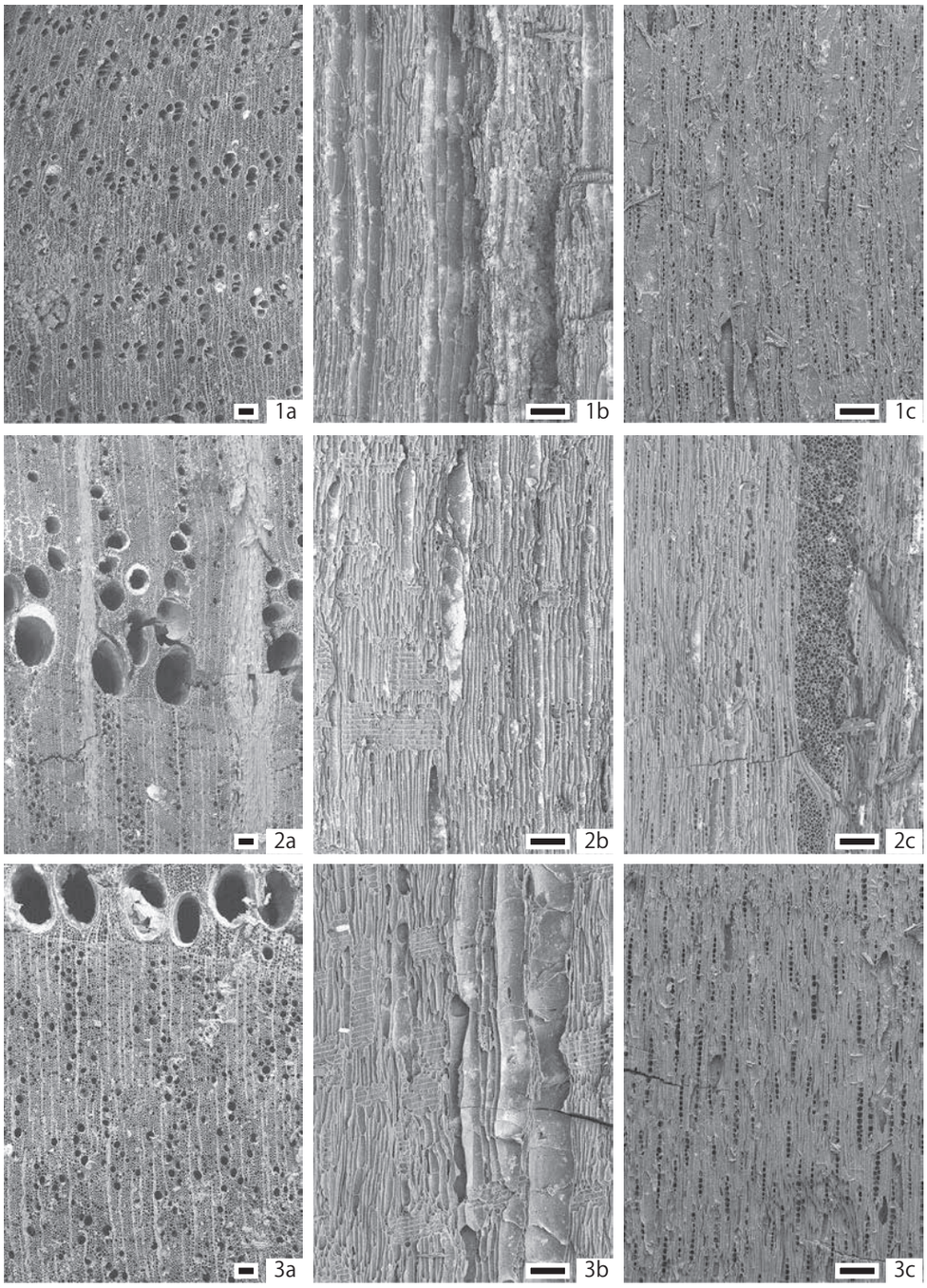
環孔材で、孔圏部は３～５列、緩やかに移行し、晩材部は単独または２～４個が複合、年輪界に向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔、壁孔は交互状。放射組織は異性、１～６細胞幅、１～50細胞高。

・サクラ属（*Prunus*）バラ科

散孔材で、年輪のはじめにやや大型の道管が配列し、孔圏外でやや管径を減じた後、単独または２～６個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔し、壁孔は交互状。放射組織は異性、１～４胞幅、１～60細胞高。

４．考察

検出された種類は、いずれも明るい林地を好む種類で、林縁や人里などに多い樹木である。特にコナラ節やクリは、成長が早く萌芽による再生が容易であるため、伐採や粗朶の収奪等、人間による植生干渉にも強い。このため、本地域のような冷温帯に属する地域では、コナラ節やクリが人里近くの里山に二次林として生育する。一方、クリやコナラ節は重硬で、加工しやすく、比較的水湿にも強いことから、住居構築材として向く。特に住居跡SI7は焼失

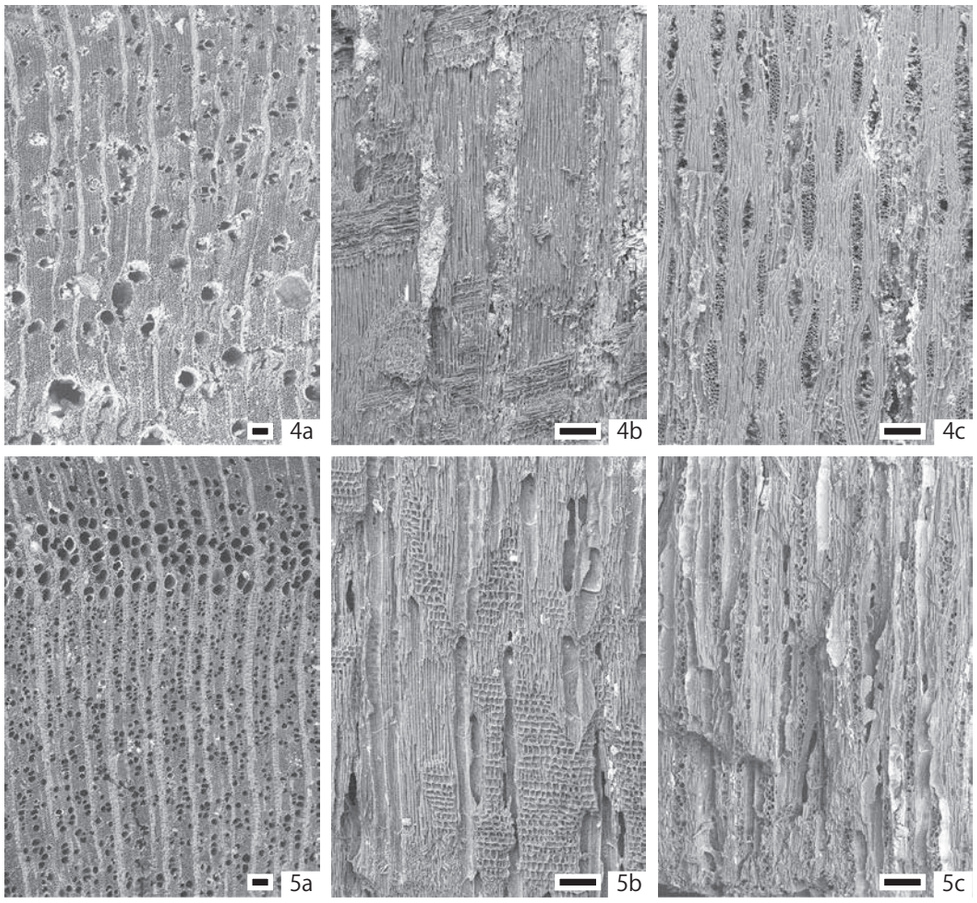


1.ハンノキ属（SI7 No.12）
2.コナラ亜属コナラ節（SI7 No.1）
3.クリ（SI7 No.3）

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第88図　炭化材（1）

住居跡とされていることから、これらの木材が住居建築に用いられた可能性が高い。木材データーベース（伊東・山田編2012）によると、県内の古墳時代～平安時代の遺跡から出土した建築部材や柱材は、本分析調査の結果と同様にコナラ節やクリが多いことがわかる。このことから、遺跡近くで得やすく、かつ建築用材として適した木材を多用していたことが推測される。



4.クワ属（SK3 No.2）
5.サクラ属（SI7 No.15）

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

第89図　炭化材（2）

引用文献

Bronk RC.,2009,Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon,51,337-360.

林 昭三,1991,日本産木材顕微鏡写真集.京都大学木質科学研究所.

伊東隆夫,1995,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ.木材研究・資料,31,京都大学木質科学研究所,81-181.

伊東隆夫,1996,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ.木材研究・資料,32,京都大学木質科学研究所.66-176.

伊東隆夫,1997,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ.木材研究・資料,33,京都大学木質科学研究所,83-201.

伊東隆夫,1998,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ.木材研究・資料,34,京都大学木質科学研究所,30-166.

伊東隆夫,1999,日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ.木材研究・資料,35,京都大学木質科学研究所,47-216.

伊東隆夫・山田昌久（編）,2012,木の考古学 出土木製品用材データベース.海青社,449p.

Reimer PJ.,Bard E.,Bayliss A.,Beck JW.,Blackwell PG.,Bronk RC.,Buck CE.,Cheng H.,Edwards RL.,Friedrich M.,Grootes PM.,Guilderson TP.,Haflidason H.,Hajdas I.,Hatté C.,Heaton TJ.,Hoffmann DL.,Hogg AG.,Hughen KA.,Kaiser KF.,Kromer B.,Manning SW.,Niu M.,Reimer RW.,Richards DA.,Scott EM.,Southon JR.,Staff RA.,Turney CSM.,van der Plicht J.,2013,IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon,55,1869–1887.

Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006,針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部 久・内海泰弘（日本語版監修）,海青社,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（2004）IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地 謙・伊東隆夫,1982,図説木材組織.地球社,176p.

Stuiver M.,& Polach AH.,1977,Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon,19,355-363.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998,広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩（日本語版監修）,海青社,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（1989）IAWA
List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

第７章　総括

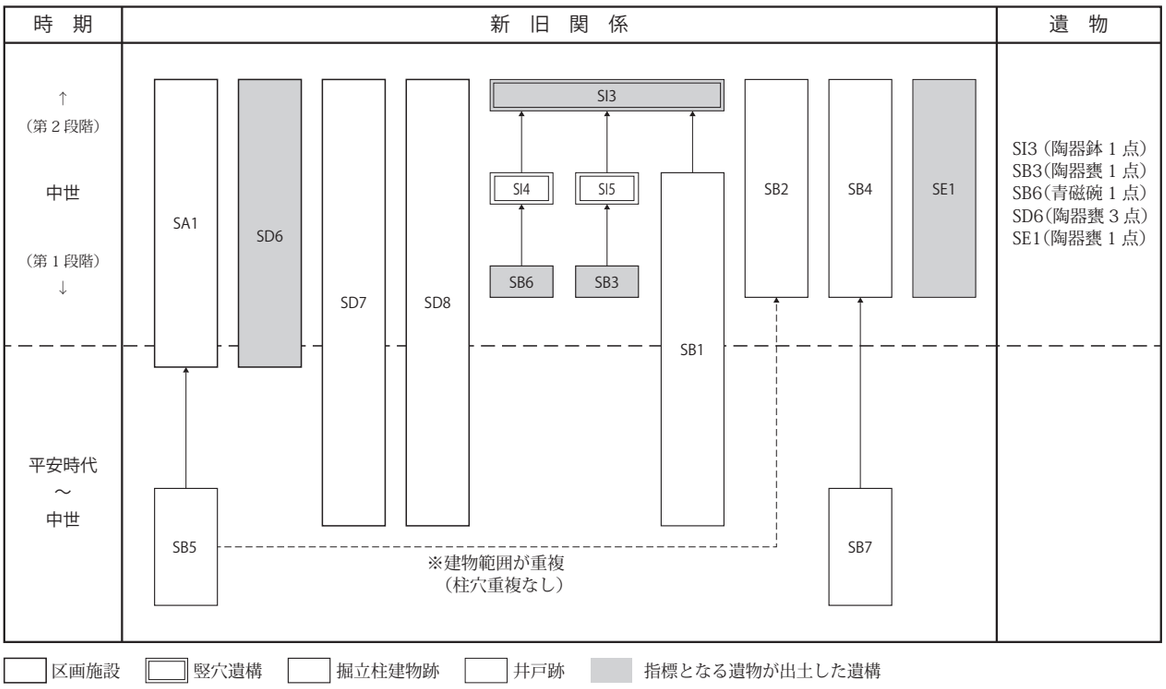
第１節　平安時代～中世の遺構について（第90～93図）

(1) 遺構の変遷（第90・91図）

検出された平安時代～中世の遺構は、竪穴遺構３基、掘立柱建物跡７棟、木柵跡２条、小溝状遺構群２群、溝跡12条、井戸跡１基、土坑59基、ピット461基である。分布としては調査区の中央部とその周辺に集中し、木柵跡SA1・２及び溝跡SD6～８を境界に、その外側では散漫となる。この分布上の違いからSA1・２とSD6～８は区画施設と捉えられ、多くの遺構がこの区画を意識して配置されたと考えられる。実際、区画内には竪穴遺構・掘立柱建物跡・井戸跡が一定の規則性をもって分布し、加えて一部の土坑やピットにもそれに付属するような位置関係を示すものがある。

今回の調査で時期を明確にできた遺構は、放射性炭素年代測定により12～13世紀代であることが明らかとなったSI3がある。それ以外の遺構については不明だが、SB3・６の柱穴埋土、そのほかSD6及びSE1などの堆積土からは中世に比定される陶器鉢・甕や青磁碗が破片で少量出土している。また、SB4より古いPit477からも陶器鉢の破片が出土した。陶器には常滑産とみられるものがあり、青磁は龍泉窯産とみられる中国青磁である。これらの遺物やSI3の年代からみると、区画施設とともに竪穴遺構・掘立柱建物跡を含む遺構が中世の早い時期に成立した可能性を示唆している。

以下、平安時代～中世の遺構のうち、区画施設・竪穴遺構・掘立柱建物跡・井戸跡を対象に変遷を追ってみたい。これらには重複による新旧関係や出土遺物などからおよその時期が推定できるものと、詳細不明のものとが存在する。第90図は各遺構の新旧関係を一部推定も含めて示した模式図である。最も遡る時期を「平安時代～中世」とし、それ以降中世の一定期間を「第１段階」「第２段階」と２つの時期に分け、合計３つの時期区分を設定した。



第90図　平安時代～中世主要遺構新旧関係模式図

第 91 図　平安時代～中世主要遺構変遷図

① 平安時代～中世

時期的に最も遡るとみられる一群で、該当するのはSB5・7である。SB5はSA2より古く、SB7はSB4より古い。また、SI3の付属柱穴列1・2より古いSB1も当期に遡る可能性があるが、詳細は不明である。いずれも方位は北に対し8°東に傾く。木柵跡を伴う本格的な区画施設はまだ存在していなかったようである。ただしSD6に平行するSD7・8は、堆積土の違いからSD6と時期差をもつと考えられ、当期に遡る可能性もある。

② 中世（第1段階）

該当するのはSB3・4・6、SD6、SE1であるが、SB4、SD6、SE1については次の第2段階で成立した可能性もある。SB4を除き中世の遺物が出土しており、SB3はSI5より古く、SB6はSI3より古い。SB1も当期の成立である可能性がある。また、SB2はSB3と建物の方位や南北範囲が概ね一致することから、それぞれを意識して配置されたと考えられる。ただし建物間が約1mと近すぎるため同時並存とは考えにくいが、両者の時期差はあまりないものとみられる。当期の掘立柱建物跡の方位は、SB4が3°東に傾くほかは7～11°であり、若干の違いがある。

当期に至るまでの間には木柵跡SA 1・2が設置され、区画の整備が行われたことが推定される。SA1・2の方位はSB2・3・6と比較的近く、またSB2とは約2mの距離を保って平行する。これら建物群と木柵跡の成立は密接な関係にあるとみられ、掘立柱建物跡の形態も庇をもち大型の柱穴で構成される中核的な建物が主体となる。井戸跡の存在も加え、全体的に小規模な屋敷としての様相を呈すようになる。

③ 中世（第2段階）

当期には、SI3～5の竪穴遺構が成立する。これらは少なくともSB3・6よりは後出するが、その他第1段階の遺構との新旧関係は不明である。SB2・4など、一部の遺構とは時期的並行性をもつ可能性もある。SB1はSI3よりは古いが、SI4・5との重複はなく当期が下限とされる。

竪穴遺構のうち最も新しいSI3は外周に付属柱穴列を伴い、ほかの2基には無い構造となっている。いずれの竪穴遺構も性格は明らかにできなかったが、掘立柱建物跡SB3・6廃絶後における竪穴遺構の成立は、同地点において何らかの機能的な変化が生じたことを窺わせる。

(2) 掘立柱建物跡について（第92図）

今回は掘立柱建物跡が7棟検出されたが、様々な形態があり、概ね下記の通りに分類できる。なお、柱穴規模については一部正確な数値が計測できないものは除外し、小数点以下は四捨五入した。

建物構造　A類：側柱　B類：総柱

柱穴規模　1類：小型（長軸平均40cm以下）　2類：大型：（長軸平均50cm以上）

付帯施設　a類：庇なし　b類：庇あり

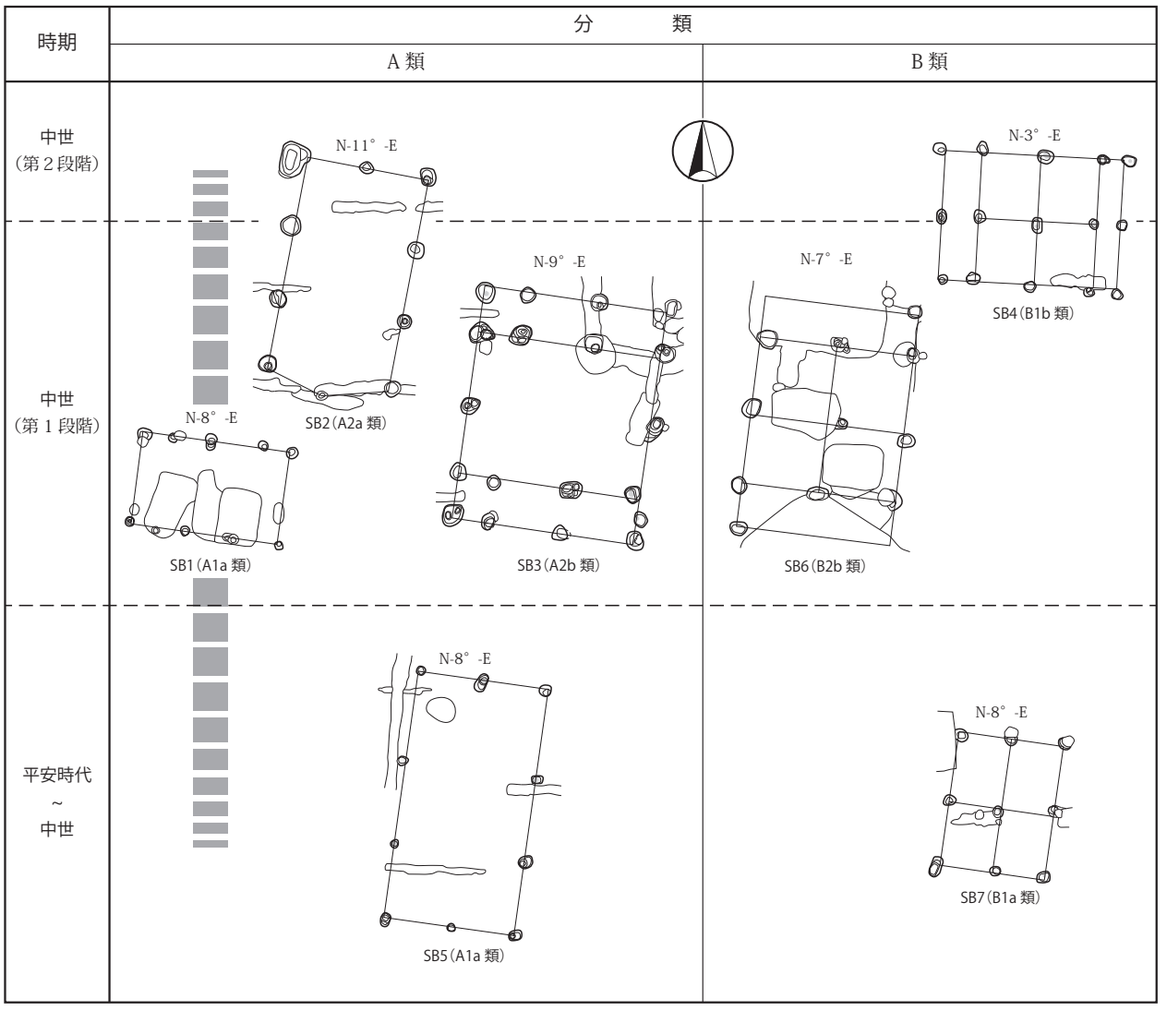
この組み合わせを各掘立柱建物跡に適用し、第92図及び属性表に示した。まず建物構造をみると時期を通して側柱（A類）と総柱（B類）の両者が並存する。柱穴規模は当初は小型（1類）であるが、中世でも第1段階になると大型化（2類）し、庇をもつ建物（b類）が出現する。建物規模については、B類にやや大型化の傾向が見受けられるが、A類については目立った変化はみられない。北に対する建物方位は、規格性をもつ状況から次第に崩れていく様相がある。

出土遺物は僅かであるが、陶器には常滑産とみられるものが混在し、中国青磁も1点のみだが出土している。これらを入手し得た相応身分の人物が存在したと考えられる。

掘立柱建物跡の属性一覧

遺構番号	区割	平面形状・規模				主軸方向		柱　穴		その他の特徴	時期区分	備　考	分類
		間数 桁行×梁行 （間）	柱間構造	平面形状	桁行×梁行	方　位	算出基準	検出数	平面形状				
SB1	19・20	4×1	側柱	長方形	423×266	N-82°-W	北側柱列	13	円形基調主体		平安時代～中世（第1段階）	SK20・22より古い。	A1a
SB2	17・18 22・23	3×2	側柱	長方形	615×351	N-11°-E	東側柱列	10	円形基調主体	南梁に棟持柱	中世（第1・2段階）	SD10・11より古く、SK58より新しい。SB5と範囲が重複（新旧関係不明）。	A2a
SB3	18・23	3×2	側柱	長方形	525×409	N-81°-W	北側柱列	身舎10 庇9	円形基調主体	南北両桁に庇	中世（第1段階）	SI5、SD4・5、SK26・39より古く、SK64より新しい。	A2b
SB4	27・28 32・33	2×2	総柱	方形	370×339	N-3°-E	北側柱列	身舎9 庇6	円形基調主体	東西両桁に庇	中世（第1・2段階）	SB7より新しい。	B1b
SB5	12・17 22	3×2	側柱	長方形	713×375	N-8°-E	東側柱列	10	円形基調主体		平安時代～中世	SA2より古く、SB2と範囲が重複（新旧関係不明）。	A1a
SB6	18・19 23・24	2×2	総柱	方形	442×421	N-83°-W	北側柱列	身舎9 庇（2）	楕円形基調主体	南北両桁に庇	中世（第1段階）	SI3より古い。	B2b
SB7	27・28 32・33	2×2	総柱	長方形	387×302	N-8°-E	東側柱列	9	楕円形基調主体		平安時代～中世	SB4より古い。	B1a

※表中の各数値について、（　）は原存値を表す。
※桁行・梁行共に最大値で示した。



※方位は北に対する傾きを示す　0　（1:200）　10m

第92図　掘立柱建物跡集成図

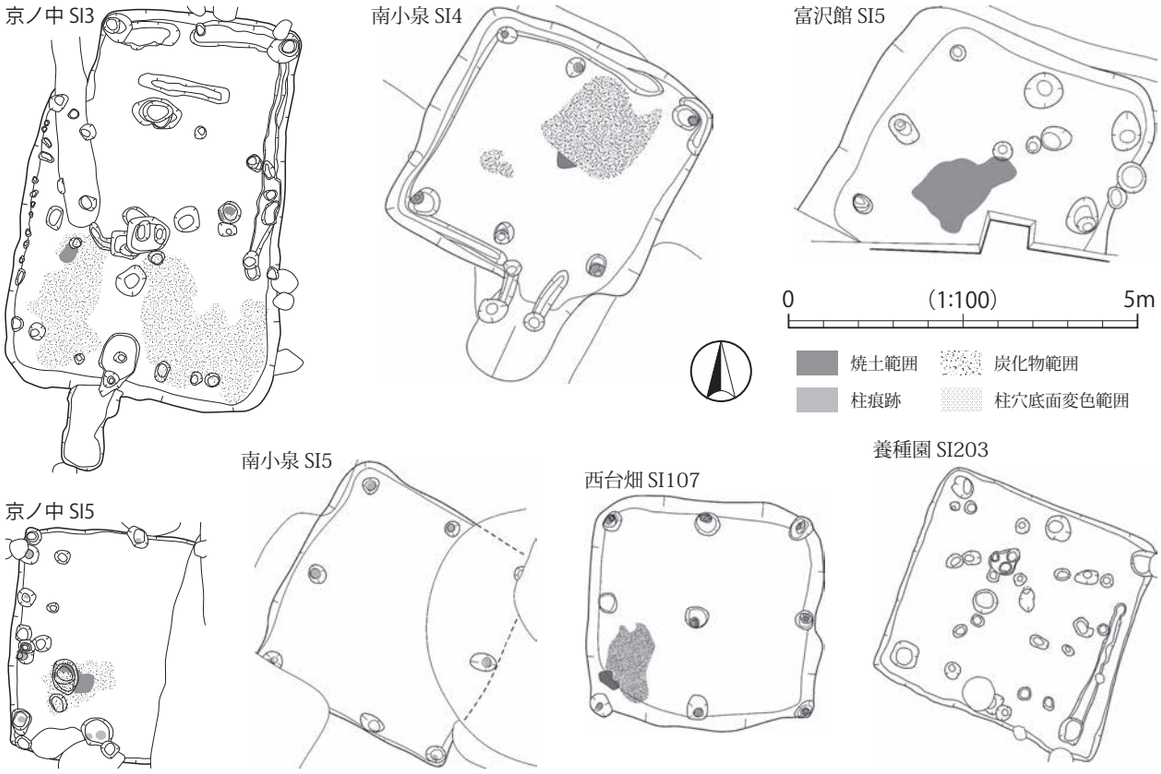
(3) 竪穴遺構について（第93図）

平安時代～中世の遺構のうち、掘立柱建物跡以外の主要施設に竪穴遺構がある。今回検出されたSI3～5はごく狭い範囲に重複し、それぞれが単独で順次構築されたとみられる。SI4は残存が不良で詳細不明だが、SI3は長方形の平面を呈する竪穴部の一辺にテラス状の施設が付き、東西両壁寄りにそれぞれ1基ずつの炉を伴う。主柱穴は壁際に巡るほか、長軸上に2基配置されている。床面上の南半部には炭化物が広がる。SI5は方形とみられる竪穴部をもち、西壁寄りに1基の炉を伴う。主柱穴は壁際に巡る。

SI3のように壁外施設を伴う仙台市内での調査例としては、南小泉遺跡第68次調査SI1～4が比較的近い形態をもつ（仙台市2014）。これらは竪穴部の一辺に付設され、底面は竪穴内部に向かって傾斜する。底面の両端には平行する小規模な溝、さらにはピットを伴う場合があり、入口施設である可能性が指摘されている。ただし本遺跡SI3の施設は底面が平坦で、竪穴部の床面まで20cm程度の段差をもち、接続部の前方が浅い土坑状に掘り込まれるなど異なる特徴も見受けられることから、現状ではその機能は不明としておきたい。

SI5に類似する竪穴遺構について、至近の例では富沢館跡SI4・5が挙げられる（仙台市2018）。10世紀前半以降に位置付けられ、鍛冶関連施設の可能性が指摘されている。詳細な時期は不明であるが、形態としては本遺跡SI5に非常に良く似ている。位置は富沢館跡縄張りの縁辺で、土塁の内側に位置する。特にSI5の方位は堀・土塁の方向性とほぼ一致し、中世段階の遺構である可能性は十分に考えられる。なお、南小泉遺跡第68次調査SI5・6（仙台市2014）、西台畑遺跡第7次調査SI107・108（仙台市2013）、養種園遺跡第2次調査SI203（仙台市2009）なども類似形態の遺構として挙げられる。

これらの竪穴遺構の性格は、土倉・鍛冶関連施設などが推定されているが、本遺跡の場合炉を伴うものの、鍛冶関連遺物がほとんど出土していない。今後の検討課題としたい。



第93図　SI3・5及び類似遺構

第２節　奈良～平安時代の出土土器について（第94 ～ 96図）

(1) 時期設定

奈良～平安時代の遺物は、土師器（非ロクロ・ロクロ）・須恵器、礫石器・石製品、金属製品、土製品などが遺物コンテナで12箱分出土した。大半が竪穴住居跡の遺物であり、土器類が圧倒的に多い。特に土師器はロクロ土師器が主体で、非ロクロ土師器はごく少量である。礫石器には磨石・敲石があり、金属製品は全て鉄製品で刀子・釘のほかは棒状製品など器種不明のものが多い。土製品はほとんどがカマドの構築材とみられる粘土ブロックである。そのほか、炭化米や種などの自然遺物も出土した。これらの遺物のうち、本節では竪穴住居跡出土の土器類を取り上げ、その変遷について検討したい。

京ノ中遺跡では第１次調査の報告時に、周辺の鍛冶屋敷Ａ遺跡・鍛冶屋敷Ｂ遺跡・富沢館跡・鍛冶屋敷前遺跡・宮崎遺跡とともに土師器・須恵器についてある程度の時期区分が設定されている（仙台市2018）。それはＡ期（９世紀前半以前～９世紀前半）、Ｂ期（９世紀中頃～９世紀後半）、Ｃ期（10世紀前半～ 10世紀前半以降）の３つの時期である。しかし今回の調査では８世紀にまで遡る資料もあることから、少なくともＡ期については細分が必要と考え、再検討の結果、Ａ期をA1期（８世紀後半～８世紀末頃）、A2期（９世紀前半）の２つの時期に細分した。以下、この時期区分に従い、各期の特徴について触れてみたい。

(2) 各期の様相

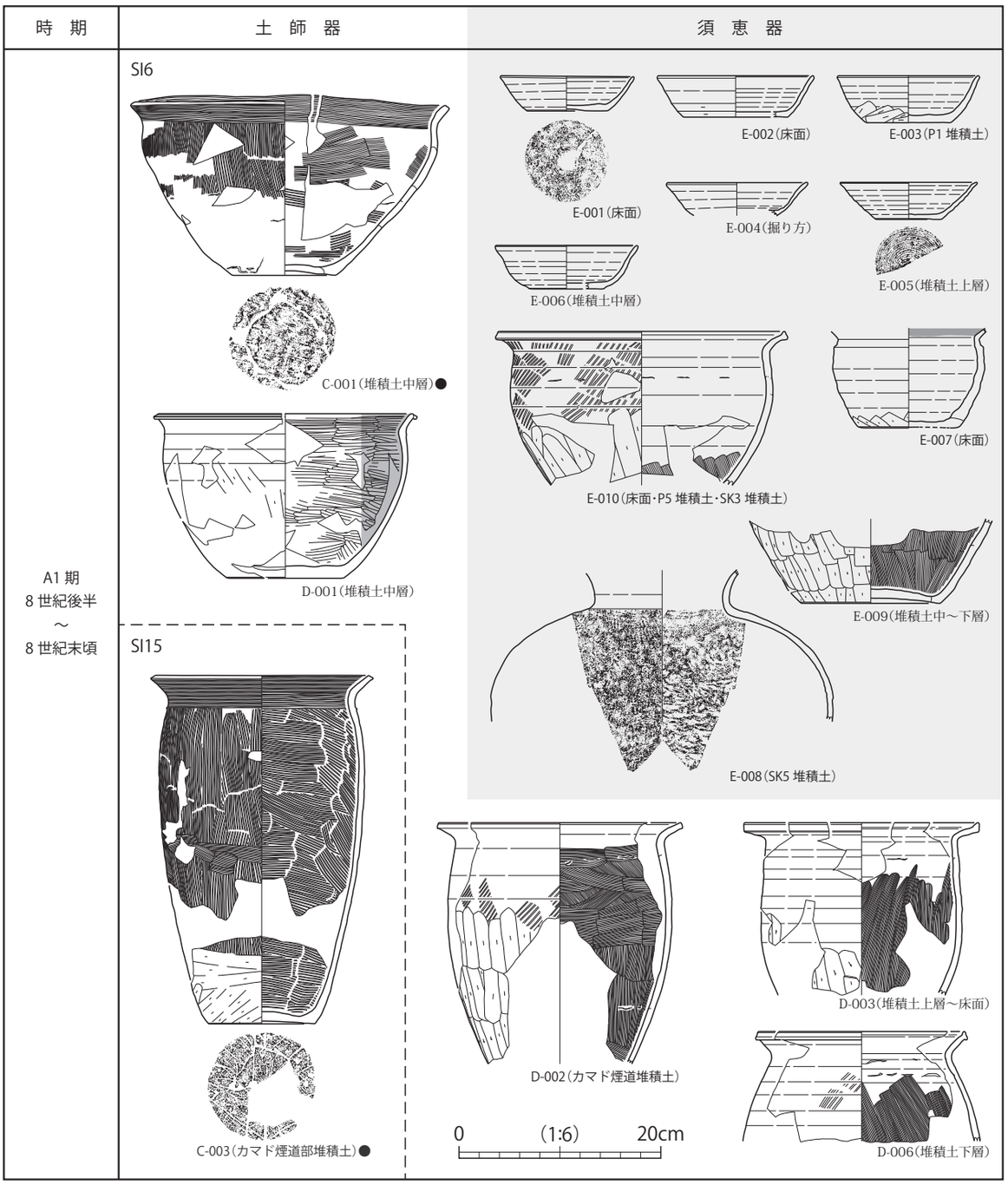
第94 ～ 96図に集成した土器は、竪穴住居跡出土の登録遺物118点のうち、掲載遺物63点である。このうち、竪穴住居跡との共伴性が高いとみられる床面及び床面施設出土資料50点を主な対象とし、検討を加える。

① A1期（８世紀後半～８世紀末頃）

SI6・15が該当する。SI14もその可能性がある。

土師器は、非ロクロ土師器とロクロ土師器が認められるが、掲載外とした遺物を含めても直接共伴するとみられるロクロ土師器はごく少量である。非ロクロ土師器のSI15：C-003は甕で、長胴を呈し、胴部上位がやや張るが、口縁部に最大径をもつ。口縁部は「く」字状に外反する。胴部外面はハケメ後下半部がヘラケズリ調整され、内面はハケメ調整が主体である。底部外面には木葉痕がみられる。ロクロ土師器は、SI6：D-002の甕のみである。器形がC-003に類似し、胴部外面は平行タタキ後ロクロ調整され、さらに中位～下位がヘラケズリ調整される。内面はハケメ調整である。なお、SI14：D-043もロクロ土師器の甕であるが、破片資料のため混入遺物の可能性がある。A2期に下るとも考えられ、便宜上第95図に示した。

須恵器は、SI6のみ出土している。E-001 ～ 003が坏、E-007・10が鉢、E-008が甕である。坏の体部は直線的に外傾するが、E-003にはやや内湾気味の傾向がある。底径／口径比は0.58 ～ 0.68で、平均値は0.62と、底径が大きい。底部はいずれも切り離し後、回転もしくは手持ちヘラケズリ調整され、切り離しの痕跡を丁寧に消しているが、E-001のみ回転ヘラ切りの痕跡が一部に残る。鉢E-007は小型甕に近い形状を呈し、器形は体部上位が張り、口縁部と体部の境に強い稜をもつ。口縁部は短く外傾する。底部付近は手持ちヘラケズリ調整される。E-010は大型鉢で、口縁部は受口状を呈する。胴部外面は平行タタキ後ロクロ調整し、さらに下位がヘラケズリ調整される。内面はロクロ調整後、下位がヘラナデ調整される。頸部付近の内外両面には輪積痕が残る。甕E-008は球状の胴部をもち、頸部の窄まりは強い。胴部外面には平行タタキ、内面には青海波状の当て具痕が残る。



●は非ロクロ土師器・ゴシック体は床面又は床面施設出土

第 94 図　竪穴住居跡出土土器集成図（A1 期）

② A2 期（９世紀前半）

SI7・8B・9・17 が該当する。SI14 も当期が下限である。SI19 は当期と B 期の中間に位置付けられる。

土師器は、当期からロクロ土師器のみとなる。SI7：D-009・010・012、SI8B：D-024・025 は坏、SI9：D-032 は埦、SI7：D-013、SI8B：D-026、SI17：D-051・052 は甕である。坏はいずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、内面における底部と体部との境界が不明瞭である。SI8B の２点は口縁部が僅かに外反する。SI7 の坏

は厚手だが、SI8Bの坏は薄手で精巧な作りである。これらの底径／口径比は0.43～0.63で、平均値は0.51である。底部の切り離しは回転糸切りの痕跡を残すD-010・024があるが、ほかは回転もしくは手持ちヘラケズリで調整され、判断がつかない。いずれも内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。D-032の埦は厚手の小埦で、体部から口縁部にかけては内湾気味に外傾し、底部は平底だが僅かに丸みをもつ。体部から底部にかけての外面は手持ちヘラケズリで調整され、底部の切り離し技法は不明である。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。甕は小型甕（D-026・051）と大型甕（D-013・052）とがあり、いずれも胴部中位が張る器形を呈するが、小型甕の場合張りが弱く、特にD-026は直線的な胴部を有する。大型甕の胴部外面には平行タタキの痕跡が残り、全体の2/3以上が残存するD-051・052では、ロクロ調整後に下位がヘラケズリ調整される。内面はD-051の胴部全体、D-052の胴部下位がヘラナデ調整される。

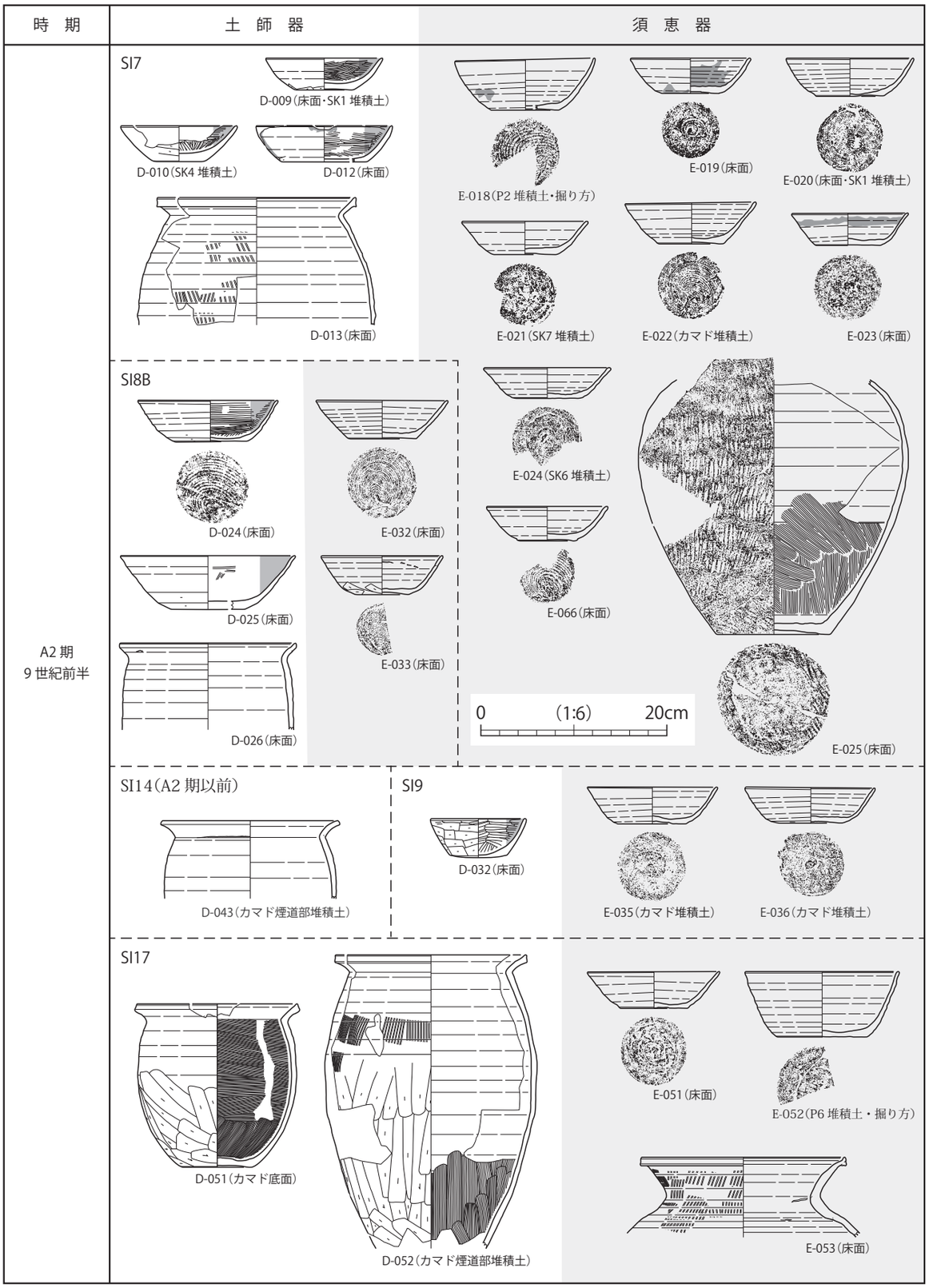
須恵器は、SI7：E-019～024・066、SI8B：E-032・033、SI9：E-035・036、SI17：E-051が坏、SI7：E-025・SI17：E-053が甕である。坏は体部から口縁部にかけて直線的に外傾するものと、内湾気味に外傾するものとがほぼ同数あり、底径／口径比は0.43～0.56で、平均値は0.50である。A1期より底径が小さくなる傾向があり、底径／口径比が0.50未満のものが大半を占める。底部の切り離しは回転ヘラ切り（E-019・021・023・024・035・036・051）と回転糸切り（E-018・020・022・032・033・066）とがほぼ同数あり、E-021が底部周縁を回転ヘラケズリ調整されるほかは全て未調整である。甕のうちE-025の胴部はやや長胴で上位が張る。外面には平行タタキの痕跡が残り、その範囲は底部の周縁にまで達している。内面はロクロ調整後、下位がヘラナデ調整される。E-053は口縁部が受口状を呈し、外面は平行タタキ後、内面とともにロクロ調整される。平行タタキの範囲は、口縁部にまで達している。

③Ｂ期（９世紀中頃～９世紀後半）

SI8A・10・16が該当する。SI19も、当期が下限である。

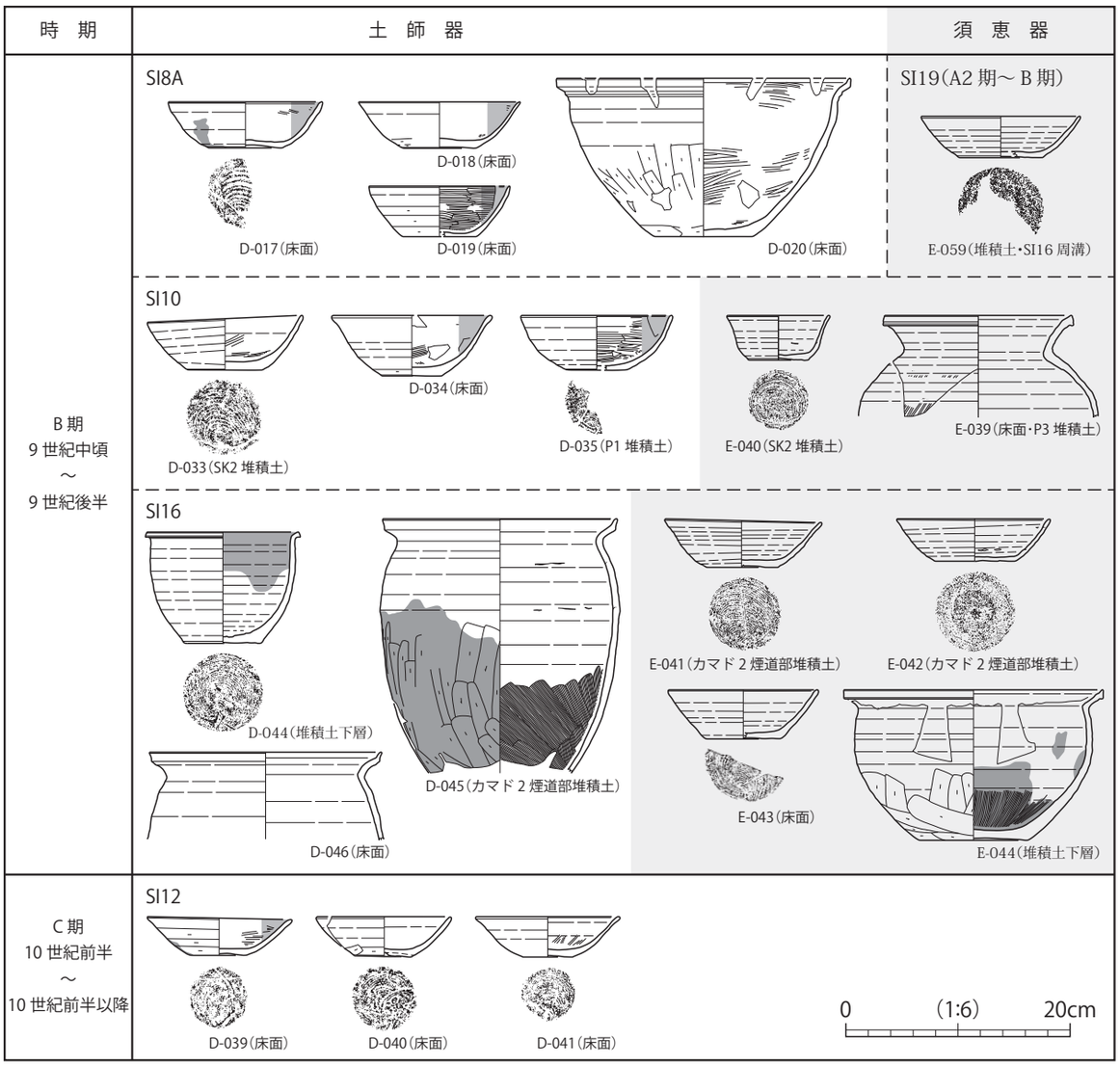
土師器は全てロクロ土師器で、SI8A：D-017～019、SI10：D-033～035が坏、SI8A：D-020が鉢、SI16：D-045・046が甕である。坏はいずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、D-034の口縁部は外反する。D-033はやや厚みをもつが、ほかは薄手で精巧な作りである。底径／口径比は0.39～0.46で、平均値は0.45と、底径がA2期よりも小さくなる。底部の切り離し技法は、確認できたものは全て回転糸切りだが、D-017・033は底部周縁が、D-018・019・034は全体が回転もしくは手持ちヘラケズリ調整され、特にD-018・019の切り離し痕は完全に消されている。また、内面はヘラミガキ調整されるが、黒色処理はD-033では認められない。鉢は大型鉢で、体部は大きく開き、口縁部は受口状を呈する。体部はロクロ調整後、下位の外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整される。外面のヘラケズリ範囲は、底部にまで達する。甕はともに大型甕で、胴部上位が張り、D-046の口縁部は受口状を呈する。いずれも胴部外面に平行タタキの痕跡は認められない。D-045の胴部はロクロ調整後、下位の外面がヘラケズリ、内面がヘラナデ調整される。内面の上位には、部分的に輪積痕が残る。

須恵器は、SI16：E-041～043が坏、SI10：E-040が埦、SI10：E-039が甕である。坏はいずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、E-041の口縁部は僅かに外反する。底径／口径比は0.45～0.52で、平均値は0.50とA2期に比べ数値上の差はないが、最大値が若干減少する。底部の切り離しはE-042が回転ヘラ切り、ほか２点が回転糸切りで、いずれも未調整である。埦は小埦で、体部から口縁部にかけて直線的に外傾し、口縁部は外反する。体部はやや腰の張る形状で、底部は回転糸切り未調整である。甕は口縁部が「く」字状に屈曲して外反し、受口状を呈する。胴部外面には平行タタキの痕跡が残るが、部分的である。内外面ともにロクロ調整され、内面には一部輪積痕が残る。



ゴシック体は床面又は床面施設出土

第 95 図　竪穴住居跡出土土器集成図（A2 期）



ゴシック体は床面又は床面施設出土

第 96 図　竪穴住居跡出土土器集成図（B・C 期）

④ C 期（10 世紀前半～ 10 世紀前半以降）

SI12 のみが該当する。出土したのは土師器のみで、須恵器は出土していない。

土師器は全てロクロ土師器で、器種は坏のみが出土している（D-039 ～ 041）。いずれも体部から口縁部にかけて内湾気味に外傾し、体部の開きが大きくなる。D-039・041 の口縁部は外反し、全体的に薄手で精巧な作りである。底部の切り離し技法は回転糸切りで、切り離し後の調整は D-039・040 の一部がヘラナデ、もしくはヘラケズリ調整される程度である。底径／口径比は 0.35 ～ 0.42 で、平均値は 0.38 と底径はかなり小さくなる。D-039 の内面はヘラミガキ調整後、黒色処理されるが、ほか 2 点は未処理である。

各期を通じてロクロ土師器・須恵器の変遷をみると、坏については両者ともに底径の縮小化・底部調整の簡略化がみられ、ロクロ土師器については黒色処理の減少化がある。これらの傾向を踏まえ、各期の編年を行ってみる。なお、器高については一定の変化があまり抽出されなかったため、若干触れる程度に留めたい。

A1期のロクロ土師器はSI6：D-002の甕のみである。掲載した堆積土中の遺物、或いは掲載外とした床面もしくは床面施設の出土遺物中にも坏類は少量しか確認できない。この状況は、当地域のロクロ土師器盛行以前の段階にあることを示している。須恵器の坏類は３点のみだが、いずれも底径が大きく、底径／口径比は0.58 ～ 0.68で、平均値は0.62を測る。器高／口径比は底部はいずれも切り離し後に調整され、切り離し技法はE-001の回転ヘラ切りのみが確認された。これらの特徴は多賀城跡のＡ群土器と共通するものであり、同群には８世紀前半～後半の年代が与えられている。ただしSI6の場合、埋没過程で混入した須恵器坏（第47図－10・11）に９世紀以降の特徴が認められることから比較的下る年代が考えられ、A1期については８世紀後半～８世紀末頃の年代を考えておきたい。

A2期では土師器はロクロ土師器のみとなり、坏をみると底径／口径比は0.43 ～ 0.63、平均値は0.51を測り、底部の調整は全体に及ぶものと周縁だけのものとが同数となっている。切り離し技法はSI7：D-010とSI8B：D-024で確認され、ともに回転糸切りである。内面は全て黒色処理される。須恵器坏は底径／口径比が0.43 ～ 0.56、平均値が0.50を測り、この平均値を下回るものが大半を占める。底部の切り離し技法は回転ヘラ切りと回転糸切りとがほぼ同数確認され、調整はSI7：E-021の１点が底部周縁を回転ヘラケズリ調整されるのみである。これらは多賀城跡Ｂ・Ｃ群土器双方にみられる特徴を含むことから、A2期の年代についてはＣ群土器に平行する９世紀前半を考えておきたい。

Ｂ期のロクロ土師器坏は、底径／口径比が0.39 ～ 0.46で、平均値は0.45を測り、A2期と比べ底径は縮小する。底部の調整は全体に及ぶものが３点、周縁のみのものが２点、未調整のものが１点確認され、底部切り離し後の調整を簡略したものが目立つようになる。切り離し技法は４点で確認され、いずれも回転糸切りである。内面はSI10：D-033の１点を除き、ほかは黒色処理される。須恵器坏は底径／口径比が0.45 ～ 0.52、平均値が0.50を測り、数値上はA2期との差はない。底部の切り離し技法は回転糸切りと回転ヘラ切りが確認され、いずれも未調整である。多賀城跡Ｄ群土器との共通性がみられ、第１次調査の所見通りＢ期の年代については９世紀中頃～９世紀後半と考える。

Ｃ期は、ロクロ土師器坏のみである。体部は大きく開き、器高が低くなる。底径／口径比は0.35 ～ 0.42で、平均値は0.38を測り、底径は口径の40％未満となる。底部の切り離しはいずれも回転糸切りで、調整は一部に施される程度である。内面は黒色処理されるのが１点、ほか２点は未処理である。多賀城跡Ｅ群土器との共通性がみられ、第１次調査の所見通りＣ期は10世紀前半～ 10世紀前半以降としたい。

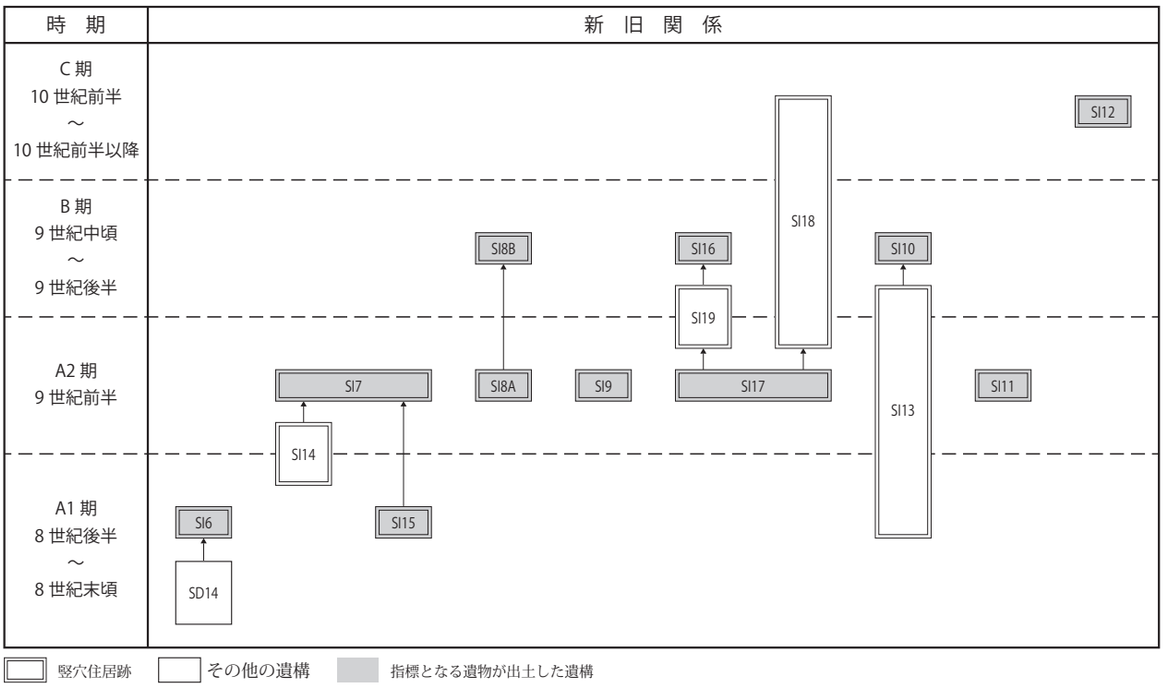
第３節　奈良～平安時代の遺構について（第97 ～ 99図）

(1) 遺構の変遷（第97・98図）

奈良～平安時代の遺構は、竪穴住居跡15軒、溝跡１条、土坑16基が検出された。これらの遺構は竪穴住居跡を中心に集落を構成するものであり、集落の存続期間は８世紀後半から10世紀前半（以降）に至るまでの150年前後が考えられる。さらに竪穴住居跡から出土した土器を検討するとA1 ～ Ｃ期の４時期に細分でき、この細分に従って遺構の変遷を示したのが第98図である。ただしSI13・14・19については指標となる遺物が出土しておらず、重複にみる新旧関係から概ねの時期を推定するのみとなった。また土坑についても不明な点が多く、ある程度時期が特定できるものを第98図に示したほかは、文章中で簡単に触れる程度に留めた。時期ごとにみる遺構の変遷は、次の通りである。

① A1期（８世紀後半～８世紀末頃）

集落の形成期に相当し、SI6・15の２軒が調査区の中央部からやや北寄りにかけて構築される。SI13・14も当期の構築と考えられなくもないが、詳細は不明である。



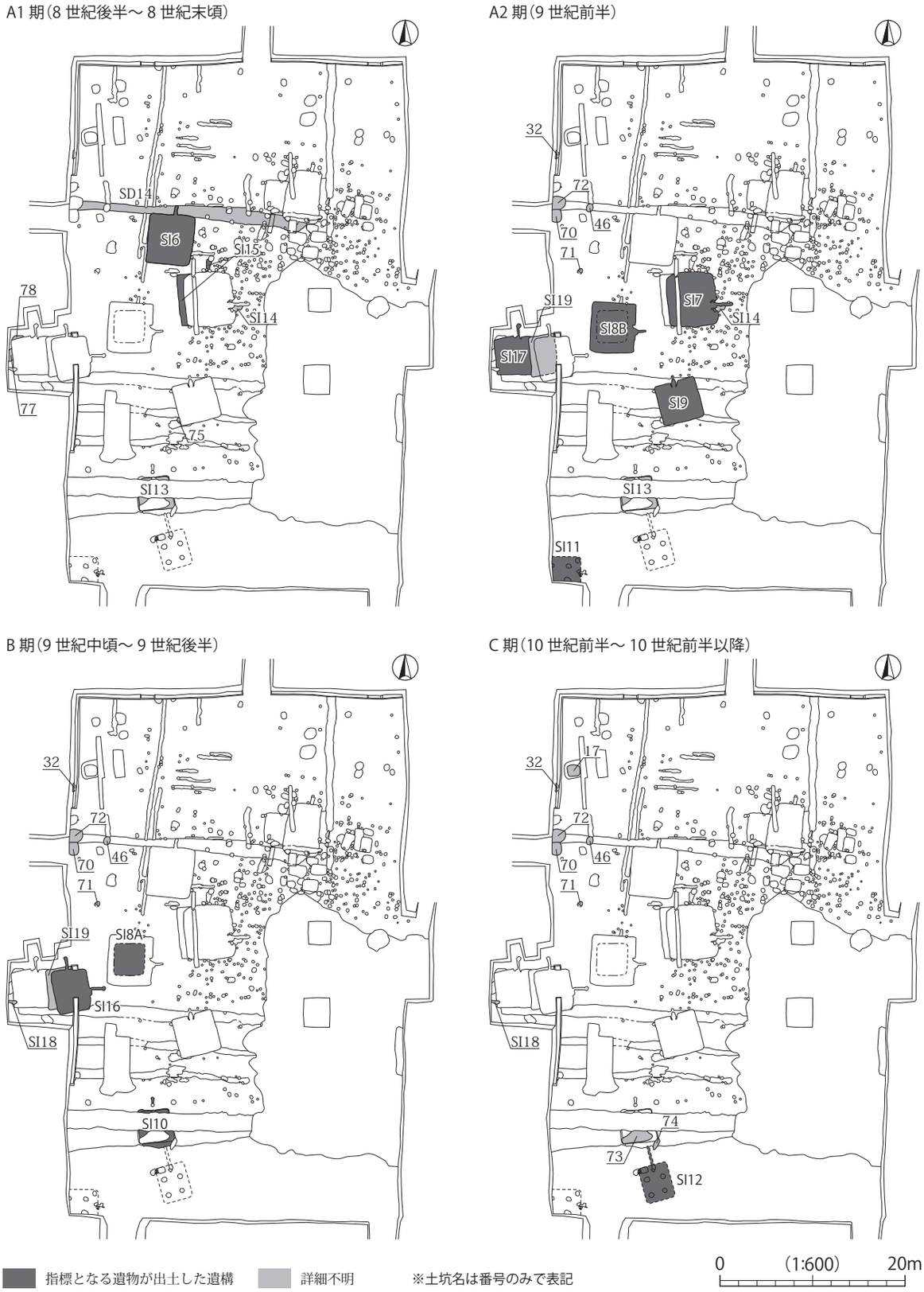
第97図　奈良～平安時代主要遺構新旧関係模式図

SI6・15の距離は１m程度と近接するため、同時並存ではなく若干前後して構築されたと考えられる。SI6より古いSD14の存在や、SI6の堆積土中に非ロクロ土師器だけでなくロクロ土師器の混入が目立つことと併せ（第46図－２～４・ほか一括遺物を実見）、当初はSI15とSD14の組み合わせで集落形成が開始された可能性も考えられる。SD14の北側には奈良～平安時代の遺構がほとんど検出されておらず、集落範囲の北限を設定した区画溝の可能性がある。土坑については、SI9・17（ともにA2期）より古いSK75・77・78が当期に属すると考えられる。SK75からは、SI6と特徴を同じにする須恵器坏（第84図－３）が出土している。

② A2期（９世紀前半）

SI7・8B・9・11・17が当期に比定される。集落範囲は西側及び南側に拡大し、竪穴住居跡の数が最も増加する時期である。SI11のカマド底面から出土したロクロ土師器坏は図化できなかったが、下半部が残存し、底部から体部にかけて内湾気味に外傾する。底部は径7.6cmを測り、回転糸切り後、周縁が手持ちヘラケズリ調整される。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。これらの特徴から、SI11を当期に比定した。

当期の竪穴住居跡同士の距離（壁線同士の距離で計測）を測定してみると、SI7とSI8B間が約3.5m、SI7とSI9間が約5.5m、SI9とSI11間が約17m、SI8BとSI17間が約６mとなる。SI9とSI11間が大きく離れるが、そのほぼ中間にはSI13が位置する。これを当期の構築と考えれば比較的大型のSI7・8Bを起点とし、その西側と南側に５～７m前後の間隔で竪穴住居跡が配置されていたことになるが断定はできない。また、SI14は当期が下限、SI19は当期が上限である。このうちSI14についてはSI7よりは古いものの、カマド煙道部の堆積土からロクロ土師器の甕破片（第69図－１）が出土しており、当期の古い段階に位置付けられる可能性がある。SI19については、当期に比定される須恵器坏（第80図－１）が出土しているが、出土層位は堆積土中及び重複するSI16（B期）の周溝堆積土であり、混入遺物として扱うべきものである。土坑については、SD14より新しいSK46・70・72が少なくとも当期以降に位置付けられ、いずれもロクロ土師器が出土している。ロクロ土師器は周辺に位置するSK32・71からも出土しているが、いずれも小破片のため、これらの具体的な時期は明らかにできなかった。



第 98 図　奈良～平安時代主要遺構変遷図

③ B期（９世紀中頃～９世紀後半）

SI8A・10・18が当期に比定される。SI19も当期が下限である。SI18はSI17より新しいが、詳細は不明である。ただし、位置関係をみるとSI8A・16（もしくはSI19）と一定のまとまりがあることや、これらとカマド方位を同じくすることなどから、当期に比定される可能性が高い。

当期はA2期に比べ竪穴住居跡が減少し、分布は調査区の南西に偏ったものとなる。特に既述の通りSI8Aを東端とする西側の小群と、これと距離を置いて単独で位置する南側のSI10と配置的に二分される。土坑についてはA2期以降のものが一部当期に該当する可能性もあるが、詳細は不明である。

④ C期（10世紀前半～ 10世紀前半以降）

SI12のみが当期に比定される。調査区の南側に寄って、単独で位置する。

当期は、集落の衰退期とも呼べる様相を呈する。集落自体が別の場所へ移動した可能性もある。土坑については、B期のSI10より新しいSK73・74が当期に属すとみられる。図化した土器（第84図－１・２）はいずれも時期が異なり、混入遺物とみられる。また、SK17からはロクロ土師器坏の下半部が出土している。図化はできなかったが、底部から体部にかけて内湾気味に外傾し、体部の開きは大きい。底部は径4.6cmと小さく、回転糸切り未調整である。内面はヘラミガキ調整後、黒色処理される。このことから、SK17も当期以降に比定される。ほかの土坑については詳細は不明である。

(2) 竪穴住居跡について（第99図）

15軒検出された竪穴住居跡は、住居跡同士の重複が少なく、比較的全体を把握できたものが多い。基本形態としては方形基調の平面形を呈し、主柱穴は４基で構成される。壁にはカマドが付設され、その他貯蔵穴など、土坑を伴う例も多い。この基本形態は時期を問わず一貫して採用されるが、細部形態では時期ごとに微妙な変化が抽出される。

① 平面形状・規模

平面形状は、SI6 ～ 9・13が方形、SI10・16・19が長方形、SI15・17が方形もしくは長方形、SI11・12・14・18が不明である。長軸を南北に向けるものが主体であるが、SI13・17は長軸を東西に向ける。規模は長軸が①5.5 ～ 6ｍ前後（SI6・7・8B・15）、②4.5ｍ前後（SI9・10・16・17・19）、③3.5 ～ 4ｍ前後（SI8A・13）の３つに括られ、①はA1・A2期のみに確認できる。

② 主軸方向

ここではカマド方向ではなく、あくまで北に対する壁線の傾きをみる。ほぼ四壁が東西南北を向くのがSI7・8A・8Bで、その振れ幅は１～３°に収まる。SI11も床面施設の配置をみるとこれに含まれる可能性がある。東方向に傾くものはSI6のみで、６°振れる。西方向に傾くものはSI9・10・12・13・15・16・19で、振れ幅が５～６°と小さいSI10・15・17・19と、振れ幅が12 ～ 16°と大きいSI9・12・13・16とが存在する。時期を通じて特定の傾向はないが、A2期以降に振れ幅の大きいものが出現するようである。

③ 柱穴構造

SI14・18を除く13軒で、主柱穴とみられるピットが確認されている。ほとんどの場合、４基が住居範囲の対角線上を意識して配置されているが、整然と配置されているのはSI7・9・17だけであり、ほかは配置が歪むか位置が若干ずれる。SI15では３基しか検出されず、配置状況が判然としない。柱はSI7：P3、SI16：P4のように柱穴下部を多少埋め戻してから据えられたものがあり、柱の上端を揃えるための工夫とみられる。建築部材は、焼失住居のSI7から出土した試料を樹種同定したところ、大半がコナラ節とクリであるとの結果が得られた。ほかの住居跡

も同様の材を使用していた可能性がある。SI7ではクリのほかにもコナラ・クワ・サクラ等が同定され、様々な樹種の利用が確認された。このうちクワは建築部材に用いられる例がほとんどなく、今回の試料もSK3上層から出土した板材であることから、蓋として使用されたと考えられる。主柱穴内には礎盤石を設置した例があり、SI6（P3）・8B（P1）・SI9（P1 ～ 4）・10（P1）で確認できた。このうちSI6・9・10は柱穴底面が基底の礫層まで達しており、柱穴掘削時に掘り出された礫を選択し、使用した可能性も考えられる。

④ カマド・炉

SI13・19を除き、カマドの付設が確認された。SI6・9・10・12・15・17は北壁、SI7・8A・8B・11・14・18は東壁に付設されている。SI13も東壁の可能性があるが、撹乱で失われたとみられる。SI16は北壁と東壁の２箇所に付設され、SI19については付設の痕跡は一切確認できなかった。SI6では燃焼部直下に被熱面を伴う土坑SK7が検出され、カマドの造り替えが行われたと考えられる。造り替えの痕跡はSI7・9でも確認され、SI7の北袖直下やSI9東袖の構築材内側からも被熱面が検出された。

カマドの付設壁について時期ごとの傾向をみると、A1期は北壁で、A2期には東壁のものが出現する。ただしB期にはカマドの付設位置が再度北壁に戻るようであり、それを示すのがSI16の２基のカマドである。SI16のカマドは、廃棄状況から東壁のカマド１より北壁のカマド２が新しく、続くC期のSI12も北壁に付設されている。

これらのカマドは燃焼部が壁内に位置し、奥壁を介して煙道部へと繋がる構造がほとんどである。ただし、SI6の燃焼部は壁線から50cm程度も離れ、このため奥壁から煙道部の手前1/3までが壁内に位置する。また、SI8Bの燃焼部は1/2程度壁外に張り出し、奥壁も３cm程度とかなり低い。さらにSI16のカマド１は燃焼部に奥壁そのものが存在しない。袖はどのカマドも基本層Ⅳ層土に近似したシルト材で構築されるが、SI16のカマド２は袖先端に自然礫の芯材を埋設し、天井には大型の煉瓦とも呼べる直方体の粘土焼成ブロックを架構していたとみられる。SI7でも袖先端に自然礫を埋設していた可能性がある。このようにA1・A2期には、燃焼部の設定や構築方法が独特なものが認められる。煙道部は長さが100cmを超えるものが大半で、最長はSI12の推定210cmである。煙出しがピット状を呈するものが多く、A1 ～ B期を通じて存在する。特異な例としてはSI7が挙げられ、煙出しに長径24cm程度の扁平な自然礫が埋設されている。

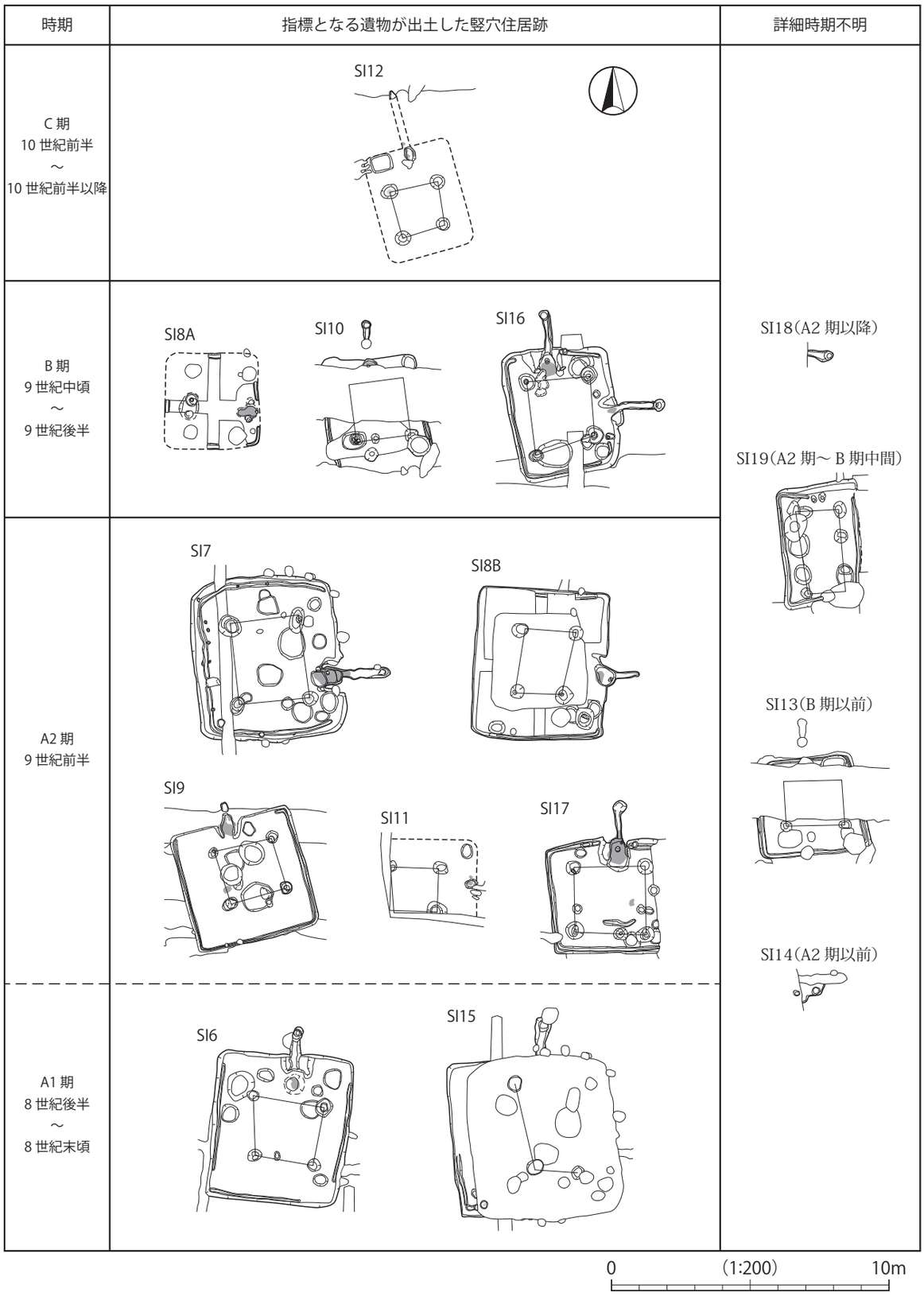
８世紀後半から10世紀前半にかけての例で、燃焼部が壁外に1/2程度張り出すカマドは、周辺の遺跡では鍛冶屋敷A遺跡（平成９年度調査分）SI2、鍛冶屋敷前遺跡SI8－カマド新、元袋遺跡SI12・13・17などが知られる。いずれも各々の集落内では稀有な形態であり、カマドの設計に対し、別の系譜が存在していた可能性がある。

A2期に比定されるSI9・17は、カマドとは別に炉を伴っている。中央部付近の床面に小規模な被熱範囲として検出され、SI17では西壁際から掘り込みを伴うもう１基の炉が検出された。カマドと炉（被熱範囲）の組み合わせがある竪穴住居跡を周辺遺跡に求めると、鍛冶屋敷A遺跡（平成９年度調査分）SI2、富沢館跡SI2、鍛冶屋敷前遺跡SI8・13・18、京ノ中遺跡（第１次調査）SI2が挙げられる。時期は９世紀代から10世紀前半までである。一部の例では鉱滓が出土していることから、鍛冶関連の施設と推定されるものもあるが、性格は不明である。

⑤ その他の施設

貯蔵穴とみられる土坑が、SI6・7・8B ～ 13・16・17で確認された。カマドの左右もしくはカマド設置壁のいずれかのコーナーに配置されている。全ての時期を通じてみられる施設であるが、形状や規模、深さは様々である。SI6・16では２基、SI7では３基が配置されていたとみられ、SI7のSK3では蓋材と考えられる板状の炭化物が出土している。SI7・8B・16では土坑同士の重複もみられ、造り替えが行われた可能性もある。

その他、カマドに関連するとみられる施設がある。焼土・灰・炭化物などが人為的に埋められている土坑である。SI7のSK5 ～ 8、SI9のSK2 ～ 4が該当する。また、貯蔵穴としたSI7のSK2・4、SI9のSK1、SI10のSK1、SI13の堆積土中にも多量の焼土が入っている。



第 99 図　竪穴住居跡集成図

竪穴住居跡の属性一覧

住居番号	区割	平面形状・規模		軸方位		カマド			煙道部			その他の施設	時期区分	備　考
		平面形状	長軸×短軸（cm）	方　位	算出基準	付設位置	燃焼部位置	袖構築材 ※（ ）は芯材	長さ（cm）	底　面	煙出し			
SI6	17・22	方形	534×495	N-6°-E	カマド	北壁	内	盛土	153	やや下がる	ピット状	主柱穴４基 補助柱穴２基 貯蔵穴２基 カマド関連土坑１基	A1	西壁上部はSA2との重複により消失。
SI7	22・23 27・28 32・33	隅丸方形	605×530	N-87°-E	カマド	東壁	内	盛土 ※自然礫あり	170	やや下がる	やや窪む	主柱穴４基 壁柱穴１基 補助柱穴２基 貯蔵穴４基 カマド関連土坑４基	A2	焼失住居。焼土・炭化材多量出土。床面被熱壁面はピットの重複により部分的に消失。
SI8A	26・27 31・32	方形	345×340	N-89°-E	カマド	東壁	内	―	―	平坦	―	―	B	削平により壁と床面消失。
SI8B	26・27 31・32	方形	545×481	N-92°-E	カマド	東壁	1/2外	盛土	85	やや下がる	平坦	主柱穴４基 補助柱穴１基 貯蔵穴３基	A2	削平により掘り方のみ残存。
SI9	22・23 27・28 32・33	方形	454×447	N-16°-W	カマド	北壁	内	盛土	38	―	平坦	主柱穴４基 補助柱穴２基 炉１基 貯蔵穴１基 カマド関連土坑３基	A2	壁の上部はSD6・7との重複により消失。
SI10	47・52	（長方形）	［420］×368	N-6°-W	カマド	北壁	内	―	（138）	―	ピット状	主柱穴２基 補助柱穴２基 貯蔵穴１基	B	撹乱により中央部を消失。
SI11	56	不明	―	（N-89°-E）	カマド	東壁	内	（焼礫）	―	―	―	主柱穴３基 貯蔵穴１基	A2	削平により床面のみ残存。
SI12	52・57	不明	―	N-15°-W	カマド	北壁	―	―	（210）	平坦	―	主柱穴４基 貯蔵穴１基	C	削平により床面のみ残存。
SI13	47	方形	393×352	N-15°-W	東壁	―	―	―	―	―	―	主柱穴２基 貯蔵穴１基	B以前	撹乱により中央部を消失。
SI14	28	不明	―	不明	―	―	―	―	［90］	やや下がる	ピット状		A2以前	SI7との重複によりカマド煙道部の先端のみ残存。
SI15	22・23 27・28 32・33	（方形）or（長方形）	556×［162］	N-6°-W	西壁	北壁	―	―	［135］	やや下がる	ピット状	主柱穴？３基 補助柱穴３基	A1	東側大半をSI7との重複により消失。
SI16	26・31 36	長方形	471×388	N-78°-E	カマド１	カマド１ 東壁 カマド２ 北壁	カマド１ 内 カマド２ 内	カマド１：盛土 カマド２：盛土 ※袖石・直方体の粘土ブロック	カマド１ 167 カマド２ 152	カマド１ やや下がる カマド２ やや下がる	カマド１ ピット状 カマド２ ピット状	主柱穴４基 補助柱穴２基 貯蔵穴３基	B	
SI17	26・31 36・ 61・62	（方形）or（長方形）	［413］×［377］	N-5°-W	カマド	北壁	内	盛土	139	やや下がる	ピット状	間仕切り溝１条 主柱穴６基 補助柱穴５基 炉２基 貯蔵穴１基	A2	東壁はSI16との重複により消失。
SI18	61	不明	―	不明	―	東壁か	―	―	［92］	やや下がる	ピット状	―	A2以降	カマド煙道部の先端のみ検出、ほかは調査区外。
SI19	31・36	長方形	［430］×［290］	N-5°-W	西壁	―	―	―	―	―	―	主柱穴４基 入口柱穴２基	A2～B中間	上部の大半はSI16との重複により消失。

※規模について、［　］は残存値を表す。
※カマド燃焼部位置は、壁面の内側に構築されるものを「内」、壁面の外側に半分張り出すものを「1/2外」とした。
※煙道部底面の「下がる」の表記は、煙出し方向を指す。

⑥ 焼失住居について

SI7は床面上から多量の炭化材や焼土が確認されたほか、床面も被熱しており、焼失住居と考えられる。規模も今回検出された15軒のうち最大であり、中核的な存在であったと推定される。ただし、床面から出土した遺物は少なく、カマドに掛けられていたと考えられる土師器甕も破片だけであった。このことは焼失時、多くの遺物が既に持ち出されていた可能性を示唆している。また、カマドの袖先端部や燃焼部の天井は崩落しているが、その後被熱を受けており、さらに燃焼部の最上層には、炭化物を多量に含む層が堆積していた。以上のことから、本住居跡は遺物の持ち出しやカマドの突き崩しなどが行われた後に焼失したものと考えられ、住居廃絶に際し意図的に焼却されたと考えられる。

第４節　まとめ

１．平安時代～中世

竪穴遺構３基、掘立柱建物跡７棟、木柵跡２条、小溝状遺構群２群、溝跡12条、井戸跡１基、土坑59基、ピット461基が確認された。また、少量ではあるが無釉陶器甕・鉢、青磁碗なども破片で出土した。特に常滑産とみられる無釉陶器や、龍泉窯産とみられる中国青磁が注目される。

(1) 区画施設について

調査区ほぼ中央を東西に走る溝跡SD6（N－88°－W）、SD７（N－86°－W）、SD8（N－88°－W）と、溝跡に直交するように北に延びる木柵跡SA1（N－7°－E）、SA2（N－9°－E）により構成される区画内では、小柱穴や土坑等の遺構密度が高くなり、竪穴遺構や掘立柱建物跡、井戸跡の変遷が確認されたことから、区画施設を伴う屋敷地の存在を考えた。

並走する溝跡については、屋敷地の区画施設以外に道路跡となる可能性を検討したが、以下の理由から屋敷に関連する区画施設として報告している。

３本の溝跡はほぼ同規模で、芯芯でみると約3.5ｍ間隔で並走しているが、堆積土の違いから時期差をもつ可能性がある。溝跡の上部が削平を受けているとしても、確認された溝跡の断面形状や堆積土の状況から道路遺構に伴う排水施設とは考えにくいことと、溝の間に硬化面や整地に伴う地業等の痕跡が無いことから道路跡となる可能性は低いと判断した。

また、溝跡と木柵列を屋敷に伴う区画施設とみた場合、溝跡は掘り込みも浅く小規模であることや、木柵列の掘方も浅く底面の柱痕跡も小規模で間隔が一定でないこと、木柵や溝跡に付随するような土塁等の施設の痕跡も無いことから、本格的な防御施設を意識したものではないといえる。推定される縄張り範囲は小規模ではあるが、遠方からの搬入品である陶器や青磁が出土していることや、これまでの周辺遺跡での調査では、屋敷の存在を窺えるような遺構は確認されていないことなどから、この一帯で相応の身分を有した人物の存在が推定される。京ノ中遺跡の周辺には、西に鎌倉期の城館である名取市熊野堂大館遺跡、東には中世の城館としては仙台平野最大級の規模をもつ富沢館跡があり、さらに東には鎌倉期の大規模な屋敷跡の変遷が明らかになっている王ノ壇遺跡などがあることから、これらとの関連性も考えられる。

(2) 竪穴遺構について

想定される屋敷地の内側から、重複する３基の竪穴遺構が確認された。周辺の掘立柱建物跡とは重複関係にあるが、竪穴遺構のほうが新しい。最も新しいSI3竪穴遺構の外周には柱穴列がともなっている。二重に囲む柱穴列には時期差があり、３間×３間のほぼ正方形から、一回り大きな３間×２間以上の柱穴列に造り替えられている。鍛冶炉が造られた土間（竪穴遺構）に上屋がかけられた作業場の存在が窺われる。

SI3竪穴遺構の床面積は約20㎡で、床面施設として小規模な炉跡２基と土坑があり、床面には炭化物と灰が広がっていた。年代測定の結果では、12世紀から13世紀代の数値が得られていることから、屋敷地内での場の使われ方に変化が生じ、掘立柱建物に代わって鍛冶生産にかかわる作業場があったことが考えられる。

２．奈良～平安時代

竪穴住居跡15軒、溝跡１条、土坑16基が確認された。遺物は、土師器・須恵器を中心に砥石・紡錘車などの石製品、鉄製刀子・釘などの金属製品、カマド材などの土製品、種などの自然遺物がコンテナで11箱程度出土した。土師器はロクロ土師器が主体である。

竪穴住居跡の出土遺物から、集落の存続時期は８世紀後半～ 10 世紀前半以降と推定された。竪穴住居跡が増えてくるのは９世紀前半であり、時期が下るにつれてカマドの付設位置や構造・構築技法にも一部変化が生じる様子が窺われる。第１次調査でも９世紀中頃～後半（B 期）の竪穴住居跡が２軒確認されていることから、京ノ中遺跡を含めた一帯に集落が営まれていたと考えられる。

(1) 鍛冶生産に関わる集落

京ノ中遺跡の周辺に位置する、鍛治屋敷Ａ遺跡、鍛治屋敷Ｂ遺跡、鍛治屋敷前遺跡からは、９世紀前半から 10 世紀前半の竪穴住居跡が合わせて 30 軒以上見つかっている。さらに、同時期の鍛冶関連遺構が 10 基以上見つかっている。また、調査では古代から中世の水田跡は確認されていないことから、ここに営まれた集落は鍛冶生産に関わる集団が暮らすムラであったと考えられる。

鍛治屋敷Ａ遺跡の９世紀代の竪穴住居跡床面から出土した刻書砥石には、古代の上申書である『解文』の様式を踏まえた文やウジ名か地名を示すと思われる「太田部」と「上野」の文字が刻まれている。このことは、砥石を使用したであろう鍛冶職人を含む工人集団の間にも解文に関する知識があった可能性と、工人集団が移住してきた集団である可能性を示している。

西方の茂庭丘陵には、平安時代後期から中世にかけて砂鉄を原料として行われた鉄生産に関わる遺跡が点在しており、製鉄炉跡なども確認されている。あるいは茂庭丘陵や周辺丘陵で生産された鉄が運ばれて、この場所で鍛冶作業が行われていたことも推測される。

(2) 名取郡のなかで

古代から、この一帯は名取郡に属しており、中世には名取川を境として南北に分けられた「名取郡北方」の中に含まれていた。西方にある高舘丘陵のふもとには、熊野本宮社、熊野新宮社（現在の熊野神社）、高舘山にある熊野那智神社のいわゆる名取熊野三社があり、中世における東北地方の熊野信仰の一大中心地・聖地として信仰の対象となっている。名取熊野三社は平安時代末期には成立していたものと考えられている。熊野三社の近くにある名取市大門山遺跡では 250 基以上の板碑が確認されており、熊野三社を管理し一帯を支配した一族の墓所と考えられている。また、名取川南岸の柳生・中田地区を中心に約 200 基の板碑が確認されており、仙台市内でも板碑が集中している所となっている。名取郡東部が、古代の幹線道路である「東山道」、中世の「奥大道」が南北に通る政治的な場であったのに対し、熊野三社のある西部は祈りの場となっていたようである。

名取川流域には興味深い地名が残っており、北岸には遺跡名となっている「京ノ中」以外に「京ノ前」「京ノ北」「京ノ東」、南岸には熊野三社の近くにある「飛鳥」「舞台」、「柳生」など旧大和国の地名と一致するものが多いことが指摘されている（仙台市 1987）。高舘丘陵東麓から熊野神社を経て、京ノ中遺跡の西方で名取川を渡る古代の「東街道」が推定されているが、これらの地名がこの街道沿いにあることは注目される。

９世紀から 10 世紀にかけて、名取郡に属する仙台市南部では規模の大きな集落が営まれるようになる。富沢地区では、山口遺跡や富沢遺跡、泉崎浦遺跡などで大規模な水田が確認されており、条里型地割の存在も考えられている。稲作に関わる集落がある一方で、京ノ中遺跡のように集落内に鍛冶生産に関わる遺構を伴う集落がみられるようになる。京ノ中遺跡の南東にある中田南遺跡でも、古墳時代から中世にかけての集落内から鍛冶関連遺構が見つかっている。この時期には、中田南遺跡以外にも、安久東遺跡や中田畑中遺跡、松木遺跡などの集落が名取川沿いに造られており、鍛冶生産に関わるような遺構が見つかっている。

引用・参考文献

吾妻俊典　2004「多賀城とその周辺におけるロクロ土師器の普及開始年代」『宮城考古学』第６号　宮城県考古学会

伊東隆夫ほか　1987「日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途」『KURENAI』京都大学学術情報リポジトリ

伊東隆夫ほか　1990「日本の遺跡から出土した木材の樹種とその用途Ⅱ」『KURENAI』京都大学学術情報リポジトリ

大戸古窯跡群研究会　1992『東日本における古代・中世窯業の諸問題』

沖縄県立埋蔵文化財センター　2009『土でつくられた緑の宝石「小型青磁」』

岡田茂弘・桑原滋郎　1974「多賀城周辺における古代杯形土器の変遷」『研究紀要』Ⅰ　宮城県多賀城跡調査研究所

加藤道男　1983「宮城県における土師器研究の現状」『考古学論叢』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会

河南町教育委員会　1993『代官山遺跡』河南町文化財調査報告書第６集

河南町教育委員会　1993『関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書第７集

河南町教育委員会　2004『関ノ入遺跡』河南町文化財調査報告書第13集

白鳥良一　1980「多賀城跡出土土器の変遷」『研究紀要』Ⅶ　宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市　1995『仙台市史 特別編２ 考古資料』

仙台市教育委員会　1980『桝江遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第14集

仙台市教育委員会　1987『六反田遺跡Ⅲ』仙台市文化財調査報告書第102集

仙台市教育委員会　2000『鍛冶屋敷Ａ遺跡・鍛冶屋敷前遺跡』仙台市文化財調査報告書第245集

仙台市教育委員会　2000『五本松窯跡ほか』仙台市文化財調査報告書第247集

仙台市教育委員会　2000『王ノ壇遺跡』仙台市文化財調査報告書第249集

仙台市教育委員会　2004『元袋遺跡』仙台市文化財調査報告書第272集

仙台市教育委員会　2009『養種園遺跡第２次・保春院前遺跡』仙台市文化財調査報告書第344集

仙台市教育委員会　2013『西台畑遺跡第４・５・７次調査』仙台市文化財調査報告書第411集

仙台市教育委員会　2014『南小泉遺跡第68次調査』仙台市文化財調査報告書第420集

仙台市教育委員会　2018『鍛冶屋敷前遺跡第３次調査』仙台市文化財調査報告書第465集

仙台市教育委員会　2018『鍛冶屋敷Ａ遺跡・富沢館跡・川前遺跡ほか』仙台市文化財調査報告書第466集

丹治篤嘉　2009「カマドを有する竪穴住居跡の床面に埋め込まれた遺物」『福島県文化財センター白河館研究紀要2009』公益財団法人 福島県文化振興財団

丹治篤嘉　2010「カマド燃焼部における遺物出土状況の検討」『福島県文化財センター白河館研究紀要2010』公益財団法人 福島県文化振興財団

東北古代土器研究会　2008『東北古代土器集成―須恵器・窯跡編』〈陸奥〉　研究報告３

東北中世考古学会　2003『中世奥羽に土器・陶磁器』高志書院

中野晴久　2013『中世常滑窯の研究』愛知大学大学院文学研究科

東日本埋蔵文化財研究会　1994『古代官衙の終末をめぐる諸問題』第１分冊

宮城県教育委員会　1970『日の出山窯跡群』宮城県文化財調査報告書第22号

宮城県教育委員会　1982『多賀城跡 政庁跡』本文編

宮城県教育委員会　1987『硯沢・大沢窯跡ほか』宮城県文化財調査報告書第116集

宮城県教育委員会ほか　1990『利府町郷楽遺跡Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第134集

宮城県教育委員会　2010『多賀城跡 政庁編』補遺編

宮城県教育委員会　2018『山王遺跡Ⅶ』宮城県文化財調査報告書第246集

村田晃一　2000「飛鳥・奈良時代の陸奥国北辺」『宮城考古学』第２号　宮城県考古学会

利府町教育委員会　2004『大買窯跡群』利府町文化財調査報告書第12集

利府町教育委員会　2011『硯沢窯跡Ⅱ』利府町文化財調査報告書第13集

写　真　図　版

調査地遠景－太白山を望む（南東から）

第４トレンチ 遺構検出状況（東から）

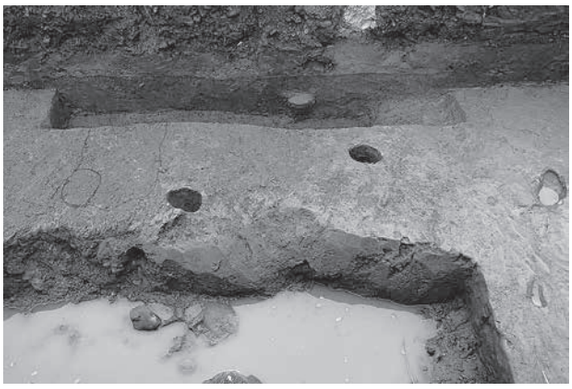
第５トレンチ 遺構検出状況 南半（東から）

第５トレンチ 遺構検出状況 北半（東から）

第９トレンチ全景（南から）

第９トレンチ SI7・SB4 検出状況（東から）

第９トレンチ SI7 断面（東から）



第13トレンチ 遺構検出状況（西から）

写真図版１　調査地遠景・試掘調査

調査区北壁 基本層序A 中央～西部（南西から）

調査区北壁 基本層序A 西側深掘部分（南から）

調査区北壁 基本層序A 東側深掘部分（南から）

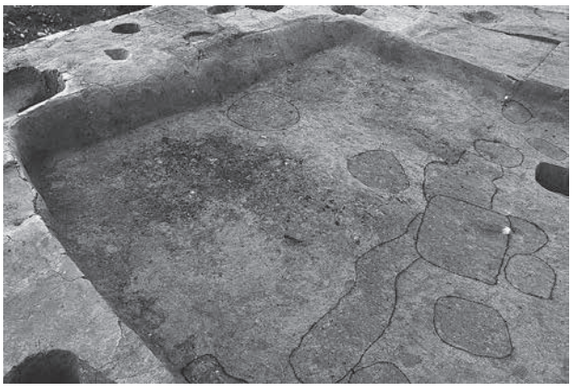
調査区東壁 基本層序B 中央部（西から）

調査区西壁 基本層序C（東から）

写真図版2　基本層序

平安時代～中世面 全景（垂直・上が北）

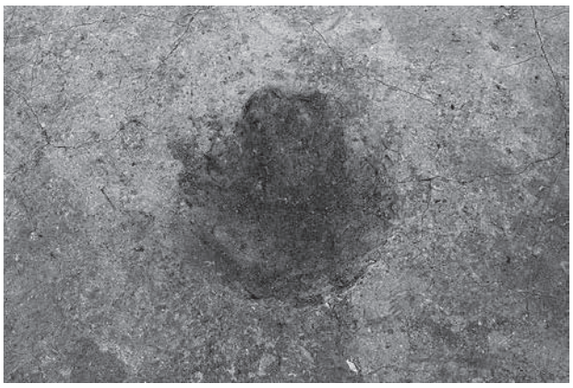
SI3 全景（北から）



SI3 炭化物検出状況（北東から）

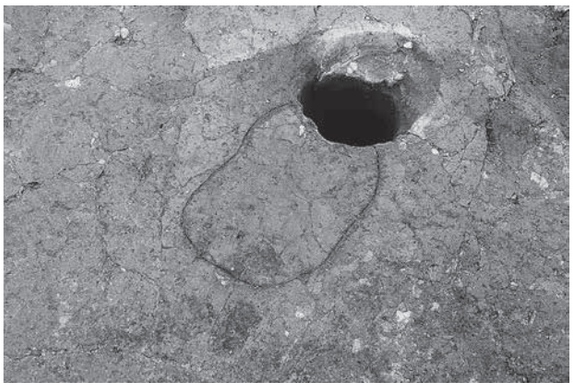
写真図版3　平安時代～中世面全景・竪穴遺構（1）

SI3 南側テラス状施設(北から)

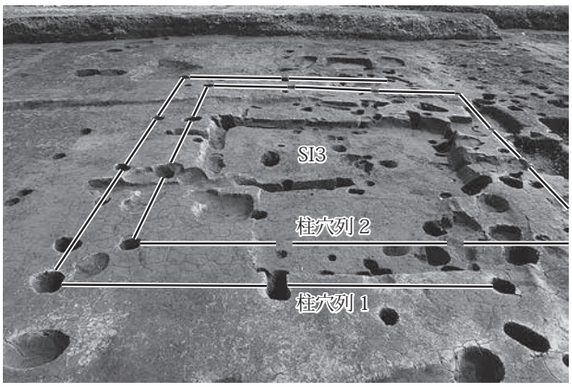


SI3 炉1 全景(南から)

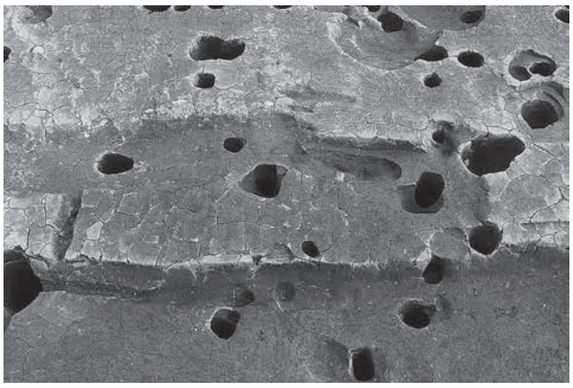
SI3 炉1 灰・炭化物堆積状況(南から)



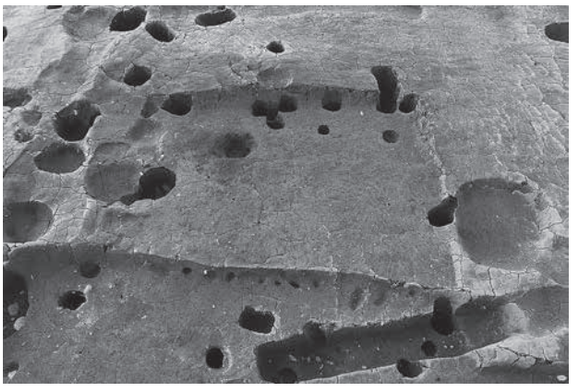
SI3 炉2 検出状況(南から)



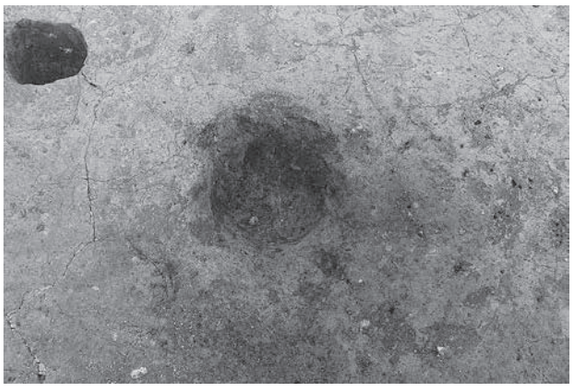
SI3付属柱穴列(西から)



SI4 全景(西から)

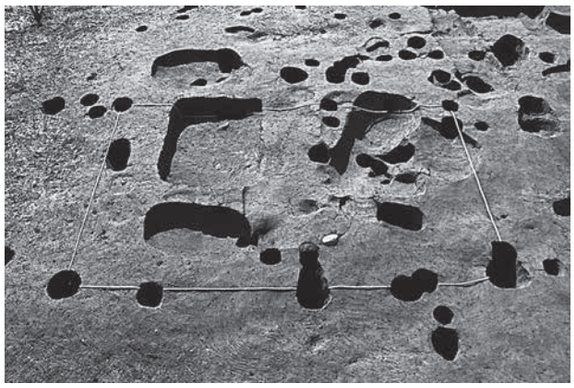


SI5 全景(東から)



SI5 炉 全景(南から)

写真図版4　竪穴遺構(平安時代〜中世)(2)



SB1 全景（北から）

SB2 全景（北から）

SB2 P3 断面（東から）

SB2 P6 断面（西から）

SB3 全景（北から）

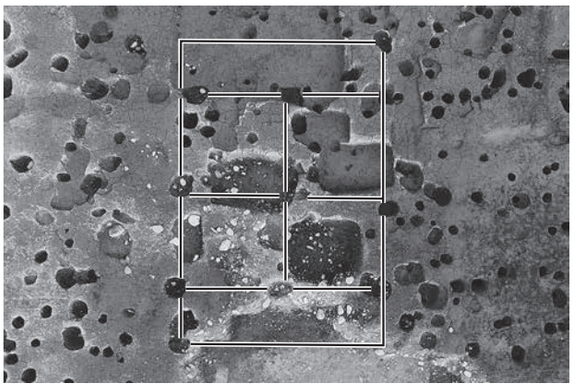
SB3 P4 断面（東から）

SB4 全景（西から）

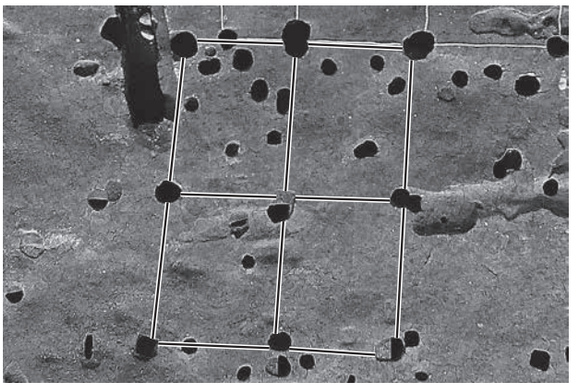
SB4 P2 断面（南から）

写真図版５　掘立柱建物跡（平安時代～中世）（1）

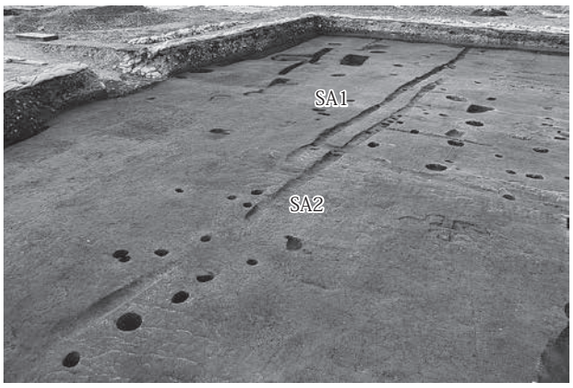
SB5 全景（垂直・右が北）



SB6 全景（垂直・上が北）

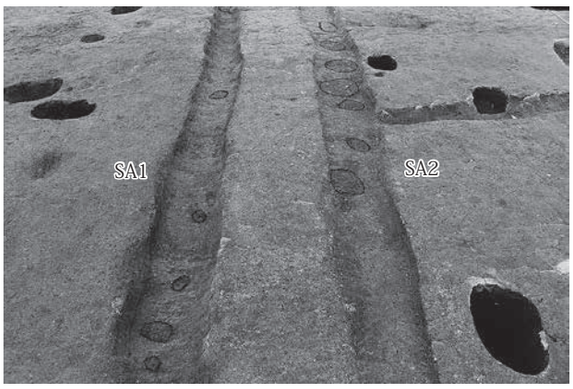


SB7 全景（垂直・上が北）

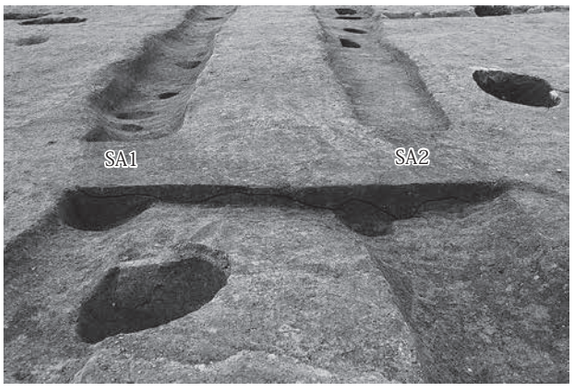


SA1・2 全景（南東から）

SA1・2 全景（北から）

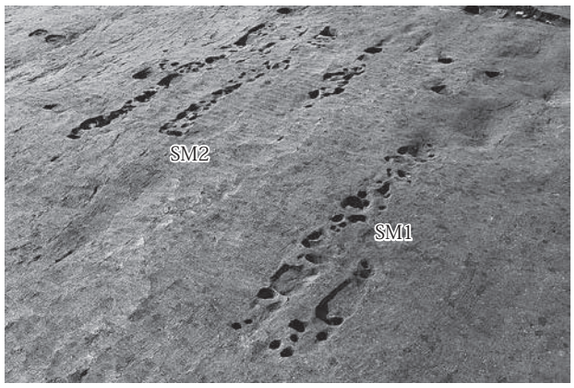


SA1・2 柱痕跡検出状況（南から）



SA1・2 断面C（南から）

写真図版6　掘立柱建物跡（2）・木柵跡（平安時代～中世）



SM1・2 全景（北東から）

SD2 全景（南から）

SD2 底面土木具痕 掘り込み状況（南東から）

SD5 全景（東から）

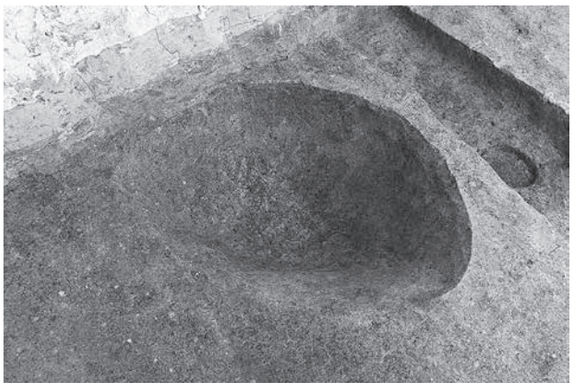
SD6～8 全景（東から）

写真図版7　小溝状遺構群・溝跡（平安時代～中世）（1）

SD9 全景(東から)

SD10 全景(西から)

SK3 全景(東から)



SK6 全景(南西から)

SK12 全景(南から)

SK20 全景(東から)

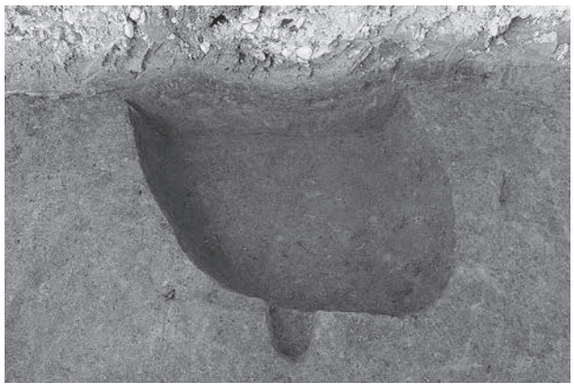
SK21 全景(南から)

SK22 全景(東から)

写真図版8　溝跡 (2)・土坑 (平安時代〜中世) (1)

SK31 全景（南から）

SK39 全景（南東から）



SK48 全景（東から）

SK65 全景（北から）

Pit33 断面（東から）

Pit150 断面（西から）

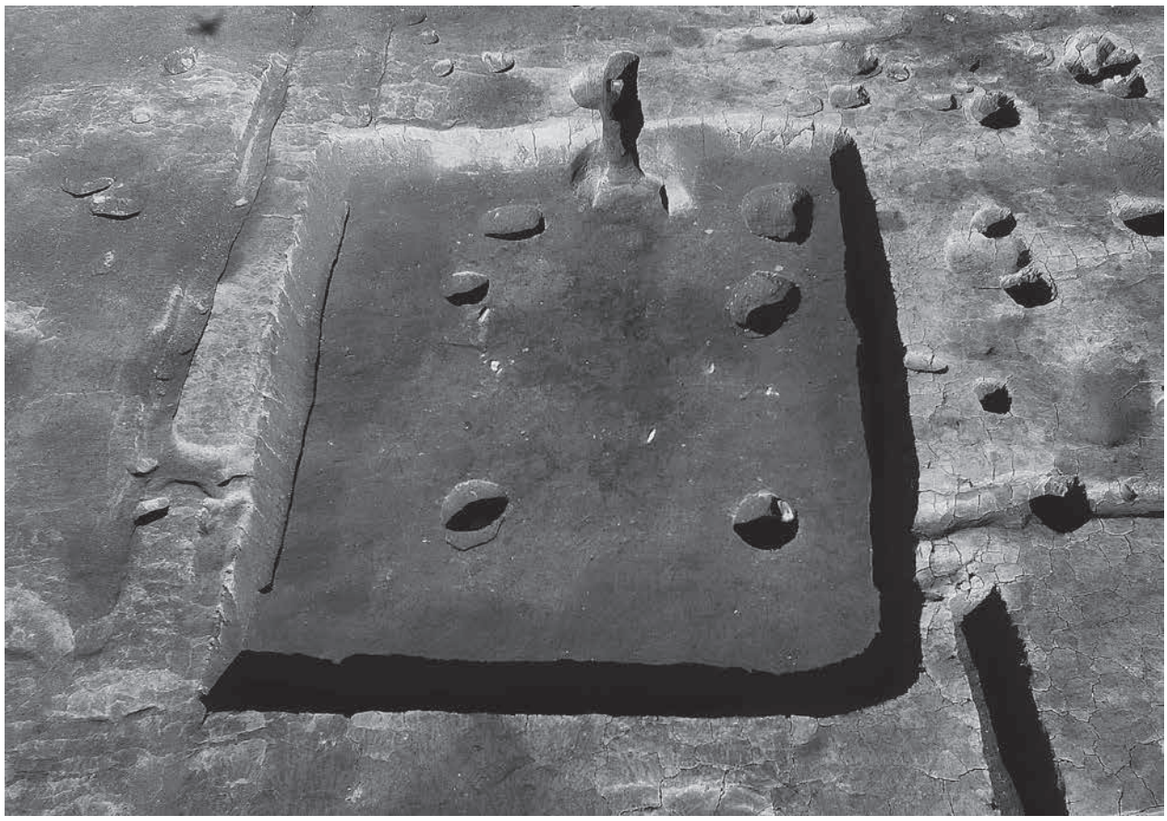
Pit201 断面（南から）

Pit285 断面（南から）

写真図版９　土坑（2）・ピット（平安時代～中世）

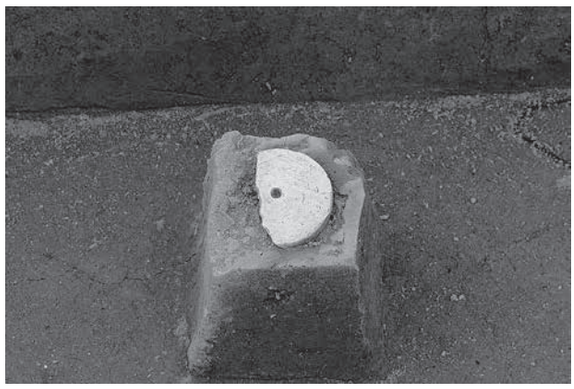
奈良～平安時代面 全景（垂直・上が北）

写真図版10　奈良～平安時代面全景

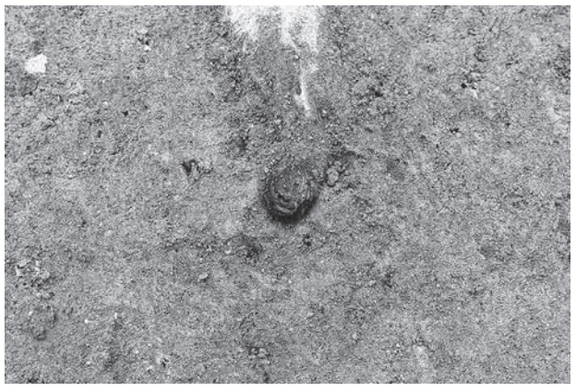


SI6 全景（南から）

SI6 遺物出土状況（南東から）



SI6 遺物（Kd-003）出土状況（東から）

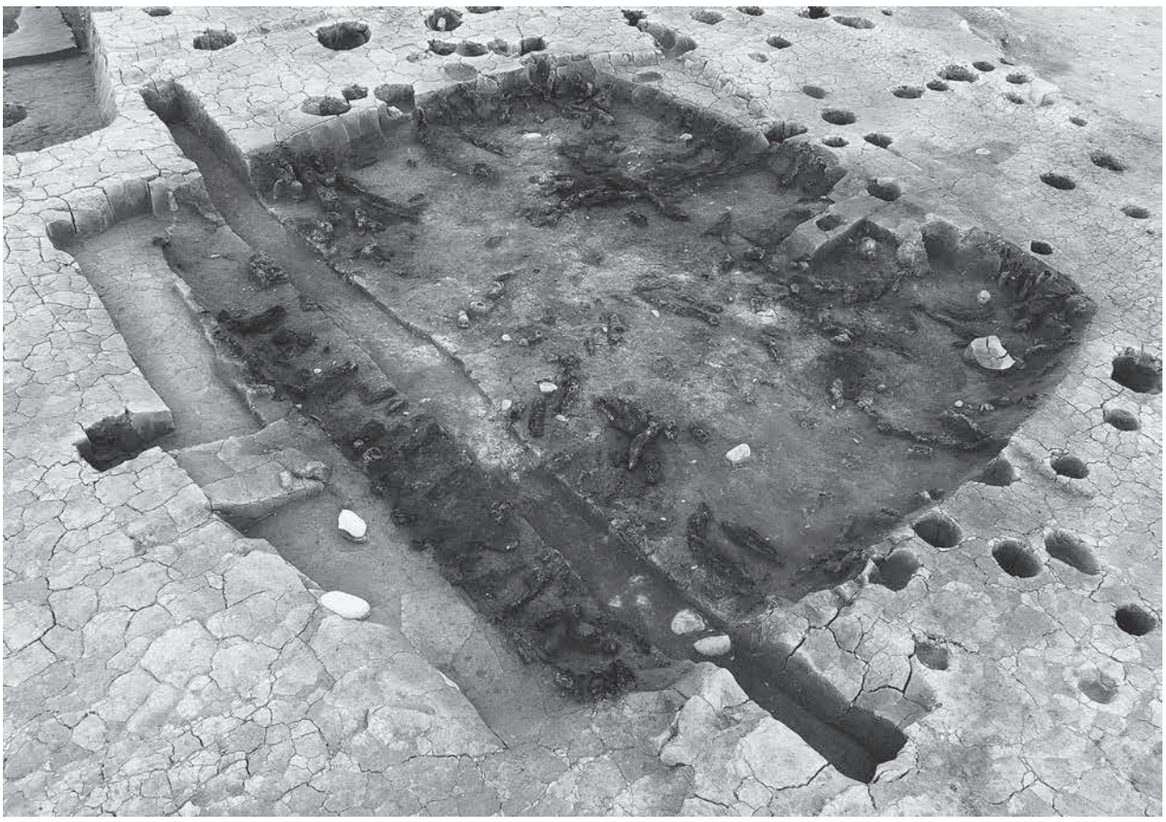


SI6 遺物（O-001）出土状況（南から）

SI6 カマド 全景（南西から）

写真図版11　竪穴住居跡（1）

SI7 全景（西から）



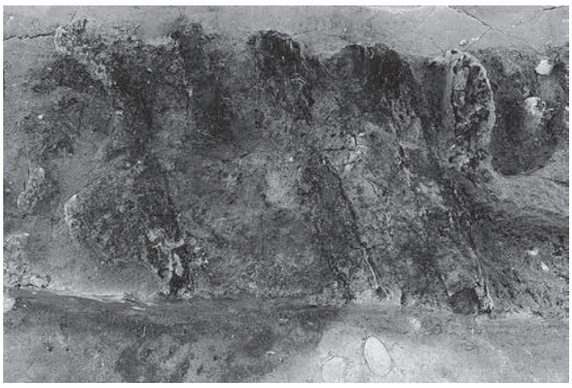
SI7 炭化材出土状況（南西から）

写真図版12　竪穴住居跡（2）

SI7 西壁 炭化材出土状況(南東から)

SI7 南東部 炭化材出土状況(南西から)

SI7 北東部 炭化材出土状況(北西から)



SI7 編物材 出土状況(東から)

SI7 南壁 炭化材 断面(西から)

SI7 遺物(E-019・025)出土状況(南から)

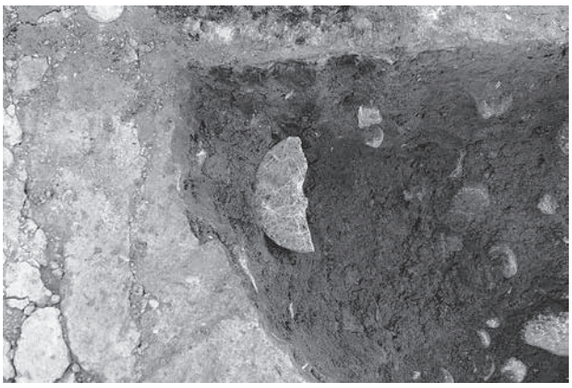
SI7 カマド 全景(西から)

SI7 カマド 遺物(D-016・E-022)出土状況(西から)

写真図版13　竪穴住居跡 (3)

SI7 P1 断面(西から)

SI7 P4 断面(西から)



SI7 P6 遺物(Kd-003)出土状況(西から)

SI7 SK1 遺物出土状況(西から)

SI7 SK4 遺物出土状況(西から)

SI7 SK5 板材出土状況(西から)

SI8A 全景(西から)

SI8A 遺物(D-020)出土状況(西から)

写真図版14　竪穴住居跡 (4)

SI8A カマド 全景(西から)

SI8A SK1 検出状況(西から)

SI8B 全景(西から)

SI8B 遺物(D-024)出土状況(北から)

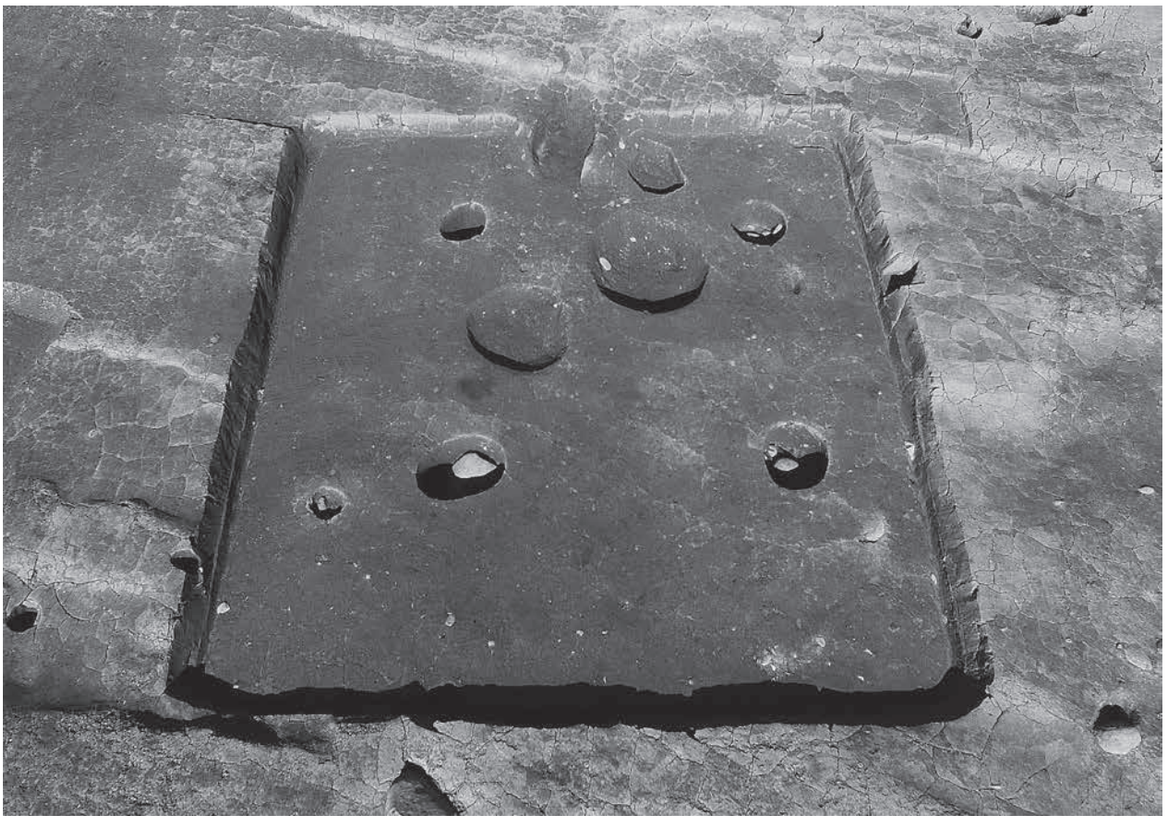
SI8B 遺物(E-032)出土状況(西から)

SI8B 遺物(Kd-005)出土状況(西から)

SI8B カマド 全景(西から)

SI8B SK1 断面(西から)

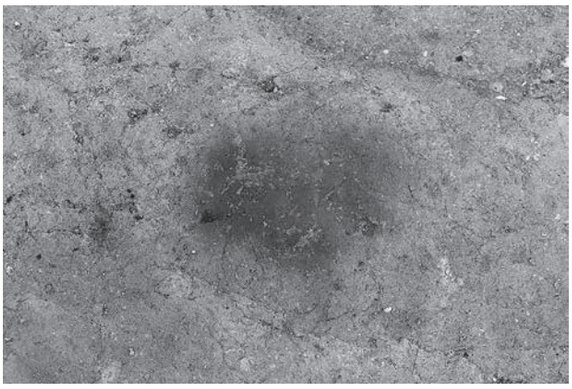
写真図版15　竪穴住居跡 (5)



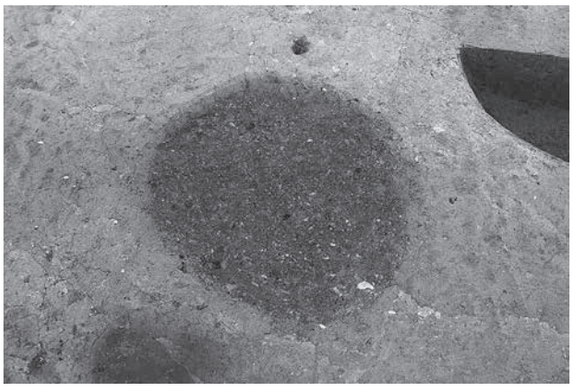
SI9 全景（南から）

SI9 カマド 全景（北から）

SI9 カマド 遺物（E-035・036）出土状況（南西から）



SI9 炉 検出状況（南から）

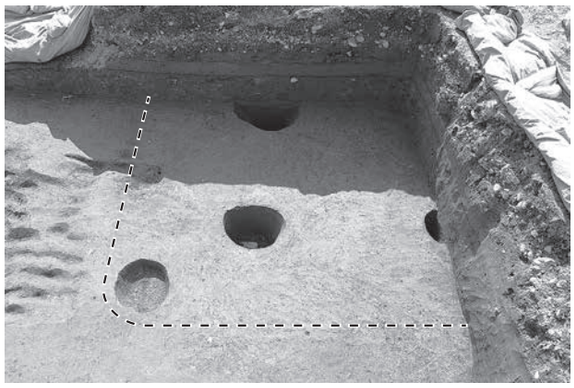


SI9 SK3 焼土検出状況（南から）

写真図版16　竪穴住居跡（6）

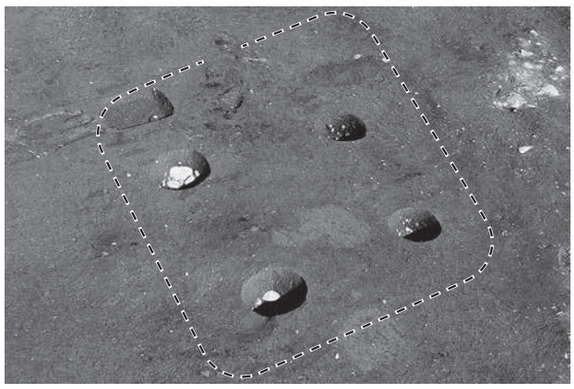
SI10 全景（東から）

SI10 カマド全景（南から）



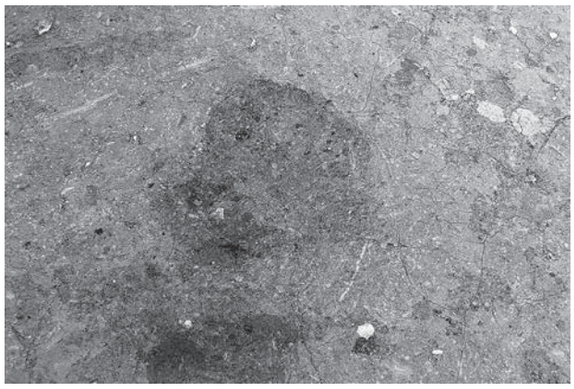
SI11 残存状況・推定範囲（北から）

SI11 カマド掘り方 残存状況（西から）



SI12 残存状況・推定範囲（南西から））

SI12 遺物（C-039～041）出土状況（北から）



SI12 カマド 残存状況（南から）

SI13 全景（東から）

写真図版17　竪穴住居跡（7）

SI14 カマド 全景(西から)

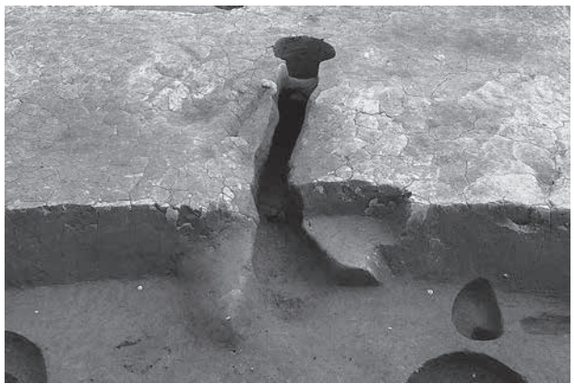
SI15 全景(南西から)

SI15 カマド 全景(南から)

SI15 カマド 遺物(C-003)出土状況(東から)

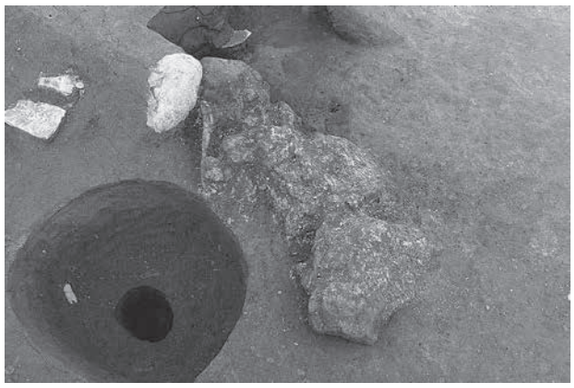
SI16 全景(南から)

写真図版18　竪穴住居跡 (8)

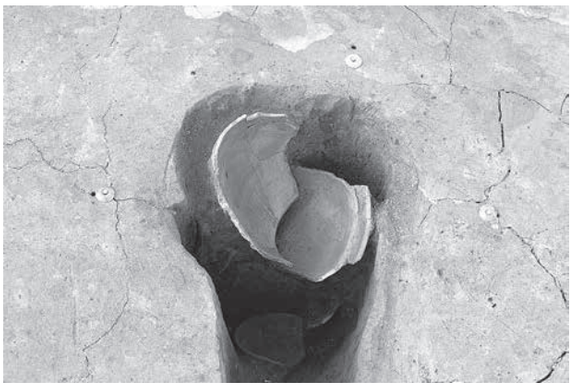


SI16 カマド１全景（西から）

SI16 カマド２全景（南から）



SI16 カマド２構築材（P-002）出土状況（南西から）



SI16 カマド２遺物（D-045）出土状況（南から）

SI16 カマド２遺物（E-041・042）出土状況（西から）

SI16 カマド２袖断ち割り状況（南から）

SI17 全景（南から）

SI17 炭化物検出状況（南西から）

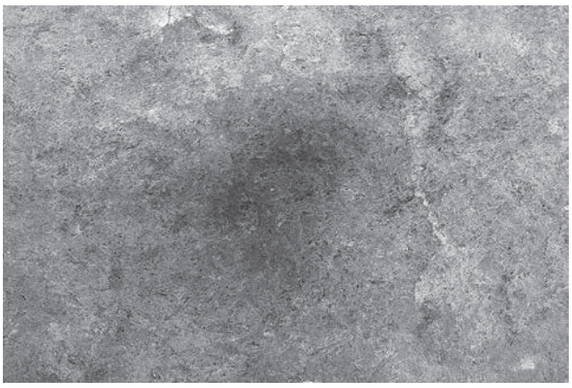
写真図版19　竪穴住居跡（9）

SI17 遺物(E-053)出土状況(南から)

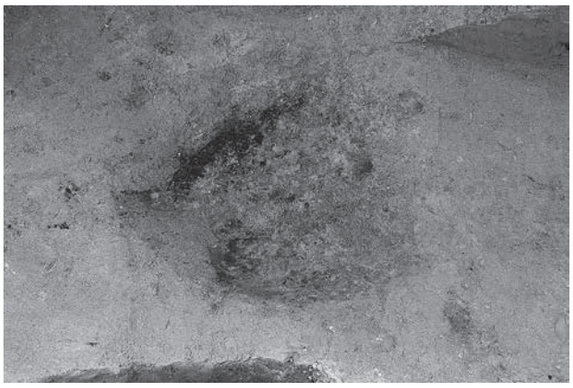
SI17 カマド 全景(南から)

SI17 カマド 遺物(E-058)出土状況(東から)

SI17 カマド 転用支脚(D-051)埋設状況(南から)



SI17 炉1 検出状況(南から)



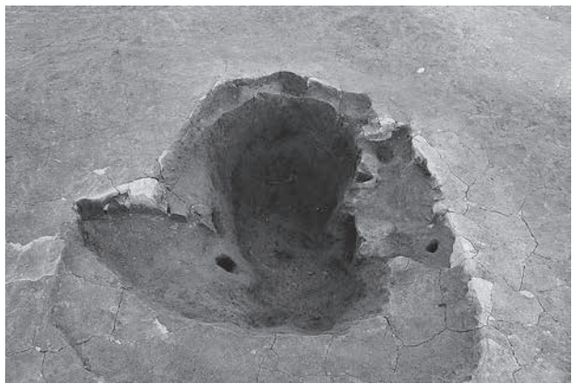
SI17 炉2 焼土・炭化物検出状況(東から)

SI18 カマド 全景(南から)

SI19 全景(南から)

写真図版20　竪穴住居跡 (10)

SK42 全景(南から)



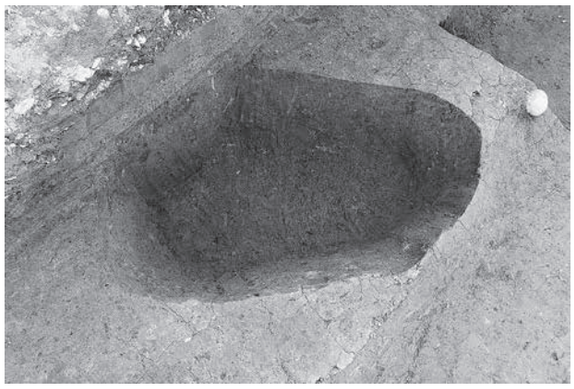
SK69 全景(南から)

SK70 全景(東から)

SK72 全景(東から)

SK73 全景(北から)

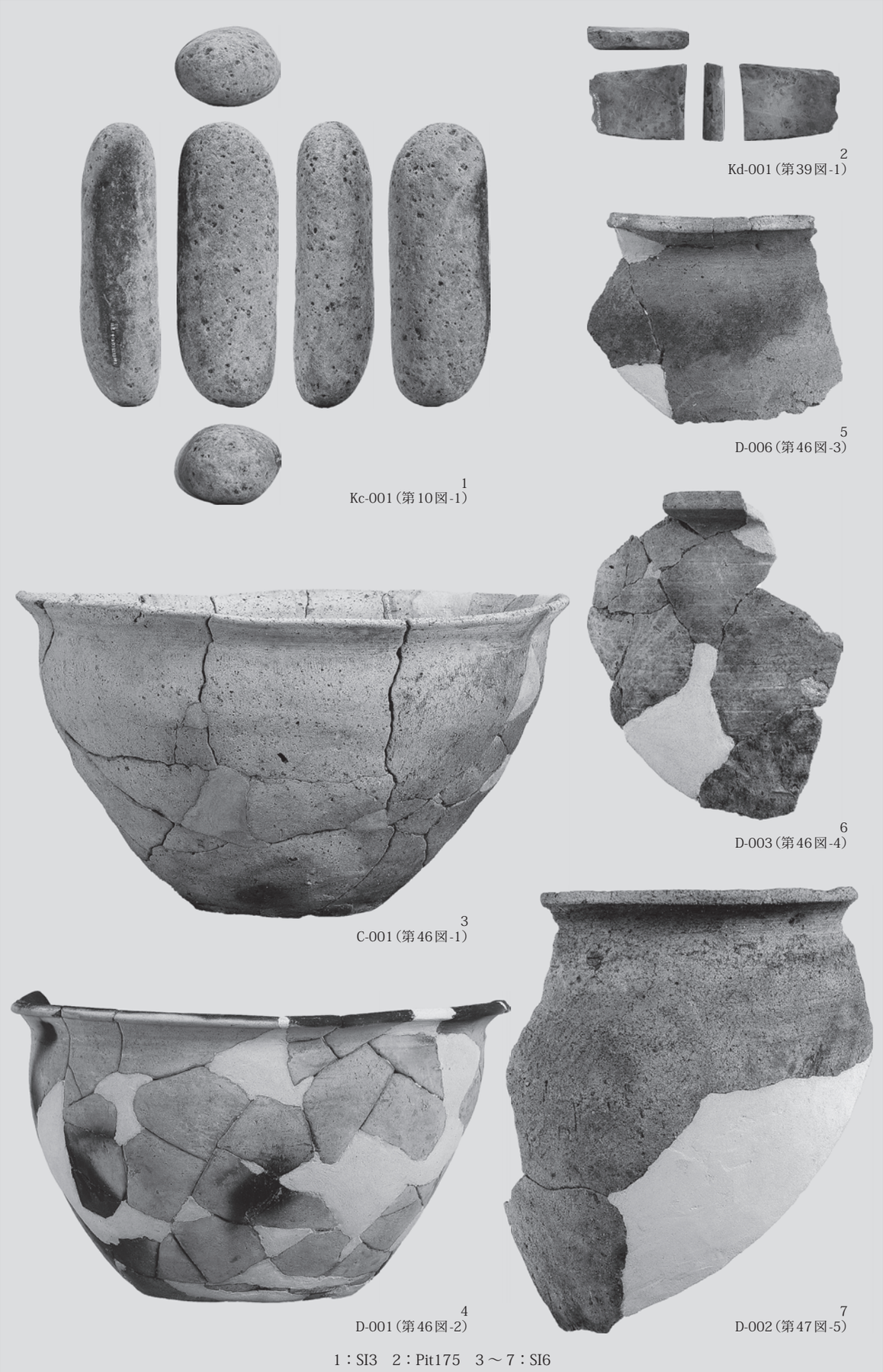
SK73 遺物(E-061・065)出土状況(東から)



SK76 全景(北東から)

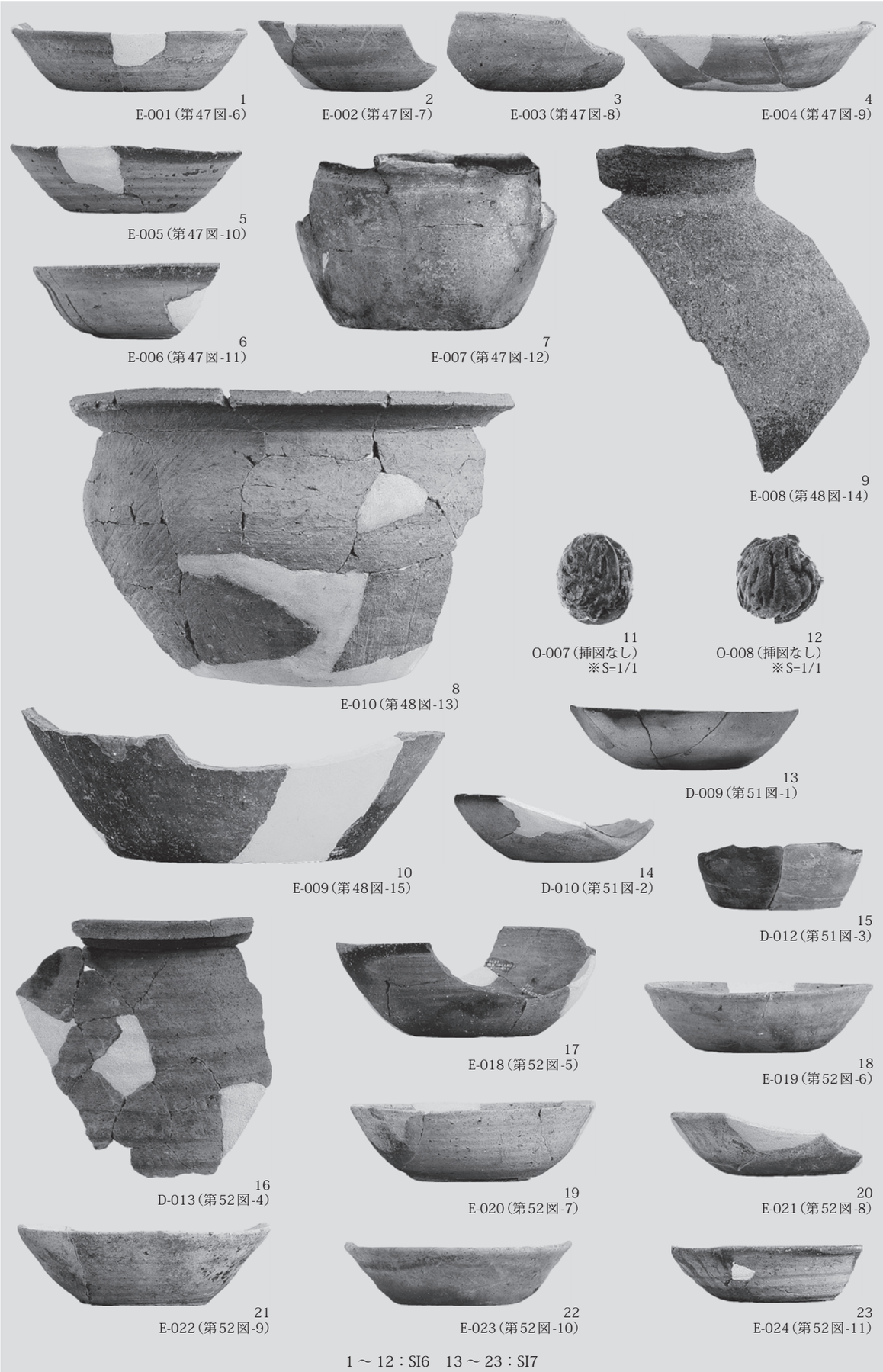
SD14 全景(東から)

写真図版21　土坑・溝跡 (奈良～平安時代)

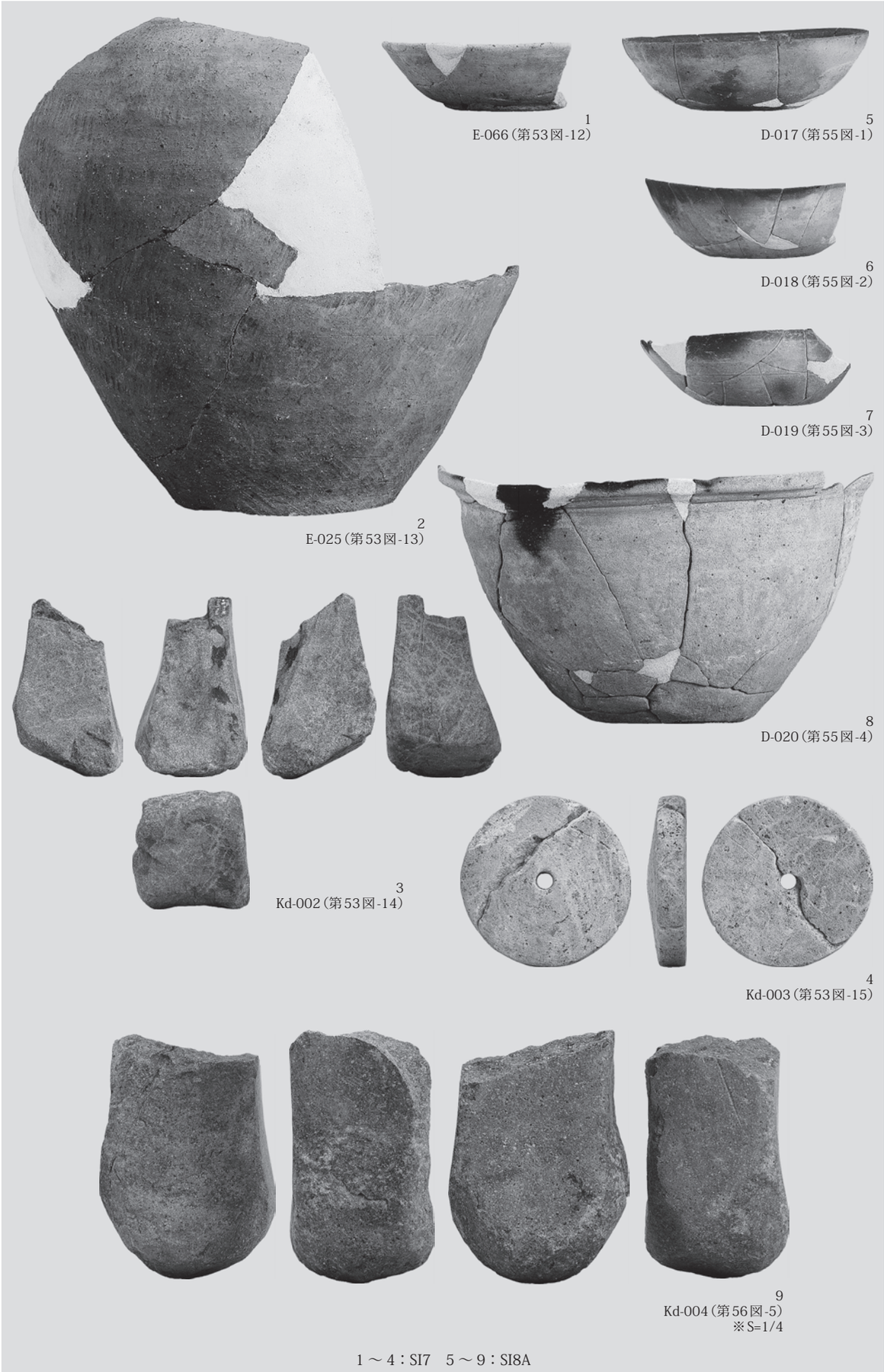


1：SI3　2：Pit175　3～7：SI6

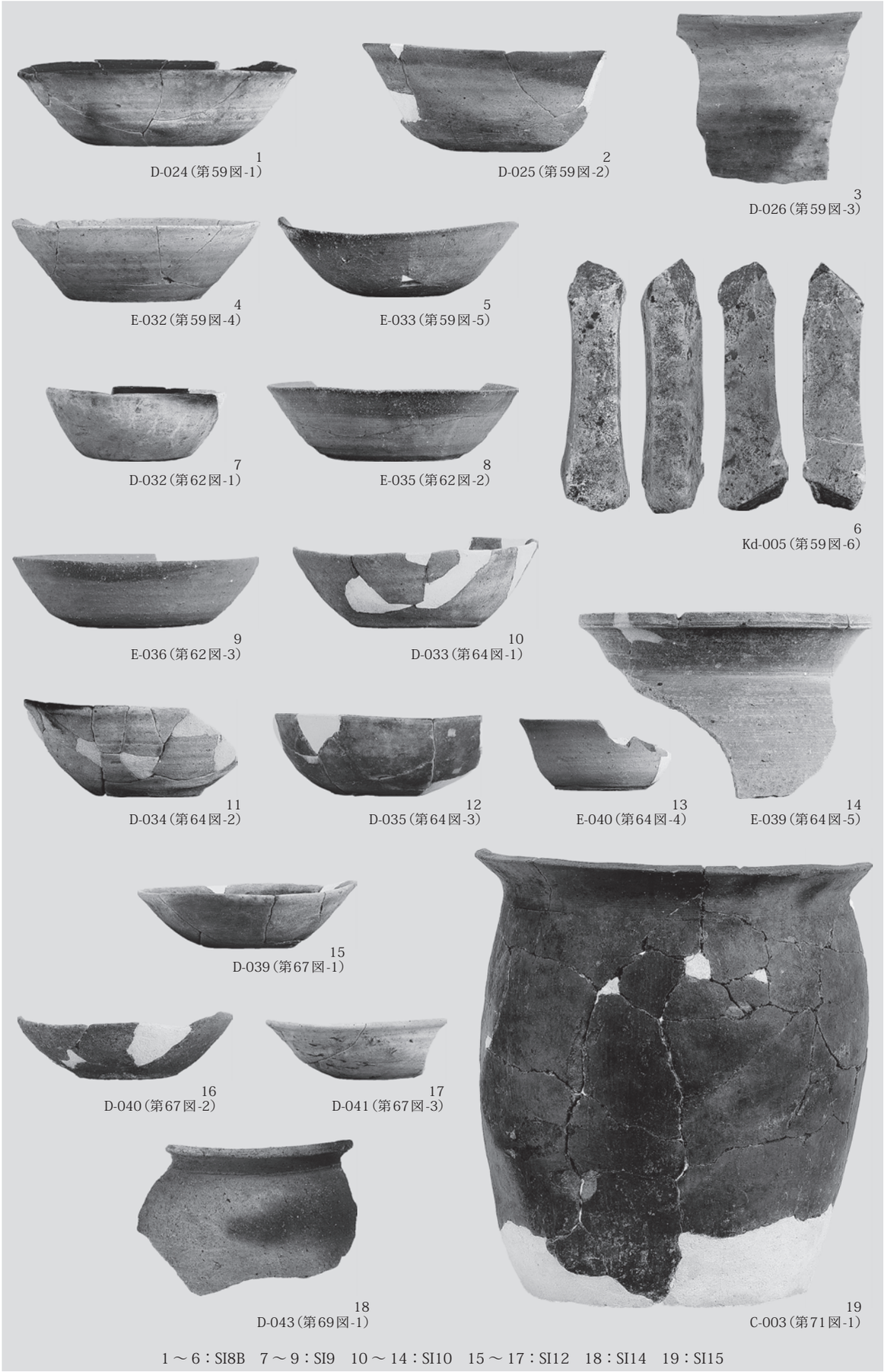
写真図版22　竪穴遺構出土遺物・ピット出土遺物・竪穴住居跡出土遺物（1）



写真図版23　竪穴住居跡出土遺物（2）

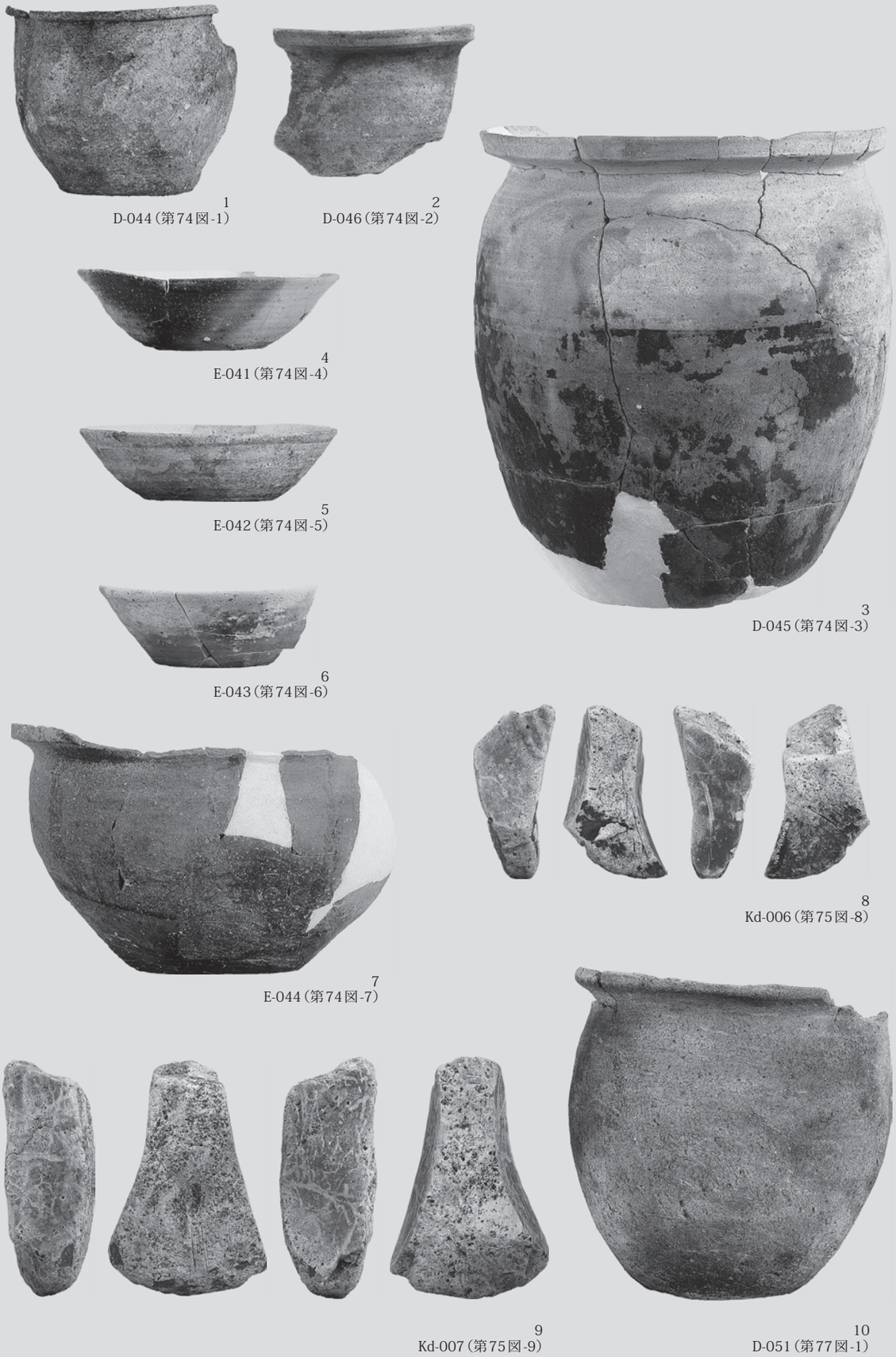


写真図版24　竪穴住居跡出土遺物（3）



1～6：SI8B　7～9：SI9　10～14：SI10　15～17：SI12　18：SI14　19：SI15

写真図版25　竪穴住居跡出土遺物（4）



1～9：SI16　10：SI17

写真図版26　竪穴住居跡出土遺物（5）

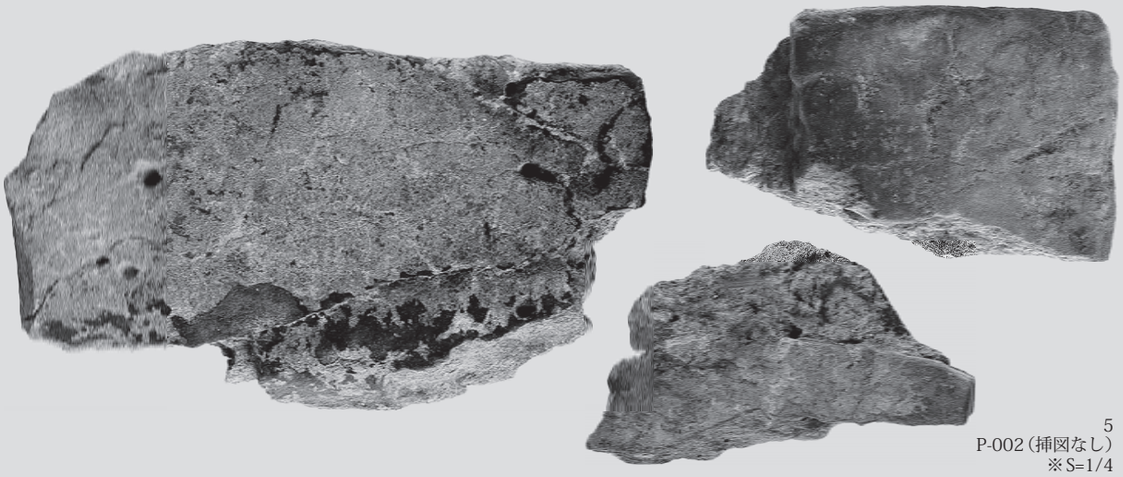
1
D-052（第77図-2）

2
E-051（第77図-3）

3
E-052（第77図-4）

4
E-053（第77図-5）

6
E-059（第80図-1）



5
P-002（挿図なし）
※S=1/4

7
E-061（第84図-1）

8
D-055（第84図-2）

9
E-062（第84図-3）

10
D-063（第85図-1）

1～5：SI17　6：SI19　7：SK73　8：SK74　9：SK75　10：08グリッド

写真図版27　竪穴住居跡出土遺物（6）・土坑出土遺物・遺構外出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	きょうのなかいせきだいにじちょうさ
書名	京ノ中遺跡第２次調査
副書名	医療施設建設工事に伴う発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 481 集
編著者名	工藤 信一郎　澤目 雄大　三浦 一樹　吉澤　学　竹越 亜希子
編集機関	仙台市教育委員会
所在地	〒 980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉 1 丁目 5-12
発行年月	2020 年 3 月 24 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きょうのなかいせき 京ノ中遺跡	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 たいはくくとみた 太白区富田 あざきょうのなか 字京ノ中 83	04104	01573	38° 12' 36''	140° 5' 19''	第２次 2018/10/11 ～ 2019/3/27	約 2,100	医療施設建設工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	主な時代	種別	主な遺構	主な遺物	特記事項
京ノ中遺跡	奈良時代 ～ 平安時代	居住域	竪穴住居跡・溝跡・土坑	土師器・ 須恵器 石製品 金属製品	8 世紀後半～ 10 世紀前半を中心とする集落跡。
	平安時代 ～ 中世	居住域	竪穴遺構・掘立柱建物跡 木柵跡・小溝状遺構群・ 溝跡・井戸跡・土坑・ ピット	陶器・青磁 石製品 金属製品	区画施設を伴う屋敷か。

要　約

京ノ中遺跡は、名取川左岸に形成された自然堤防上に位置する。平成 26 年に「仙台市富沢駅西土地区画整理事業」に伴って第 1 次調査が実施され、平安時代の竪穴住居跡 2 軒、溝跡 1 条などが確認された。今回の調査区は第 1 次調査区の南西 30 m程に位置し、平安時代～中世の竪穴遺構 3 基・掘立柱建物跡 7 棟・木柵跡 2 条・小溝状遺構群 2 群・溝跡 12 条・井戸跡 1 基・土坑 59 基・ピット 461 基のほか、奈良～平安時代の竪穴住居跡 15 軒・溝跡 1 条・土坑 16 基を確認した。平安時代～中世の遺構は、区画施設を伴う屋敷関連の遺構と考えられ、常滑産の可能性がある陶器や中国青磁なども出土していることから、相応の地位にある人物の存在が考えられる。奈良～平安時代の遺構は集落を構成するものであり、8 世紀後半～ 10 世紀前半を中心に存続したと考えられる。平安時代の鍛冶施設を伴う鍛冶屋敷 A 遺跡、鍛冶屋敷前遺跡など周辺の集落との関連性も考えられる。

仙台市文化財調査報告書第４８１集
京ノ中遺跡第2次調査
－医療施設建設工事に伴う発掘調査報告書－
２０２０年３月

発　行　　仙　台　市　教　育　委　員　会
〒980-0011　宮城県仙台市青葉区上杉1丁目
5番12号　上杉分庁舎10階
TEL022-214-8899（文化財課）

印　刷　　株式会社　仙　台　紙　工　印　刷
〒983-0036　宮城県仙台市宮城野区苦竹３丁目1-14
TEL022-231-2245